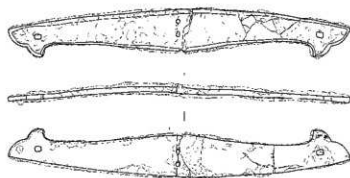


大宰府条坊跡 35

－第248次調査・第248次調査（その2）－



248SB140黄褐色土出土野首

平成20年
(2008)

太宰府市教育委員会

大宰府条坊跡 35

－第248次調査・第248次調査（その2）－

平成20年
（2008）

太宰府市教育委員会

序

本報告書は、共同住宅ならびに店舗建設に伴い太宰府市観世音寺1丁目地内（字露切）にて、平成17年度に実施した大宰府条坊跡第248次調査の報告書です。

調査地域は、大宰府条坊跡五条路の南、府大寺といわれた観世音寺の南東部に接しています。調査地北部には字名御所ノ内を物語るように、検出された遺構・遺物から鎌倉・室町時代における上層階層の居宅が想定されるなど、太宰府にあって権力者層の集住した空間の一画にあたっています。調査の結果、観世音寺東境界にあたる左郭七坊路ならびに石敷建物や鏡が出土するなど、周辺で検出されている遺構・遺物と同質なものが多く出土し、中世太宰府における土地利用状況、特に上層階層の生活の有様を考える上で重要な所見を得ることができました。

本書が、学術研究はもとより文化財への理解と認識を深める一助となり、広く活用されることを心より願います。

最後になりましたが、当該調査に対してご理解頂きました皆様をはじめ、関係諸機関の皆様方に心よりお礼を申し上げます。

平成20年1月
太宰府市教育委員会
教育長 關 敏治

例 言

1. 本書は、大宰府条坊跡第248次調査および第248次調査（その2）の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 調査地点は大宰府市観世音寺1丁目71、72、73に所在し、調査対象面積は468㎡、調査面積は336㎡（文化層5面調査延べ1,406㎡）である。
3. 調査は平成17年6月15日から同年12月16日にかけて第248次調査、平成18年1月12日から同年3月31日にかけて第248次調査（その2）が実施された。
4. 発掘調査は、大宰府市教育委員会の指導のもとに第248次調査を（株）人間文化都市研究所（所長岡田佑二）、第248次調査（その2）を（株）玉川文化財研究所（所長戸田哲也）が行った。
5. 遺構の実測図作成および写真撮影は、第248次調査を田代浩一・浅野昌樹・福島謙一、第248次調査（その2）を北平朗久・香川達郎・伊東基吉・石川真紀が行い、調査地点の空中写真は、（有）空中写真企画・（株）シン技術コンサルが行った。
6. 遺構実測の基準点は、国土調査法第Ⅱ座標系を基準としている。よって報告書に示す方位はすべて座標北（G・N）を指している。なお、現地周辺の磁北は座標北から6°30′西偏する。
7. 本書に掲載した遺構番号は、以下の要領で理解される。なお、本書中では遺構略称の「条」を基本的に省略している。



8. 報告書作成業務は、（株）玉川文化財研究所において行った。
9. 遺物の実測・拓本は香川達郎・野木はる美・藤岡由紀子・御代七重・麻生順司・中山 豊・唐原賢一が行い、遺物の写真撮影は赤間和重が行った。
10. 本書の執筆は、中島恒次郎（大宰府市教育委員会）および戸田哲也の指導のもとに北平朗久・香川達郎が担当し、分担は以下のとおりである。

中島恒次郎	第三章、第V章、第VI章遺構（第I・II面）
北平朗久	第I章、第II章、第IV章、第V章、第VI章遺構（第II～V面）、第VII章
香川達郎	第VI章遺物
11. 写真図版（カラー）については付属のCD-ROMに収容している。詳細はCD-ROM内のテキストデータ「CD-ROMをご使用にあたって」を参照のこと。
12. 出土遺物および図面、写真等の記録類は大宰府市教育委員会が保管し、公開・活用していく予定である。
13. 本報告書で用いた土器・陶磁器・瓦の分類基準は以下の文献に準拠した。

大宰府市教育委員会	1983『大宰府条坊跡Ⅱ』
大宰府市教育委員会	1992『宮ノ本遺跡Ⅱ－窯跡篇－』
大宰府市教育委員会	2000『大宰府条坊跡XV』
日本中世土器研究会編	1995『概説中世の土器・陶磁器』
九州歴史資料館	2002『大宰府史跡出土軒瓦・叩打痕文字瓦型式一覧』『大宰府政庁跡』
	吉川弘文館
14. 本報告書で記載する時期区分については、下記の文献による。

山本信夫	1992『大宰府』『第1回古代土器研究会資料』
------	-------------------------

目 次

I. 位置と環境	1
II. 調査組織	2
III. 調査に至る経過ならびに調査経過	4
1. 調査に至る経過	4
2. 調査委託経過	4
3. 埋蔵文化財調査業務委託の問題点	5
a. 埋蔵文化財調査委託のための設計基準の不在	5
b. 確認調査と本調査の不整合	6
c. 禁止基準の不明確	7
d. 調査担当者の資格	8
4. 小 結	8
IV. 調査方法	10
V. 層 位	23
VI. 調査の概要	27
1. 遺 構	27
第Ⅰ面	27
1) 礎石建物	27
2) 溝	27
3) 土 坑	27
第Ⅱ面	28
1) 道 路	28
2) 礎敷建物	31
3) 土 坑	35
4) その他の遺構	37
a) 集 石	37
b) たまり状遺構	37
c) 小 穴	38
d) 整地層	41
第Ⅲ面	41
1) 道 路	41
2) 礎石建物	41
3) 掘立柱建物	44
4) 溝	45

5) 井戸	45
6) 土坑	49
7) その他の遺構	51
a) たまり状遺構	51
b) 小穴	52
第Ⅳ面	55
1) 柵列	55
2) その他の遺構	55
a) 小穴	55
第Ⅴ面	56
1) 掘立柱建物	56
2) 溝	59
3) 井戸	61
4) 土坑	62
5) その他の遺構	65
a) 小穴	65
2. 遺物	66
第Ⅰ面	66
1) 礎石建物出土遺物	66
2) 溝出土遺物	67
3) 土坑出土遺物	67
第Ⅱ面	68
1) 道路出土遺物	68
2) 礎石建物出土遺物	70
3) 土坑出土遺物	74
4) その他の遺構出土遺物	79
a) 集石出土遺物	79
b) たまり状遺構出土遺物	81
c) 小穴出土遺物	82
d) 整地層出土遺物	84
第Ⅲ面	85
1) 道路出土遺物	85
2) 礎石建物出土遺物	88
3) 掘立柱建物出土遺物	92
4) 溝出土遺物	92
5) 井戸出土遺物	92
6) 土坑出土遺物	105
7) その他の遺構出土遺物	108
a) たまり状遺構出土遺物	108
b) 小穴出土遺物	110

第Ⅴ面	113
1) 掘立柱建物出土遺物	113
2) 溝出土遺物	117
3) 井戸出土遺物	119
4) 土坑出土遺物	122
5) その他の遺構出土遺物	124
a) 小穴出土遺物	124
各層出土遺物	127
Ⅶ. ま と め	148
遺構番号台帳	156
土師器計測表	162
出土遺物一覧表	167
報告書抄録	巻末

I. 位置と環境

福岡平野の南東部に位置する太宰府市は、北に大野山を抱える四王寺山脈、東には愛宕山、宝満山などの三郡山地の山々が連なり、西には背振山地とその前山となる牛頭山、天拝山、基山などの低い山地が控える。その山々に囲まれ、盆地状を呈した狭い平野に所在し、南東は筑紫平野と接している。

市内には四王寺山・宝満山を水源とする御笠川が縦貫し、鶯田川、大佐野川など幾つかの河川と合流しながら福岡平野を北流し、博多湾に注いでいる。

太宰府市域では旧石器時代から近現代までの各期にわたる遺跡が確認されているが、その主体は官衙「大宰府」が置かれた古代から中世の遺跡である。

古代では、663（天智二）年、白村江での敗戦により唐・新羅の侵攻に備えて大宰府政庁の北西に水城、北の四王寺山に大野城、南の基山に基肆城などの軍事防衛施設が築かれた。7世紀末から8世紀初頭には古代の九国（筑前・筑後・肥前・肥後・豊前・豊後・日向・大隅・薩摩）三島（対馬・壱岐・多祿）を統括し、外交・軍事機能も有した地方最大の官衙となり、条坊を有する古代都市へと発展した。

大宰府の条坊については、鏡山猛氏の『観世音寺文書』などの文献資料研究や現存する道路・水路などの地割りの検討から『大宰府都城の研究』（1968）によってその存在が指摘され、条坊復元案の提示により世に知られることとなった。その規模は南北二十二条（約2.4km）、東西十二坊（約2.6km）におよび、現在の太宰府市と筑紫野市にまたがっている。

大宰府政庁は、7世紀後半代に掘立柱形式の第Ⅰ期政庁が成立し、8世紀前半に朝堂院形式の第Ⅱ期政庁に改められる。政庁は941（天慶四）年の藤原純友の乱によって焼け落ち、その後第Ⅲ期政庁として再建された。現在、地表に露出している礎石は第Ⅲ期政庁のものと同期が示されているが、第Ⅲ期政庁も律令体制の崩壊や武士の台頭などの影響により変容したと考えられ、12世紀前半に廃絶していることが発掘調査で確認されている。このころから条坊区画の埋没が顕著となり、条坊の中央から西側は荒廃し、中世の街は条坊左郭の観世音寺を西端として、天満宮安楽寺付近を東端とする地区へと移行することが発掘調査から明らかになりつつある。

今回の調査地は、鏡山条坊復元案によると左郭5条7坊にあたり、御笠川上流域右岸の河成低位段丘に立地する。大和東大寺、下野薬師寺と共に天下の三戒壇院として著名な観世音寺の南東側隣接地に位置し、標高は現地表面で約37.50mを測る。当該地に隣接する御所ノ内地区や周辺の観世音寺地区・五条地区などには古くからの史料・伝承も多く、筑前守護武藤（少武）氏館跡の伝承地が調査地点の北東側に隣接し、中世都市の中核の一画と考えられている。

今回の調査では5面の遺構面が確認され、平安時代末～室町時代初頭の遺構が発見された。その主体は鎌倉時代の道路、礎石建物、掘立柱建物、礎敷建物、柵列、溝、井戸、土坑などで、特に注目される遺構は第Ⅱ面で検出された東西方向に3棟並ぶ礎敷建物の存在である。その類例は少なく、太宰府市域でも大宰府条坊跡第83次調査で確認されている。これらの遺構は、比較的良好な遺存状態で検出され、太宰府の中世を理解する上で新たな資料が追加されたことは大きな成果と考える。

II. 調査組織

太宰府市教育委員会調査組織

【調査年度】

(平成17/2005年度)

総括 教 育 長
庶務 教 育 部 長
文化財課長

保護活用係長
調 査 係 長
主 任 主 査
事 務 主 査

調査 主 任 主 査

技 術 主 査
主 任 技 師

技 師 (嘱 託)

關 敏 治

松 永 栄 人

木 村 和 美 (～6月30日)

齋 藤 廣 之 (7月1日～)

久保山 元 信

永 尾 彰 朗

齋 藤 実 貴 男

大 石 敬 介

城 戸 康 利

山 村 信 榮

中 島 恒 次 郎 【委託監理担当】

井 上 信 正 【試掘・事前協議担当】

高 橋 学

宮 崎 亮 一

下 川 可 容 子

柳 智 子

長 直 信

松 浦 智

【整理報告年度】

(平成19/2007年度)

総括 教 育 長
庶務 教 育 部 長

文化財課長
保護活用係長

調 査 係 長
主 任 主 査

調査 主 任 主 査

技 術 主 査
主 任 技 師

關 敏 治

松 永 栄 人 (～9月30日)

松 田 幸 夫 (10月1日～)

齋 藤 廣 之

久保山 元 信 (～9月30日)

菊 武 良 一 (10月1日～)

永 尾 彰 朗

吉 原 慎 一

齋 藤 実 貴 男

城 戸 康 利

山 村 信 榮

中 島 恒 次 郎 【委託監理担当】

井 上 信 正

高 橋 学

技師（嘱託）

宮崎亮一
柳智子
下高大輔
大塚正樹
端野晋平

（株）人間文化都市研究所調査組織
（平成17／2005年度）

所長
調査担当者
調査補助員
調査補助員

岡田佑二
田代浩一【調査主担当】
浅野昌樹
福島謙一

（株）玉川文化財研究所調査組織
（平成17／2005年度）

所長
調査研究部長
主任研究員

戸田哲也
河合英夫
小山裕之
北平朗久【調査主担当】
香川達郎
伊東甚吉
石川真紀

研究員

（平成19／2007年度）

所長
調査研究部長
主任研究員
研究員

戸田哲也
河合英夫
北平朗久
香川達郎
石川真紀

Ⅲ. 調査に至る経過ならびに調査経過

1. 調査に至る経過

調査に至った経過は、平成16年度において、太宰府市観世音寺1丁目71ほかにて、店舗兼共同住宅建設に先立つ文化財取り扱いの有無についての問合せが、土地所有者である(株)白十字から本市文化財課へなされた。当該地は、古代官寺として著名な観世音寺の南東隅に所在し、周知の遺跡である大宰府条坊跡内に所在している。周辺では第2図に示したように、九州歴史資料館ならびに太宰府市教育委員会によって複数回の発掘調査が行われ、実績が残されてきている。これらの成果に基づく観世音寺の寺域の南東部に接し、かつ大宰府条坊の坊路が確認される可能性が極めて高い場所に位置している。併せて周辺調査実績からは、輸入陶磁器・国産陶器類の多種多様な出土、ならびに礎石・礎板建物や配石建物など、考古資料上からは、上層階層の居住、土地利用を想定させるに十分な素材が提供されている。このように、周辺調査実績を考慮した場合、当該地においても相応の埋蔵文化財が包蔵されている可能性が十分想定できたことから、建築に先立ち埋蔵文化財の取り扱いがある点を説明した。併せて設計等による埋蔵文化財の破壊行為があるのか、重ねて保存のための設計変更についての協議を行った結果、開発対象面積1,319.99㎡のうち、建物建設に伴う埋蔵文化財破壊区域468㎡についての、記録保存のための発掘調査を行うことで合意した。併せて営利目的による埋蔵文化財破壊と判断されることから、文化庁次長通知(平成10年9月29日付文書)に基づき、原因者負担による調査費協力依頼を行ったところ、合意に達したため(株)白十字よりの受託事業として埋蔵文化財発掘調査を行うことで契約を行った。

本市教委が直接行う発掘調査で実施することで内外調整を行ったが、他事業執行に伴う事業調整が行えず、外部調査機関への発掘調査委託として事業執行を行うことで進めることになった。この点に対しても、調査原因者である(株)白十字(以下「調査原因者」と記載)へは説明を行い、本市教委による直接的な調査の場合、約1年後に着手し調査期間8ヶ月を要する点を説明し、委託事業による調査についても合意を得た。

このような経過を辿り、平成17年4月に調査原因者との埋蔵文化財発掘調査受託契約を交わし、かつ調査費用の入金を確認後に速やかに、外部調査機関への発掘調査委託に関する事務手続きを開始した。

2. 調査委託経過

平成17年4月に調査原因者との調査受託契約ならびに入金を確認した後、財政課取り扱い業務として、「大宰府条坊跡 第248次調査業務委託」事業を起工し、事務手続きを開始した。調査に関わる仕様書、「太宰府市における埋蔵文化財調査指針」、契約書を整備し、平成17年6月3日、指名業者8社に対して現地説明会を開催した。その際の説明事項としては、下記内容である。

- ・調査条件(埋蔵文化財状況、周辺環境、調査設計条件)
- ・契約条件(支払い条件、変更契約無)

併せて、対象地での確認調査が不十分であったこともあり、近接して当時実施していた大宰府条坊跡第246次調査現場の見学を実施することで、補足説明とした。その後、財政課を契約担当課とし、平成17年6月9日指名競争入札を行い、1回目応札により(株)人間文化都市研究所(以下「受託社A」と記載)が落札、平成17年6月15日に調査業務委託として契約を行った。翌16日に文化財課窓口にて事前協議の必要性について受託社Aへ説明を行い、同月30日に受託社Aより主たる担当者が提示され、併せて事前協議日程について協議する旨伝えられた。同日主たる担当者として提示された松本高志氏より連絡が入ったが、事前協議に関する日程調整について協議がなされなかったことから、太宰府市教委(以

下「市教委」と記載より事前協議打合せについて申し出た。しかし必要性の是非が問われたことから、「太宰府市における埋蔵文化財調査指針」についての共通認識の確認の必要性を求めたところ、受託社Aの社長と協議後、再度連絡を待つことになった。その後受託社A社長より連絡が入り、再度内部協議後連絡を待つことで合意した。その後1ヶ月の間連絡がなく、平成17年7月11日に監理担当である中島が、受託社Aへ連絡を入れた。結果として先に提示していた主たる担当者の変更を行うこととなり、その協議のため連絡が遅れたということであった。

その際、市教委としては平成17年7月19日から調査着手可能となるため、調査原因者との合意事項があることから、早急なる対応を受託社Aに求めた。併せて、主たる担当者変更であれば必要書類（経歴書 発掘調査承諾書等）の再提出の必要性があることを説明した。その後平成17年7月19日に、受託社社長ならびに整理担当者との二名で事前協議を行った。事前協議の場が整理担当者であったことから、現場調査の主たる担当者との再協議の必要性を説き、平成17年7月22日に再度、現場運営の主たる担当者との再協議を実施した。席上、「太宰府市における埋蔵文化財調査指針」についての確認事項を求めたが、主たる担当者が受理していないことが発覚、必ず読んでおくことを求めることになった。結果的に、契約から事前協議に至るまでに1ヶ月以上の時間を要することとなった。

平成17年7月25日に主たる担当者田代浩一、補佐浅野昌樹、福島謙一の三名で現地調査を開始した。しかし、調査環境整備、調査方法について不備が重なるとともに、主たる調査担当者不在日数が31日に及ぶという結果を招いた¹⁾。この結果を受け、受託社Aに対し主たる調査員交代を要求したが、受託社Aは埋蔵文化財規模の増加および市教委による増額変更契約拒否を理由に事業続行不能を申し出ることとなり、平成17年12月16日契約を解除した。再調整の後、(株)玉川文化財研究所（以下「受託社B」と記載）への再委託業務として実行することになった。

再委託契約を行った受託社Bとは、平成18年1月12日から現地調査へ着手することで事前協議を行い、平成18年3月31日調査終了という調査原因者との合意事項履行を前提として調査を進めた。受託社Aが実施した調査Ⅰ面およびⅡ面途上までの情報については、受託社Aの納品物を貸与することで取得してもらい、これまでの経緯が分かる監理担当の指示のもと、Ⅱ面目の完掘とそれ以下の面の記録保存調査を速やかに行うことで事前協議を合意した。

結果として4面（一部5面）の遺構面が包蔵されており、当初2面半としていた確認調査結果と大きく異なることとなった。

3. 埋蔵文化財調査業務委託の問題点

今回の調査委託で明らかとなった問題点を整理すると、下記にまとめることができる。

a. 埋蔵文化財調査委託のための設計基準の不在

太宰府市が属する九州地区においては、平成8年10月に『九州地区埋蔵文化財発掘調査基準（以下「基準設計」と記載）』として別表2に作業員実作業量に関する規定がなされている。しかし埋蔵文化財の記録保存である発掘調査は、いわば掘る行為に重点が置かれるべきものではなく、記録に傾斜した設計がなされるべきものであると考えている。したがって、「掘る」行為に対する対価とともに、「記録する」行為に対する対価を設計を組み込む必要がある。この点も、今回の件で苦慮した大きな問題であった。「掘る」行為に対する出来形確認後に対価を支払う必要があったが、記録保存行為である「記録する」行為に対する設計を組んでいなかったために、出来形の多くを目的とは大きく離れた形で支払う

ことになった。ただし委託目的が、記録保存行為であることから、記録物納品がなければ支払い行為は発生しないとの認識で進めることも可能である。

設計積算に関しては、太宰府市が昭和55年度より実施してきた埋蔵文化財調査費に比して、この基準設計での積算では高額になり、これまで開発者側と協議し合意してきた価格認識に大きな開きが生じることとなる。このことは単に高額要求を行えばよいという問題ではなく、合意が得られ難い状況を新たに生み出す要因にもなりかねない事態が想定されることになる。加えて、直営で実施している調査では、これまで市教委が実施してきた金額での積算を行い、残額返金を行ってきているにも関わらず、委託事業のみ高額になること自体に、社会通念上理解を得られない結果が見えている。このようなことから基準設計を採用することが困難であり、太宰府市での過去5年間の実績に基づく積算基準を作成し、設計基礎としてきた。これに関しては、平成15年会計検査院検査で説明を行い、了承されたものと理解している。

では、どこに客観性をもたせた設計が存在しているのか。この点が最も大きな問題として横たわっている。主な自治体に対して平成17年度末に実態調査を実施したところ、各自治体とも苦慮しており、各々での設計代価から設計積算を行ってることが明らかとなった。客観的な設計、すなわち土木歩掛のような設計基準がないことのどこに問題があるのか。委託自治体対指名競争入札参加業者という構図の中で、適正価格とは何かが問われることがある。委託者側の設計額と業者応札額との開きが生じた時、委託者側の設計に問題があるのか、逆なのか。これを判断する基準不在なため、委託自治体（1）対業者（多数）の構図から自治体が不適正と判断される状況が多く存在していることになる。これは太宰府市でも過去、設計額を大幅に上回る額で応札されたケースが多いが、逆のケースもありどちらが埋蔵文化財調査委託の実態に合致した設計であるのか現状では苦慮している。

b. 確認調査と本調査の不整合

端的に「掘ってみなければ分からない」というのが埋蔵文化財の実態であることは十分理解している。発掘調査自体が、埋蔵文化財破壊行為であることに変わりはない。できるだけ各調査担当者の技術向上に努め、破壊行為を可能な限り少なくする必要があるが、これは所詮無理である。このことを認識し、開発行為による破壊よりは少しでも良好な情報を取得することが、発掘調査には求められていることになる。このような状況下において、本調査の期間と費用を積算するために実施される確認調査範囲は、原因者都合による調査範囲指定の場合と実施者都合による場合の二者が存在している。前者の場合は、確認調査範囲が制限されることになり、開発対象地全体の埋蔵文化財状況を把握するには不十分な結果となる危険性を十分孕んでいることになる。今回の場合は、この事態に合致し、確認調査トレンチ1箇所ですべてを想定せざるを得ない状況が生まれてしまった。このような場合についての今後の対処法には、周辺状況を加味し、調査原因者への調査協力金の設計を行う必要もでてくるものと考えられる。一方後者の場合は、調査実施者都合であり、確認調査と本調査の不整合を極力無くす努力が必要となってくることになる。しかし、やはり「掘ってみなければ分からない」というのが埋蔵文化財の宿命であるならば、望ましい方法として設計変更、いわば増額設計が必要と考えられる。しかし財政難にあえぐ地方自治体において、限られた予算での委託事業を行っており、上限も定まらない埋蔵文化財調査に対応することが可能とは到底思えない。また額確定が現場終了時であることから、他の委託事業を実施することができないという難点も生じ、太宰府市において、増額変更は現在のところ実施していない。国県による援助制度の設立および拡充を求めたいところである。

c. 禁止基準の不明確

今回の場合、平成17年11月29日に、小破片「廃棄」という行為が受託社Aの担当者が指示していたことが発覚した。この行為に対し、違反行為と認識させ得る「定め」を探索した結果、当時確認できたものに以下のものがある。

「遺物廃棄」行為を違反とする条項

A. 文化財保護法

第1章総則

第1条（この法律の目的）

この法律は、文化財を保護し、且つ、その活用を図り、もって国民の文化的向上に資するとともに、世界文化の進歩に貢献することを目的とする。

第4条（国民、所有者等の心構え）

一般国民は、政府及び地方公共団体がこの法律の目的を達成するために行う措置に誠実に協力しなければならない。

B. 行政目的で行う埋蔵文化財の調査についての標準（文化庁、2004）

第2章-3. 整理等作業

（1）整理等作業の基本方針（13頁5行）

「各作業工程の目的や意義が十分理解されないまま機械的に進められる傾向もみられるが、作業対象の遺物等の選択が適切に行われなかったり、必要あるいは不適切な作業方法が採られることがないよう、あらためて目的と意義を正しく認識して作業を進める必要がある。」

（2）整理等作業の工程とその内容（14頁16行）

「遺物は、遺跡や遺構の時期や性格等を示す重要な資料であり、その出土状況によっては、遺構の埋設過程、一括遺物の器種構成等のほか、共存遺物の時期や性格等を示すこともある。また、単独でも編年や地域性等を示す資料としての価値を有している。したがって、遺物の整理とその分析は、発掘調査の成果を示す上できわめて重要な作業である。」

C. 九州地区埋蔵文化財発掘調査基準

発掘調査手順

「なお、調査は、遺跡・遺構の状況を現地によらずとも復元できる精度とする。」

D. 太宰府市における埋蔵文化財発掘調査指針

第1篇 第1部 第2章 理念

「埋蔵文化財の保存・保護が基本であり次善の方策として発掘調査が行われることを認識する。」

「埋蔵文化財調査にあたっては対象の遺跡に対して誠実に作業を行うことを第一義とする。」

第1篇 第1部 第3章 基本事項

「埋蔵文化財調査は遺跡・遺構・遺物の出土状況を現地によらずとも復元可能とするものである。」

第2篇 第3部 第4章 出土遺物の整理 2項 洗浄

「出土した遺跡、遺構、土層等が混乱しないよう十分な注意を行い、方策を講じる。」

「遺物を損傷したり、遺物が持つさまざまな情報が洗浄によって損なわれないよう、細心の注意をもって行う。」

第2篇 第3部 第4章 出土遺物の整理 4項 選別

「遺跡、遺構を歴史的に位置付ける際に必要な情報を有する遺物を抽出する作業である。したがって単に形が整っていることのみでの抽出は避け、歴史性を十分考慮したうえで資料の抽出にあたる。」

「出土した全ての遺物を観察し、出土遺物一覧表（選別台帳）に必要な事項を記載しつつ資料の抽出を行う。」

「外国産陶磁器については、分類後、破片数量法による定量化を実施し、遺物点数記載方法に沿って点数を記載する。」

E. 埋蔵文化財発掘調査業務委託仕様書

第1章 総則 第2条 業務内容

「対象地を考古学的手法により発掘調査し、土層の堆積状態・遺構遺物の存在の有無、その形状ならびに出土した状態等を、事実に基づいて正確に解釈・記録し、整理作業を行い、発掘調査報告書を作成するものとする。加えて埋蔵文化財の記録保存作業であることに十分留意し、第4条7）および8）を遵守した整理資料を作成、保存するものとする。」

これらに基づき、「遺物廃棄」行為に対して違反行為であることを認識させることは可能かもしれないが、直接的な禁止事項として、「遺物廃棄は禁止」とする条項がなかったことには驚かされた。いわば文化財関連法規自体が、性善説によって作成されているためであり、今後はやはり性悪説に立脚した条項設定が必要であると考えている。今回の件以降、仕様書への禁止条項設定を行い事業運営に努めている。

d. 調査担当者の資格

調査担当者の資格に関しては、様々な機会でも議論されているが、解決の糸口は未だ見出せていないのが現状である。解決策が見つかるのを、文化財保護の最前線では待っているわけにはいかないこともあり、太宰府市では独自の資格を設定した。この資格設定の真意には二つある。ひとつは、埋蔵文化財の記録保存措置に対する主たる調査員の技能判断であり、今ひとつは行政内における文化財担当職員は、埋蔵文化財担当職員ではないということから、他の文化財への保護措置へ業務移行をすべき時期にきていると判断し、埋蔵文化財調査業務委託業者の安定的能力向上を意図した結果である。具体的には、仕様書10条において規定している「受託団体内において5年以上の実務経験を有するもの」が該当する。年限がことさら問題にされ、単に厳しいという議論のみが先行している。この条項の真意は、市民還元を意図した「太宰府市における埋蔵文化財調査指針」を熟知し、太宰府市が実施する埋蔵文化財調査を、直営同様の技量で処理することが外部機関において可能であれば、委託業務へ移行し、これまで費やされてきた時間を、他の文化財保護へと移行することが可能になるのではないかと目的があつての方針である。しかし、契約社員による受託事業処理を、業者側が履行し続けるならば、いつまでも委託者側として「指導」という姿勢を外すことができず、結果として埋蔵文化財偏重行政から脱却できないことになる。委託-受託双方の姿勢如何によって、今後の文化財行政を占う大きな岐路に立っていることを暗に示している。

4. 小 結

埋蔵文化財調査に関する委託事業への問題点が、今回の件で浮き彫りになったのは確かである。現場処理のみならず、出来形協議には法廷闘争も視野に入れた弁護士協議、加えて直接交渉には担当者から

市長まで多くの人々の時間が費やされる結果となった。また現場作業を引き継いだ受託社Bの調査担当者諸氏は、土日もないほどの過酷な条件での調査履行を強いられるなど、多くの時間と金銭が動いたことになる。どこに問題があったのかは、一つに集約することすらできないほど複雑化している。しかしひとつ言えることは、「埋蔵文化財に対して、どう向き合ったのか。」ということであろう。埋蔵文化財の調査とは何なのか。「業務」に大きく傾斜しつつある調査を見るにつけ、この素朴な疑問を抱くことが多くなった。ここに記すことができなかった細かい問題点もあり、今後の文化財保護のあり方を考える上で記しておく必要性も認識している。しかし、各地の情勢を眺めると、文化財保護の根幹が崩れつつあるのではないかとこの危惧が先立つ。既に崩れているとさえ思ってしまう。

埋蔵文化財のみならず、文化財保護行政全体が現在岐路に立たされている。文化財とは何か、何のために保護しているのが今一度問われる必要がある。加えて行政による直営調査が本当に望ましい姿なのか、業務のための業務、業者のための委託など全国から聞こえてくる様々な「噂」は、単に「噂・空言」であって欲しいと願うばかりである。文化財は本来、地域特性を表現できる格好の素材である、あったはずである。それがいつしか「厄介者」扱いされ、社会から遠ざけられる存在へと変化してしまった。この要因は様々あり、一つに集約できるものではない。しかし行政が行うべき課題もまた存在している。できることから実施すべきであろうが、資料・史料の保存・管理・公開が必要である。国民・市民に公開されない活用されない資料・史料の多さが、現状を作り出しているとも考えられる。公開しない、活用しない自治体は、いまや「文化的」になりつつある。住民へ先代からの遺産に関する情報を可能な限り多く伝える、いわば意味を伝えることこそ文化財・文化遺産を継承する近道ではないかと考える。行政が指定という行為によって「取り上げた」文化財・文化遺産を、再び住民へ返す取り組みが必要な時かもしれない。

【註】

- 1) 中間検査指示内容は、下記のとおり。同程度の改善指摘は、他受託業者でも生じているが、今回は、改善要求を行っていたにも関わらず、2回目以降も改善されなかったことが問題であった。
 - a. 遺構配置図
 - ・縮尺1/20にて図化。
 - ・標高点および数値を併記した図であること。
 - ・遺構配置図には、遺構番号を併記しない。
 - ・図化区割図必要。
 - b. 遺構略測図
 - ・縮尺1/100にて図化。
 - ・遺構切り合い表記記号である「矢印」を入れること。
 - ・遺構と遺構番号を一致させる。
 - ・「浮いた線」を完結させること（別紙にて指示）。
 - c. 個別図
 - ・遺構平面図に全て標高値、座標北を明記。
 - ・標高線を平行線で併記。
 - ・見通し図が必要なものは全て記載。
 - 以上全ての実測図に、実測者名、実測年月日を併記する。
 - d. 遺構台帳

- ・遺跡名を「大宰府条坊跡 第248次調査」に統一。
 - ・欠番はつくらない（5の倍数以外）。
- e. 日誌
- ・遺構台帳同様、「大宰府条坊跡 第248次調査」に統一。
 - ・作業時間の記載。
 - ・実作業内容の加筆。
 - ・リース物件の履行表必要。
- f. 野帳情報を別紙にまとめる。
- ・略測図に必要なものは、略測図に併記。
 - ・別紙の方がよいものは別紙に記載して納品。
- g. 35mmスライドにタイトルを入れている件。
- ・35mmスライド整理マニュアルに沿って整理し、撮影内容は35mmスライドを基準として整理する（指示済み）。

Ⅳ. 調査方法

大宰府条坊跡第248次調査は、(株)人間文化都市研究所により平成17年7月25日から開始された。調査地点の北側には県道筑紫野・太宰府線が走り、東側には市道および太宰府市役所が隣接しており、通行量が多いことから安全対策として外柵を設置した。また西側から南側にかけては宅地が近接していることから、調査区壁面の崩落防止などの安全面を考慮してセットバックを充分にとり、調査区の壁は傾斜をつけて掘削している。表土の除去には重機を用い、遺構確認面（地表下1.3~1.5m）まで掘削し、発生した土砂は場内に集積した。重機での作業が終了した時点で、調査区内に3m方眼を基本とするグリッドの設定と遺構の検出作業を行い、その後遺構検出写真撮影と縮尺1/100の略測図を作成し、記載済みの遺構から順次、掘削作業を開始した。遺物は土層ごとに取り上げを行い、遺構の完掘後に写真撮影と縮尺1/20の遺構全体図を作成した。遺構の状況によって適宜縮尺1/20の個別図も作成し、第Ⅰ面の調査が終了した9月17日には上空からの全体写真撮影を実施しているが、諸般の事情により第Ⅱ面の調査は途中で中断し、12月16日には契約解除が行われ、大宰府条坊跡第248次調査は終了している。

大宰府条坊跡第248次調査（その2）は、調査を引き継いだ(株)玉川文化財研究所により平成18年1月12日から開始され、まず場内に仮置きされた土砂の崩落が懸念されたことから1月13・16日の両日に土砂の場外搬出を行った。1月17日からは第Ⅱ面遺構の再確認作業を実施し、略測図修正、個別図などの作成と写真撮影を順次行い、2月2日に上空からの全体写真撮影と全体測量を実施している。第Ⅱ面の調査が終了した2月11日には重機を搬入して整地層の掘削を開始し、第Ⅱ面と同様の手順で第Ⅲ面の調査を行った。第Ⅲ面の上空からの全体写真撮影は3月4日に行い、整地層の除去を3月7日から開始した。第Ⅳ面と第Ⅴ面は、ほぼ同一標高で確認され、第Ⅳ面は調査区西端に形成されていた。第Ⅳ面の調査終了後、第Ⅴ面の調査に移行し、3月17日には第Ⅴ面の上空からの全体写真撮影を実施している。3月22日からは基盤層の確認を目的とした補足調査を行い、調査が終了した3月27日から埋め戻し作業を開始し、3月31日の重機搬出をもって現地におけるすべての作業を完了している。

整理作業は、出土遺物を器種などの属性に応じて分類し、台帳に記録した。これらは「出土遺物一覧表」として本書に掲載した。歴史的に重要と考えられた遺物は検証資料としたほか、土師器供膳具は必要に応じて計測し、「土師器計測表」として掲載している。遺物の分類基準は例言を参照されたい。

大宰府土器型式と国産陶器・貿易陶磁器編年

出現 増加 減少

2005 5月訂

紀年銘	A D	大宰府土器型式	磁器区分	国産磁器型式 型式の上層			標識磁器	準標識磁器
				灰釉 類投	灰釉 滑漕	緑釉		
800			↑	折戸O・10		長門?・畿内	白磁 類 越州系青磁 類 長沙系青磁・黄釉 禰形・禰物	唐三彩・二彩 鉄胎
825		A B	↑	井ヶ谷 1G・78 黒磁K・14		長門・法北・法西・黒磁K・14		
850			↑	黒磁K・90	光ヶ丘 1	法西 黒磁K・90		青磁禰形・禰物 初期イスラム陶器
900			↑		大原 2			
925			↑	折戸O・53	虎深山 1	近江		
950			↑					
1000			↑	東山H・72			越州系青磁 類 白磁立類	
1050	XI		↑		丸石 2 明和 27			
1100		A B	↑	東山H・105			白磁碗 類, 1-3, , Ⅻ, 類 皿, 類, 類 青白磁	初期龍泉系系・同安系系青磁0類 越州系系青磁 初期龍泉系青磁, 類 青白磁 白磁鉢 類, 碗 類
1150	XII		↑				龍泉系系青磁碗 - 1~4, 6 皿 1類 同安系系青磁碗 - 類, 皿 類	白磁碗, 皿, 類 増加 白磁碗, 皿 - 1類
1200			↑				龍泉系系青磁碗 - a, b類	白磁皿 - 2類
1230			↑				龍泉系系青磁 類 白磁 類	龍泉系系青磁碗 - c類 白磁 類 黒釉陶器
1250			↑					
1300			↑					
1330			↑				龍泉系系青磁 類	白磁B, C類 安南鉄胎
1350			↑					
1400			↑					
1450			↑					
1500			↑					

紀年銘資料

- A.D. 927 延長 5年, 大宰府 74次 SD 205A 溝
- A.D. 1091 寛治 5年, 平安京左京 4条 1坊 SE 8井戸
- A.D. 1224 貞応 3年, 大宰府 33次 SD 60溝
- A.D. 1304 嘉元 2年, 大宰府 109, 111次 SD 3200溝
- A.D. 1330 元徳 2年, 大宰府 49次 SX 1200池
- A.D. 784 延暦 3年, 長岡京 102次 AD 1020溝
- A.D. 1459- 1465 長祿 3- 寛正 5年, 福岡市井相田 C・SG 16池
- A.D. 1501 文龜元年, 大宰府 70次 SD 1805溝
- A.D. 1265 文永 2年, 博多 62次 71社埜

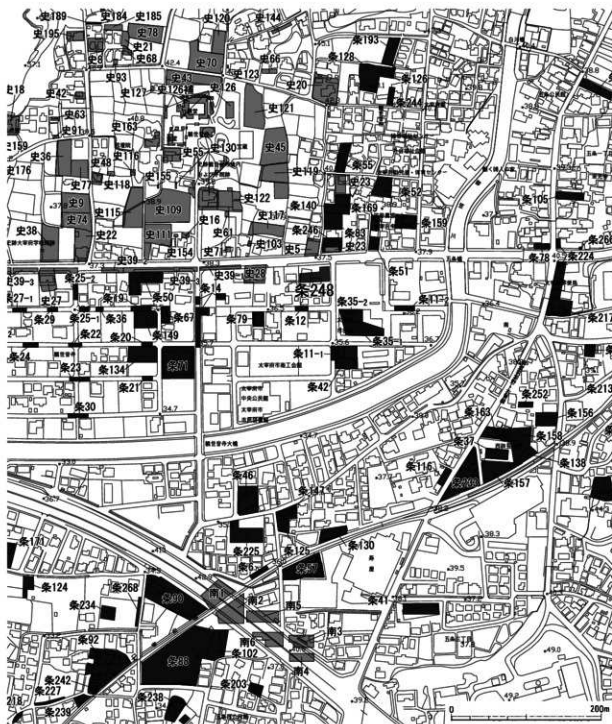
文献

- 九州歴史資料館「大宰府史跡昭和56年度発掘調査概報」1982
- 田辺昭三・吉川義彦「平安京跡発掘調査報告書左京四條一坊」1975 平安京調査会
- 九州歴史資料館「大宰府史跡昭和49年度発掘調査概報」1975
- 九州歴史資料館「大宰府史跡昭和63年度発掘調査概報」1989
- 九州歴史資料館「大宰府史跡昭和54年度発掘調査概報」1978
- 長岡京市埋蔵文化財センター「長岡京市埋蔵文化財調査報告書第1集」1989
- 福岡市教育委員会「井相田C遺跡」福岡市埋蔵文化財調査報告書 179 1989
- 九州歴史資料館「大宰府史跡昭和56年度発掘調査概報」1982
- 福岡市教育委員会「博多4号 福岡市埋蔵文化財調査報告書 397 1995

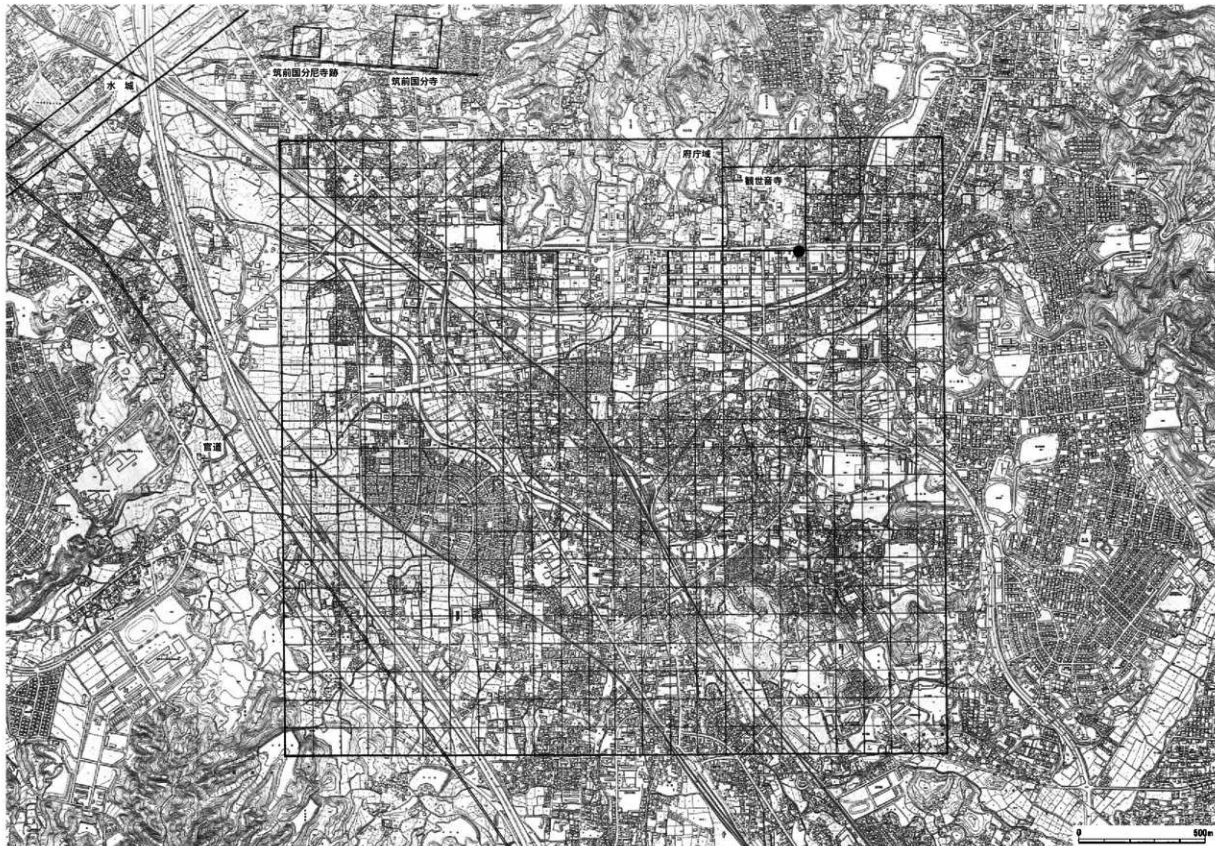


- | | | | |
|-------------|-----------------|-----------|---------------------|
| 1. 大野城跡 | 11. 大宰府政庁跡（鎮山南） | 21. 前田遺跡 | 31. 桶田山遺跡 |
| 2. 岩屋城跡 | 12. 觀世音寺 | 22. 宮ノ本遺跡 | 32. 大宰府天滿宮（安楽寺跡） |
| 3. 陣ノ尾・妙見遺跡 | 13. 遺賢塚印出土地 | 23. 鶴川遺跡 | 33. 溝城跡 |
| 4. 筑前國分寺跡 | 14. 大宰府糸紡跡（実線内） | 24. フケ遺跡 | 34. 原遺跡 |
| 5. 辻遺跡 | 15. 歌畑遺跡 | 25. 尾崎遺跡 | 35. 大宰府糸紡跡第 248 次調査 |
| 6. 国分松本遺跡 | 16. 般若寺跡 | 26. 脂道遺跡 | |
| 7. 筑前國分尼寺跡 | 17. 市ノ上遺跡 | 27. 駒城戸遺跡 | |
| 8. 国分千足町遺跡 | 18. 神ノ前麻跡 | 28. 砂塚遺跡 | |
| 9. 御笠塚印出土地 | 19. 原口遺跡 | 29. 鹿人塚遺跡 | |
| 10. 水城跡 | 20. 藤原遺跡 | 30. 峯遺跡 | |

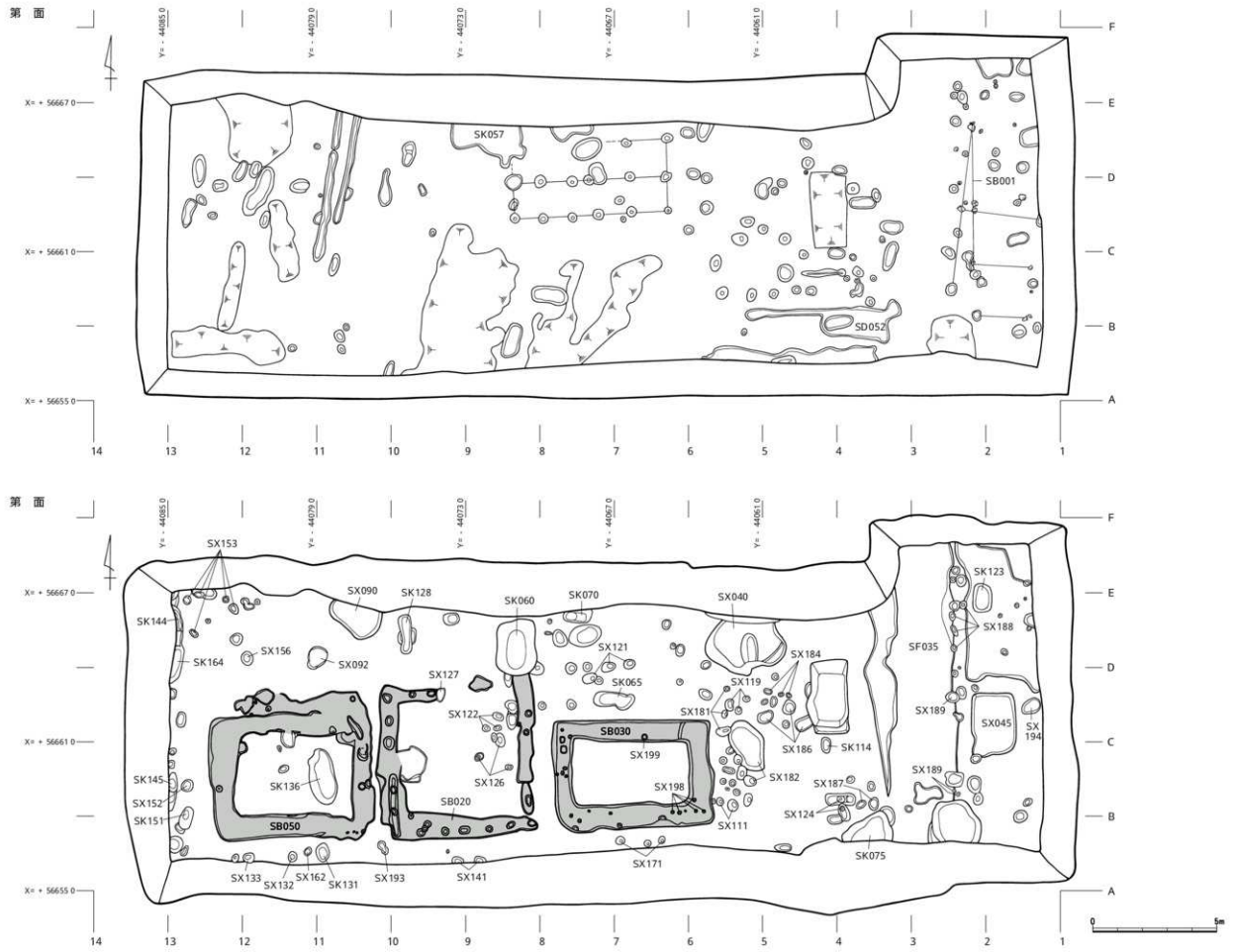
第 1 図 太宰府市とその周辺の遺跡（1/30 000）



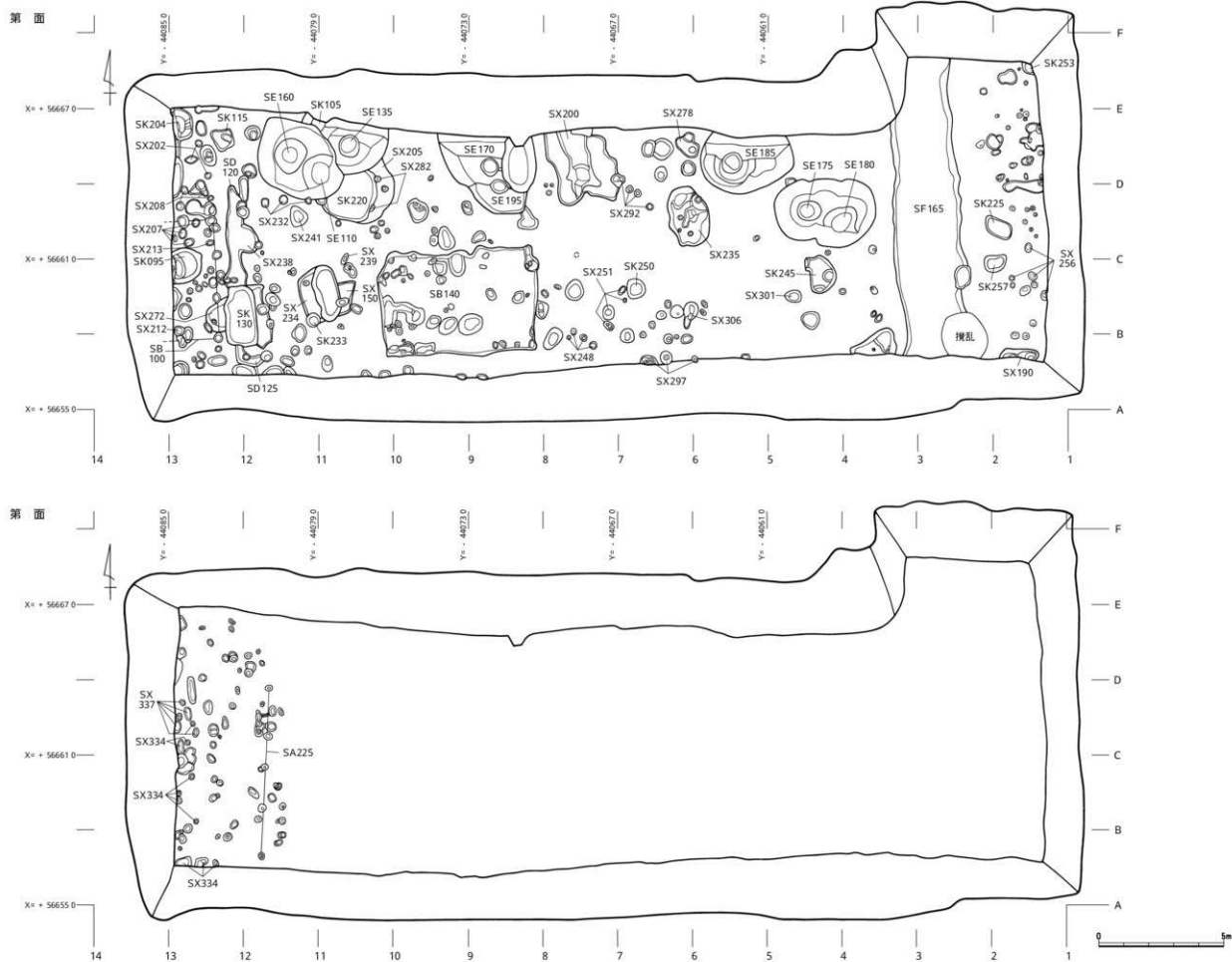
第2図 報告調査地と周辺遺跡 (1/5 000)



第3圖 大宰府系坊推定範圍圖 (1/ 15 000 續山・石松案 調査地)

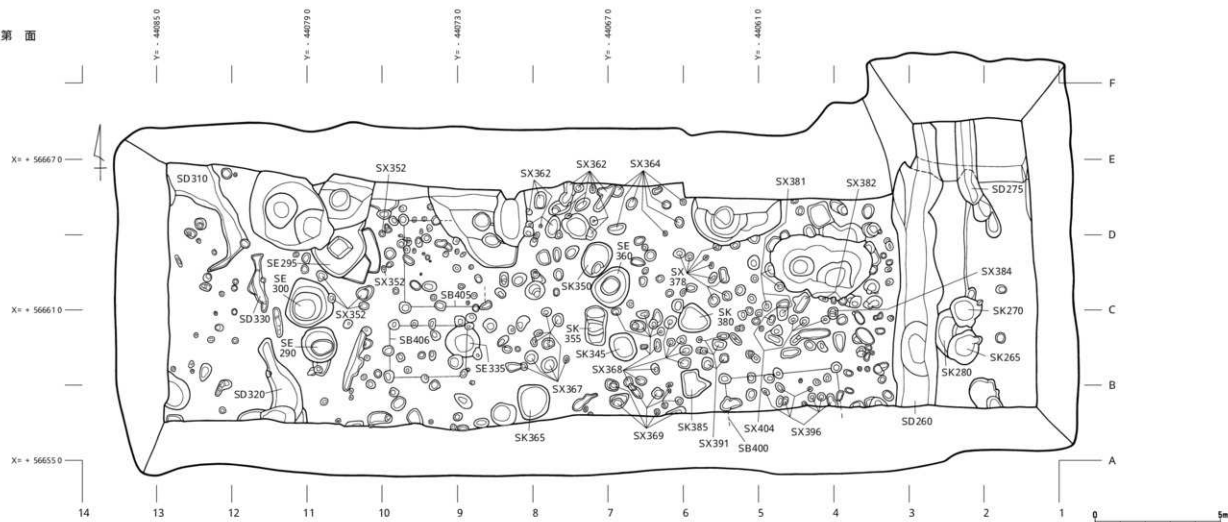


第 4 图 大宰府条坊跡第 248 次調査第 一 面遺構全体图 (1 / 150)



第5図 大宰府糸坊跡第248次調査第 面遺構全体図 (1/150)

第 6 面



第 6 図 大宰府奈坊跡第 248 次調査第 6 面遺構全体図 (1 / 150)

V. 層 位

今回の調査地点は御笠川右岸の氾濫低地に立地し、地形区分では低位段丘Ⅱ面（磯 2001）にあたる。当該地周辺は昭和56年度に施工された親世地区区画整理事業に伴う嵩上げでマサ土に覆われ、現在では平坦面が形成されている。マサ土は橙色土（1層）で、層厚は0.95～1.60mを測る。その直下が耕作土であり、その下位に施工された水田床土を除去すると、黒茶色土の遺物包含層が確認されたが、一部に遺存するのみであった。この遺物包含層を除去すると、その下位に今回第Ⅰ面として理解した遺構面が検出でき、標高は約35.90mを測る。この第Ⅰ面の整地層には複数の土層が分布し、灰色土（8層）が主体となり形成されているが、調査区東側の極一部に黒褐色土（9層）、暗黄褐色土（10層）、暗灰色土（11層）、暗橙色土（12層）、褐灰色土（13層）が確認された。層厚は0～0.25mを測る。その下には第Ⅱ面の遺構面が存在し、標高は約35.80mである。第Ⅱ面の整地層は、黄褐色土（51・54層）が主体で形成されているが、第Ⅰ面と同様に複数の土層が認められ、一部に暗黄褐色土（52層）、暗灰色土（53層）、黄灰褐色土（55層）、褐灰色土（56層）、暗橙褐色土（57層）、暗灰色土（58層）が確認された。層厚は0.10～0.45mを測る。その下部には第Ⅲ面の遺構面が確認され、標高は約35.50mを測る。第Ⅲ面の整地層も複数の土層で形成され、暗灰色土（71・72・77～79・82層）が主体となるが、その他に灰色砂（73層）、茶灰色砂（74層）、褐灰色砂（75層）、茶灰色砂（76層）、暗灰色砂質土（80層）、黒灰色土（81層）、暗褐色土（83層）、灰色土（84層）が観察された。層厚は0.15～0.70mを測る。さらに、その下からはほぼ同一標高（約35.10m）で第Ⅳ・Ⅴ面の遺構面が確認された。第Ⅳ面は調査区西辺（約6m幅）に分布し、その整地層は主に黄灰色砂質土（90層）・黄灰色土（91・94層）で形成されるが、部分的に灰色土（92層）、黒灰色土（93層）、灰色砂（95層）が含まれ、層厚は0～0.55mを測る。第Ⅴ面の遺構面は調査区中央から東側ではほぼ平坦であるが、西辺では上部に第Ⅳ面の整地層が構築されていることから、西側にやや傾斜する。その下層は砂質土（111・113・115・116・118～122・129・131・133層）と砂礫層（110・112・114・117・123～125・127・132・134～138・140・141層）で形成されているが、部分的に黒灰色シルト（126層）、暗青灰色シルト（128・130層）、暗灰色シルト（139層）の薄層が観察されたことから、河川氾濫の影響により形成された砂礫層と判断された。また、調査区北西隅の最下層では基盤層と推定される灰緑色粘土（142層）を確認している。

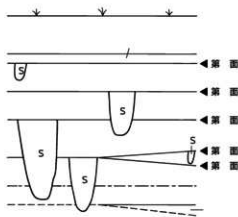
大宰府条坊跡第248次調査の遺物取り上げについての表土と遺構以外の土色の遺物は、土層模式図の記載が無いため帰属が不明であり、耕作土の出土遺物として処理している。

大宰府条坊跡第248次調査（その2）の整地層の遺物については、各整地層に多数の土色が存在するため、その主体となる土色で取り上げを行っているが、第248次調査の帰属不明遺物と重複する土色が存在する場合は、末尾に数字を附している。第Ⅰ面は灰色土1、第Ⅱ面は黄褐色土2、第Ⅲ面は暗灰色土、第Ⅳ面は黄灰色土、それ以下は褐色砂・灰色土2となる。また、単一土層の遺構についてもS番号のみで取り上げた遺物とS番号と土色を記載して取り上げた遺物があることを了承願いたい。

なお、調査区西壁・南壁の土層断面図に部分的に柱穴状の掘り込みが確認され、平面図との不整合が生じているが、大宰府条坊跡第248次調査での調査区壁面整形が不十分であり、第248次調査（その2）の基盤層の確認を目的とした補足調査時に再度調査区壁面の整形を実施していることから生じたものである。

調査区南壁・西壁・北壁土層説明 (第8図)

1層 褐色土	表土層。真砂土主体の盛土。	45層 黒灰色土	(*)	95層 灰色砂	(90~95層 第Ⅴ面整地層)
2層 暗褐色土	表土層。調査区昇降用通路の盛土。	46層 灰色土		96層 暗灰色土	(SX-354)
3層 青灰色土	層下位を中心に酸化鉄が沈着。(耕作土)	47層 暗灰色土		97層 黒色土	(SD-320)
4層 暗褐色土	近・現代の擾乱。	48層 灰褐色土	(46~48層 SK-075)	98層 暗灰色土	(SX-359)
5層 暗褐色土	近・現代の擾乱。(SX-055)	49層 褐色土	(SF-035)	99層 暗灰色土	(SX-357)
6層 黒褐色土	(SK-108)	50層 茶灰色土	(SF-035下層擾乱)	100層 黒灰色土	(SX-343)
7層 黒褐色土	(SX-011)	51層 新黄灰色土		101層 黒色土	(SX-344)
8層 灰色土		52層 暗黄褐色土		102層 暗灰色土	(SX-315)
9層 黒褐色土	(調査区東側で部分的に遺存)	53層 暗灰色土		103層 暗灰色土	(SX-371)
10層 暗黄褐色土	(*)	54層 黄褐色土		104層 暗灰色土	(SX-369)
11層 暗灰色土	(*)	55層 黄灰色土		105層 暗灰色土	(SX-396)
12層 暗褐色土	(*)	56層 褐色土		106層 暗灰色土	(SX-329)
13層 褐色土	(*)	57層 暗褐色土		107層 灰白色砂	(SD-260)
14層 暗褐色土	(8~13層 第Ⅰ面整地層)	58層 暗灰色土	(51~58層 第Ⅱ面整地層)	108層 灰土	
15層 暗褐色土	(SX-166)	59層 黒灰色土	(SK-204)	109層 茶灰色砂	(108・109層 SD-275)
16層 暗褐色土	(第Ⅱ面の遺構?)	60層 灰色土	(SX-271)	110層 褐色砂礫	
17層 暗褐色土	幾上塊を多量含む。	61層 黒灰色土	(SX-224)	111層 褐色砂質土	
18層 褐色土	幾上粒子を少量含む。	62層 黒灰色土	(第Ⅱ面の遺構?)	112層 褐色砂礫	
19層 褐色土	幾上粒子を少量含む。	63層 灰褐色土	(SX-215)	113層 暗灰色砂質土	
20層 暗褐色土	幾上粒子を少量含む。	64層 黒灰色土	(SX-279)	114層 暗灰色砂礫	
21層 灰褐色土	炭化物粒子を中量含む。(17~21層 SK-144)	65層 暗灰色土	(第Ⅱ面の遺構?)	115層 暗灰色砂質土	
22層 暗褐色土	炭化物粒子を少量含む。	66層 暗灰色土	(SX-297)	116層 暗灰色砂質土	
23層 灰色土	炭化物粒子を少量含む。	67層 暗褐色土	(SX-308)	117層 暗灰色砂礫	
24層 暗灰色土	炭化物粒子を少量含む。	68層 灰色土	(SF-165)	118層 暗褐色砂質土	
25層 褐色土	炭化物粒子を中量含む。(22~25層 SK-164)	69層 灰色土	(SX-190)	119層 明灰褐色砂質土	
26層 暗褐色土	(SX-148)	70層 灰褐色土	(SX-253)	120層 褐色砂質土	
27層 暗灰色土	(SX-163)	71層 暗灰色土		121層 暗灰色砂質土	
28層 灰褐色土	(SK-095)	72層 暗灰色土	71層より礫の含有量が増加。	122層 灰色砂質土	
29層 黄色土	幾上塊を多量含む。	73層 灰色砂		123層 褐色砂	
30層 黄褐色土	幾上塊を多量含む。(29-30層 SK-145)	74層 茶灰色砂		124層 褐色砂礫	
31層 暗褐色土	(SX-149)	75層 褐色砂		125層 灰白色砂礫	
32層 灰色土	(SX-218)	76層 茶灰色砂		126層 黒灰色シルト	
33層 暗灰色土	(SX-168)	77層 暗灰色土		127層 黒色砂	
34層 暗灰色土	(SX-133)	78層 暗灰色土	部分的に幾上塊が含まれる。	128層 暗青灰色シルト	
35層 灰褐色土	(第Ⅱ面の遺構?)	79層 暗灰色土		129層 暗灰色砂質土	
36層 褐色土	(*)	80層 暗灰色砂質土		130層 暗青灰色シルト	
37層 灰褐色土	(*)	81層 黒灰色土		131層 灰色砂質土	
38層 暗褐色土	(*)	82層 暗灰色土	(71~84層 第Ⅲ面整地層)	132層 暗灰色砂	
39層 暗灰色土	(SX-141)	83層 暗褐色土	(SX-339)	133層 暗褐色砂質土	
40層 暗灰色土	(第Ⅱ面の遺構?)	84層 灰色土	(SX-337)	134層 茶色砂	
41層 灰色土	(*)	85層 黒色土	(SX-334)	135層 灰白色砂	
42層 暗褐色土	(*)	86層 灰色土	(SX-336)	136層 茶灰色砂	
43層 灰褐色土	(*)	87層 黒色土	(SK-305)	137層 灰色砂	
44層 褐色土	(*)	88層 灰色土		138層 黄褐色砂礫	
		89層 暗灰色土		139層 暗灰色シルト	
		90層 黄灰色砂質土		140層 褐色砂	
		91層 黄灰色土		141層 褐色砂	部分的に黒色砂・黒色シルトが混在。
		92層 灰色土		142層 灰緑色粘土	(基盤層)
		93層 黒灰色土			
		94層 黄灰色土			

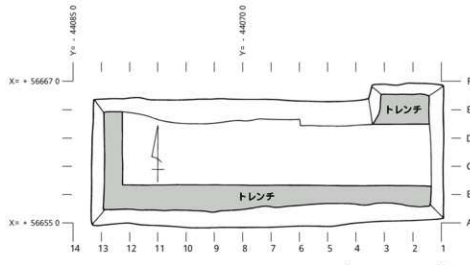
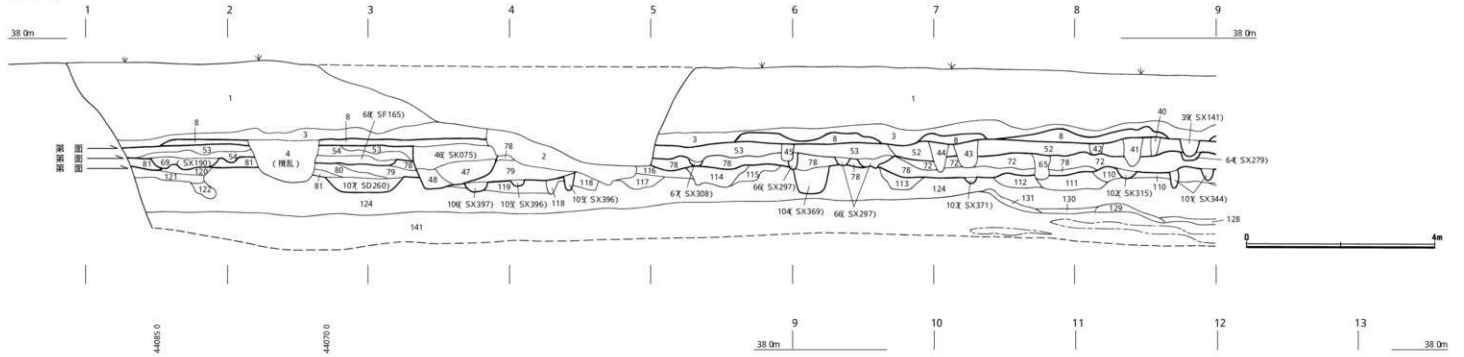


第7図 土層断面模式図

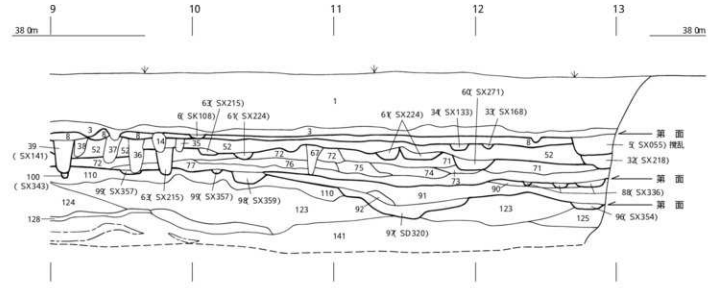
褐色土(表土層)

青灰色土・灰色土・明黄灰色土・黄色土・褐色土・黒色土・黒褐色土・黄褐色土(耕作土) 遺物は主に黄褐色土で取り上げ
 灰色土、暗黄褐色土、暗灰色土、暗褐色土、褐灰色土(第Ⅱ面整地層) 遺物は主に灰色土、暗黄褐色土、暗灰色土、黄灰色土、黄褐色土、褐灰色土、暗褐色土(第Ⅱ面整地層) 遺物は黄褐色土で取り上げ
 暗灰色土・灰色砂・茶灰色砂・褐灰色砂・暗灰色砂・褐色土・黒褐色土・暗褐色土・灰色土(第Ⅱ面整地層) 遺物は暗灰色土で取り上げ
 黄灰色砂質土、黄灰色土、灰色土、黒灰色土、灰色砂(第Ⅱ面整地層) 遺物は黄灰色土で取り上げ
 褐色土、褐色砂礫、褐色砂質土、灰黄色砂、灰褐色砂質土、灰白色砂礫 遺物は褐色砂で取り上げ
 暗灰色砂質土、暗灰色砂礫、明灰褐色砂質土、灰色砂質土、灰白色砂礫、黒灰色シルト、黒色砂、暗青灰色シルト、灰黄色砂、灰褐色砂質土、黒灰色土、灰白色砂、茶灰色砂、灰色砂、黄褐色砂礫、暗灰色シルト、褐色砂 遺物は灰色土で取り上げ(* は河川の氾濫により形成か?)
 灰緑色粘土(基盤層か?)

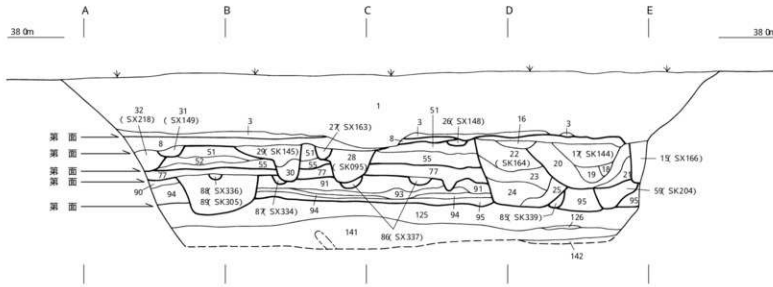
調査区南壁



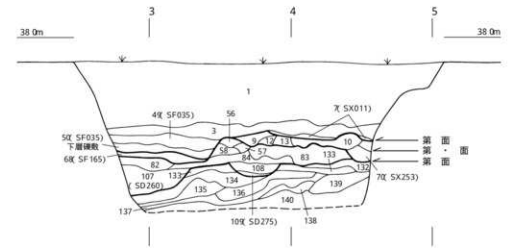
調査区試掘調査位置図 (1/ 400)



調査区西壁



調査区北壁東側



第8図 調査区南壁・西壁・北壁土層断面図 (1/ 80)

Ⅵ. 調査の概要

1. 遺構

今回の調査では5面の遺構面が確認された。第Ⅰ面は大宰府土器型式XX期(14世紀前半頃)の遺構面と推定され、礎石建物1棟、溝4条、土坑23基、たまり状遺構、小穴群が検出されている。第Ⅱ面はXIII期(13世紀第3四半期頃)の遺構面と考えられ、道路1条、礎石建物3棟、土坑15基、集石2基、たまり状遺構、小穴群が発見されている。第Ⅲ面からは道路1条、礎石建物1棟、掘立柱建物1棟、溝3条、井戸8基、土坑17基、たまり状遺構、小穴群が確認され、XVI期(13世紀第2四半期頃)に形成された遺構面と推定される。第Ⅳ面からは柵列1列、土坑1基、小穴群、第Ⅴ面からは掘立柱建物3棟、溝6条、井戸4基、土坑18基、たまり状遺構、小穴群が検出され、概ねXV期(12世紀後半～13世紀前半頃)に埋没した遺構と考えられる。

ここでは第Ⅰ面から順に第Ⅴ面にかけて主な遺構について述べることにするが、受託社Aによって履行された第Ⅰ層と第Ⅱ層の集石(248SX040)、整地層(248SX045)、小穴(248SX111)に関しては、監理担当である中島が記述し、それより下層の遺構については北平が記述している。

第Ⅰ面の調査は、遺構検出時の認識の甘さゆえ、一部耕作土ならびに床土を残したまま詳細調査へと移行した。検出してきた遺構は、礎石建物、性格不明の土坑ならびに多数の小穴である。耕作土など表土として処理した凹みについては、攪乱記載をしている。加えて、S-25とした「遺構」に関しては、当初建物柱穴の可能性を有し精査を試みたものの、建物柱穴よりは堆積層の斑であると判断した方が蓋然性は高いものと判断される。したがって、「遺構」略測図上は、「建物遺構」のように観察できるが、そうではないためご注意ください。

第Ⅰ面

1) 礎石建物

248SB001(第4・9図、図版5)

調査区東部にて検出したもので、B～D1・2区に位置し、角礫配置状況から礎石建物と判断した。表土除去時に遺構南辺のものが移動しており、十分な検証が経られていないものの、調査区東へ延びる東西棟になる可能性が高い。調査区内での所見では、柱間2.40～3.00mを測り、上面が平坦な角礫を敷いた構造をとる。礎石と判断される石は、全て花崗岩礫を使用している。近隣の調査成果では、礎石下位に地鎮行為としての埋納銭が確認されているが、今次調査では確認できなかった。

2) 溝

248SD052(第4図)

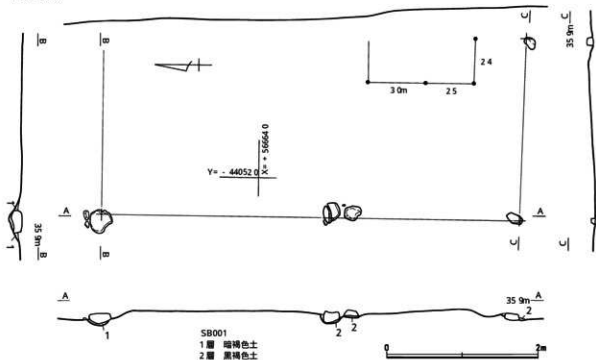
調査区南東部に検出したもので、B3～B5区を中心に位置している。建物雨落ち溝の可能性ないしは、条路などの道路側溝の可能性を考えていたが、建物遺構ならびに対になる溝が確認できなかったことから、単に溝状の遺構として記述する。東西長6.30m、南北長0.20～1.20m、深さは0.20mを測る。堆積土は、暗褐色土の単一層で、土器小破片が出土している。

3) 土坑

248SK057(第4図)

調査区中央部北辺に検出したもので、D8・9区に位置している。不整形な土坑で、堆積土の斑と判

248SB001



第9図 248SB001実測図 (1/50)

断できる。検出長3.00m、深さ0.30mを測る。

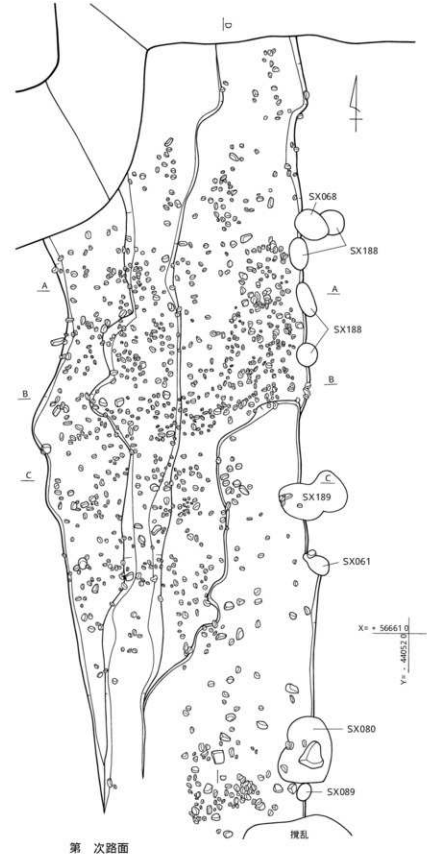
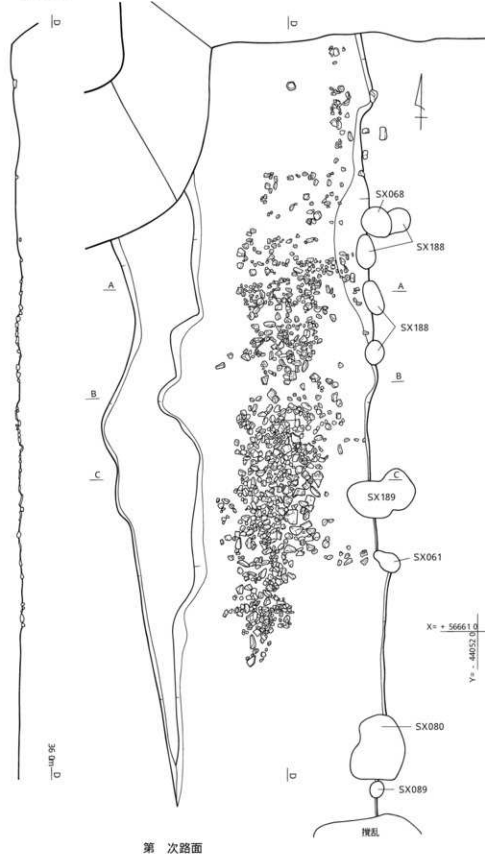
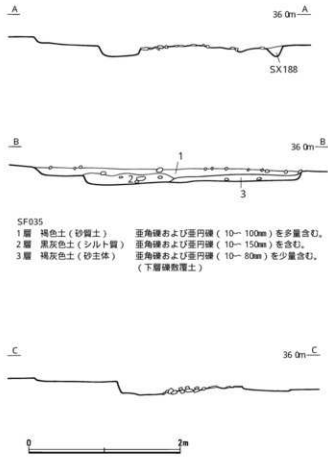
第Ⅱ面

1) 道路

248SF035 (第4・10図、図版5)

調査区の東端に位置し、A2・3区からE2・3区にかけて南北に走る。2面の礫敷舗装面が確認されたが、礫敷は遺構間の重複や攪乱および整地層(第Ⅰ面)などの影響により南側が消失している。北側は調査区外に展開し、土坑(248SK075・080)、小穴(248SX188・189・191・192)に一部が壊されている。礫敷の検出された範囲は、上面の礫敷で長さ11.80m、幅2.65~3.50mを測り、走向は中軸線でN-2°-Wを指針する。礫敷の中軸線での標高は南端(B2区)で約35.60m、中央(C2区)で約35.75m、北端(E2区)で35.50mを測り、遺存状態の悪い両端はやや低くなる。掘り方の検出範囲は、長さ10.35m、幅は2.65~3.50m、深さ0.05~0.20mを測る。断面は中央部が低く、両端が一段高くなる形態で、覆土は上層から褐色土→灰色土→黒灰色土→褐灰色土→茶灰色土→黄灰色土の順に堆積する。舗装面の礫は5~15cmが中心で、やや散漫に分布する。石材の大半は花崗岩である。下面の礫敷は長さ8.30m、最大幅1.75mの範囲で検出され、走向は上面の礫敷とほぼ一致する。礫敷の中軸線での標高は南端(B2区)で約35.60m、中央(C2区)で約35.50m、北端(E2区)で約35.50mを測り、やや南側が高い。掘り方の最終的に検出された範囲は、長さ10.35m、幅2.25~3.50m、深さは0.10mほどを測る。断面は東側が低く、西側が一段高い形態である。覆土は上層から褐灰色土→茶灰色土→黄灰色土の順に構成され、舗装面の礫は5~15cmが中心である。石材の大半は花崗岩であるが、極微量に玄武岩が含まれ、その他に瓦片も少量混じる。

248SF035



第 10 図 248SF035実測図 (1 / 50)

2) 礫敷建物

248SB020 (第4・11図、図版6)

調査区の西側に位置し、A～C8・9区を中心に検出された。多くの遺構と重複するが、直接的な切り合い関係にあるのは、土坑(248SK060)、たまり状遺構(248SX085・109・127・183)で、本遺構が最も古い。遺構間の重複と第1面の整地層の影響により遺存状態はあまり良好ではない。平面形は方形を呈し、方形に区画した溝に小礫を敷き詰めているが、散漫な状態である。規模は長軸(南北)6.50m、短軸(東西)6.25mを測り、溝幅は0.25～1.13m、深さは0.05～0.15mである。主軸方位はN-4°-Wを指針する。西側溝の中央から礎石と考えられる扁平な角礫(花崗岩)が3個確認され、その他に根固め石を有する柱穴が18穴検出された。一辺5.40mを測る6間×6間の方形建物が想定され、南側柱列の柱間は西から1間目(e～f)は0.90m、2間目(f～g)は1.00m、3～5間目(g～j)は0.90m等間、6間目(j～k)0.80mとなる。北側柱列の柱間は西から1間目(s～r)が1.00m、2間目(r～q)は0.80mとなり、3～6間目については不明ではあるが、0.90m等間の可能性が考えられる。西側柱列の柱間は北から1・2間目(s～a)は0.90m等間、3間目(a～b)は1.20m、4間目(b～c)は0.60m、5・6間目(c～e)は0.90m等間となる。東側柱列の柱間は北から1～4間目は不明ではあるが、0.90m等間と推定され、5・6間目は(m～k)0.90m等間となる。覆土は上層から褐色土→茶灰色土の順で構成される。礫敷の礫は5～15cmが中心で、石材の大半は花崗岩である。また、南側から検出された小穴(248SX141)2穴は、本遺構の南辺と約0.75mの間隔でほぼ並行関係にあることから、出入口施設の柱穴の可能性も考えられる。

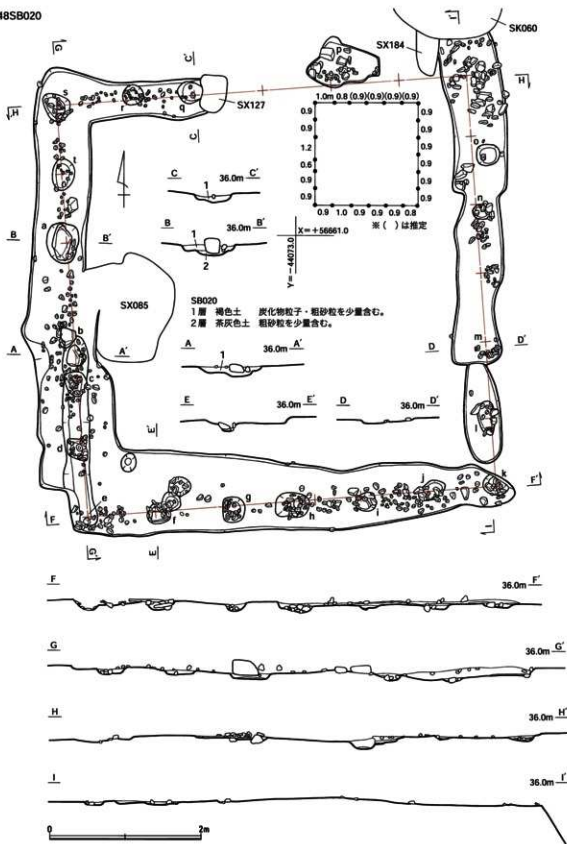
248SB030 (第4・12図、図版6・7)

調査区のはぼ中央に位置し、A・B5～7区を中心に検出された。小穴(248SX196～199・201)を切って構築されているが、溝の一部に小穴(248SX178)が穿たれている。平面形は長方形を呈し、長方形に区画した溝に小礫を敷き詰めている。礫は比較的濃密に分布するが、南側がやや散漫である。規模は長軸(東西)6.25～6.40m、短軸(南北)4.15～4.45mを測り、溝幅は0.70～1.10m、深さは0.10～0.25mである。主軸方位はN-88°-Eを指針する。西側溝の礫敷の下からは近接して扁平な角礫(花崗岩)が2個が確認されたが、礎石として認定するのは難しい。上述の礫敷建物(248SB020)の様な礎石や根固め石を有する柱穴は発見されていないことから柱間寸法については判然としないが、礫敷建物(248SB020)の柱間(約0.90m)を参考にすると、長軸(東西)5.40m、短軸(南北)3.60mの建物が想定される。覆土は上層から褐色土→黄色土→暗褐色土の順で堆積している。礫敷の礫は5～15cmが中心で、石材の大半は花崗岩である。また、南側から検出された小穴(248SX171)2穴は、本遺構の南辺と約0.40mの間隔でほぼ並行関係にあることから、出入口施設の柱穴の可能性も考えられる。

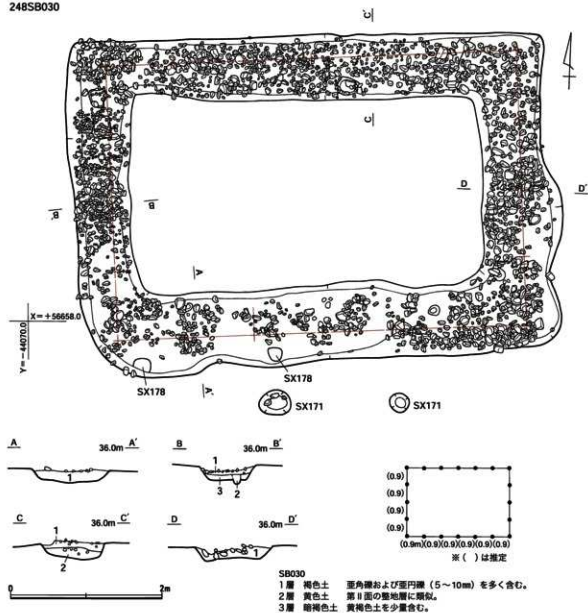
248SB050 (第4・13図、図版6・7)

調査区の西端に位置し、A～C10・11区を中心に検出された。多くの遺構と重複するが、直接的な切り合い関係にあるのは、小穴(248SX134)、攪乱(248SX154・159)で、本遺構が最も古い。遺構間の重複と第1面の整地層の影響により遺存状態はあまり良好ではない。平面形は長方形を基本形とするが、北側がやや不整形となり、北側溝は判然としない。長方形に区画した溝に小礫を敷き詰めているが、東側が散漫な状態である。規模は長軸(東西)6.40～6.50m、短軸(南北)4.90～5.90mを測り、溝幅は0.75～1.80m、深さは0～0.10mである。主軸方位はN-88°-Eを指針する。西側溝から小穴が1穴、東側溝からは小穴が2穴と窪みが確認されたが、柱間寸法は判然としない。東側溝の小穴と窪みお

248SB020



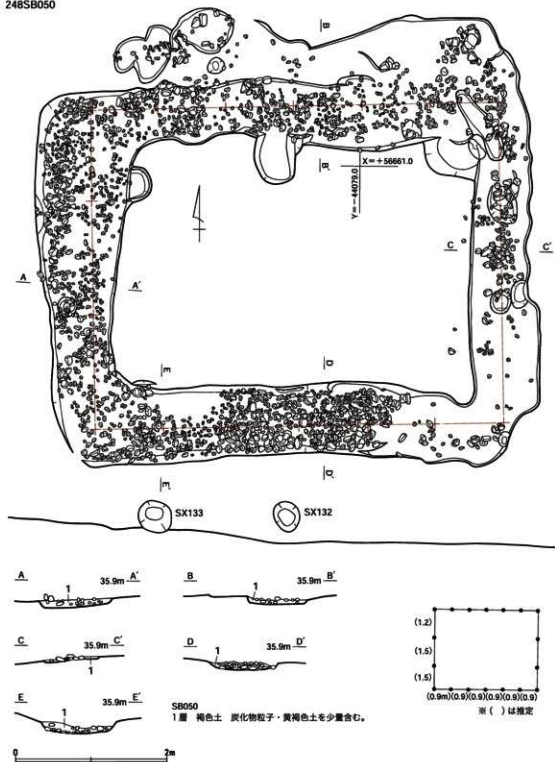
第11図 248SB020実測図 (1/50)



第12図 248SB030実測図(1/50)

よび礎石中軸線などを参考にとすると、長軸(東西)5.40m、短軸(南北)4.20mの建物が想定される。覆土は褐色土で構成されている。礎石の礎は5~15cmが中心で、石材の大半は花崗岩である。また、南側から検出された小穴(248 SX132・133)2穴は、本遺構の南辺と約0.55mの間隔ではほぼ並行関係にあることから、出入口施設の柱穴の可能性も考えられる。

248SB050



第13図 248SB050実測図 (1/50)

3) 土 坑

248SK060 (第4・14図、図版7)

調査区中央部の北辺に位置し、C・D8区から検出された。礫敷建物(248SB020)、たまり状遺構(248SX183)を切って構築されている。平面形はやや歪むが、隅丸長方形を呈し、規模は長軸(南北)2.25m、短軸(東西)1.60m、深さは1.10~1.25mを測る。覆土は上層から暗褐色土→灰色土の順で構成されている。

248SK065 (第4図)

調査区のはぼ中央に位置し、C6・7区から検出された。平面形は不整形であり、規模は長軸(東西)1.65m、短軸(南北)0.55~0.65m、深さは0.14mほどを測る。覆土は暗褐色土で構成されている。

248SK070 (第4図)

調査区中央部の北辺に位置し、D7区から検出された。北側は調査区外に展開し、全容は捉えきれていない。平面形は隅丸方形を呈すると考えられ、規模は東西方向で1.10m、深さは0.85mほどを測る。覆土は黒灰色土で構成されている。

248SK075 (第4・14図)

調査区東側の南辺に位置し、A・B3区から検出された。道路(248SF035)、小穴(248SX192)を切って構築されているが、南側が調査区外に展開し、全容は捉えきれていない。平面形はやや不整形で、規模は東西方向で2.05m、深さは0.50mほどを測る。覆土は上層より灰色土→暗灰色土→灰褐色土の順に堆積している。

248SK114 (第4図)

調査区東側に位置し、B4区から検出された。平面形は楕円形を呈し、規模は長径(南北)0.63m、短径(東西)0.38m、深さは0.11mほどを測る。覆土は黒褐色土で構成されている。

248SK123 (第4図)

調査区の北東側に位置し、D・E1・2区から検出された。平面形は楕円形を呈し、規模は長径(南北)1.16m、短径(東西)0.76m、深さは0.12mほどを測る。覆土は黄褐色土で構成されている。

248SK128 (第4図)

調査区西側の北辺に位置し、D9区から検出された。平面形は溝状を呈するが、中央部が膨らむ。規模は長軸(南北)1.53m、短軸(東西)0.70m、深さは0.10~0.17mほどを測る。覆土は炭化物および粘土を含む黄褐色土で構成されている。

248SK131 (第4図)

調査区西側の南辺に位置し、A10区から検出された。平面形は楕円形を呈し、規模は長径(南北)0.73m、短径(東西)0.52m、深さは0.47mほどを測る。覆土は暗灰色土で構成されている。

248SK136 (第4・14図)

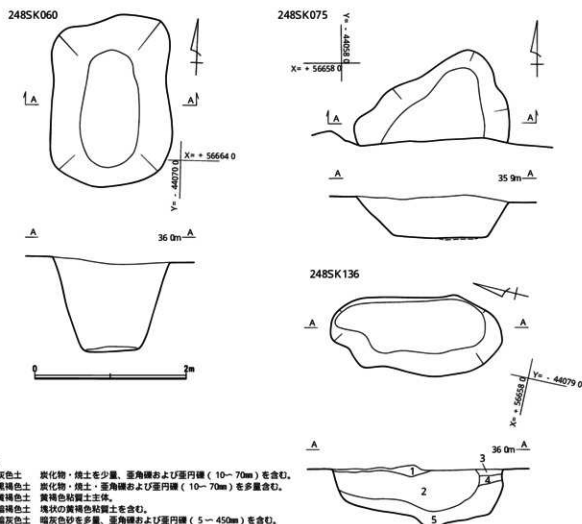
調査区西側に位置し、B10・11区から検出された。礎敷建物(248SB050)、小穴(248SX147)と重複するが、直接的な重複関係にあるのは小穴(248SX147)のみで、本遺構が新しい。平面形は長円形を呈するがやや歪む。規模は長径(南北)2.25m、短径(東西)1.05m、深さは0.75mほどを測る。覆土は上層から灰色土→黒褐色土→黄褐色土→暗褐色土→暗灰色土の順に堆積し、黒灰色土には垂角礫・亜円礫が多量に含まれ、焼土および炭化物の含有も目立つ。

248SK144 (第4図)

調査区の西辺に位置し、D12区から検出された。土坑(248SK164)を切って構築されているが、西側の大半が調査区外に展開することから、平面形および規模は不明である。深さは0.90mほどを測る。覆土は上層から暗褐色土→褐色土→暗灰褐色土→灰褐色土の順に堆積している。

248SK145 (第4図)

調査区の西辺に位置し、B12区から検出された。土坑(248SK158)を切って構築されているが、西



第14図 248SK060・075・136実測図(1/50)

側の大半が調査区外に展開することから、平面形は不明である。規模は南北方向で1.50m、深さは0.30～0.75mを測る。覆土は黄色土で構成されている。

248SK151 (第4図)

調査区の西辺に位置し、A・B12区から検出された。上端の一部に攪乱(248SX055)の影響がおよんでいる。平面形は楕円形を呈し、長径(南北)0.90m、短径0.50m、深さは0.65mほどを測る。覆土は暗褐色土で構成されている。

248SK164 (第4図)

調査区西辺に位置し、C・D12区から検出された。北側は土坑(248SK144)によって壊され、西側の大半が調査区外に展開することから、平面形および規模は不明であるが、深さは1.30mほどを測る。覆土は上層から暗褐色土→灰色土→暗灰色土→褐色土の順に堆積している。

4) その他の遺構

a) 集石

248SX040 (第4・15図)

調査区北辺中央付近で検出したもので、D4・5区に位置する。当初礫が多く検出されたため、石敷遺構として想定し調査を進めた。しかし境界石や人為性を窺える礫の配置が観察できなかったこともあり、遺構面上位にある水田耕作時の集石と判断した。集積された小礫は、東に隣接する道路舗装事業(248SF035)時に敷かれた小礫群であった可能性が考えられ、花崗岩である。その全容は、北側が調査区外に展開することか不明であるが、掘り方の平面形は不整形な楕円形を呈すると考えられる。規模は南北方向で3.25m、深さは0.05～0.30mを測る。覆土は上層から褐色土→茶色土→暗茶色土→灰色土→暗茶灰色土の順に堆積する。

248SX090 (第4・15図)

調査区北辺の西側で検出したもので、D10区に位置する。北側は調査区外に展開することから、全容は捉えきれていない。掘り方の平面形はやや不整形で、規模は東西方向2.15mを測り、深さは0.25mほどである。礫は花崗岩で5～15cmのものが中心に検出され、ほぼ全体に分布するが、散漫な状態である。覆土は上層から灰褐色土→黄灰色粘質土→暗灰色砂質土の順に堆積する。

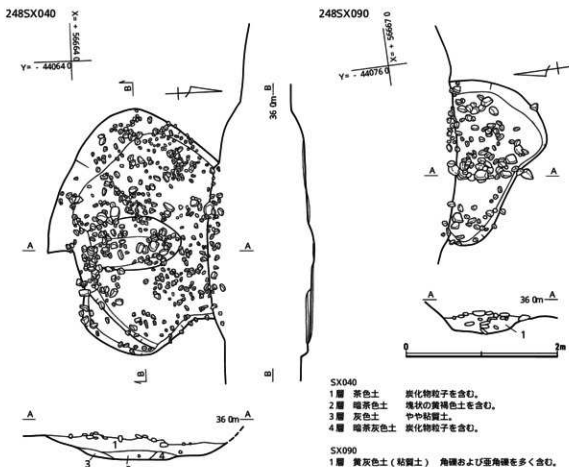
b) たまり状遺構

248SX127 (第4図)

調査区中央のやや西寄りに位置し、C9区から検出された。礫敷建物(248SB020)を切って構築され、平面形は楕円形を呈する。規模は長径(南北)0.50m、短径(東西)0.35m、深さは0.06mほどを測り、覆土は褐色土および灰明褐色土で構成されている。

248SX182 (第4図)

調査区中央のやや東寄りのB5区から検出された。小穴(248SX112・174・181)と重複し、本遺構が最も古い。平面形は不整形であり、規模は長軸(北西-南東)2.10m、短軸(北東-南西)1.25m、深さは0.13mほどを測る。覆土は灰色土で構成されている。



第 15 図 248SX040・090実測図 (1/50)

c) 小 穴

248SX092 (第 4 図)

調査区西側の D10・11区から検出された小穴である。平面形は楕円形を呈し、規模は長径で98cm、深さは0～15cmほどを測る。覆土は上層から黄褐色土→灰色土の順に堆積し、南側の覆土上層からは礎石の可能性が残る花崗岩の扁平な礫が出土している。

248SX111 (第 4 図)

調査区中央のやや東寄りの B 5 区から検出された 2 穴の小穴である。礫敷建物 (248SB030) の東辺に沿うように検出された。暗茶色土を堆積土とするが、その内 1 穴から土師器小皿 b を主体とした土器が埋納される形で出土している。平面形は略円形ないし楕円形を呈し、規模は長径で33～48cm、深さは29～40cmを測る。

248SX119 (第 4 図)

調査区中央のやや東寄りの C 5 区から検出された 3 穴の小穴である。平面形は楕円形を呈し、規模は長径で30～50cm、深さは9～16cmを測る。覆土は褐色土で構成されている。

248SX121 (第4図)

調査区ほぼ中央のC・D7区から検出された3穴の小穴である。平面形は楕円形を呈し、規模は長径で47～60cm、深さは13～43cmを測る。覆土は褐色土で構成されている。

248SX122 (第4図)

調査区中央のやや西寄りのC8区から検出された3穴の小穴である。礎敷建物(248SB020)と重複するが、直接的な切り合い関係はない。平面形は略円形ないし楕円形を呈し、規模は長径で30～47cm、深さは5～41cmを測る。覆土は暗褐色土で構成されている。

248SX124 (第4図)

調査区の南東側に位置し、A・B3・4区から検出された2穴の小穴である。平面形は略円形ないし楕円形を呈し、長径で27～75cm、深さは15～20cmを測る。覆土は黒褐色土で構成されている。

248SX126 (第4図)

調査区中央のやや西寄りのB8区から検出された3穴の小穴である。礎敷建物(248SB020)、小穴(248SX167)と重複するが、直接的な重複関係にあるのは小穴(248SX167)のみで、本遺構が新しい。平面形は楕円形を呈し、規模は長径で30～57cm、深さは7～47cmを測る。覆土は褐色土で構成されている。

248SX133 (第4図)

調査区西側のA11区から検出された小穴である。東側で検出された小穴(248SX132)と本遺構は礎敷建物(248SB050)の出入口施設の可能性も考えられる。平面形は楕円形を呈し、規模は長径で43cmを測り、深さは51cmほどである。覆土は暗灰色土で構成されている。

248SX152 (第4図)

調査区西辺のB12区から検出された小穴である。平面形は略円形を呈し、規模は長径で45cm、深さは25cmを測る。覆土は褐色土で構成されている。

248SX153 (第4図)

調査区北西隅のD12区から検出された5穴の小穴である。小穴(248SX157)を切って構築されているが、一部が調査区外に展開する。平面形は楕円形を呈し、規模は長径で27～45cm、深さは11～40cmを測る。覆土は暗灰色土で構成されている。

248SX156 (第4図)

調査区西側のD11区から検出された小穴である。平面形は楕円形を呈し、規模は長径で55cm、深さは73cmほどを測る。覆土は暗褐色土で構成されている。

248SX162 (第4図)

調査区西側のA11区から検出された小穴である。平面形は楕円形を呈し、規模は長径で33cm、深さは23cmを測る。覆土は暗褐色土で構成されている。

248SX181 (第4図)

調査区中央のやや東寄りのC5区から検出された3穴の小穴で、たまり状遺構(248SX182)を切って構築されている。平面形は楕円形を呈し、規模は長径で25~63cm、深さは17~42cmを測る。覆土は褐色土で構成されている。

248SX184 (第4図)

調査区中央のやや東寄りのC4区から検出された3穴の小穴である。平面形は楕円形を呈し、規模は長径で25~38cm、深さは10~28cmを測る。覆土は暗灰色土で構成されている。

248SX186 (第4図)

調査区中央のやや東寄りのC4・5区から検出された3穴の小穴である。一部が試掘坑(248SX047)によって壊されている。平面形は楕円形を呈し、規模は長径で58~67cm、深さは25~48cmを測る。覆土は暗灰色土で構成されている。

248SX187 (第4図)

調査区南東側のB3区から検出された2穴の小穴である。平面形は楕円形を呈し、規模は長径で45~50cm、深さは29~35cmを測る。覆土は暗灰色土で構成されている。

248SX188 (第4図)

調査区東側のD2区から検出された4穴の小穴である。道路(248SF035)を切って構築されるが、一部が第1面の小穴(248SX068)により壊されている。平面形は略円形ないし楕円形を呈し、規模は長径で27~47cm、深さは12~29cmを測る。覆土は暗灰色土で構成されている。

248SX189 (第4図)

調査区東側のB・C2区から検出された3穴の小穴で、道路(248SF035)を切って構築されている。平面形は略円形を呈し、規模は長径で17~20cm、深さは6~9cmを測る。覆土は暗灰色土で構成されている。

248SX193 (第4図)

調査区南西側のA10区から検出された小穴である。平面形は瓢箪形を呈し、規模は長径で55cm、深さは35cmほどを測る。覆土は灰色土で構成されている。

248SX194 (第4図)

調査区東辺のC1区から検出された小穴である。平面形は楕円形を呈し、規模は長径で82cm、深さは17cmほどを測る。覆土は暗灰色土で構成されている。

248SX198 (第4図)

調査区ほぼ中央のB5・6区から検出された5穴の小穴で、礎敷建物(248SB030)の掘り方内から確認された。平面形は略円形を呈し、径は14~17cm、深さは4~21cmを測る。覆土は黄褐色土で構成されている。

248SX199 (第4図)

調査区はほぼ中央のC6区から検出された小穴で、礎敷建物(248SB030)の掘り方内から確認された。平面形は略円形を呈し、径は約25cm、深さは7cmほどを測る。覆土は黄褐色土で構成されている。

d) 整地層

248SX045 (第4図)

調査区東部のB・C1・2区にて検出したもので、検出段階では遺構と認識したものの、周囲の堆積土中に「遺構堆積土」と判断した土層が入り込むなど、遺構として完結する状況が観察できなかったことから、堆積土(整地層)の一部と判断した。

第三面

1) 道路

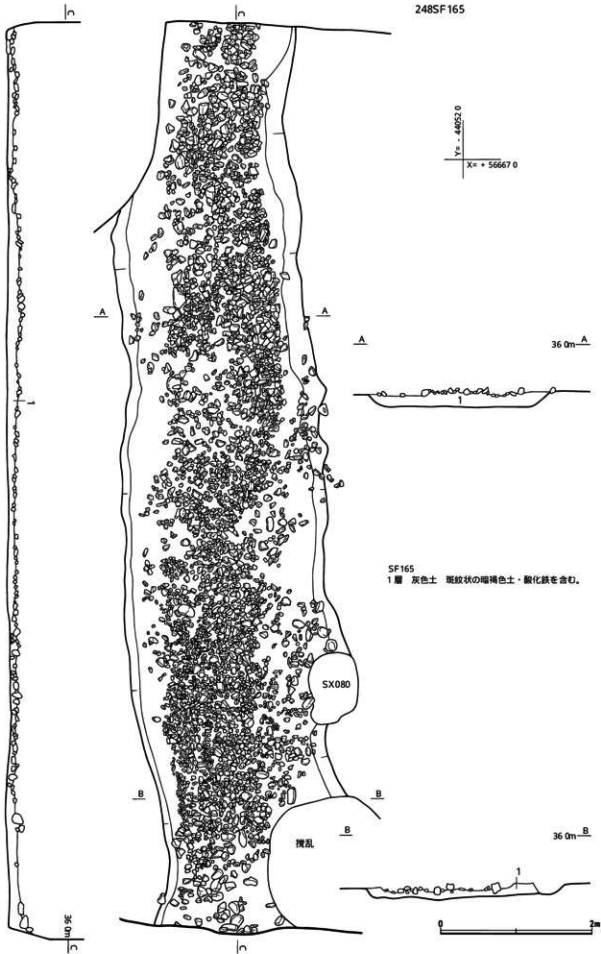
248SF165 (第5・16図、図版8)

調査区の東側に位置し、A2・3区からE2・3区にかけて南北に走り、礎敷舗装面が確認された。両端とも調査区外に展開しており、攪乱と土坑(248SK258)に一部が壊されている。最終的に検出された礎敷範囲は、長さ12.00m、幅2.35~2.90m、深さは0.20mほどを測る。走向は中軸線でN-2°-Wを指針する。礎敷の中軸線での標高は南端(A2・3区)で35.50m、中央(C2・3区)で35.35m、北端(E2・3区)で35.30m、を測り、北側に若干傾斜している。掘り方の断面は逆台形状を呈し、覆土は上層から灰色土→灰褐色土→黒色土の順に堆積している。舗装面の礎は5~15cmが中心に構成され、石材の大半は花崗岩である。

2) 礎石建物

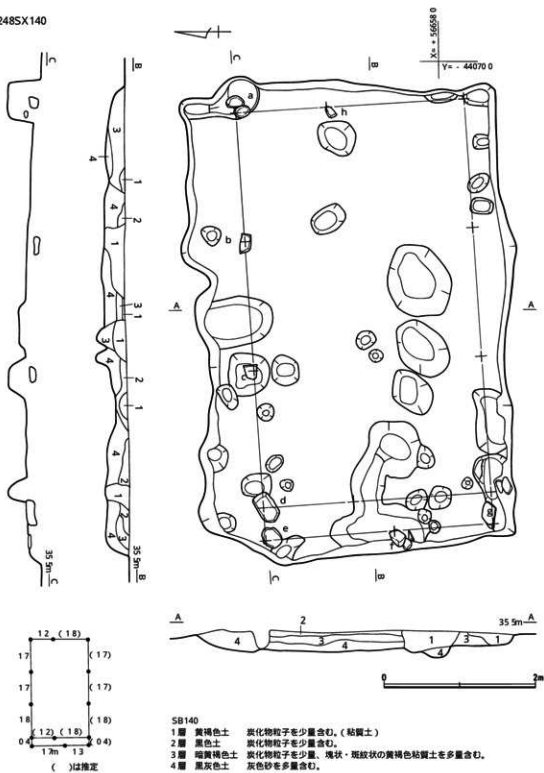
248SB140 (第5・17図、図版10)

調査区西側に位置し、A~C8~10区から検出された。掘込地業を有する礎石建物で、8個の礎石が遺存している。礎石の配置状態から梁行2間×桁行3間の東西棟の建物が推定され、西側に廂を有する可能性がある。掘り方の平面形は多少凹凸が認められるが長方形を呈し、規模は長軸(東西)6.30m、短軸(南北)3.90~4.40m、深さは0.15~0.30mを測る。礎石は桁行北側と梁行西側および東側の一部が遺存しているが、梁行の礎石は柱筋が悪く、柱間も一定していないことから、動かされた可能性がある。廂と想定した礎石を含めた柱心々間の桁行総長は5.60m、梁行総長は3.00mを測るが、身舎部分と考えられる桁行総長は5.20m、梁行総長は3.00mとなる。桁行の柱間は東から1~2間目(a~c)は1.70m等間、3間目(c~d)は1.80mとなり、廂と想定した4間目(d~e)は0.40mとなる。梁行の東側柱列は北から1間目(a~h)は1.20mを測り、2間目は1.80mと推定される。西側柱列の柱間は北から1間目(e~f)は1.70m、2間目(f~g)は1.30mである。底面からは小穴26穴が確認され、平面形は略円形ないし楕円形を呈し、規模は長径で15~105cm、深さは5~36cmを測る。覆土は上層から黄褐色土→黒色土→暗黄褐色土→黒灰色土の順に構成され、出土遺物には銅鏡、鉄釘など地鎮具と考えられるものも含まれている。なお、本遺構と第Ⅱ面に構築されている礎敷建物(248SB020)とは、南辺・西辺・東辺がほぼ一致しており、本遺構も第Ⅱ面に帰属する可能性も考えられる。



第16図 248SF165実測図(1/50)

248SX140

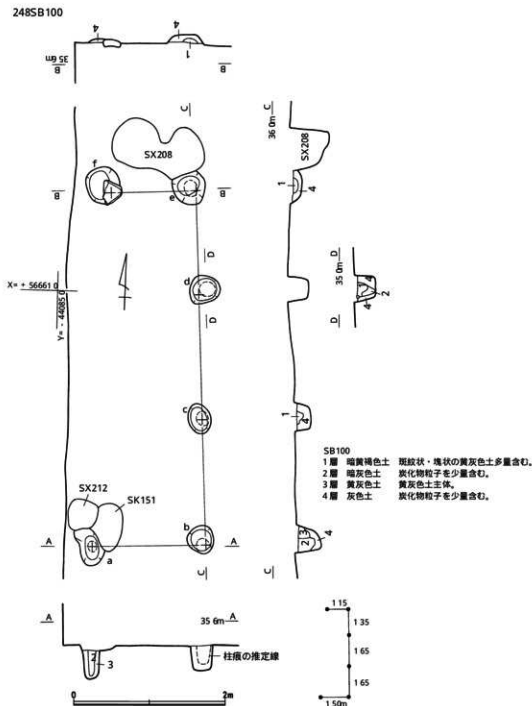


第 17図 248SB140実測図 (1/ 50)

3) 掘立柱建物

248SB100 (第5・18図、図版8)

調査区の西辺に位置し、A～C12区から検出された。多くの遺構と重複するが、直接的な切り合い関係では、小穴(248SX208・212)と第Ⅱ面の土坑(248SK151)に一部を壊されるが、小穴(248SX269)を切って構築されている。西側が調査区外に展開することから全容は不明であるが、検出された範囲から梁行2間×桁行3間の南北棟の側柱建物が推定される。柱心々間の桁行総長は4.65mを測るが、



第18図 248SB100実測図(1/50)

梁行総長は不明である。桁行の柱間は南から1・2間目(b～d)が1.65m等間、3間目(d～e)は1.35mとなる。梁行の柱間は北側(e～f)で1.15m、南側(a～b)では1.50mである。主軸方位はN-3°-Wを指針する。柱穴の掘り方は略円形ないし楕円形を呈し、規模は長径で35～50cm、深さは5～45cmを測る。柱穴fからは礎石と考えられる花崗岩の扁平な角礫が出土している。覆土の柱痕は暗黄褐色土・暗灰色土、埋土は黄灰色土・灰色土で構成されている。

4) 溝

248SD120 (第5図)

調査区の東側に位置し、B・C12区から検出された。たまり状遺構(248SX237・238)、小穴(248SX236)を壊して構築されているが、一部を小穴(248SX226・268)によって切られている。南北方向に走るが、両端は途切れている。長さ4.05m、幅0.25～0.90m、深さは0.05mほどの浅い溝である。主軸方位はN-3°-Wを指針し、底面(中軸線上)の標高は北端で35.33m、南端では35.28mを測り、わずかに南側に傾斜している。覆土は黄灰色土の単層である。

248SD125 (第5図)

調査区の南西側に位置し、A・B11・12区から検出された。土坑(248SK130)、たまり状遺構(248SX273)を切って構築されているが、小穴(248SX223)に一部が壊されている。基本的には南北方向に走るが、両端は鉤状に東側に屈曲する。全長4.50m、幅0.30～0.45m、深さは0.05～0.10mを測り、断面形は逆台形状を呈する。主軸方位は南北に走向する部分でN-2°-Wを指針し、底面(中軸線上)の標高は北端で35.17m、中央部で35.15m、南端では35.13mを測り、わずかに南側に傾斜している。覆土は黄灰色土の単層である。

5) 井戸

248SE110 (第5・19図、図版9)

調査区西側の北辺に位置し、C・D10・11区から検出された。井戸(248SE135・160)、たまり状遺構(248SX205)、小穴(248SX232・261・282)を切って構築されているが、一部が土坑(248SK105)、小穴(248SX156)によって壊されている。掘り方の平面形は楕円形を呈し、規模は長径(北西-南東)3.90m、短径(北東-南西)3.30m、深さは1.95mを測る。井戸枠内の覆土は上層より暗灰色土→黄褐色土→茶灰色土→明灰色土の順で堆積し、井戸の中層まで掘り下げると明確に円形の井戸枠痕が確認され、井戸の息抜き穴も観察された。枠材は遺存していない。裏込めは灰色土が充填され、最深部の地山層は茶色砂である。

248SE135 (第5・20図、図版9)

調査区西側の北辺に位置し、D10区から検出された。たまり状遺構(248SX205)を切って構築されているが、井戸(248SE110)、土坑(248SK105)によって壊され、北側は調査区外に展開している。掘り方の平面形は楕円形を呈すると推定されるが、規模は不明で、深さは2.0mを測る。井戸枠内の覆土は暗灰色土が堆積し、井戸の中層まで掘り下げると明確に円形の井戸枠痕が確認され、枠材の一部を検出したが、腐食が著しく、取り上げはできなかった。裏込めは灰色土が充填され、最深部の地山層は灰色砂である。

248SE160 (第5・19図、図版9)

調査区西側の北辺に位置し、D11区から検出された。上部が井戸(248SE110)により切られ、遺存部分は少ない。掘り方の平面形は楕円形を呈し、規模は長径(北西-南東)1.35m、短径(北東-南西)1.20m、深さは0.6mほどを測る。井戸枠内の覆土は炭化物を多量に含む黒灰色土で構成され、裏込めは灰褐色土が充填されている。最深部の地山層は茶色砂である。

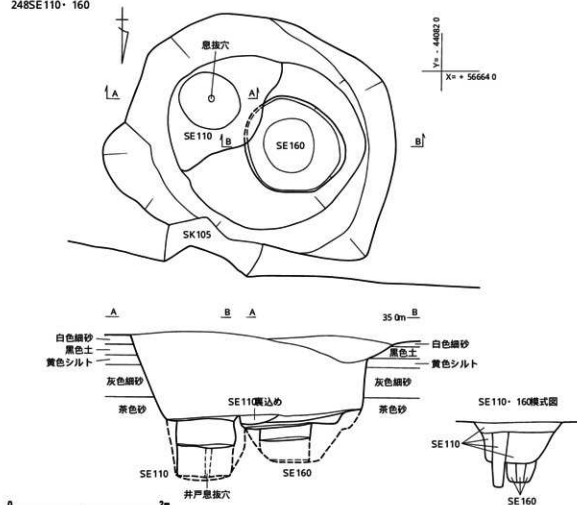
248SE170 (第5・20図、図版9)

調査区ほぼ中央の北辺に位置し、C・D8・9区から検出された。井戸(248SE195)を切って構築されているが、一部が土坑(248SK060)によって壊され、北側は調査区外に展開している。掘り方の平面形と規模は不明であり、深さは1.15mほどを測る。井戸枠内の覆土は黄灰色土が堆積し、井戸の下層まで掘り下げると明確に円形の井戸枠痕が確認され、枠材は遺存していなかった。裏込めは灰色土が充填され、最深部の地山層は灰色砂である。

248SE175 (第5・20図、図版10)

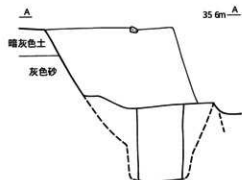
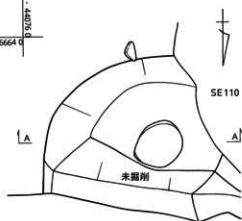
調査区の東側に位置し、C4区から検出された。井戸(248SE180)を切って構築されているが、一

248SE110・160

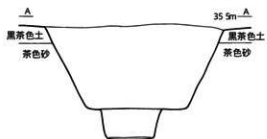
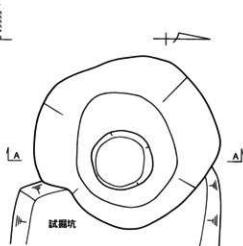


第19図 248SE110・160実測図(1/50)

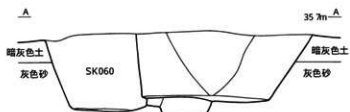
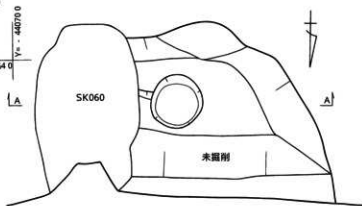
248SE135



248SE175

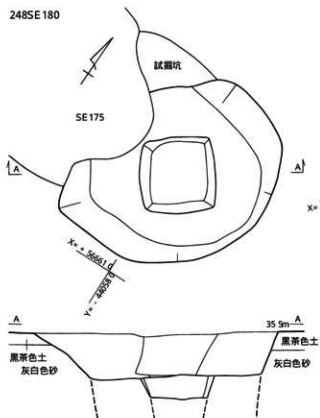


248SE170

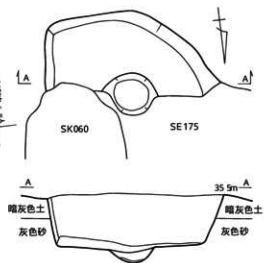


第 20 圖 248SE135・170・175 実測圖 (1/50)

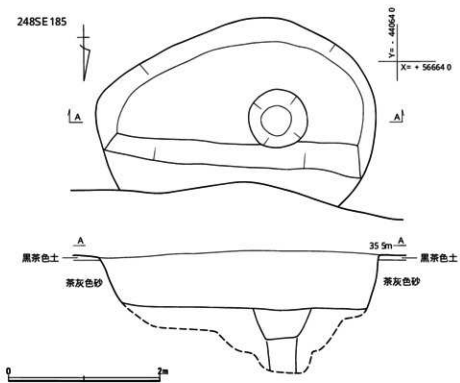
248SE 180



248SE 195



248SE 185



第 21 圖 248SE 180 · 185 · 195 實測圖 (1 / 50)

部が試掘坑(248SX047)によって壊されている。掘り方の平面形は楕円形を呈し、規模は長径(南北)2.45m、短径(東西)2.25m、深さは1.50mほどを測る。井戸枠内の覆土は暗灰色土が堆積し、井戸の下層まで掘り下げると明確に円形の井戸枠痕が確認され、枠材は遺存していなかった。裏込めは灰色土が充填され、最深部の地山層は茶色砂である。

248SE180 (第5・21図)

調査区の東側に位置し、C3・4区から検出された。一部が試掘坑(248SX047)および井戸(248SE175)により壊されている。掘り方の平面形は楕円形を呈し、規模は長径(北東-南西)3.05m、短径(北西-南東)2.30mを測る。遺構の確認面から0.90mほど掘り下げた時点で、壁面の崩落などの危険性が高まったことから中断したが、第V面の調査終了後に掘り下げのみを行った。井戸枠内の覆土は暗灰色土が堆積し、途中まで掘り下げると方形の井戸枠痕が確認された。裏込めは灰色土が充填されている。最深部の地山層は灰白色砂である。

248SE185 (第5・21図、図版10)

調査区東側の北辺に位置し、C・D4・5区から検出された。北側は調査区外に展開しており、全容はとらえきれていない。掘り方の平面形は楕円形を呈すると推定され、規模は東西方向で3.65m、深さは1.65mほどを測る。井戸枠内の覆土は茶色土が堆積し、井戸の下層まで掘り下げると明確に円形の井戸枠痕が確認され、枠材は遺存していなかった。裏込めは上層から灰色土→暗灰色土が充填されている。最深部の地山層は茶灰色砂である。

248SE195 (第5・21図)

調査区のほぼ中央に位置し、C8区から検出された。北側が土坑(248SK060)と井戸(248SE170)により壊されている。掘り方の平面形および規模は不明であるが、深さは0.90mほどを測る。井戸枠内の覆土は暗灰色土が堆積し、井戸の下層まで掘り下げると明確に円形の井戸枠痕が確認されたが、枠材は遺存していなかった。裏込めは灰色土が充填されている。最深部の地山層は灰色砂である。

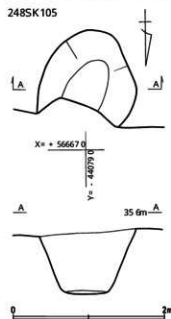
6) 土坑

248SK095 (第5図)

調査区の西辺に位置し、B・C12区から検出された。一部が小穴(248SX163)に切れ、西側が調査区外に展開している。平面形は楕円形を呈すると推定され、規模は南北方向で1.45m、深さは0.37~0.53mを測る。覆土は灰褐色土で構成されている。

248SK105 (第5・22図)

調査区西側の北辺に位置し、D10・11区から検出された。井戸(248SE110・135)を切って構築されているが、北側が調査区外に展開している。平面形は楕円形を呈すると推定され、規模は東西方向で1.25m、深さは0.75~0.85mを測る。覆土は灰色土で構成されている。



第22図 248SK105実測図(1/50)

248SK115 (第5図)

調査区の北西端に位置し、D12区から検出された。平面形は不整形を呈し、規模は長軸(北西-南東)0.93m、短径(北東-南西)0.80m、深さは0.22~0.36mを測る。覆土は暗灰色土で構成されている。

248SK130 (第5図)

調査区の南西端に位置し、A・B11・12区から検出された。たまり状遺構(248SX272・273)を切って構築されているが、上部を溝(248SD125)によって削られている。平面形は隅丸長方形を呈し、規模は長軸(南北)2.45m、短軸(東西)1.00~1.30m、深さは0.30mほどを測る。覆土は灰褐色土で構成されている。

248SK204 (第5図)

調査区北西端に位置し、D12区から検出された。土坑(248SK144)および小穴(248SX166)により壊され、西側は調査区外に展開している。平面形は楕円形を呈すると推定され、規模は南北方向で1.30m、深さは0.50mほどを測る。覆土は黒灰色土で構成されている。

248SK220 (第5図)

調査区の西側に位置し、C10区から検出された。井戸(248SE110・135)、たまり状遺構(248SX205)、小穴(248SX232・282)によって壊されている。平面形は楕円形を呈していたと推定され、規模は北東から南西方向で2.35m、深さは0.15~0.35mを測る。覆土は灰色土(砂質)で構成されている。

248SK225 (第5図)

調査区の東端に位置し、C1・2区から検出された。平面形は台形を基本形とし、規模は長軸(北西-南東)1.05~1.15m、短軸(北東-南西)0.70m、深さは0.20mほどを測る。覆土は黒色土で構成されている。

248SK233 (第5図)

調査区の西側に位置し、B10・11区から検出された。たまり状遺構(248SX234)を切って構築されている。平面形は径約0.55mを測る略円形を呈し、深さは0.20mほどを測る。覆土は灰色土で構成されている。

248SK245 (第5図)

調査区の東側に位置し、B4区から検出された。たまり状遺構(248SX302)を切って構築され、平面形は隅丸三角形を呈する。規模は長軸(南北)1.45m、短軸(東西)1.00m、深さは0.05~0.27mを測る。覆土は黒灰色土で構成されている。

248SK250 (第5図)

調査区のはば中央に位置し、B6区から検出された。平面形は径約0.75mの略円形を呈し、深さは0.45mほどを測る。覆土は暗褐色土で構成されている。

248SK253 (第5図)

調査区北東隅のE1区から検出された。北東側が調査区外に展開し、全容は捉えきれていない。平面形および規模は不明だが、深さは0.27mほどを測る。覆土は灰褐色土で構成されている。

248SK257 (第5図)

調査区の東端に位置し、B1・2区から検出された。平面形は不整形を呈し、規模は長軸(東西)0.70~0.88m、短径(南北)0.67m、深さは0.30mほどを測る。覆土は灰色土で構成されている。

7) その他の遺構

a) たまり状遺構

248SX150 (第5図)

調査区の西側に位置し、B10区から検出された。西側を中心に土坑(248SK136)および小穴(248SX231・281)によって壊され、全容は捉えきれていない。平面形は台形状を呈していたと考えられ、規模は南北方向で1.30m、深さは0.05~0.14mを測る。覆土は暗灰色土で構成されている。

248SX190 (第5図)

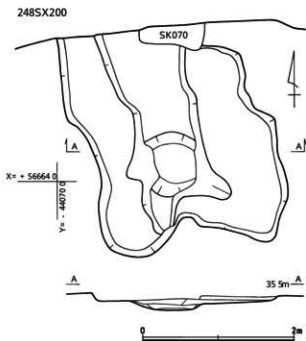
調査区南東端の南辺に位置し、A1区から検出された。南側は調査区外に展開することから、平面形は不明である。規模は東西方向で1.60m、深さは0.07~0.15mを測る。底面には凹凸が認められ、覆土は暗灰色土で構成されている。

248SX200 (第5・23図)

調査区ほぼ中央の北辺に位置し、C・D7区から検出された。小穴(248SX292)を切って構築されているが、第Ⅱ面の土坑(248SK070)に一部が壊されている。北側は調査区外に展開し、全容は捉えきれていない。平面形は不整形で、規模は東西方向で2.40~2.75m、深さは0.05~0.20mを測る。底面は中央部が低く、両端が一段高い形態である。覆土は灰褐色土で構成されている。

248SX205 (第5図)

調査区の西側に位置し、C・D10区から検出された。土坑(248SK220)、小穴(248SX282)を切って構築されているが、北側を中心に井戸(248SE110・135)、小穴(248SX262)に壊されている。平面形は楕円形を呈していたと考えられ、規模は北東から南西方向で2.85m、深さは0.06~0.15mを測る。覆土は灰色土で構成されている。



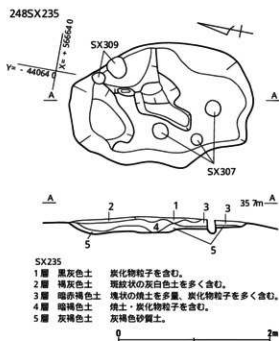
第23図 248SX200実測図(1/50)

248SX234 (第5図)

調査区の西側に位置し、B11区から検出された。土坑(248SK136・233)および小穴(248SX227)によって壊されており、遺存部分は少ない。平面形は長方形を呈していたと考えられ、規模は北西から南東方向で2.05m、深さは0.08mほどを測る。覆土は暗灰色土で構成されている。

248SX235 (第5・24図)

調査区中央のやや東寄りに位置し、C5・6区から検出された。一部を小穴(248SX307・309)に壊されている。平面形は楕円形を呈し、規模は長径(南北)2.40m、短径(東西)1.65m、深さは0.04~0.18mを測る。覆土は上層から黒灰色土→褐灰色土→暗赤褐色土→暗褐色土→暗灰色土→暗褐色土→灰褐色土の順に構成されている。



第24図 248SX235実測図(1/50)

248SX238 (第5図)

調査区の西端に位置し、C11・12区から検出された。溝(248SD120)および小穴(248SX226)によって壊され、全容は捉えきれていない。平面形は楕円形を呈していたと推定され、規模は南北方向で1.10m、深さは0.07~0.16mを測る。覆土は暗灰色土で構成されている。

248SX272 (第5図)

調査区の西端に位置し、B12区から検出された。掘立柱建物(248SB100)、土坑(248SK130)、小穴(248SX214)と重複し、直接的な切り合い関係では土坑および小穴に東側を中心に壊されている。平面形は楕円形を呈していたと推定され、規模は北西から南東方向で1.15m、深さは0.06~0.13mを測る。覆土は灰色土で構成されている。

b) 小穴

248SX202 (第5図)

調査区西端のD12区から検出された4穴の小穴である。平面形は略円形ないし楕円形を呈し、規模は長径で27~88cm、深さは17~40cmを測る。覆土は灰色土で構成されている。

248SX207 (第5図)

調査区西端のC12区から検出された4穴の小穴で、直接的な切り合い関係はないが掘立柱建物(248SB100)と重複する。平面形は略円形ないし楕円形を呈し、規模は長径で30~43cm、深さは21~41cmを測る。覆土は灰褐色土で構成されている。

248SX208 (第5図)

調査区西端のC・D12区から検出された5穴の小穴である。掘立柱建物(248SB100)を切って構築

されているが、一部を小穴（248SX206）によって壊されている。平面形は略円形ないし楕円形を呈し、規模は長径で27～123cm、深さは17～71cmを測る。覆土は灰褐色土で構成されている。

248SX212（第5図）

調査区西辺のA・B12区から検出された小穴である。掘立柱建物（248SB100）の柱穴aを切って構築されているが、一部を第Ⅱ面の土坑（248SK151）によって壊されている。平面形は楕円形を呈し、規模は長径で40cm、深さは25cmほどを測る。覆土は暗灰色土で構成されている。

248SX213（第5図）

調査区西端のC12区から検出された小穴である。掘立柱建物（248SB100）と重複するが、直接的な切り合い関係はない。平面形は楕円形を呈し、規模は長径で34cm、深さは31cmほどを測る。覆土は褐灰色土で構成され、根固め石と考えられる礫（花崗岩）が4個出土している。

248SX232（第5図）

調査区西側のC10・11区から検出された3穴の小穴である。土坑（248SK220）、たまり状遺構（248SX205）切って構築されているが、一部が井戸（248SE110）に壊されている。平面形は略円形ないし楕円形を呈し、規模は長径で33～45cm、深さは21～38cmを測る。覆土は黒灰色土で構成されている。

248SX239（第5図）

調査区西側のC10区から検出された小穴である。平面形は楕円形を呈し、規模は長径で50cm、深さは17cmほどを測る。覆土は暗灰色土で構成されている。

248SX241（第5図）

調査区西側のC11区から検出された小穴である。平面形は楕円形を呈し、規模は長径で83cm、深さは40cmほどを測る。覆土は暗灰色土で構成されている。

248SX248（第5図）

調査区はぼ中央の南寄りに位置し、A・B7区から検出された4穴の小穴である。平面形は略円形ないし楕円形を呈し、規模は長径で15～32cm、深さは4～19cmを測る。覆土は灰褐色土で構成されている。

248SX251（第5図）

調査区はぼ中央の南寄りに位置し、A・B7区から検出された2穴の小穴である。平面形は楕円形を呈し、規模は長径で43～58cm、深さは8～23cmを測る。覆土は褐灰色土で構成されている。

248SX256（第5図）

調査区東辺のB・C1区から検出された4穴の小穴で、一部が東側の調査区外に展開している。平面形は略円形ないし楕円形を呈し、規模は長径で23～38cm、深さは20～25cmを測る。覆土は灰色土で構成されている。

248SX278 (第5図)

調査区中央の北側に位置し、D5・6区から検出された小穴である。平面形は不整形を呈し、底面には段差が認められる。規模は長径で105cm、深さは21～56cmを測る。覆土は灰色土で構成されている。

248SX282 (第5図)

調査区西側のC・D10区から検出された5穴の小穴である。土坑(248SK220)の一部を壊して構築されているが、井戸(248SE110)、たまり状遺構(248SX205)、小穴(248SX262)に切られている。平面形は略円形ないし楕円形を呈し、規模は長径で25～50cm、深さは10～14cmを測る。覆土は灰色土で構成されている。

248SX292 (第5図)

調査区ほぼ中央のC・D6・7区から検出された4穴の小穴で、一部がたまり状遺構(248SX200)によって切られている。平面形は略円形ないし楕円形を呈し、規模は長径で28～55cm、深さは9～32cmを測る。覆土は暗褐色土で構成されている。

248SX297 (第5図)

調査区ほぼ中央の南辺に位置し、A5・6区から検出された6穴の小穴であるが、一部が南側の調査区外に展開している。平面形は略円形ないし楕円形を呈し、規模は長径で18～70cm、深さは17～38cmを測る。覆土は暗灰色土で構成されている。

248SX301 (第5図)

調査区東側のB4区から検出された小穴である。平面形は楕円形を呈し、規模は長径で70cm、深さは16cmほどを測る。覆土は暗灰色土で構成されている。

248SX306 (第5図)

調査区ほぼ中央のB5・6区から検出された小穴である。平面形は不整形で、底面は段差を有する。規模は長径で108cm、深さは3～23cmを測る。覆土は暗灰色土で構成されている。

第N面

1) 柵列

248SA255 (第5・25図)

調査区の西側に位置し、A11区からC11区にかけて4間が検出された。一部が小穴(248SX342)によって切られている。南北方向に延び、北側は途切れるが、南側は調査区外に展開する可能性がある。最終的に検出された長さは6.70mを測り、柱穴間の距離は北から1間目(a~b)は1.90m、2間目(b~c)は1.20m、3間目(c~d)は1.70m、4間目(d~e)は1.90mとなる。主軸方位は $N-3^{\circ}-E$ を指針する。柱穴の掘り方は、略円形ないし楕円形を呈し、規模は長径で30~35cm、深さは12~30cmを測る。覆土は炭化物を多量に含む黒色土で構成されている。

2) その他の遺構

a) 小穴

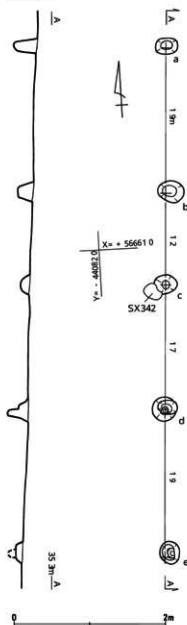
248SX334 (第5図)

調査区南西端のB12区から検出された9穴の小穴で、一部は西側および南側の調査区外に展開している。平面形は略円形ないし楕円形を呈し、規模は長径で22~65cm、深さは6~19cmを測る。覆土は黒色土で構成されている。

248SX337 (第5図)

調査区西辺のC12区から検出された6穴の小穴で、一部は西側の調査区外に展開している。平面形は略円形ないし楕円形を呈し、規模は長径で20~55cm、深さは8~14cmを測る。覆土は灰色土で構成されている。

248SA255



第25図 248SA255実測図(1/50)

第V面

1) 掘立柱建物

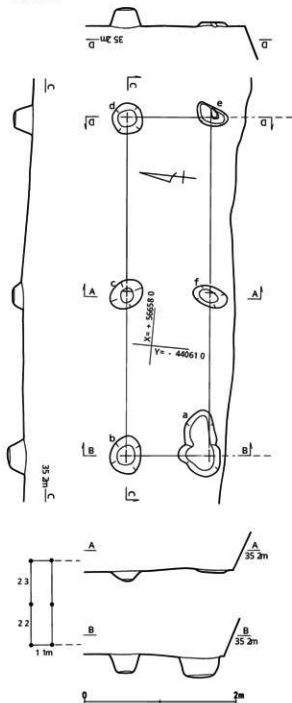
248SB400 (第6・26図)

調査区東側の南辺に位置し、A・B 4・5区から検出された。多くの小穴(248SX297・392・393・396・402)と重複するが、直接的な切り合い関係にあるのは小穴(248SX396)で、本遺構が新しい。南側が調査区外に展開することから全容は不明で、2間×1間が検出されたにとどまっている。北側柱列の柱心々間の総長は4.50mを測り、柱間寸法は西から1間目(b~c)は2.20m、2間目(c~d)は2.30mとなる。西側柱列の柱間(a~b)と東側柱列の柱間(d~e)は1.10mを測る。また、柱穴aとeを結んだ線上の中央から柱穴fが検出され、調査区の制約から全容が不明なことから判断は難しいが、東柱を有する側柱建物ないし間仕切りを有する建物の可能性が考えられる。主軸方位については、北側柱列に基準を求めるとN-85°-Eを指針する。柱穴の掘り方は楕円形ないし不整形で、規模は長径で40~88cm、深さは5~27cmを測る。覆土は暗灰色土で構成されている。

248SB405 (第6・27図)

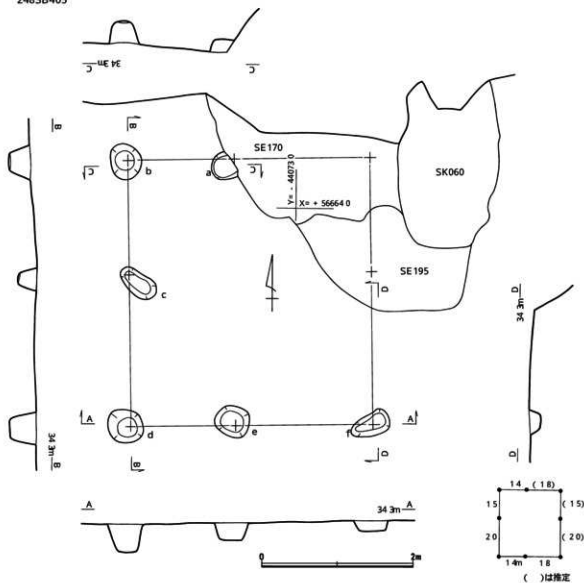
調査区西側の北辺に位置し、C・D 8・9区から検出された。多くの遺構と重複するが、直接的な切り合い関係にあるのは井戸(248SE170・195)である。遺構間の重複の影響で本遺構の北東側が壊され、全容は捉えきれない。梁行2間×桁行2間の側柱建物と推定され、柱心々間の桁行総長(南北)は3.50m、梁行総長(東西)は3.20mを測る。桁行西側柱列の柱間は、北から1間目(b~c)は1.50m、2間目(c~d)は2.00mとなるが、東側柱列の柱間は不明である。梁行北側柱列の柱間は、西から1間目(a~b)は1.40mとなるが、2間目は不明である。南側柱列の柱間は、西から1間目(d~e)は1.40m、2間目(e~f)は1.80mとなる。主軸方位はN-1°-Wを指針する。柱穴の掘り方は楕円形を呈し、規模は長径で45~58cm、深さは15~35cmを測る。覆土は黒灰色土および暗灰色土で構成されている。

248SB400



第26図 248SB400実測図(1/50)

248SB405

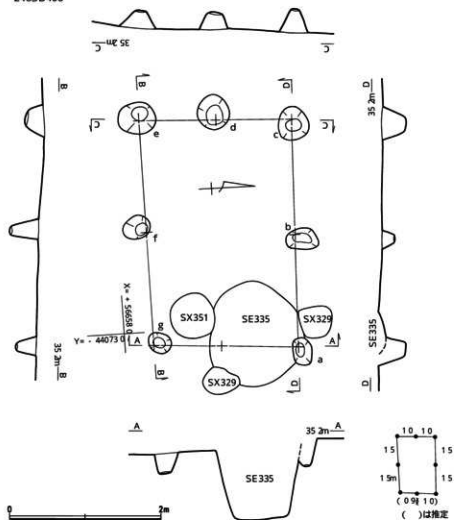


第 27 図 248SB405実測図 (1 / 50)

248SB406 (第 6・28 図)

調査区の西側に位置し、B 8・9 区から検出された。多くの遺構と重複するが、直接的な切り合い関係にあるのは井戸 (248 SE 335) のみで、本遺構が新しい。梁行 2 間×桁行 2 間の側柱建物と推定されるが、梁行東側の中央の柱穴は検出されていない。柱心々間の桁行総長 (東西) は 3.00m、梁行総長 (南北) は 1.80~2.00m を測る。桁行の柱間は両側柱列 (a~b~c・e~f~g) ともすべて 1.50m 等間に収まる。梁行西側柱列の柱間 (c~d~e) も 1.00m 等間に収まるが、東側柱列の柱間は不明である。主軸方位は N-89°-W を指針する。柱穴の掘り方は楕円形を呈し、規模は長径で 30~50cm、深さは 15~40cm を測る。覆土は暗灰色土で構成されている。

248SB406



第 28 図 248SB406実測図 (1/ 50)

2) 溝

248SD260 (第6・29図、図版11)

調査区の東側に位置し、A2・3区からE2・3区にかけて南北に走る。両端とも調査区外に展開し、土坑(248SK280)に一部が壊されている。最終的に検出された範囲は、長さ11.25m、幅1.25~2.05m、深さ0.15~0.45mを測り、走向は中軸線で $N-1^{\circ}-W$ を指針する。底面(中軸線上)の標高は南端(A2・3区)で34.76m、中央(C2・3区)で34.64m、北端(E2・3区)で34.62m、を測り、北側に若干傾斜している。断面は逆台形を呈し、覆土は上層から灰白色砂→灰色土の順に堆積している。調査区の制約から判然としないが、本遺構は坊路の西側溝の可能性も残す。

248SD275 (第6図)

調査区東側の北辺に位置し、C1・2区からE2区にかけて南北に走る。北側は調査区外に展開するが、南側はC1・2区で途切れる。最終的に検出された範囲は、長さ5.00m、幅0.50~0.80m、深さは0.05~0.45mを測り、走向は中軸線で $N-3^{\circ}-W$ を指針する。底面(中軸線上)の標高は南端(C1・2区)で34.79m、北端(E2区)で35.06m、を測り、南側に傾斜し、底面には3段の段差が確認された。断面は逆台形状を呈し、覆土は上層から灰色土→茶灰色砂で堆積している。

248SD310 (第6図)

調査区の北西隅に位置し、C11・12区からD12区にかけて基本的には北西から南東に走る。北西側は調査区外に展開するが、南東端は南西方向に屈曲して途切れる。一部は小穴(248SX326)によって切られている。最終的に検出された範囲は、長さ5.35m、幅0.22~1.88m、深さは0.05~0.20mを測り、走向は中軸線で $N-31^{\circ}-W$ を指針する。底面(中軸線上)の標高は南端(C11・12区)で34.61m、北端(D12区)で34.50m、を測り、北側に若干傾斜している。断面は皿状を呈し、覆土は黒灰色土で構成される。また、本遺構の南東側軸線上には後述する溝(248SD320・330)が検出されている。本遺構を含めていずれの溝も覆土が類似していることから、同一のものと考えられ、いずれも平面形が不整形であり、自然流路の底面の一部が遺存していた可能性が高いと判断される。

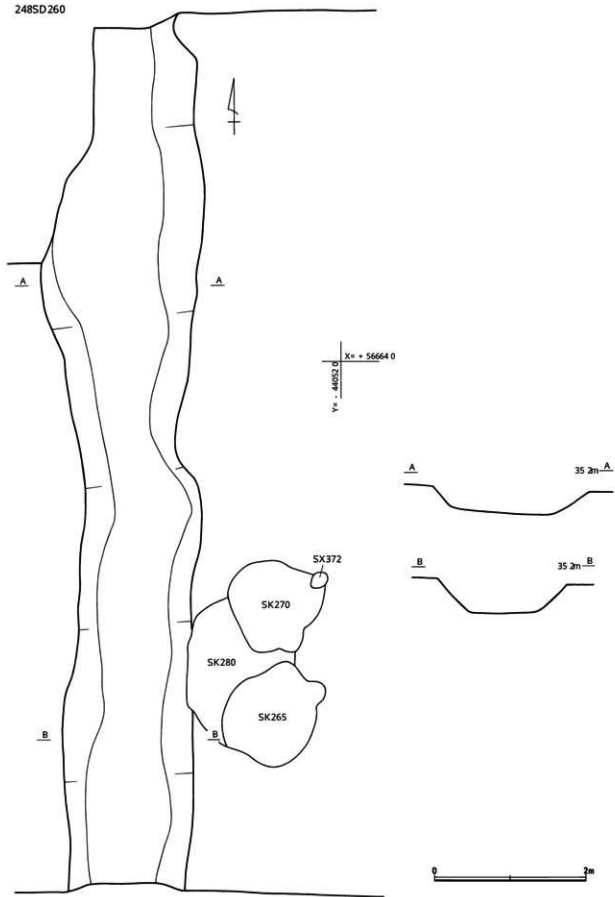
248SD320 (第6図)

調査区西側の南辺に位置し、A11区からB11区にかけて北西から南東に走る。南側は調査区外に展開するが、北西側は途切れ、一部は小穴(248SX332)によって切られている。最終的に検出された範囲は、長さ3.45m、幅0.45~2.70m、深さ0.09~0.26mを測り、走向は中軸線で $N-20^{\circ}-W$ を指針する。底面(中軸線上)の標高は南端(A11区)で34.30m、北端(B11区)で34.48m、を測り、南側に若干傾斜している。底面には段差が観察され、覆土は黒色土で構成されている。

248SD330 (第6図)

調査区西側の11区から検出され、一部は小穴(248SX353)に切られている。南北方向に走り、両端は途切れている。最終的に検出された範囲は、長さ2.35m、幅0.23~0.65m、深さ0.01~0.15mを測り、走向は中軸線で $N-10^{\circ}-W$ を指針する。底面(中軸線上)の標高は南端で34.58m、北端で34.58m、を測り、ほぼ水平であるが、底面には段差が確認された。覆土は黒色土で構成されている。

248SD260



第 29 圖 248SD260 實測圖 (1 / 50)

3) 井戸

248SE290 (第6・31図、図版11)

調査区の西側に位置し、B10・11区から検出された。土坑(248SK356)を切って構築されている。掘り方の平面形は径約1.40mの略円形を呈し、深さは0.65mほどを測る。井戸枠内の覆土は灰色土が堆積し、井戸の中層まで掘り下げると明確に楕円形を呈した井戸枠痕が確認され、枠材は遺存していなかった。裏込め部分は未掘であるが、褐色土が充填されている。最深部の地山層は礫層である。

248SE295 (第6・31図、図版11)

調査区の西側に位置し、C・D10区から検出された。土坑(248SK325・340)を切って構築されているが、北側は第三面の井戸(248SE110・135)によって壊されている。掘り方の平面形は楕円形を呈していたと推定され、規模は北東から南西方向で約2.15m、深さは0.90mほどを測る。井戸枠内の覆土は灰色土が堆積し、井戸の中層まで掘り下げると明確に方形を呈した井戸枠痕が確認され、枠材は遺存していなかった。裏込めは褐色土が充填されている。最深部の地山層は砂礫層である。

248SE300 (第6・31図、図版12)

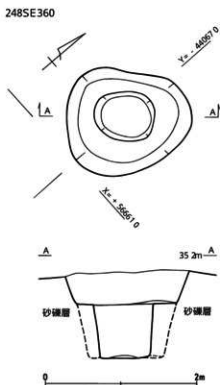
調査区の西側に位置し、B・C10・11区から検出された。小穴(248SX352)の一部を切って構築されている。掘り方の平面形は楕円形を呈し、規模は長径(南北)1.90m、短径(東西)1.80m、深さは0.55mを測る。掘り方では井戸枠を設置したと推定される窪みが観察されているが、覆土の掘り下げ時には明確な井戸枠痕跡は確認されていない。覆土は灰色土で構成されている。最深部の地山層は砂礫層である。

248SE335 (第6・31図、図版12)

調査区の西側に位置し、B8・9区から検出された。掘立柱建物(248SB406)、小穴(248SX329・351)と重複し、本遺構が最も古い。掘り方の平面形は径約1.35mを測る略円形を呈し、深さは1.00mほどを測る。井戸枠は石組で、開口部径は約0.70mを測り、10~20cmの花崗岩の角礫を用い、乱積みされる。また、石組の北東側は他に比べ礫が大きいことから、積み直しが行われた可能性が高いと判断される。井戸枠内の覆土は灰色土で構成され、裏込めは砂礫が充填されている。最深部の地山層は灰褐色砂である。

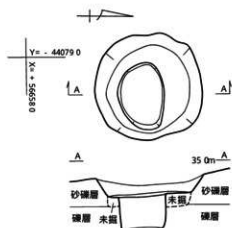
248SE360 (第6・30図、図版12)

調査区のほぼ中央に位置し、C6・7区から検出された。掘り方の平面形は楕円形を呈し、規模は長径(北東-南西)1.65m、短径(北西-南東)0.94m、深さは1.15mほどを測る。井戸枠内の覆土は暗灰色土が堆積し、井戸の中層まで掘り下げると明確に楕円形を呈した井戸枠痕が確認され、枠材は遺存していなかった。裏込めは褐色土が充填されている。最深部の地山層は砂礫層である。

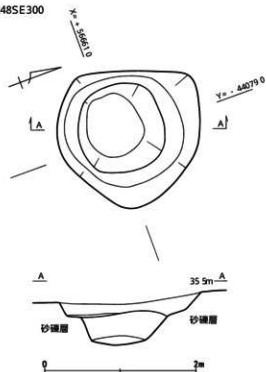


第30図 248SE360実測図(1/50)

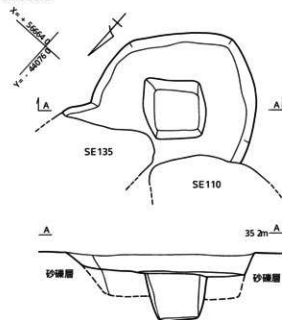
248SE290



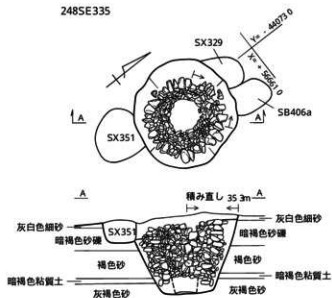
248SE300



248SE295



248SE335



第 31 図 248SE290・295・300・335実測図 (1/50)

4) 土 坑

248SK265 (第 6・32 図、図版 13)

調査区の東側に位置し、B 2 区から検出された。土坑 (248 SK280) および小穴 (248 SX372) を切って構築されている。平面形はやや不整形であるが楕円形を呈する。規模は長径 (北東-南西) 1.37m、短径 (北西-南東) 1.20m、深さは 0.30m ほどを測る。覆土は黒灰色土で構成されている。

248SK270 (第6・32図)

調査区の東側に位置し、B・C2区から検出された。土坑(248SK280)および小穴(248SX372)を切って構築されている。平面形はやや不整形であるが楕円形を呈する。規模は長径(東西)1.25m、短径(南北)1.20m、深さは0.30mほどを測る。覆土は黒灰色土で構成されている。

248SK280 (第6・32図)

調査区の東側に位置し、B2区から検出された。溝(248SD260)を切って構築されているが、土坑(248SK265・270)によって北東側と南東側が壊されている。平面形は楕円形を呈していたと考えられ、底面には段差が認められる。規模は長径(南北)2.00m前後、短軸(東西)1.40m、深さは0.10～0.20mを測る。覆土は灰色土で構成されている。

248SK345 (第6・32図)

調査区のはば中央に位置し、B6・7区から検出された。平面形は楕円形を呈し、規模は長径(北西-南東)1.20m、短径(北東-南西)1.00m、深さは0.53mほどを測る。覆土は黒灰色土で構成されている。

248SK350 (第6・32図)

調査区のはば中央に位置し、C7区から検出された。平面形は楕円形を呈するが、底面には段差が認められる。規模は長径(北東-南西)1.42m、短径(北西-南東)1.12m、深さは0.26～0.43mを測る。覆土は黒灰色土で構成されている。

248SK355 (第6・32図、図版13)

調査区のはば中央に位置し、B・C7区から検出された。平面形は隅丸長方形を呈するが、底面には凹凸が観察される。規模は長軸(南北)1.55m、短径(東西)0.85m、深さは0.17～0.33mを測る。覆土は暗灰色土で構成されている。

248SK365 (第6・32図)

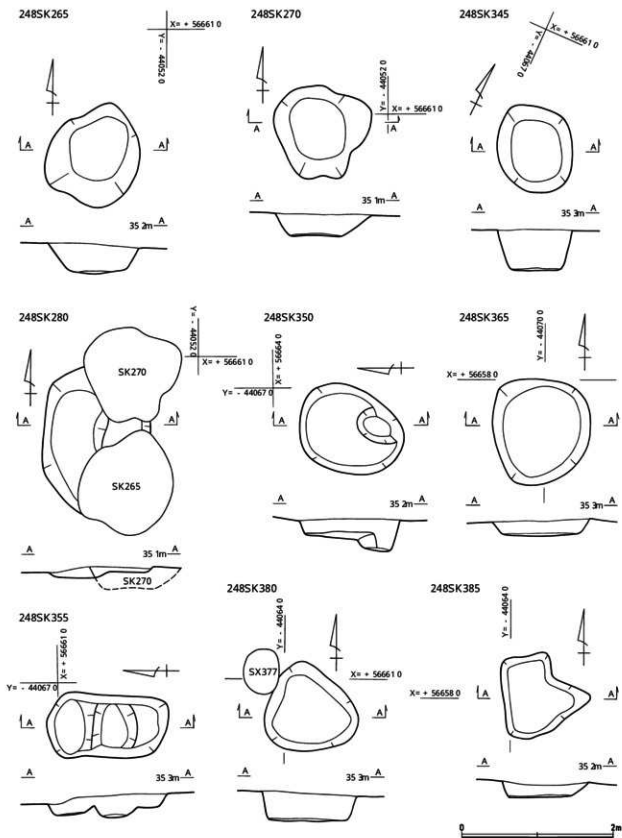
調査区はば中央の南辺に位置し、A・B7・8区から検出された。平面形は楕円形を呈し、規模は長径(南北)1.40m、短径(東西)1.30m、深さは0.27mほどを測る。覆土は褐色土で構成されている。

248SK380 (第6・32図、図版13)

調査区中央のやや東寄りに位置し、B・C5・6区から検出された。一部が小穴(248SX377)によって切られている。平面形は楕円形を呈し、規模は長径(北西-南東)1.20m、短径(北東-南西)1.10m、深さは0.38mほどを測る。覆土は暗灰色土で構成されている。

248SK385 (第6・32図)

調査区中央のやや南東寄りに位置し、A・B5区から検出された。平面形は不整形を呈し、規模は長軸(東西)1.12m、短軸(南北)1.08m、深さは0.21mほどを測る。覆土は暗灰色土で構成されている。



第 32 圖 248SK265・270・280・345・350・355・365・380・385 実測圖 (1/50)

5) その他の遺構

a) 小 穴

248SX352 (第6図)

調査区西側のC・D10区から検出された8穴の小穴で、土坑(248SK340)を切って構築されているが、一部は井戸(248SE300)によって壊されている。また、1穴は掘り込みが浅く平面図に反映されなかった。平面形は楕円形ないし不整形を呈し、規模は長径で25~77cm、深さは9~50cmを測る。覆土は暗灰色土で構成されている。

248SX362 (第6図)

調査区中央の北辺に位置し、D7・8区から検出された15穴の小穴であるが、一部が北側の調査区外に展開している。土坑(248SK373)および小穴(248SX364・374)を切って構築されているが、一部は第Ⅱ面の土坑(248SK060)によって壊されている。平面形は楕円形ないし不整形を呈し、規模は長径で15~95cm、深さは11~45cmを測る。覆土は暗灰色土で構成されている。

248SX364 (第6図)

調査区中央の北辺に位置し、D6区から検出された9穴の小穴で、一部が小穴(248SX362)によって切られている。平面形は略円形ないし楕円形を呈し、規模は長径で20~76cm、深さは5~31cmを測る。覆土は暗灰色土で構成されている。

248SX367 (第6図)

調査区ほぼ中央のB7・8区から検出された9穴の小穴で、一部を小穴(248SX329)によって壊されている。平面形は略円形ないし楕円形を呈し、規模は長径で30~65cm、深さは9~57cmを測る。覆土は暗灰色土で構成されている。

248SX368 (第6図)

調査区ほぼ中央のB5・6区から検出された15穴の小穴で、小穴(248SX369)の一部を切って構築されている。平面形は楕円形ないし不整形を呈し、規模は長径で30~75cm、深さは7~40cmを測る。覆土は暗灰色土で構成されている。

248SX369 (第6図)

調査区中央の南辺に位置し、A・B6・7区から検出された10穴の小穴である。一部が南側の調査区外に展開し、小穴(248SX368)に壊されている。平面形は略円形ないし楕円形を呈し、規模は長径で15~80cm、深さは4~35cmを測る。覆土は暗灰色土で構成されている。

248SX378 (第6図)

調査区中央のやや東寄りに位置し、C5・6区から検出された9穴の小穴で、一部が第Ⅲ面の井戸(248SE185)によって切られている。平面形は略円形ないし楕円形を呈し、規模は長径で23~67cm、深さは7~42cmを測る。覆土は暗灰色土で構成されている。

248SX381 (第6図)

調査区東側のC4区から検出された4穴の小穴である。小穴(248SX404)の一部を切って構築されているが、第三面の井戸(248SE175)に一部が壊されている。平面形は略円形ないし楕円形を呈し、規模は長径で37~57cm、深さは21~35cmを測る。覆土は暗灰色土で構成されている。

248SX382 (第6図)

調査区東側のC3・4区から検出された3穴の小穴で、2穴が第三面の井戸(248SE180)によって切られている。全容の把握された1穴の平面形は不整形で、規模は長軸で85cm、深さは30cmほどを測る。覆土は暗灰色土で構成されている。

248SX384 (第6図)

調査区東側のB4区から検出された小穴である。平面形は楕円形を呈し、底面には段差を有する。規模は長径で47cm、深さは22~31cmを測る。覆土は暗灰色土で構成されている。

248SX391 (第6図)

調査区中央のやや東寄りに位置し、B5区から検出された6穴の小穴である。平面形は略円形ないし楕円形を呈し、規模は長径で22~58cm、深さは9~32cmを測る。覆土は暗灰色土で構成されている。

248SX396 (第6図)

調査区東側の南辺に位置し、A4区から検出された9穴の小穴であるが、1穴は掘立柱建物(248SB400)の柱穴fに変更している。一部が南側の調査区外に展開し、小穴(248SX397)の一部を切って構築されている。平面形は略円形ないし楕円形を呈し、規模は長径で20~45cm、深さは3~16cmを測る。覆土は暗灰色土で構成されている。

248SX404 (第6図)

調査区東側のB・C4区から検出された5穴の小穴で、一部が小穴(248SX381)に切られている。平面形は略円形ないし楕円形を呈し、規模は長径で32~52cm、深さは35~39cmを測る。覆土は暗灰色土で構成されている。

2. 遺物

第1面

1) 礎石建物出土遺物

248SB001a

土師器

杯a(土師器計測表参照)現存高2.35cmを計測し、底径8.0cmに復元される。底部は糸切り離しであり、胎土に白雲母を多量に含有する。

小皿a1(土師器計測表参照)口径7.6cm、器高1.3cm、底径5.8cmを計測する。底部は糸切り離し。

248SB001b

土師器

小皿 a1 (土師器計測表参照) 口径8.6cm、器高1.25cm、底径7.8cmを計測する。底部は糸切り離し。

248SB001c

土師器

小皿 a1 (土師器計測表参照) 口径8.4cm、器高1.55cm、底径6.2cmを計測する。底部は糸切り離し。

2) 溝出土遺物

248SD052出土遺物 (第33図)

土師器

小皿 a1 (土師器計測表参照) 口径9.0cm、器高1.1cm、底径7.0cmを計測する。底部は糸切り離し。

瓦質土器

こね鉢×挿鉢 (1・2) 1・2ともに口縁部から体部上半の破片であり、現存高は1が2.55cm、2が3.0cmを測る。口縁部から体部外面は回転ナデ、内面にはハケ目調整が施される。焼成は良好であり灰白色に発色する。

青白磁

梅瓶 (3) 肩部と類推した破片であり、現存高1.95cmを測る。外面には櫛歯状工具によって渦文が施され、内面は強い回転ナデで成形される。黑色粒子を少量含む素地は灰白色を呈し、堅緻である。細貫入を生じ、光沢質で透明感のある釉は外面に施され、青灰色に発色する。

土製品

瓦玉 (4) 土師質の瓦を素材とし、研磨によって扁平な球形に成形する。胎土中には白色粒子を多く含む。径2.65cm、厚さ1.95cmを測り、重量は12.6gを量る。

3) 土坑出土遺物

248SK057出土遺物 (第33図)

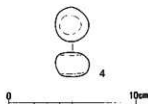
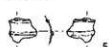
金属製品

鈴か (5) 残存部位が僅かであることから詳細が不明であるが、銅素材の薄板材を敲打により球状に成形しつつ、折り曲げにより2条の帯を意匠する。内外面ともに緑青に覆われているが、外面には鍍金が施されているようであり、器面が金色に輝く部分が観察できる。現存高1.9cm、現存幅2.2cm、厚さ0.05cmを測る。

248SD052



248SK057



第 33 図 248SD052・SK057遺物実測図 (1/3)

第Ⅱ面

1) 道路出土遺物

248SF035褐色土出土遺物 (第34図)

土師器

杯 a (土師器計測表参照) 口径12.4~14.8cm、器高2.45~2.8cm、底径9.0~10.0cmを計測する。底部は糸切り離してあり、油煙が付着するものがある。

小皿 a1 (土師器計測表参照) 口径7.4~10.3cm、器高0.9~1.35cm、底径5.3~8.3cmを計測する。底部は糸切り離してあり、胎土に白雲母を多量に含有するもの、油煙が付着するものがある。

須恵質土器

こね鉢 (1) 現存高7.3cmを測る口縁部から体部の破片であり、内外面を回転ナデ調整で成形するが、外面は摩耗・剥離が著しい。焼成は良好であり、堅緻な胎土は黒色粒子をやや多く含有して灰白色を呈し、口縁部外面は重ね焼きにより暗灰黒色に発色する。内面下位には油煙が薄く付着する。東播系。

青白磁

台子身 (2) 現存高3.1cmを測る口縁部から体部下端の破片で、型成形である。焼成は良好であり、堅緻な素地は黒色粒子を少量含有して灰白色を呈す。内面と外面体部に施される釉は淡緑灰色に発色し、光沢質、半透明。外面には細貫入が生じる。

中国陶器

小椀 (3) 現存高2.5cm、底径3.1cmを測る黒釉陶器の体部下半から高台が遺存する資料。高台は削り出され、高台内は中実。黒色・白色粒子を含有する胎土は灰色を呈す。黒褐色から茶褐色に発色する釉は高台底面以外に施され、半光沢質、不透明で比較的厚い。内面にはピンホール状の釉切れが生じる。

石製品

権 (4) 灰色を呈する片麻岩を素材とし、研磨により成形して、0.5cm程の穿孔を施す。孔は使用によって摩耗し、広がっている。現存長4.3cm、幅4.2cm、厚さ0.95cmを測り、重量2.8gを量る。

銭貨 (第67図1) 熙寧元寶を真書で鋳込む。

金属製品

鉄釘 (5) 先端部を欠損し、現存長4.3cmを測る。

248SF035灰色土出土遺物 (第34図)

土師器

杯 a (土師器計測表参照) 口径12.4~12.6cm、器高2.35~2.65cm、底径8.6~9.4cmを計測する。底部は糸切り離し。

小皿 a1 (土師器計測表参照) 口径8.8~9.6cm、器高1.15cm、底径7.6~7.8cmを計測する。底部は糸切り離し。

須恵質土器

こね鉢 (6・7) 6は現存高2.7cm、7は現存高1.7cmを測る口縁部の破片。内外面を回転ナデ調整で成形するが、7の器面は摩耗・剥離が著しい。焼成は良好であり、堅緻な胎土は青灰色から明青灰色を呈し、口縁部外面は重ね焼きにより暗青灰色から暗灰黒色に発色する。東播系。

中国陶器

鉢 (8) 口径16.0cm、現存高2.7cmを測る口縁部から体部下半の破片。焼成は良好で白色粒子をやや多く含有する胎土は灰黄色を呈す。釉は全面に薄く施され、暗オリーブ色に発色する。未分類資料。

金属製品

鉄釘（9）先端部を欠損し、現存長5.0cmを測る。

248SF035黒灰色土出土遺物（第34図）

土師器

小皿 a1（土師器計測表参照）口径8.6~10.4cm、器高0.95~1.35cm、底径7.0~8.0cmを計測する。底部は糸切り離しており、胎土に白雲母を多量に含有するものや、油煙が付着するものがある。

須恵質土器

こね鉢（10）現存高3.3cmを測る口縁部から体部上位の破片。回転ナデ調整で成形する。焼成は良好であり、堅緻な胎土は黒色粒子をやや多く含有し、青灰色を呈す。口縁部外面は重ね焼きにより暗青灰色に発色する。東播系。

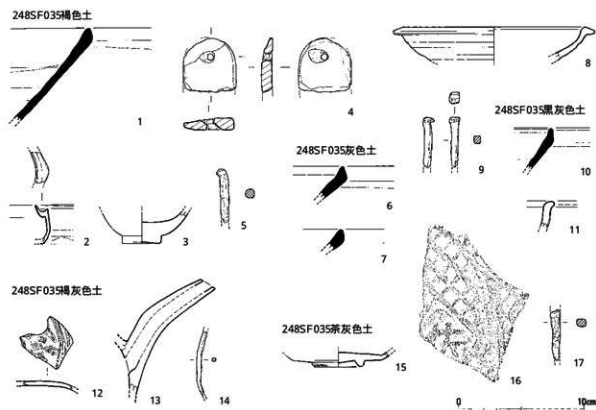
瓦質土器

器種不明（11）現存高2.2cmを測る口縁部の破片。内外面は回転ナデ調整で成形する。焼成は良好であり、堅緻な胎土は白色礫を含有し、外面は黒灰色、内面は暗灰黒色に発色する。

248SF035褐灰色土出土遺物（第35図）

土師器

杯 a（土師器計測表参照）口径13.8cm、器高2.75cm、底径8.0cmを計測する。底部は糸切り離し。



第 34図 248SF035遺物実測図（1/3）

青白磁

合子蓋 (12) 現存高0.8cmを測る天井部の破片。型成形により、外面には花(鳥?)文が打ち出される。焼成は良好であり、堅緻な素地は黒色粒子を含有して灰白色を呈す。内外面に施される光沢質、透明な釉は外面が緑青色、内面緑白色に発色する。

中国陶器

水注 (13) 現存高9.1cmを測る注口部分。ナデ調整ののち、鋭利な工具で注ぎ口を作り出す。焼成は良好であり、堅緻な胎土は白色粒子をやや多く含有し灰白色を呈す。外面に薄く施される釉は光沢質、不透明であり、灰黄色に発色する。

金属製品

鉄釘 (14) 両端部を欠損し、現存長5.0cmを測る。

248SF035茶灰色土出土遺物 (第34図)

土師器

杯 a (土師器計測表参照) 口径13.6cm、器高2.4cm、底径9.0cmを計測する。底部は糸切り離し。

白磁

皿 (15) 現存高1.2cm、高台径4.1cmを測る体部下端から底部の破片。体部は高台脇から水平に延び屈曲して立ち上がり、底部は肉厚。焼成は良好であり、黒色微粒子をやや多く含有する素地は堅緻で灰白色を呈す。半光沢質、不透明で淡緑灰色に発色する釉は、内面および外面の体部から高台脇にかけて施される。未分類。

瓦類

平瓦 (16) 凸面には格子と「佐」字が観察できる。凹面は布目。902C型式。

丸瓦 (CD写真157) 凹面の布目には縫合痕が観察できる。

金属製品

鉄釘 (17) 両端部を欠損し、現存長4.0cmを測る。

2) 礫敷建物出土遺物

248SB020 (第35図)

土師器

小皿 a1 (土師器計測表参照) 口径7.8cm、器高1.45cm、底径5.0cmを計測する。底部は糸切り離しであり、胎土に白雲母を多量含有する。

須恵質土器

こね鉢 (1・2) 1は現存高3.3cm、2は現存高1.8cmを測るいずれも口縁部の破片。回転ナデ調整で成形する。焼成は良好であり、堅緻な胎土は黒色粒子を含有し、明灰色を呈す。口縁部外面は重ね焼きにより黒灰色から暗灰色に発色する。東播系。

248SB020褐色土出土遺物 (第35図)

土師器

小皿 a1 (土師器計測表参照) 口径9.8cm、器高1.1cm、底径8.0cmを計測する。底部は糸切り離し。

土師質土器

火舎 (3) 現存高4.6cmを測る口縁部から体部上位の破片。ナデ調整で成形し、口縁上端面から内面

にかけて4本の沈線が施される。焼成は良好であり、堅緻な胎土は4mm以下の石英を多く含有し赤橙色に発色する。

須恵質土器

こね鉢(4~6)いずれも口縁部から体部上位の破片で、現存高は4、5が2.7cm、6は4.1cmを測る。いずれも回転ナデ調整で成形する。焼成は良好であり、堅緻な胎土は青灰色を呈す。4、5の口縁部外面は重ね焼きにより黒灰色から暗灰色に発色する。東播系。

248SB020a出土遺物(第35図)

土師器

供膳具(7)現存高1.1cmを測る口縁部から体部の破片。回転ナデ調整で成形する。焼成は良好であり、胎土は白雲母を多量に含有して黄灰色を呈す。

須恵質土器

こね鉢(8)現存高4.3cmを測る体部下位の破片。回転ナデ調整で成形する。焼成は良好であり、堅緻な胎土は青灰色を呈す。東播系。

248SB020h出土遺物(第35図)

瓦器

供膳具(9)現存高1.8cmを測る口縁部から体部の破片。器面には疎らなヘラミガキが施される。焼成は良好であり、暗灰色を呈する。

248SB020k出土遺物(第35図)

須恵質土器

こね鉢(10)現存高3.2cmを測る口縁部から体部上位の破片。回転ナデ調整で成形する。焼成は良好であり、堅緻な胎土は青灰色を呈す。口縁部外面は重ね焼きにより黒灰色に発色する。東播系。

248SB030褐色土出土遺物(第36図)

土師器

小皿a1(11)口径9.2cm、器高1.8cm、底径6.0cmを測る。回転ナデ調整で成形し、底部は回転糸切り離し。焼成は良好であり、黒色粒子を含有する胎土は淡灰白色から黒灰色を呈す。

小皿a1(土師器計測表参照)口径7.9~8.2cm、器高1.15~1.45cm、底径5.8~7.4cmを計測する。底部は糸切り離してあり、油煙が付着するものがある。

土師質土器

鉢(12)現存高3.0cmを測る口縁部から体部上位の破片。口縁端部を回転ナデ、体部をナデ調整で成形する。焼成はおおむね良好で黄橙色に発色する。

須恵質土器

こね鉢(13)現存高3.3cmを測る口縁部から体部上位の破片。回転ナデ調整で成形する。焼成は良好であり、堅緻な胎土は明灰色を呈す。口縁部内外面は重ね焼きにより暗灰色から暗灰黒色に発色する。東播系。

瓦質土器

こね鉢×搦鉢(14)現存高4.3cmを測る口縁部から体部上位の破片。口縁部回転ナデ、外面はナデ、

内面は斜位から横位のハケ調整で成形される。焼成は良好であり、胎土は白色細粒子を多く含み、器面は灰白色、断面芯部の色調は黒灰色を呈す。

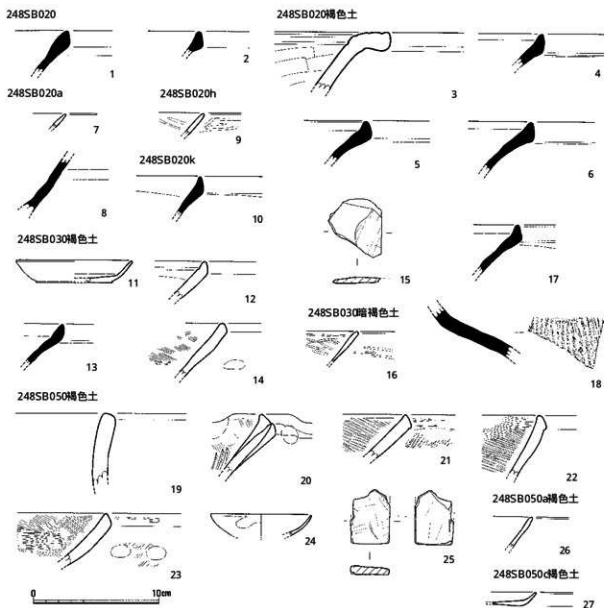
石製品

砥石 (15) 灰色から茶色を呈す泥岩を素材とし使用面は1面が遺存する。現存長4.7cm、現存幅4.3cm、厚さ0.5cmを測る。

248SB030暗褐色土出土遺物 (第35図)

土師器

坏 a (土師器計測表参照) 口径12.6~14.6cm、器高2.8~3.35cm、底径8.8~9.0cmを計測する。底部は糸切り離してあり、胎土に白雲母を多量に含有する。



第 35 図 248SB020・030・050遺物実測図 (1 / 3)

小皿 a1 (土師器計測表参照) 口径8.1~8.8cm、器高0.85~1.0cm、底径6.2~7.8cmを計測する。底部は糸切り離し。

瓦器

供膳具 (16) 現存高2.5cmを測る口縁部から体部上位の破片。内外面に疎らなミガキが施される。焼成は良好であり、白雲母を多量含有する胎土は黒灰色を呈す。

須恵質土器

こね鉢 (17) 現存高4.0cmを測る口縁部から体部上位の破片。回転ナデ調整で成形する。焼成は良好であり、堅緻な胎土は暗青灰色を呈す。東播系。

甕 (18) 現存高5.7cmを測る肩部付近の破片。内外面横ナデののち、外面に平行叩き目が施される。焼成は良好であり、堅緻な胎土は青灰色を呈す。産地不明。

248SB050褐色土出土遺物 (第35図)

土師器

杯 a (土師器計測表参照) 口径10.8cm、器高2.55cm、底径9.0cmを計測する。底部は糸切り離し。

小皿 a1 (土師器計測表参照) 口径8.0~8.2cm、器高1.05cm、底径5.0~6.8cmを計測する。底部は糸切り離し。

土師質土器

鉢 (19) 現存高5.8cmを測る口縁部から体部の破片。器面は摩耗が著しく調整不明である。焼成は不良であり、灰黄色を呈する。

互質土器

播鉢 (20) 現存高4.9cmを測る口縁部から体部上位の破片であり、片口部が遺存する。口縁部は回転ナデののち指頭によって片口を作出し、内面はハケ目調整ののち、縦位の掃り目を施す。掃り目は3条が遺存する。外面は指頭調整ののち、ナデ調整が加わる。焼成は良好であり、白色・黒色粒子を多く含む胎土は暗灰白色を呈す。

こね鉢×播鉢 (21~23) いずれも口縁部から体部上位の破片であり、現存高は21が3.5cm、22、23が4.2cmを測る。内面は横位から斜位のハケ目、外面は21が斜位のハケ目であるほか、23には指頭調整後のハケ目調整が僅かに残る。また、22はナデ調整が施される。焼成は良好であり、白色・黒色粒子を多く含有する胎土は灰白色から灰黄色を呈す。

青磁

小皿 (24) 口径8.0cm、現存高1.7cmを測る。焼成は良好で、堅緻な素地は黒色微粒子をやや多く含有する。暗緑灰色に発色する釉は内面から外面上位に施され、光沢質、透明で細貫入を生じる。露胎部のうち、釉との境界付近は赤化している。龍泉窯系青磁の未分類資料。

石製品

砥石 (25) 橙色を呈す粘板岩を素材とし、2面を使用面とする。現存長4.3cm、幅3.1cm、厚さ0.7cmを測る。

248SB050a褐色土出土遺物 (第35図)

土師器

杯 (26) 現存高3.5cmを測る口縁部から体部の破片。回転ナデ調整で成形される。焼成は良好であり、白雲母を多量に含有する胎土は暗黄橙色を呈する。

248SB050c出土遺物（第35図）

土師器

小皿 a1（27）現存高1.1cmを測る口縁部から底部の破片。回転ナデ調整で成形され、底部は糸切り離し。焼成は良好であり、黒色粒子、白雲母を少量含有する胎土は暗褐色を呈する。

3）土坑出土遺物

248SK060暗褐色土出土遺物（第36図）

土師器

杯 a（土師器計測表参照）口径12.0cm、器高2.7cm、底径9.0cmを計測する。底部は糸切り離し。

小皿 a1（土師器計測表参照）口径8.6cm、器高1.25cm、底径7.0cmを計測する。底部は糸切り離しであり、油煙が付着する。

土師質土器

鍋（1）現存高3.3cmを測る口縁部から体部の破片であり、内面口縁部から外面は横ナデ、内面体部は弱いハケ目が施される。焼成は良好。石英、白雲母を少量含有する胎土は淡褐色を呈す。外面下位には煤が付着する。

須恵質土器

こね鉢（2）現存高5.0cmを測る口縁部から体部上位の破片。回転ナデ調整で成形する。焼成は良好であり、堅緻な胎土は灰白色を呈す。東播系。

甕（3）現存高2.75cmを測る肩部付近の破片。外面に格子叩き目が施される。焼成は良好であり、堅緻な胎土は灰白色から暗灰色を呈す。東播系。

土製品

瓦玉（4）格子叩き目が観察できる須恵質の瓦を打割して、略円柱状に成形する。長軸長3.1cm、短軸長2.9cm、厚さ1.9cmを測り、重量22.0gを量る。

鈿型（5）湾曲する鈿型面形状のあり方から、椀あるいは鉢状の製品が想定される鈿型であり、鈿型面には上下2段の沈線（製品時隆帯）が観察される。横断面での鈿型面の復元径は12.0cm程度となる。真土は鈿型面から約0.7cmから1.0cmの厚みで形成され、細砂粒主体で褐色を呈し精良である。外型は石英粒を多く含み、橙白色を呈し粗い。現存高4.85cmを測る。

248SK060灰色土出土遺物（第36図）

土師器

小皿 a1（土師器計測表参照）口径9.0cm、器高1.1~1.25cm、底径6.0~7.0cmを計測する。底部は糸切り離し。

瓦器

椀（6、7）6、7はともに口縁部から体部上位の破片である。6は現存高3.05cmを測り、口縁部回転ナデ、内外面に疎らなヘラミガキを施す。焼成は良好であり、暗灰色から灰白色を呈す。7は現存高3.4cmを測り、口縁部内側に沈線を1条巡らす。器面は回転ナデ調整。外面下位には指頭痕が観察される。7は楠葉型の可能性がある。

土師質土器

鍋（8）現存高3.95cmを測る口縁部から体部の破片であり、体部外面は指頭調整後ナデ、口縁部から内面にかけては横ナデ調整で仕上げられる。焼成は良好で、砂粒、白雲母を少量含有する胎土は暗褐色

から黄褐色を呈し、体部外面から口縁部上端面には煤が付着する。

須恵質土器

こね鉢（9）現存高4.45cmを測る口縁部から体部上位の破片であり、回転ナデ調整で仕上げられる。焼成は良好であり、灰白色を呈する。東播系。

瓦質土器

こね鉢×播鉢（10）現存高1.95cmを測る口縁部から体部上位の破片であり、口縁部は指頭調整とナデによって片口を作出する。体部内面はハケ目調整で仕上げられる。焼成は良好であり、灰白色から暗灰色を呈す。

金属製品

板状鉄製品（11）両端部を欠損する短冊状の薄板であり、現存長8.7cm、幅1.15cm、厚さ0.15～0.2cmを測る。両端部にはそれぞれ孔と推定される半円状の痕跡が観察される。

248SK065暗褐色土出土遺物（第36図）

須恵質土器

こね鉢（12、13）12の現存高は3.45cm、13は2.55cmを測るいずれも口縁部から体部上位の破片であり、回転ナデ調整で仕上げられる。焼成は良好であり、灰色から黄灰白色を呈し、口縁部外面は重ね焼きのため、灰黒色から暗灰色に発色する。東播系。

248SK070黒灰色土出土遺物（第36図）

土師器

小皿 a1（土師器計測表参照）口径9.8cm、器高1.05cm、底径8.0cmを計測する。底部は糸切り離し。

土製品

土錘（14）両端部を欠損し、現存長4.05cm、最大径0.95cmを測り、重量は3.3gを量る。器面はナデ調整であり、焼成時に一部が黒色に変色する。

248SK075灰色土出土遺物（第36図）

土師器

小皿 a1（土師器計測表参照）口径7.2～9.8cm、器高0.95～1.45cm、底径5.4～8.6cmを計測する。底部は糸切り離してあり、胎土に白雲母を多量に含有するものがある。

瓦器

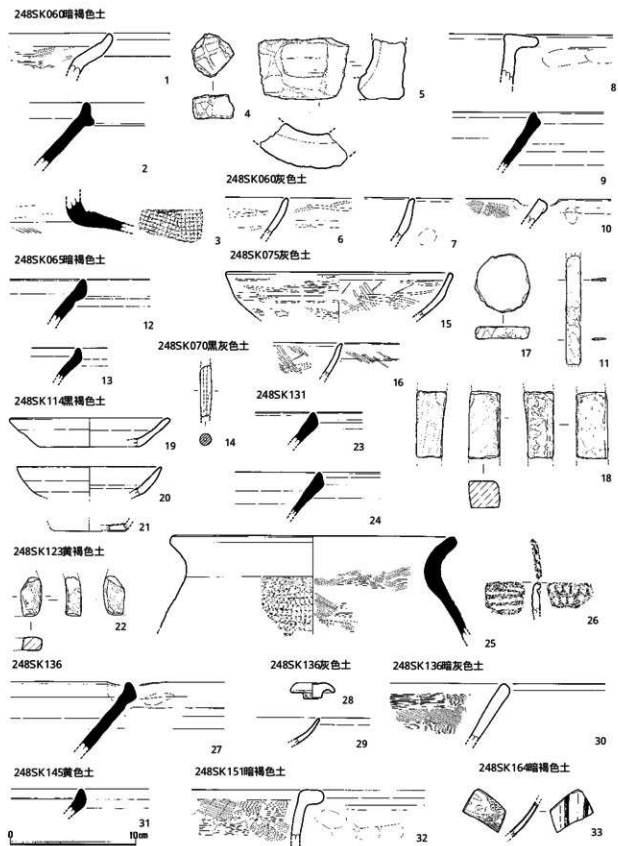
椀（15、16）15は口径18.0cm、現存高3.6cmに復元される口縁部から体部の資料であり、口縁部は回転ナデ、体部は回転ナデののち、ヘラミガキが施される。また、内面上位にはコテ当て痕が観察できる。焼成は良好であり、器面は暗青灰色に発色する。16は現存高2.75cmを測る口縁部から体部上位の破片であり、体部は回転ナデののち、コテ当てを施し成形し、疎らなミガキによって仕上げる。焼成は良好であり、暗灰色から橙灰白色に発色する。

土製品

円盤状加工品（17）一面に布目が遺存する須恵質の瓦を打割して、円盤状に加工し、研磨によって厚味を調整した資料であり、径4.2～4.5cm、厚さ0.9～0.95cmを測る。

石製品

砥石（18）灰黄色を呈す細粒砂岩を素材として、4面を使用面とする。現存長5.4cm、幅2.5cm、厚さ



第 36 图 248SK060·065·070·075·114·123·131·136·145·151·164 器物实测图(1/3)

2.9cmを測る。

248SK114黒褐色土出土遺物 (第36図)

土師器

杯 a (19) 口径12.7cm、器高2.3cm、底径7.8cmに復元される口縁部から底部が遺存する資料であり、底部残存率が僅かなため不明瞭であるが、糸切り離しと類推される。焼成良好の胎土には白雲母を少量含有する。

杯 (20) 口径11.4cm、現存高2.4cmに復元される口縁部から体部下位まで遺存する資料であり、焼成良好の胎土には白雲母を多量に含有する。

白磁

皿 (21) 底径5.9cmに復元される底部破片であり、内外面には光沢質で淡緑灰色に発色する釉を施す。K-1類。

248SK115暗灰色土出土遺物

土師器

杯 a (土師器計測表参照) 口径14.8cm、器高2.55cm、底径10.0cmを計測する。底部は糸切り離し。

小皿 a1 (土師器計測表参照) 口径8.2~8.8cm、器高1.1~1.2cm、底径6.0~7.0cmを計測する。底部は糸切り離し。

248SK123黄褐色土出土遺物 (第36図)

石製品

硯 (22) 灰色を呈する滑石を素材とし、研磨により成形する。現存長3.2cm、現存幅1.7cm、厚さ1.2cmを測る。

銭貨 (第67図2~5) 初銚年順に嘉祐元寶、治平元寶、聖宋元寶、紹定通寶の拓本を示す。

248SK131出土遺物 (第36図)

土師器

杯 a (土師器計測表参照) 口径13.0cm、器高2.65cm、底径7.0cmを計測する。底部は糸切り離し。

小皿 a1 (土師器計測表参照) 口径9.6cm、器高1.1cm、底径8.0cmを計測する。底部は糸切り離し。

須恵質土器

こね鉢 (23、24) 23は現存高3.45cm、24は2.65cmを測るいずれも口縁部から体部上位の破片であり、回転ナデ調整で仕上げられる。焼成は良好であり、胎土は23が暗青灰色、24は灰色を呈し、24の口縁部は重ね焼きのため暗青灰色に発色する。東播系。

甕 (25) 口径22.8cmに復元され、現存高8.2cmを測る、口縁部から体部上位が遺存する資料であり、口縁部回転ナデ調整、体部外面は格子叩き、内面にはハケ目調整が僅かに観察できる。焼成は良好であり、黒色粒子を少量含有する胎土は外面青灰色、内面灰白色を呈す。産地が不明瞭であるが亀山産の可能性がある。

縄文土器

深鉢形土器 (26) 現存高2.55cmを測る口縁部の破片であり、口縁上端部に刻み、外面には斜め下方から施された円形刺突による列点文が2段遺存する。内面には横位沈線が3条遺存する。焼成は良好であ

り、明赤褐色を呈す胎土には滑石粉末が多量に含まれる。縄文時代前期曾畑式に比定できる混入資料。

248SK136出土遺物（第36図）

土師器

小皿 a1（土師器計測表参照）口径7.6cm、器高1.1cm、底径5.0cmを計測する。底部は糸切り離し。

須恵質土器

こね鉢（27）現存高5.6cmを測る口縁部から体部の破片であり、片口が遺存する。回転ナデ調整ののち、指頭調整により、片口を作出する。焼成は良好であり、胎土は灰色を呈す。口縁部外面は重ね焼きのため、黒灰色に発色する。東播系。

248SK136灰色土出土遺物（第36図）

土師器

小皿 a1（土師器計測表参照）口径8.6～8.8cm、器高0.95～1.15cm、底径6.6～7.0cmを計測する。底部は糸切り離してあり、油煙が付着するものがある。

白磁

蓋（28）最大径3.55cm、器高1.25cm、底径1.45cmを測る。器面は回転ナデ調整で成形され、底面はヘラ切り離し。焼成は良好であり、黑色微粒子を含有する素地は灰白色を呈し堅緻。天井部に施された釉は半光沢質で濁化し、褐色に発色する。下部には朱色の付着物が斑点状に観察される。

青白磁

皿（29）現存高2.15cmを測る口縁部から体部の破片であり、黑色粒子を含有する素地は灰白色を呈し堅緻。内外面に施された釉は半光沢質で濁化、発泡し、黑色微粒子を取り込んでいる。

248SK136暗灰色土出土遺物（第37図）

土師器

小皿 a1（土師器計測表参照）口径8.4～10.0cm、器高0.95～1.25cm、底径6.6～8.0cmを計測する。底部は糸切り離し。

瓦質土器

こね鉢×播鉢（30）現存高4.65cmを測る口縁部から体部の破片。口縁部から体部外面は回転ナデ調整。内面はハケ目調整が施される。焼成は良好。砂粒と白雲母を少量含有する胎土は黄灰色を呈す。

248SK144出土遺物

土師器

小皿 a1（土師器計測表参照）口径8.6cm、器高1.15～1.25cm、底径6.4～6.8cmを計測する。底部は糸切り離し。

248SK145黄色土出土遺物（第37図）

土師器

小皿 a1（土師器計測表参照）口径8.4cm、器高1.05cm、底径6.4cmを計測する。底部は糸切り離し。

須恵質土器

こね鉢（31）現存高2.05cmを測る口縁部の破片。回転ナデ調整で成形される。焼成は良好であり、器

面は青灰色を呈し、口縁部外面は重ね焼きのため黒灰色に発色する。東播系。

248SK151暗褐色土出土遺物 (第36図)

土師器

小皿 a1 (土師器計測表参照) 口径8.8cm、器高0.95~1.0cm、底径6.0~6.6cmを計測する。底部は糸切り離し。

土師質土器

鍋 (32) 現存高3.95cmを測る口縁部から体部上位の破片。口縁部は横ナデ。体部外面は指頭調整、体部内面は指頭調整のち、ハケ目調整で仕上げられる。焼成は良好であり、白雲母少量と砂粒を多量含有する胎土は暗褐色を呈す。

248SK164暗褐色土出土遺物 (第36図)

青磁

椀 (33) 現存高2.9cmを測る体部の破片であり、外面に鎗蓮弁文、内面にはへら状工具で意匠不明の文様を施す。焼成は良好であり、黒色微粒子を微量含有する素地は堅緻。内外面に施される釉は光沢質、透明であり、淡青灰色に発色する。龍泉窯系青磁の未分類資料。

銭貨 (第68図13) 皇宋通寶である。

4) その他の遺構出土遺物

a) 集石出土遺物

248SX040出土遺物 (第37図)

国産陶器

甕 (1) 現存高10.95cmを測る口縁部から体部上半の破片であり、口縁部から体部内面上位、および体部外面は回転ナデで成形され、体部内面下位には指頭調整が施される。焼成は良好。白色粒子を多く含む胎土は黒灰色、器面は赤褐色を呈し、体部外面には緑灰色に発色する降灰が付着する。常滑系。

248SX040褐色土出土遺物 (第37図)

土師器

小皿 a1 (土師器計測表参照) 口径8.2cm、器高0.95~1.15cm、底径6.6~7.4cmを計測する。底部は糸切り離し。

土師質土器

鍋 (2) 現存高2.2cmを測る口縁部の破片であり、端部を欠損する。器面が摩擦しているため成形技法が不明瞭であるが、外面に指頭調整痕が辛うじて観察できる。胎土は砂粒を多く、白雲母を少量含有し、橙色を呈す。

石製品

滑石製石鍋 (3) 現存高5.05cmを測る口縁部から体部上位の破片であり、鏝が遺存する。外面にはノミ状工具によるケズリが明瞭に残り、内面はケズリののち、研磨が施され滑らかである。B群。

硯 (4) 灰色を呈す粘板岩系石材を用いた方形硯と類推でき、両端部を欠損して陸から海と堤の一部が遺存する。陸は使用により楕円形に緩く凹み擦痕が顕著に残る。現存長9.5cm、幅5.5cm、厚さ1.3cmを測る。

248SX040茶色土出土遺物 (第37図)

土師器

杯 a (土師器計測表参照) 口径11.4cm、器高2.4cm、底径8.0cmを計測する。底部は糸切り離して、油煙が付着する。

須恵質土器

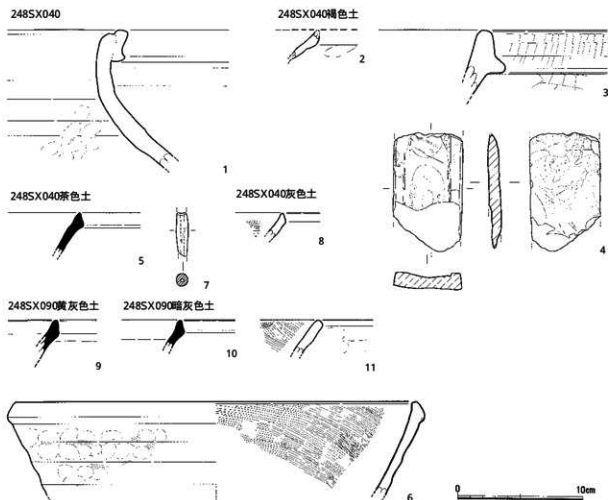
こね鉢 (5) 現存高3.25cmを測る口縁部から体部上位の破片であり、回転ナデ調整で成形されたのち、内面には不定方向のナデ調整が加わる。焼成は良好であり、堅緻な胎土は砂粒を少量含み、灰色を呈す。東播磨。

瓦質土器

こね鉢 (6) 口径33.2cm、現存高7.45cmを復元される口縁部から体部の破片であり、口縁部は回転ナデ、内面をハケ目調整、外面は指頭調整が施され、ハケ目が僅かに残る。焼成は良好であり、砂粒を少量含有する胎土は乳白色を呈す。

土製品

土錘 (7) 現存長3.5cm、最大径0.95cmを測り、両端部を欠損する。ナデ調整で成形される。焼成良好であり、淡黄褐色を呈す。重量は2.9gを量る。



第 37 図 248SX040・090遺物実測図 (1 / 3)

248SX040灰色土出土遺物 (第38図)

土師器

小皿 a1 (土師器計測表参照) 口径7.6~8.2cm、器高1.1~1.25cm、底径6.0cmを計測する。底部は糸切り離しであり、油煙が付着するものがある。

瓦質土器

こね鉢×搥鉢 (8) 現存高2.0cmを測る口縁部から体部上位の破片であり、口縁部から体部外面は回転ナデ、体部内面は粗いハケ目調整で成形される。焼成は良好であり、器面は内面が暗灰色、外面が黄灰白色を呈す。

248SX090黄灰色土出土遺物 (第38図)

土師器

杯 a (土師器計測表参照) 口径11.4cm、器高2.75cm、底径7.0cmを計測する。底部は糸切り離し。

小皿 a1 (土師器計測表参照) 口径8.1cm、器高1.15cm、底径5.9cmを計測する。底部は糸切り離し。

須恵質土器

こね鉢 (9) 現存高3.05cmを測る口縁部から体部上位の破片であり、回転ナデ調整で成形される。焼成は良好であり、堅緻な胎土は灰色を呈す。堅緻な胎土は灰白色を呈す。口縁部外面は重ね焼きにより灰色に発色する。東播系。

248SX090暗灰色土出土遺物 (第38図)

土師器

杯 a (土師器計測表参照) 口径12.8~14.2cm、器高2.85cm、底径8.0~8.8cmを計測する。底部は糸切り離し。

須恵質土器

こね鉢 (10) 現存高3.05cmを測る口縁部から体部上位の破片であり、回転ナデ調整で成形される。焼成は良好であり、堅緻な胎土は灰白色を呈す。口縁部外面は重ね焼きにより灰色に発色する。東播系。

瓦質土器

こね鉢×搥鉢 (11) 現存高2.65cmを測る口縁部から体部上位の破片であり、口縁部は回転ナデ、体部外面は指頭調整のち、ハケ目調整で成形される。焼成は良好であり、堅緻な胎土は断面黄灰色、外面は灰色を呈す。

b) たまり状遺構出土遺物

248SX182灰色土出土遺物 (第38図)

石製品

用途不明品 (1) 滑石を素材としており、削りと研磨が施される。形状から類推して石鍋A群を再加工した可能性もある。現存長3.6cm、幅2.8cm、厚さ1.2cmを測る。



第38図 248SX182遺物実測図 (1/3)

c) 小穴出土遺物

248SX111黄褐色土出土遺物

土師器

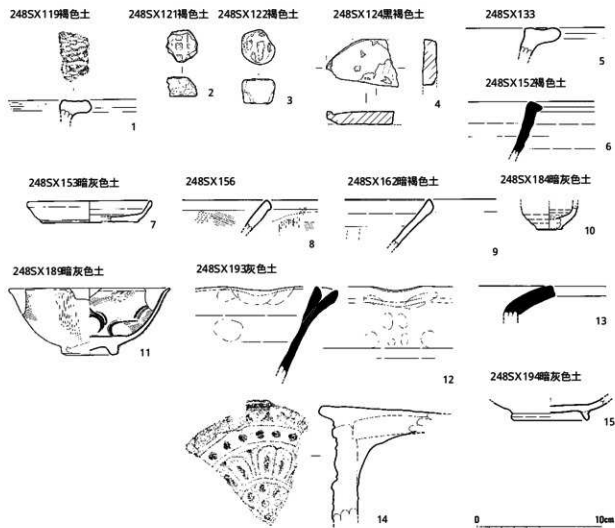
小皿 a×b (土師器計測表参照) 口径7.2~7.4cm、器高1.4~1.45cm、底径4.6~5.2cmを計測する。底部は糸切り離し。

小皿 b (土師器計測表参照) 口径6.6~7.2cm、器高1.45~2.15cm、底径4.0~4.6cmを計測する。底部は糸切り離し。

248SX119褐色土出土遺物 (第39図)

土師質土器

鍋 (1) 現存高1.55cmを測る口縁部の破片であり、口縁部内面にはハケ目調整、外面には横ナデ調整、上端面には縄の押捺が施される。焼成は良好であり、砂粒を含有する胎土は暗褐色から黒褐色を呈する。



第 39 図 248SX119・121・122・124・133・152・153・156・162・184・189・193・194
遺物実測図 (1/ 3)

248SX121褐色土出土遺物 (第39図)

土製品

瓦玉 (2) 格子叩き目が観察できる須恵質の瓦を打割して略円柱状に成形する。長軸長2.55cm、短軸長2.5cm、厚さ1.55cmを測り、重量10.4gを量る。

248SX122暗褐色土出土遺物 (第39図)

土製品

瓦玉 (3) 格子叩き目が観察できる瓦質の瓦を打割、研磨して円柱状に成形する。長軸長2.8cm、短軸長2.6cm、厚さ2.0cmを測り、重量15.2gを量る。

248SX124黒褐色土出土遺物 (第39図)

石製品

硯 (4) 細粒砂岩を素材とし、硯面と堤の一部が残存するが、表面の剥離が著しい。色調は硯面が暗赤褐色、剥離面は灰褐色を呈する。現存長3.8cm、現存幅5.8cm、厚さ1.1cmを測る。

248SX133出土遺物 (第39図)

土師質土器

鍋 (5) 現存高2.25cmを測る口縁部から体部上端の破片であり、横ナデ調整ののち、上端面に縄を押し捺す。焼成は良好であり、胎土は砂粒を多量、白雲母を少量含有し、橙色を呈す。

248SX152出土遺物 (第39図)

須恵質土器

鉢 (6) 現存高4.3cmを測る口縁部から体部の破片。回転ナデ調整で成形され、焼成は良好であり、白色粒子を少量含有する胎土は暗灰色を呈する。産地不明。

248SX153暗灰色土出土遺物 (第39図)

土師器

小皿 a1 (7) 口径9.9cm、器高1.7cm、底径7.8cmに復元される。口縁部から体部は回転ナデ調整、底部は糸切り離し後に板状圧痕が残る。焼成は良好で、胎土中には白雲母を少量含有し、灰白色を呈す。

248SX156出土遺物 (第39図)

瓦質土器

こね鉢×搦鉢 (8) 現存高2.5cmを測る口縁部から体部上位の破片であり、口縁部は回転ナデ、体部内外面はハケ目調整が施される。焼成は良好であり、白雲母を含有する胎土は灰色から灰白色を呈す。

248SX162暗褐色土出土遺物 (第39図)

土師質土器

こね鉢×搦鉢 (9) 現存高3.85cmを測る口縁部から体部上位の破片であり、回転ナデ調整で成形される。焼成は良好であり、砂粒を多量、石英粒と白雲母を少量含有する胎土は橙灰白色を呈す。

248SX184暗灰色土出土遺物 (第39図)

中国陶器

壺か (10) 現存高1.9cm、底径2.1cmに復元される、体部下位から底部の資料。焼成は良好であり、胎土は灰色を呈す。内外面に薄く施される釉は暗褐色に発色し、失光沢、不透明である。

248SX189暗灰色土出土遺物 (第39図)

青磁

椀 (11) 口径12.8cm、器高5.35cm、底径4.5cmに復元される。外面には縦位に細かい櫛目、内面には櫛状とへら状工具による略花文が施される。焼成は良好であり、素地は黄灰色を呈す。内面および外面下位まで施される釉は光沢質、透明で緑灰色に発色し、外面および内底部に細貫入を生じる。同安溪系青磁の未分類資料。

248SX193灰色土出土遺物 (第39図)

須恵質土器

こね鉢 (12) 現存高7.2cmを測る口縁部から体部上位の破片であり、片口が遺存する。回転ナデ調整で成形のち、指頭により片口を作出する。焼成は良好であり、堅緻な胎土は灰白色を呈す。口縁部外面は重ね焼きにより黒灰色に発色する。東播系。

甕 (13) 現存高2.4cmを測る口縁部の破片であり、回転ナデ調整で成型される。焼成は良好であり、堅緻な胎土は砂粒を多量含有する。産地不明。

瓦

軒丸瓦 (14) 現存高9.8cmを測る。275 B 型式。

248SX194暗灰色土出土遺物 (第39図)

瓦器

椀 c (15) 現存高1.8cmを測り、底径6.2cmに復元される体部下半から底部の破片。内面はへらミガキ、体部外面下位は回転ナデ調整が施される。焼成は良好であり、堅緻な胎土は暗灰色を呈すほか、内面には黒灰色に発色する円形の重ね焼き痕が観察される。

d) 整地層出土遺物

248SX045出土遺物 (第40図)

石製品

用途不明品 (1) 滑石製石鍋B群の口縁部付近を再加工した資料であり、鏝部を削り取るほか、内面と破断面に加工が施されている。長軸長4.4cm、短軸長3.7cm、厚さ2.4cmを測る。

248SX045黄灰色土出土遺物 (第40図)

土師器

坏 a (土師器計測表参照) 口径11.6~14.4cm、器高2.3~3.25cm、底径6.8~11.0cmを計測する。底部は糸切り離し。

小皿 a1 (土師器計測表参照) 口径9.2cm、器高0.85cm、底径7.0cmを計測する。底部は糸切り離し。

須恵質土器

こね鉢（2）現存高4.7cmを測る口縁部から体部上位の破片であり、回転ナデ調整で成形する。焼成は良好であり、堅緻な胎土は灰色を呈す。口縁部外面は重ね焼きにより黒色に発色する。東播系。

248SX045赤色土出土遺物（第40図）

土師質土器

鍋（3）現存高2.9cmを測る口縁部の破片であり、横ナデ調整で成形される。焼成は良好であり、黄灰色を呈し、内面下位が黒茶色に変色する胎土は石英、雲母を微量含有する。

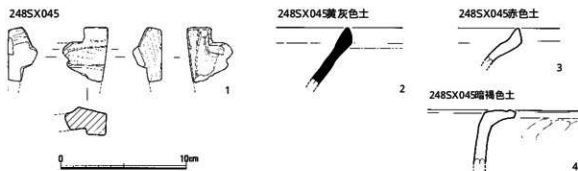
248SX045暗褐色土出土遺物（第40図）

土師器

杯a（土師器計測表参照）口径12.2cm、器高2.65cm、底径8.6cmを計測する。底部は糸切り離し。

土師質土器

鍋（4）現存高4.3cmを測る口縁部から体部上位の破片。口縁部成形の横ナデ調整後に、口縁部上端面に粗目が押捺される。体部内面は横ナデ、外面上位は指頭、以下は横ナデ調整で成形される。焼成は良好であり、白雲母を多量に含有する胎土は暗灰色から黄灰白色を呈す。



第40図 248SX045遺物実測図（1/3）

第三面

1) 道路出土遺物

248SF165灰褐色土出土遺物（第41図）

土師器

小皿 a×b（土師器計測表参照）口径8.6cm、器高1.5cm、底径5.6cmを計測する。底部は糸切り離し。

石製品

砥石（1）黒灰色を呈する粘板岩を素材とする。現存長6.9cm、幅2.0cm、厚さ2.4cmを測る。

金属製品

管状銅製品（2）略円形に圧延した銅板を丸めて円筒状にする。円筒内は硬く締まった土が充填しており詳細不明である。現存長3.5cm、下端径0.6cm、上端径1.0cmを測り、重量3.2gを量る。

鉄釘（3）先端部を欠損し、身部は折れ曲がる。現存長5.5cmを測る。

248SF165黒色土出土遺物（第41図）

土師器

小皿 a1（土師器計測表参照）口径8.6cm、器高1.1cm、底径6.6cmを計測する。底部は糸切り離し。

土師質土器

鍋（4）現存高2.2cmを測る口縁部の破片。口縁部成形の横ナデ調整後に、口縁部上端面に縄目が押捺される。焼成は良好、石英を多く含む胎土は灰黄色を呈す。

こね鉢×搦鉢（5）現存高4.9cmを測る口縁部から体部上位の破片。内面は横位のハケ目ののち、弱いナデが加わる。外面は指頭調整ののち、ナデ調整で仕上げられる。焼成は良好であり、白色微粒子をやや多く含む胎土は、暗茶褐色を呈し、外面には煤が付着する。

須恵質土器

こね鉢（6、7）いずれも口縁部から体部上位の破片であり、現存高は6が3.4cm、7が3.3cmを測る。回転ナデで成形し、6は指頭調整によって、片口を作出する。焼成は良好であり、胎土は暗青灰色を呈す。東播系。

甕（8）現存高8.5cmを測る口縁部から肩部の破片。口縁部内外面をナデ、外面は頸部が縦位、下位は斜位のハケ目調整が施される。内面は指頭調整ののち、ナデ調整。焼成は不良気味であり、胎土は暗褐色を呈す。

青磁

碗（9）現存高2.7cmを測り、底径6.8cmに還元される体部下端から底部の破片。体部外面は回転ヘラケズリ、内面見込みは回転ナデ調整で、沈線が1条施される。高台は削り出し、素地は白色微粒子をやや多く含む堅緻。光沢質、不透明で暗緑灰色に発色する釉は内面と外面上位に施され、焼成はおおむね良好であるが、高台内の露胎部は橙色に発色する。内面見込み部には白色粘土による環状の重ね焼き痕が付着する。未分類。

碗（10）現存高4.3cmを測る口縁部から体部上位の破片。口縁部には刻みを施し輪花とし、内面には口縁部刻みから下方にかけて白泥による垂線が1条引かれる。焼成は良好で素地は堅緻。内外面に施される釉は光沢質、透明で、暗緑灰色に発色する。龍泉窯系青磁の未分類資料。

中国陶器

碗（11）現存高2.8cmを測る黒釉陶器の口縁部から体部上位の破片。焼成は良好であり、堅緻な素地は黄白色を呈す。半光沢質、不透明の釉は内外面に施され、口縁端部は暗茶褐色、他の部位は黒褐色に発色する。

石製品

用途不明品（12）灰色を呈す滑石を素材として、研磨により撥状に成形する。現存長5.7cm、幅7.6cm、厚さ1.7cmを測る。

銭貨（第67図14）欠損する折二銭であるが、遺存する文字から類推して元符通寶と考えた。

金属製品

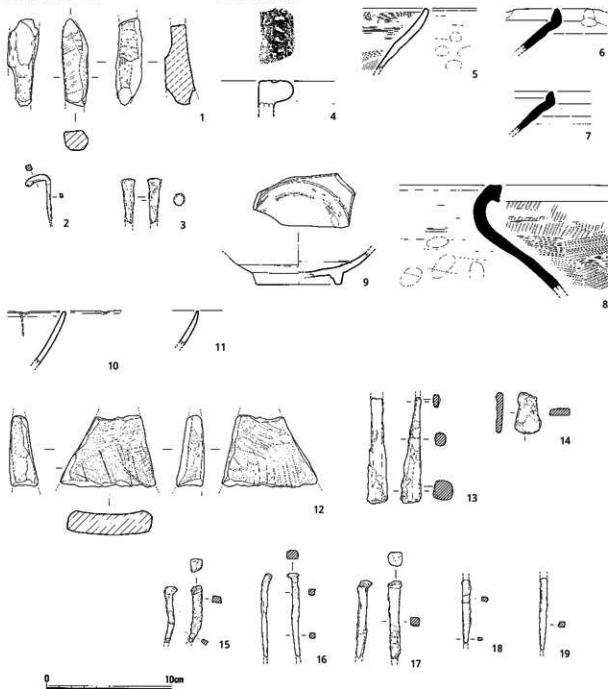
用途不明品（13）鉄製品であり先端部を欠損する。現存長8.4cmを測り、棒状の基部側断面形状は円形を呈し、下部で1.6cm、先端側の断面形状は長方形を呈し短軸長0.3cm、長軸長1.0cmを測る。用途不明。

板状鉄製品（14）現存長3.25cm、最大幅2.1cm、最大厚0.6cm、重量5.5gを測る。用途不明。

鉄釘（15～19）15～17は先端を欠損、18・19は両端を欠損する。現存長は15が4.4cm、16が6.6cm、17は6.2cm、18は5.05cm、19は5.75cmをそれぞれ測る。

248SF165灰褐色土

248SF165黑色土



第 41 图 248SF165 遺物実測図 (1 / 3)

2) 礎石建物出土遺物

248SB140黄褐色土出土遺物 (第42図)

土師器

小皿c (土師器計測表参照) 口径9.0cm、器高2.1cm、底径5.3~5.7cmを計測する。

土師質土器

鍋(1) 現存高3.0cmを測る口縁部から体部上位の破片。体部内外面は指頭調整ののち、ナデ調整で仕上げられる。口縁部は指頭調整、横ナデののち、上端面に縄を押捺する。焼成は良好であり、石英を含有する胎土は黄褐色を呈す。

須恵質土器

こね鉢(2、3) いずれも口縁部から体部上位の破片であり、現存高は2が3.6cm、3が2.7cmを測る。回転ナデ調整で成形される。焼成は良好であり、2の胎土は明灰色を呈し、口縁部外面は重ね焼きのため暗灰黒色に発色する。3の胎土は白色粒子を多く含有し、明青灰色を呈す。東播系。

青白磁

椀(4) 現存高3.2cmを測る体部から底部の破片。外面は回転ヘラケズリ、高台は削り出し、内面は櫛歯状工具とヘラ状工具による文様が施される。焼成は良好。光沢質で透明な釉は高台内を除いて薄く施され緑青灰色に発色する。

蓋(5) 現存高1.8cmを測る天井部から口縁部の破片。型成形によって天井部外面に菊花状の花文が打ち出される。焼成は良好。光沢質でやや濁化した釉は、口縁返し部を除いて薄く施され淡緑白色に発色する。

中国陶器

把手(6) 現存高9.2cm、幅1.8~2.6cm、最大厚0.9cmを測る水注の把手と類推される破片。ヘラ状工具によるナデと貼付ともなう指頭痕が認められる。焼成は良好。白色粒子をやや多く含有する釉は灰色を呈するが部分的に橙色に発色する。暗黄灰色に発色する釉は器面全体に薄く不均一に施す。

壺(7) 現存高2.0cmを測る口縁部から体部上位の破片。半光沢、濁化し黄茶褐色に発色する釉を内外面に薄く施す。口縁上端部には白色を呈す目跡が付着する。未分類。

石製品

碁石(8) 暗緑色を呈す頁岩系の素材を研磨し偏平に仕上げる。径1.3cm、厚さ0.6cmを測り、重量1.6gを量る。

砥石(9) 橙白色を呈す泥岩を素材として、使用面が1面遺存する。現存長7.0cm、幅5.8cm、厚さ0.9cmを測る。

金属製品

鉄釘(10) 両端部を欠損し、現存長3.05cmを測る。

野杵(11) 馬具であり、障泥の上に重ねた切付の下端に留める部材と考えられ、鉄素材を板状に鍛造する。両端部は鋳形先端部に近似する意匠に成形したうえ、短辺0.3mm、長辺0.6cm程を測る長方形の孔を各々穿つ。これを芯材にして、化粧として銅素材の薄板を表側に貼り、芯材形状に合わせて打ち廻して裏側で留める工程が推定できる。完形と考えられるが中央部付近で左右に割れており、この部分には補修孔とみられる径0.3cm程の孔が、上下2ヵ所穿たれていることがX線写真で観察できる。全長27.1cm、最大幅3.6cm、最大厚1.1cmを測り、重量156.0gを量る。

248SB140黒色土出土遺物（第42・43図）

土師器

杯 a（土師器計測表参照）口径16.0cm、器高2.95cm、底径12.0cmを計測する。底部は糸切り離し。

小皿 a1（土師器計測表参照）口径7.8～9.8cm、器高0.85～1.35cm、底径6.0～8.1cmを計測する。底部は糸切り離し。胎土中に白雲母を多量に含有するものがある。

小皿 1（12）口径9.0cm、現存高2.4cmを測る口縁部から体部下位が遺存する資料。内外面は回転ナデのち、ヘラミガキ調整で仕上げられる。焼成は良好。白雲母細片を多く含有する胎土は黄褐色を呈し、外面には2.0cm大の黒斑が観察される。

瓦器

椀（13）口径18.0cm、現存高5.1cmを測る口縁から体部下半まで遺存する資料。内外面はヘラミガキ調整で仕上げられる。焼成は良好であり、体部は明灰色を呈し、口縁部は黒灰色に発色する。

小皿 1（14）現存高1.6cmを測る口縁部から底部の破片。底部は回転糸切り離し、体部内外面は回転ナデ調整で仕上げられる。焼成は良好であり、黒色から黒灰色を呈する。

土師質土器

鍋（15）現存高2.7cmを測る口縁部から体部上位の破片。横ナデによって成形される。口縁部上端面には縄が押捺される。

鉢（16）現存高2.5cmを測る口縁から体部の破片。内外面は回転ナデ調整で成形。焼成は良好。白色・黒色粒子、白雲母を多量に含有する胎土は器面が黄褐色、断面芯部が灰色を呈す。口縁部外面には煤が付着する。

須恵質土器

こね鉢（17、18）いずれも口縁部から体部上位の破片。現存高は17が2.3cm、18が2.7cmを測る。回転ナデ調整で成形される。焼成は良好であり、胎土は18が黒色粒子を多く含有し、17、18ともに灰白色を呈す。いずれも口縁部外面は重ね焼きのため暗灰色から暗灰白色に発色する。

甕（19）口径23.8cm、現存高3.6cmを測る口縁部から体部上位の破片。器面は回転ナデ調整で仕上げられるが、頸部には一次調整の指頭痕が観察できる。焼成は良好。小礫、白色粒子を多く含有する胎土は暗青灰色を呈し、内面には暗灰黒色を呈す煤が薄く付着する。

瓦質土器

こね鉢（20）現存高3.6cmを測る口縁部から体部上位の破片。器面は横ナデによって成形。口縁部は横ナデと指頭調整によって片口を作出する。焼成は良好。胎土は石英および白色粒子を多量に含有し、器面は黒灰色を呈す。

白磁

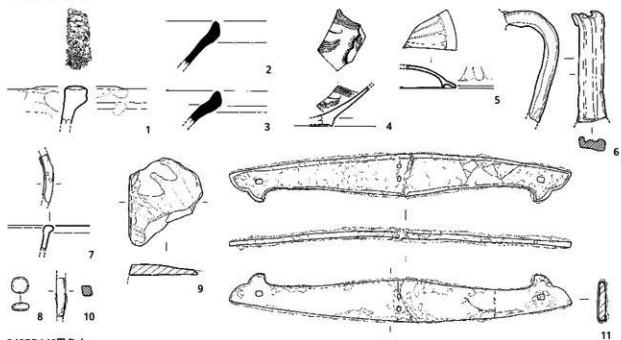
皿（21）現存高2.1cmを測る口縁部から体部上半の破片。黒色微粒子を多く含む素地は堅緻で灰白色を呈す。内外面に薄く施される釉は光沢質、透明であり、黄白色に発色する。

水注（22）現存高2.7cmを測る頸部から肩部の破片。頸部と肩部を繋ぐ耳を貼付する。黒色粒子を多く含む素地は堅緻で灰白色を呈す。内外面に施される釉は光沢質、不透明で緑灰色に発色し、細貫入を生じる。内面の釉厚は不均一である。

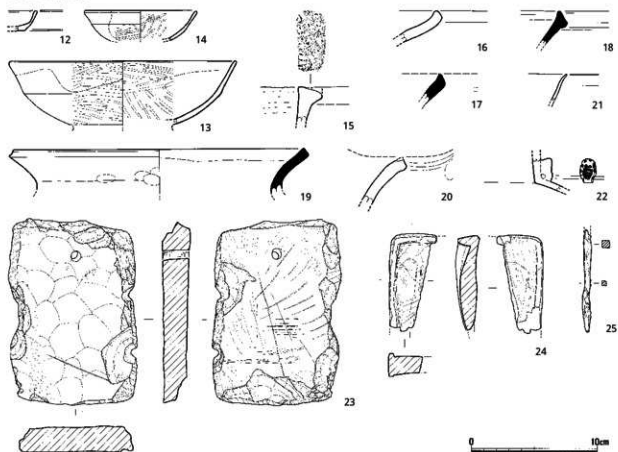
石製品

権（23）黒灰色を呈す滑石を素材とし、切削により、長方形の板状に成形し、径0.7cm程の孔を穿つ。片側縁には半円状の抉りが2ヵ所施される。表裏面および側縁には煤が付着する。長軸長14.9cm、幅10.3cm、厚さ2.2cmを測り、重量583.0gを量る。

248SB140黄褐色土



248SB140黒色土



第 42 図 248SB140遺物実測図その 1(1 / 3)

硯 (24) 灰色を呈する滑石を素材とする。海と陸の一部が遺存し、形状から方硯と考えられる。堤には部分的に墨が付着する。現在長7.9cm、現在幅3.6cm、厚さ1.8cmを測る。

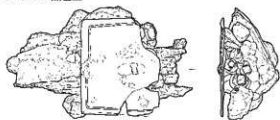
銭貨 (第67図7~12) 初銚年の順に聖宋元寶、至和通寶、熙寧元寶、元祐通寶、政和通寶、嘉泰通寶の拓本を示す。

金属製品

鉄釘 (25) 両端部を欠損し、現存長8.1cmを測る。

方形鏡と鉄製品 (26) 錆により複数の鉄製品同士が結束し、これらが銅鏡の鏡面側に固着する産状を呈す。鏡は遺存する辺が7.6cmを測り、これに対して欠損する辺は、鈕の位置から類推して8.4cmとやや長く復元される方鏡であり、全体の約1/4程が欠損している。鏡背は無文、素組であり、周縁は低い蒲鉾式を採る。鏡面の研ぎ減りが著しく厚さは0.1cmと薄い。鏡に固着・集束する複数の鉄製品は錆化が著しく詳細が不明瞭であるものの、形状はおおむね棒状と板状を呈すものに区別できる。このうち棒状の製品は12本あり、うち、端部が折り曲げられる形状から釘とみられるものが6本認められる。また、集束の中心部にあるため形状が不明であるが、断面形が方形を呈すものが4本あり、これらも釘の可能性が考えられる。計測可能なものは全長5.6~10.0cmを測る。断面方形を呈す棒状製品は他に1本あるが、これは周りに木質が比較的厚く遺存することから釘以外の製品も想定され、あるいは鉄鏃の茎と矢柄であるかも知れない。棒状製品では他に端部が円環状を呈すものが1本認められる。板状の製品は3枚認められ、いずれも短冊状を呈し、量量はそれぞれ2.4cm×6.4cm、3.0cm×7.0cm、2.0cm×不明となる。方鏡と鉄製品の総重量は461.0gを量る。

248SB140黒色土



248SB140a出土遺物

銭貨 (第67図6) 太平通寶を真書で鈎込む。

248SB140s出土遺物

土師器

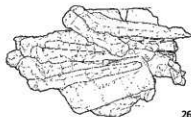
小皿 a1 (土師器計測表参照) 口径8.2~8.8cm、器高1.1~1.3cm、底径6.8cmを計測する。底部は糸切り離しであり、胎土に白雲母を多量含有するものがある。



248SB140v出土遺物

土師器

小皿 a1 (土師器計測表参照) 口径7.4cm、器高1.2cm、底径4.8cmを計測する。底部は糸切り離し。



第 43 図 248SB140遺物実測図その 2 (1 / 3)

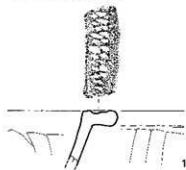
3) 掘立柱建物出土遺物

248SB100c暗黄褐色土出土遺物 (第44図)

土師質土器

鍋(1) 現存高4.4cmを測る口縁部から体部上位の破片。口縁部は横ナデ調整ののち、口縁部平坦面に繩を捺す。体部内外面は縦位のナデ調整。焼成は良好であり、石英を多量に含有する胎土は黄橙色を呈す。

248SB100c暗黄褐色土



第 44図 248SB100遺物実測図(1/3)

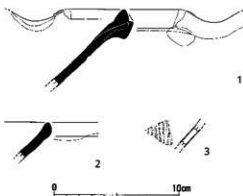
4) 溝出土遺物

248SD120出土遺物

土師器

小皿 a1 (土師器計測表参照) 口径8.4cm、器高0.9cm、底径6.8cmを計測する。底部は糸切り離し。

248SD125黄灰色土



第 45図 248SD125遺物実測図(1/3)

248SD125黄灰色土出土遺物 (第46図)

土師器

杯 a (土師器計測表参照) 口径12.2cm、器高2.6cm、底径8.0cmを計測する。底部は糸切り離し。

小皿 a1 (土師器計測表参照) 口径8.6cm、器高1.35cm、底径6.7cmを計測する。底部は糸切り離し。

須恵質土器

こね鉢(1、2) いずれも口縁部から体部上位の破片であり、現存高は1が6.2cm、2が3.0cmを測る。回転ナデで成形し、2は指頭調整によって、片口を作成する。焼成は良好であり、胎土は暗青灰色から明灰色を呈す。いずれも口縁部には重ね焼きによる色調変化が認められ、1は黒緑色、2は暗灰色に発色する。東播系。

中国陶器

鉢(3) 現存高1.9cmを測る体部の破片。外面は横位のヘラケズリ、内面は縦位の掃目が施される。胎土は白色粒子をやや多く含有し、赤褐色を呈す。内外面には茶褐色に発色する釉を薄く施す。Ⅱ類。

5) 井戸出土遺物

248SE110暗灰色土出土遺物 (第47図)

土師器

小皿 a1 (土師器計測表参照) 口径7.6cm、器高1.45cm、底径5.8cmを計測する。底部は糸切り離し。

金属製品

鉄釘(1) 頭部が遺存する一方、先端側を欠損する。現存長2.25cmを測り、重量2.3gを量る。

248SE110黄褐色土出土遺物 (第47図)

土師器

杯 a (土師器計測表参照) 口径14.0cm、器高2.5cm、底径10.0cmを計測する。底部は糸切り離し。

小皿 a1 (土師器計測表参照) 口径8.0~9.6cm、器高1.05~1.15cm、底径6.0~7.6cmを計測する。底部は糸切り離し。油煙が付着するものがある。

小皿 a×b (土師器計測表参照) 口径8.7cm、器高1.55cm、底径6.1cmを計測する。底部は糸切り離し。

瓦質土器

羽釜 (2) 現存高3.65cmを測る口縁部から体部の破片であり、口縁部から体部が横ナデ、内面はハケ目調整で仕上げられる。焼成は良好であり、胎土は断面芯部が黒灰色、器面は灰白色を呈す。

国産陶器

甕 (3) 現存高4.3cm、縁帯幅は2.5cmを測る口縁部の破片であり、回転ナデ調整で成形される。焼成は良好であり、砂粒を多量に含有する胎土は断面芯部が黒灰色を呈し、器面には赤褐色に発色した降灰が付着する。常滑系。

瓦

軒丸瓦 (4) 現存高4.65cmを測る瓦質焼成の小破片であり、内区側には左巻きの巴文の尾と類推される隆線が観察でき、圏線を隔てた外区には、比較的大振りな楕円形の珠文が3個遺存する。

248SE110茶灰色土出土遺物 (第46図)

土師器

小皿 a1 (土師器計測表参照) 口径8.4~10.8cm、器高0.75~1.25cm、底径7.0~9.0cmを計測する。底部は糸切り離し。胎土中に白雲母を多量含有するものがある。

大皿 (5) 口径20.9cmに復元でき、現存高2.2cmを測る資料であり、器面は回転ナデ調整が施されているようであるが摩耗が著しい。焼成不良であり、白色粒子、白雲母を少量含む胎土は橙灰色を呈し、内面は黒褐色に変色する。

土師質土器

火舎 (6) 現存高3.0cmを測る口縁部から体部上位の破片であり、横ナデ調整による成形後、口縁部上面に巴文を押捺する。焼成は良好であり、石英粒少量、角閃石を微量含有する胎土は橙色から黄灰白色を呈す。

須恵質土器

こね鉢 (7~9) いずれも口縁部から体部上位の破片であり、現存高は7が3.45cm、8が2.7cm、9が4.4cmをそれぞれ測る。回転ナデ調整で仕上げられ、焼成は良好であり、砂粒を少量含有する胎土は灰色を呈し、7の口縁部外面は重ね焼きのため、黒灰色に発色する。東播系。

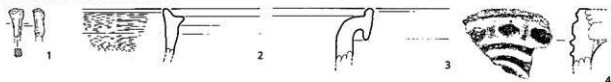
甕 (10) 現存高3.15cmを測る口縁部の破片であり、回転ナデ調整で仕上げられ、外面には格子印が僅かに認められる。焼成は良好。砂粒を少量含有する胎土は微細な空隙が生じ、断面が暗赤褐色、器面が青灰色を呈し、外面下位は黒変する。産地不明。

瓦質土器

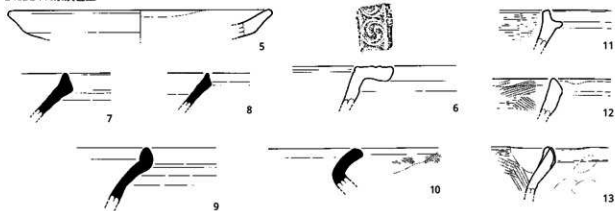
羽釜 (11) 現存高2.95cmを測る口縁部から体部の破片であり、口縁部から体部外面が横ナデ、内面はハケ目調整で仕上げられる。焼成は良好であり、砂粒多量、白雲母少量を含有する胎土は断面芯部が黒灰色、器面は灰白色を呈す。

こね鉢×搦鉢 (12、13) いずれも口縁部から体部上位の破片であり、現存高は12が2.95cm、13が3.75cmをそれぞれ測る。口縁部が回転ナデ、体部内面はハケ目調整で仕上げられる。13は口縁部から体部内外面を指頭調整し片口を作出する。焼成は良好であり、白色粒子を少量含有する胎土は灰白色を呈し、12の口縁端部は黒色に変色する。

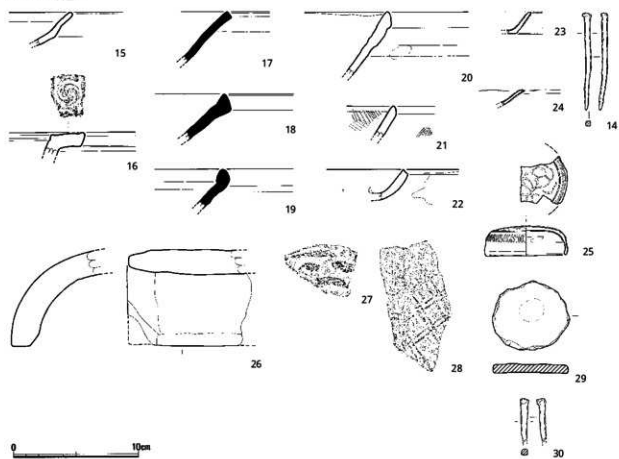
248SE110暗灰色土 248SE110黄褐色土



248SE110灰灰色土



248SE110灰色土



0 10cm

第 46 图 248SE110 遺物実測図 (1 / 3)

金属製品

鉄釘 (14) 完形であり、長さ7.7cmを測り、重さ4.0gを量る。

248SE110灰色土出土遺物 (第46図)

土師器

杯 a (土師器計測表参照) 口径12.6~12.8cm、器高2.35~2.45cm、底径8.4cmを計測する。底部は糸切り離し。

小皿 a1 (土師器計測表参照) 口径7.6~10.0cm、器高0.95~1.15cm、底径5.6~8.0cmを計測する。底部は糸切り離し。

小皿 a×b (土師器計測表参照) 口径7.4cm、器高1.35cm、底径5.0cmを計測する。底部は糸切り離し。

皿 (15) 現存高2.65cmを測る口縁部から体部の破片であり、回転ナデ調整で成形される。焼成は良好であり、胎土は橙灰白色を呈す。

土師質土器

火舎 (16) 現存高1.8cmを測る口縁部の破片であり、回転ナデ調整による成形後、口縁部上面に巴文を押捺する。焼成は良好であり、石英粒少量を含有する胎土は橙色を呈す。

須恵質土器

こね鉢 (17~19) いずれも口縁部から体部上位の破片であり、現存高は17が4.1cm、18が3.7cm、19が3.1cmをそれぞれ測る。回転ナデ調整で仕上げられ、焼成は良好であり、白色粒子を少量含有する胎土は17は暗灰色、18は橙色、19は暗灰色を呈し、17、18の口縁部外面は重ね焼きのため、黒灰色に発色する。東播系。

瓦質土器

こね鉢×搦鉢 (20、21) いずれも口縁部から体部上位の破片であり、現存高は20が5.0cm、21が2.45cmをそれぞれ測る。20は口縁部が回転ナデで仕上げられるほか、器面の剥離が著しく、体部外面に指頭痕が僅かに認められるに止まる。焼成は不良であり、白色粒子を少量含有する胎土は暗灰色から灰白色を呈す。21は口縁部から体部外面が回転ナデ調整であり、体部にはハケ目が僅かに認められる。内面はハケ目調整。焼成は良好であり、白雲母を多量に含有する胎土は堅緻であり、口縁部が灰色、体部内面が橙色を呈す。

国産陶器

卸皿 (22) 現存高2.45cmを測る口縁部から体部下位の破片であり、回転ナデ調整で成形後、内面下位に卸目を施す。焼成は良好であり、黒色微粒子を少量含有する胎土は堅緻で灰白色を呈し、内外面には光沢質で明緑色に発色し、細貫入を生じる軸を施すが、外面には剥離が見られる。瀬戸産。

白磁

皿 (23) 現存高1.75cmを測る口縁部から底部の破片であり、口縁部および体部外面下位を除いて施される軸は光沢質、透明で乳白色に発色し、細貫入を多く生じている。K-2類。

青白磁

皿 (24) 現存高1.25cmを測る口縁部から体部の破片であり、口縁部には輪花の刻みを有す。黒色粒子を微量含有する胎土は堅緻で灰白色を呈し、内外面に施され、光沢質、透明で淡青白色に発色する軸は細貫入をやや多く生じている。

合子蓋 (25) 天井部径5.4cm、器高2.35cm、底径6.4cmに復元される。型成形であり、外面天井部には花文を打ち出していると思われる。黒色粒子を微量含有する素地は灰白色を呈し堅緻。光沢質、透明で

淡緑色に発色し、細貫入を多く生じている釉は、外面および内面天井部に施される。

瓦

丸瓦(26) 現存長9.7cm、現存高7.6cm、厚さ2.1cmを測る。瓦側縁調整法はC手法1を採る。焼成は良好であり、白色粒子を少量含有する胎土は青灰色を呈す。

軒丸瓦(27) 現存高3.6cmを測る瓦質焼成の小破片であり、比較的大振りな楕円形の珠文が2個遺存する。

文字瓦(28) 平瓦凸面に不規則な二重格子と「賀茂」銘の一部が打ち出される。903B a 型式。

土製品

円盤状加工品(29) 白雲母を多量含有する、底部糸切り離しの土師器供膳具を転用するため底部周縁を打割し、円盤状に成形する。長軸長6.05cm、短軸長5.45、厚さ0.7cmを測る。

金属製品

鉄釘(30) 先端部側を欠損しており、現存長3.4cmを測り、重量2.4gを量る。

248SE135暗灰色土出土遺物(第47図)

土師器

小皿 a1 (土師器計測表参照) 口径7.7~9.0cm、器高1.05~1.3cm、底径5.8~8.0cmを計測する。底部は糸切り離し。

土師質土器

火舎(1) 現存高4.2cmを測る口縁部から体部上位の破片であり、体部内面を横ナデ調整、その他は回転ナデ調整によって成形したのち、口縁部上面に巴文を押し捺す。焼成は良好であり、白雲母、白色粒子を多量に含有する胎土は黄褐色を呈す。口縁部上面から内面にかけて油煙が付着する。

国産陶器

卸皿(2) 現存高2.55cmを測る口縁部から体部下位の破片であり、回転ナデ調整で成形後、内面下位に卸目を施す。焼成は良好であり、黒色微粒子を少量含有する胎土は堅緻で灰白色を呈し、内外面には光沢質で明緑灰色から橙色に発色する釉を施すが、外面は剥離がみられる。瀬戸産。

中国陶器

壺(3) 現存高2.8cmを測る口縁部付近の破片であり、白色粒子を少量含有する胎土は灰白色を呈し堅緻。内外面に施される釉は緑色に発色し光沢質、不透明であり、極細貫入を多量に生じる。

248SE135灰色土出土遺物(第47図)

土師器

小皿 a1 (土師器計測表参照) 口径9.4~9.6cm、器高1.1~1.25cm、底径7.2~8.0cmを計測する。底部は糸切り離し。

須恵質土器

こね鉢(4~6) いずれも口縁部から体部上位の破片であり、現存高は4が3.85cm、5が3.3cm、6が4.2cmをそれぞれ測る。回転ナデ調整で仕上げられ、焼成は良好であり、白色粒子を少量含有する胎土は暗灰色から青灰色を呈す。口縁部外面は重ね焼きのため、4が黒灰色、5が暗灰色、6は暗緑色に発色する。東播磨。

国産陶器

大甕(7) 現存高1.45cmを測る口縁部の破片。回転ナデ調整で仕上げられる。焼成は良好であり、白

色粒子を少量含有する胎土は青灰色を呈し堅緻。常滑系。

白磁

皿（8）現存高2.45cm、底径6.4cmを測る体部から底部が遺存する資料であり、成形技法、器形などの特徴がK-1類に近似するが、内面見込みには牡丹と思われる花文の型押しが施される。未分類資料。

青磁

杯（9）口径10.4cm、器高3.35cm、底径4.8cmに復元される。体部外面に錦蓮弁文が施され、内面見込みには双魚文が貼付される。龍泉窯系青磁Ⅲ-4b類。

中国陶器

耳壺（10）口径8.8cm、現存高4.35cmを測る口縁から肩部が遺存する資料であり、砂粒を多量含有する胎土は黄灰白色を呈す。XI類。

瓦

文字瓦（11）平瓦凸面には、二重格子と「賀茂瓦」が打ち出される。903A型式。

金属製品

板状銅製品（12）長軸長3.5cm、短軸長3.4cm、厚さ0.25cmを測り、重量9.8gを量る銅素材の板状製品であり、遺存する縁辺は斜めに面取りが施されている。帯金具の可能性はある。

248SE160黒灰色土出土遺物

土師器

小皿a1（土師器計測表参照）口径7.6～8.6cm、器高0.9～1.15cm、底径5.0～6.8cmを計測する。底部は糸切り離し。

小皿a×b（土師器計測表参照）口径8.4cm、器高1.45cm、底径6.6cmを計測する。底部は糸切り離し。

248SE160灰褐色土出土遺物（第47図）

土師器

小皿a1（土師器計測表参照）口径8.2～8.8cm、器高0.95～1.15cm、底径6.6～7.0cmを計測する。

須恵質土器

甕（13）現存高2.7cmを測る口縁部の破片であり、回転ナデで仕上げられる。焼成は良好。白色粒子を少量含有する胎土は青灰色を呈し、外面下位には黒灰色に発色する自然釉が付着する。産地不明。

白磁

皿（14）口径9.3cm、現存高2.35cmに復元される口縁部から体部上位が遺存する資料であり、体部外面にはへら状工具によって蓮弁文が彫られる。黒色粒子を微量含有する素地は淡黄灰白色を呈し、口縁部を除いて内外面に施される釉は光沢質で乳白色に発色し、細貫入を多量に生じる。未分類。

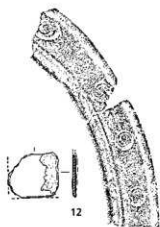
248SE170黄灰色土出土遺物（第47図）

土師質土器

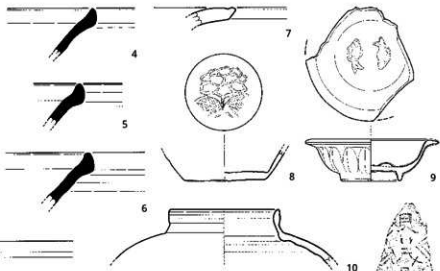
鍋（15）現存高5.4cmを測る口縁部から体部の破片であり、口縁部横ナデ、体部外面は疎らな縦位のハケ目調整、内面はナデが施される。焼成は良好であり、砂粒、石英、白雲母を少量含有する胎土は橙色を呈し、外面には煤が付着する。

鉢（16）器高4.9cmを測る口縁部から底部の破片であり、内外面を回転ナデ調整で仕上げ、底部は糸切り離し。焼成は良好であり、砂粒、赤褐色、白雲母を少量含有する胎土は淡褐色から暗褐色を呈す。

248SE135暗灰色土



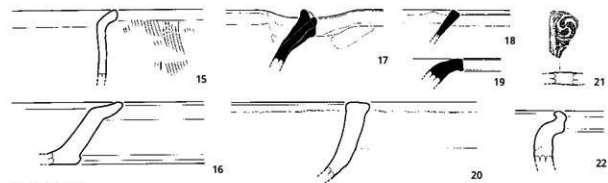
248SE135灰色土



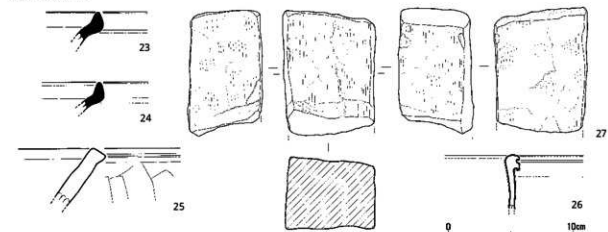
248SE160灰褐色土



248SE170黄灰色土



248SE170灰色土



第 47 图 248SE135·160·170 遺物実測図 (1/3)

須恵質土器

こね鉢 (17、18) いずれも口縁部から体部の破片であり、現存高は17が4.35cm、18が2.3cmを測る。いずれも回転ナデ調整で成形され、17は片口作出のため、指頭調整が口縁部付近に加わる。焼成は良好で灰白色から暗灰色を呈す。東播系。

甕 (19) 現存高2.0cmを測る口縁部の破片であり、回転ナデ調整で仕上げられる。焼成は良好であり、黒色粒子を多量含有する胎土は灰白色を呈す。産地不明。

瓦質土器

火鉢 (20) 現存高6.05cmを測る口縁部から体部の破片であり、横ナデ調整で仕上げられる。焼成は良好。白雲母を多量含有する胎土は断面芯部が灰色、外面が黄灰白色、内面が黒褐色を呈す。

火舎 (21) 現存高1.05cmを測る口縁部の破片であり、回転ナデののち、上面に巴文を押捺する。

国産陶器

甕 (22) 現存高4.15cmを測る口縁部から体部上位の破片。回転ナデ調整で仕上げられる。焼成は良好であり、胎土は灰白色を呈し、器面は明褐色から暗緑色に発色する降灰に覆われている。常滑系。

248SE170灰色土出土遺物 (第47図)

土師器

小皿 a1 (土師器計測表参照) 口径9.4cm、器高1.0cm、底径7.4cmを計測する。底部は糸切り離し。

須恵質土器

こね鉢 (23、24) いずれも口縁部から体部上位の破片であり、現存高は23が2.65cm、24が2.35cmを測る。回転ナデ調整で仕上げられ、焼成は良好で堅緻な胎土は暗灰色から灰白色を呈す。口縁部外面は重ね焼きのため23が黒色、24が暗灰色に発色する。東播系。

国産陶器

こね鉢 (25) 現存高4.55cmを測る口縁部から体部の破片であり、口縁部から体部内面は回転ナデ調整、体部外面はヘラケズリが施される。焼成は良好であり、砂粒を多量に含有する胎土は赤褐色を呈す。常滑系。

中国陶器

器種不明 (26) 現存高4.2cmを測る口縁部から体部の破片であり、焼成は良好。白色粒子を少量含有する胎土は暗灰色を呈す。半光沢、透明で淡緑灰色に発色する釉は全面に施されたのち、口縁端部上面が拭き取られている。釉は細貫入を多量に生じる。

石製品

砥石 (27) 明灰色から乳白色を呈す花崗岩を素材とし、4面が使用され弱い摩耗が観察される。現存長10.0cm、幅7.0cm、厚さ5.7cmを測り、重量773.0gを量る。

248SE175暗灰色土出土遺物 (第48図)

土師器

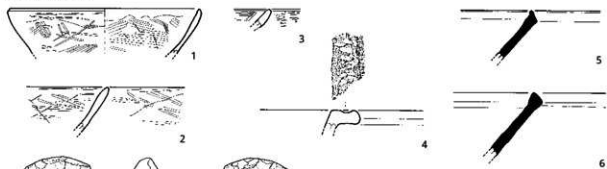
杯 a (土師器計測表参照) 口径15.0cm、器高2.4cm、底径11.6cmを計測する。底部は糸切り離し。

小皿 a1 (土師器計測表参照) 口径8.8cm、器高0.95~1.25cm、底径7.2~7.4cmを計測する。底部は糸切り離し。胎土中に白雲母を多量に含有する。

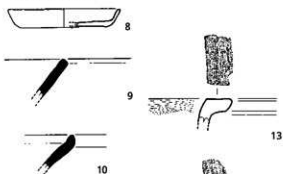
瓦器

椀 (1、2) 1は口径15.3cmに復元され、現存高3.65cmを測る口縁部から体部の資料であり、回転ナ

248SE175暗灰色土



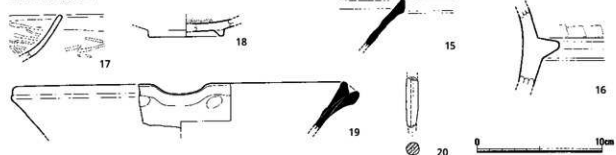
248SE175灰色土



248SE180暗灰色土



248SE180灰色土



第 48 圖 248SE175・180遺物実測図

デ調整ののち、コテ当てにより成形し、ヘラミガキで仕上げる。焼成は良好で、体部は灰白色を呈すほか、口縁部付近は暗灰色に発色する。2は現存高3.6cmを測る口縁部から体部の破片であり、成形技法は1に準じる。焼成は良好であり、口縁部から内面は暗灰色、体部外面は灰白色を呈す。

供膳具(3) 現存高1.5cmを測る口縁部から体部の破片であり、口縁部内側に沈線が1条巡る。内外面は細密なヘラミガキによって仕上げられる。桶葉型。

土師質土器

鍋(4) 現存高1.5cmを測る口縁部の破片であり、横ナデののち、上面に縄を押捺する。焼成は良好で砂粒を多量に含有する胎土は淡褐色を呈し、外面には煤が付着する。

須恵質土器

こね鉢(5、6) いずれも口縁部から体部の破片であり、現存高は5が3.95cm、6が5.2cmをそれぞれ測る。回転ナデ調整で仕上げられ、焼成は良好で緻密な胎土は灰色を呈すほか、6の口縁部外面は重ね焼きのため黒灰色に発色する。東播系。

石製品

磨製石斧(7) 灰白色を呈す玄武岩を素材とした太形蛤刃石斧と考えられるが、刃部側を欠損する。現存長14.5cm、最大幅7.1cm、最大厚4.5cmを測る。混入品。

248SE175灰色土出土遺物(第48図)

土師器

小皿a1(8) 口径8.9cm、器高1.45cm、底径7.0cmを測る。口縁部から体部は回転ナデ調整、内底面は不定方向のナデ、底部は糸切り離しである。

小皿a1(土師器計測表参照) 口径9.0cm、器高0.9cm、底径7.0cmを計測する。底部は糸切り離し。

須恵質土器

こね鉢(9、10) いずれも口縁部から体部の破片であり、回転ナデ調整により仕上げられる。このうち9は現存高3.25cmを測る。焼成は良好であり、黒色粒子を多量に含有する胎土は淡緑灰色を呈す。産地不明。10は現存高2.8cmを測る。焼成は良好であり、外面暗灰色、内面灰白色を呈す。東播系。

248SE180暗灰色土出土遺物(第48図)

土師器

小皿a1(土師器計測表参照) 口径8.0~9.0cm、器高0.85~1.3cm、底径6.0~7.4cmを計測する。底部は糸切り離し。胎土中に白雲母を多量含有するもの、器面に油煙が付着するものがある。

瓦器

椀(11、12) いずれも口縁部から体部上位の破片であり、回転ナデ調整ののち、コテ当てによる成形を経て疎らなヘラミガキによって仕上げられる。焼成は良好であり、体部は灰白色から暗灰色を呈し、口縁部から体部上位は黒灰色に発色する。現存高は11が4.6cm、12が3.2cmを測る。

土師質土器

鍋(13、14) いずれも口縁部の破片であり、現存高は13が2.0cm、14が1.4cmを測る。13は外面横ナデ、上面から内面をハケ目調整する。14は横ナデ調整ののち、上面に縄を押捺される。焼成は良好であり、石英、白色粒子を多量に含有する胎土は茶褐色を呈し、外面は黒褐色から黒灰色に変色する。

須恵質土器

こね鉢(15) 現存高3.9cmを測る口縁部から体部の破片であり、回転ナデ調整で仕上げられる。焼成

は良好であり、白色粒子、小礫をやや多く含有する胎土は暗青灰色を呈す。東播系。

石製品

滑石製石鍋（16）現存高6.3cmを測る体部上位の破片であり、鈎が遺存する。器面はノミ状工具による削りで成形される。B群。

248SE180灰色土出土遺物（第48図）

土師器

小皿 a1（土師器計測表参照）口径7.8cm、器高0.9cm、底径6.0cmを計測する。底部は糸切り離し。

瓦器

椀（17）現存高3.4cmを測る口縁部から体部の破片であり、口縁部は回転ナデ調整、体部は回転ナデののち、疎らなヘラミガキが施される。焼成良好であり、口縁部は黒灰色、体部は灰白色を呈す。

椀c（18）現存高1.4cmを測り、底径5.8cmに復元される。底部は回転ヘラ切り後に高台貼付。内底面にはヘラミガキを施す。焼成良好であり、灰白色を呈す。

須恵質土器

こね鉢（19）口径26.5cmに復元され、現存高3.9cmを測る口縁部から体部上位の資料であり、片口が遺存する。回転ナデ調整ののち、指頭調整により片口を作出する。焼成は良好であり、青灰色を呈す。東播系。

土製品

土錘（20）現存長3.9cm、最大径1.0cmを測り、両端部を欠損する。ナデ調整で成形される。焼成良好であり、黄橙色から赤橙色を呈す。重量は4.7gを量る。

248SE185茶色土出土遺物（第49図）

土師器

杯 a（土師器計測表参照）口径12.4cm、器高2.45cm、底径9.0cmを計測する。底部は糸切り離し。

小皿 a1（土師器計測表参照）口径8.2cm、器高1.3cm、底径6.0cmを計測する。底部は糸切り離し。

須恵質土器

こね鉢（1、2）いずれも口縁部から体部上位の破片であり、回転ナデ調整で仕上げられるが、1の内面は使用による摩耗と、煤の付着のため調整不明瞭。焼成は良好であり、灰白色から青灰色を呈す。口縁部外面は重ね焼きのため黒灰色に発色する。東播系。

国産陶器

壺か（3）現存高3.8cmを測る体部の破片とみられ、内面は回転ナデで仕上げられる。黒色粒子をやや多く含有する胎土は縦織で灰黄色を呈し、外面には不透明、半光沢で暗緑灰色に発色し、細貫入を生じる釉が施される。瀬戸産か。

石製品

砥石（4）灰色を呈す片麻岩を素材とし、4面を使用面とする。側面には煤が付着し、裏面には節理面に沿った剥離がみられる。

248SE185灰色土出土遺物（第49図）

土師器

小皿 a1（土師器計測表参照）口径8.2～8.6cm、器高1.1～1.15cm、底径6.6～7.0cmを計測する。底部

は糸切り離し。胎土中に白雲母を多量含有するものがある。

瓦器

碗c(5) 現存高4.6cmを計測し、底径7.4cmに復元される体部から底部の資料であり、外面は疎らなヘラミガキで仕上げられるが、内面は器面の摩耗と、破断面まで付着する飛沫状の黒色物質により調整が不明瞭である。焼成はやや不良であり、石英を多く含有する胎土は灰白色を呈す。

小皿(6) 現存高1.5cmを測る口縁部から体部の破片であり、焼成不良、器面摩耗のため調整不明瞭。色調は外面は黒灰色、内面は灰白色を呈す。

壺(7) 現存高3.1cmを測る口縁部から体部の破片であり、内外面に回転ナデ調整が施される。また、外面には櫛描き波状文とみられる沈線が2条観察できる。焼成は比較的良好であり、白色粒子、石英を多く含有する胎土は明青灰色を呈す。

須恵質土器

こね鉢(8) 現存高5.6cmを測る口縁部から体部の破片であり、回転ナデ調整で仕上げられ、体部内面下位には使用による摩耗が観察できる。焼成は良好であり、白色粒子をやや多く含有する胎土は青灰色を呈し、口縁部外面は重ね焼きのため黒灰色に発色する。東播系。

甕(9) 現存高7.1cmを測る口縁部から肩部にかけての破片であり、口縁部は回転ナデ、肩部外面は格子叩き、内面は横ナデ調整が施される。焼成は良好であり、白色粒子、黒色粒子をやや多く含有する胎土は青灰色を呈す。東播系。

瓦質土器

こね鉢×搦鉢(10) 現存高3.8cmを測る口縁部から体部上位の破片であり、口縁部横ナデ、体部外面はナデ、内面にはハケ目調整が施される。焼成は良好であり、白色粒子をやや多く含有する胎土は青灰色から灰白色を呈し、外面には煤が付着する。

国産陶器

こね鉢(11) 現存高2.7cmを測る体部下位から底部の破片。外面はナデ調整で仕上げられるが、内面は使用による摩耗が著しい。焼成は良好であり、白色粒子を多量に含有する胎土は暗灰色から黄褐色を呈す。常滑系。

瓦

軒丸瓦(12) 残存長5.3cm、瓦当厚3.0cmを測る。124型式。

石製品

滑石製石鍋(13) 現存高3.1cmを測る口縁部から体部上位の破片であり、鏝が遺存する。ノミ状工具による削りで成形される。B群。

248SE185暗灰色土出土遺物(第49図)

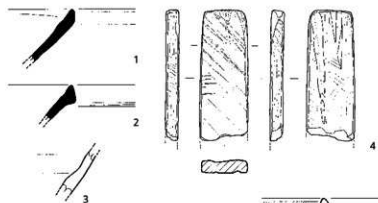
土師器

小皿a1(土師器計測表参照) 口径8.6~8.8cm、器高1.15~1.25cm、底径6.0~6.8cmを計測する。底部は糸切り離し。

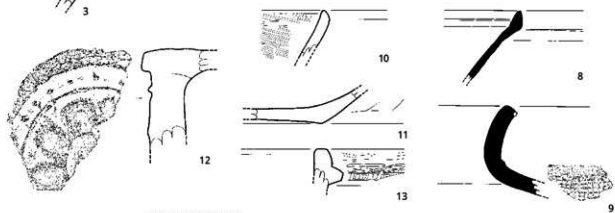
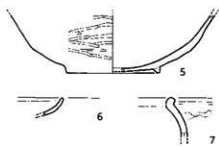
須恵質土器

こね鉢(14~17) いずれも口縁部から体部の破片であり、回転ナデ調整で仕上げられる。焼成は良好で、白色粒子をやや多く含有する胎土は青灰色から暗灰色を呈し、口縁部外面は重ね焼きのため、黒灰色から黒灰緑色に発色する。現存高は14が5.2cm、15が4.4cm、16が4.1cm、17が3.3cmをそれぞれ測る。東播系。

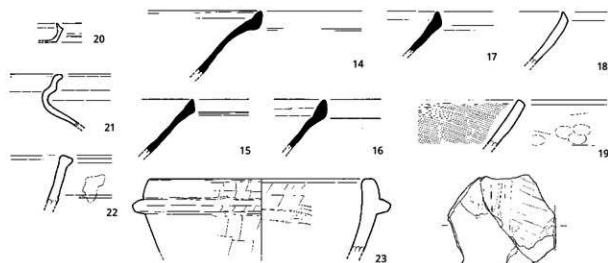
248SE185褐色土



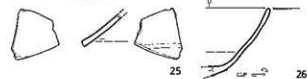
248SE185灰色土



248SE185暗灰色土



248SE195暗灰色土



248SE195灰色土



0 10mm

第 49 图 248SE185・195 遺物実測図 (1 / 3)

瓦質土器

こね鉢×甗鉢 (18, 19) いずれも口縁部から体部の破片であり、18の内外面は回転ナデ調整が施される。内面は焼成時の黒変が観察され、外面には煤が付着する。19は口縁部回転ナデ。体部外面は指頭調整ののち、ナデで仕上げ、内面はハケ目調整である。現存高は18が4.2cm、19が3.7cmをそれぞれ測る。

青白磁

合子身 (20) 現存高1.5cmを測る口縁部から底部の破片であり、外面には沈線が2条施される。光沢質で薄緑灰色に発色する釉は、体部外面および口縁部を除く内面に施され、部分的に貫入が生じている。

中国陶器

壺 (21, 22) いずれも口縁部から体部上位の破片であり、21は回転ナデ調整で成形され、内外面には茶灰色に発色する釉が薄く施される。黒色粒子、白色粒子を少量含有する胎土は黄灰色を呈す。22の内外面には半透明、光沢質で暗緑色に発色する釉が施されるが、外面は大半が剥離する。胎土は黒色粒子を多量に含有し、灰白色を呈す。現存高は21が4.2cm、22が3.8cmを測る。

石製品

滑石製石鍋 (23) 口径18.0cmに復元でき、現存高5.8cmを測る。ノミ状工具による削りで成形される。外面には被熱による黒変がみられ、部分的に煤が付着する。B群。

砥石 (24) 黄灰色から橙色を呈す泥岩を素材とし2面を使用する。剥離が著しい。現存長9.1cm、幅8.6cm、厚さ1.8cmを測る。

248SE195暗灰色土出土遺物 (第49図)

白磁

碗 (25) 華南系白磁の体部破片の破断面を研磨して転用を図る、あるいは磨具として使用する。現存高2.6cmを測る。

青磁

碗 (26) 現存高5.4cmを測る口縁部から体部下位の破片であり、回転ナデ調整で成形。焼成は良好で素地は青灰色を呈すが、体部下位の破断面には赤褐色に発色する部分がある。失光沢、不透明で暗緑灰色に発色する釉は内外面に薄く施され、白色を呈す目跡が外面下端に付着し、内面見込みには重ね焼き痕とみられる釉の剥がれが観察される。未分類。

248SE195灰色土出土遺物 (第49図)

瓦器

碗 (27) 現存高2.4cmを測る口縁部から体部の破片。回転ナデ調整ののち、疎らなヘラミガキが施される。焼成は良好であり、器面は暗灰色を呈する。

6) 土坑出土遺物

248SK095灰褐色土出土遺物 (第50図)

土師器

小皿 a1 (土師器計測表参照) 口径7.9cm、器高1.35cm、底径5.7cmを計測する。底部は糸切り離し。器面に油煙が付着する。

須恵質土器

こね鉢 (1) 現存高5.9cm、底径9.0cmを測る体部から底部にかけての破片。体部外面は回転ナデ調整、

内面は使用による摩耗が著しく調整不明。底部は回転糸切りののち、ナデ調整が加わる。焼成は良好であり、白色粒子をやや多く含有する胎土は青灰色を呈す。東播系。

248SK105灰色土出土遺物（第50図）

土師器

小皿 a1（土師器計測表参照）口径8.4cm、器高1.35cm、底径6.0cmを計測する。底部は糸切り離し。

小皿 a×b（土師器計測表参照）口径8.0cm、器高1.4cm、底径6.0cmを計測する。底部は糸切り離し。

須恵質土器

こね鉢（2）現存高2.9cmを測る口縁部から体部上位の破片。外面は回転ナデ調整、内面は器面の剥離が著しく調整は不明。口縁端部は指頭調整で片口を作出する。焼成は良好であり、白色粒子をやや多く含有する胎土は灰白色を呈す。東播系。

石製品

滑石製石鍋（3）現存高4.1cmを測る口縁部から体部上位の破片。内外面はノミ状工具による切削により成形。外面には鈔を作出する。鈔の下面には煤が付着する。B群。

248SK204黒灰色土出土遺物（第50図）

須恵質土器

こね鉢（4、5）いずれも口縁部から体部上位の破片であり、現存高は4が3.9cm、5が3.1cmを測る。焼成は良好であり、4の胎土にはやや白色粒子を多く含有し、堅緻で暗青灰色を呈す。5はやや軟質で明灰色を呈し口縁部外面は重ね焼きのため、暗灰黒色に発色する。東播系。

248SK220灰色土出土遺物（第50図）

瓦器

碗c（6）現存高2.0cm、底径7.7cmを測る底部の破片。底部は回転ヘラ切り離しののち、高台貼付。焼成は良好であり、小礫、白雲母を少量含有する胎土は明灰色を呈す。

土師質土器

鍋（7）現存高5.5cmを測る口縁部から体部上位の破片。体部外面はハケ調整ののちナデで仕上げられ、内面は横ナデ調整。口縁部はナデ調整で成形後、上端面に縄を押捺する。焼成は良好であり、石英を多量に含有し黄橙色を呈す。

248SK225黒色土出土遺物（第50図）

須恵質土器

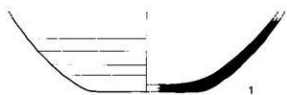
こね鉢（8）現存高4.2cmを測る口縁部から体部上位の破片。回転ナデ調整で成形。焼成はやや不良であり、白色粒子をやや多く含有する胎土は暗褐色を呈す。口縁部外面は重ね焼きのため、暗灰色に発色する。東播系。

248SK233灰色土出土遺物（第50図）

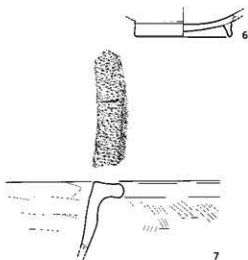
瓦質土器

こね鉢×搦鉢（9）現存高2.4cmを測る口縁部から体部上位の破片。外面は縦位のハケ目調整ののち、横ナデ。内面は斜位のハケ目調整が施される。焼成は良好であり、胎土の断面芯部は暗灰黒色、外面は

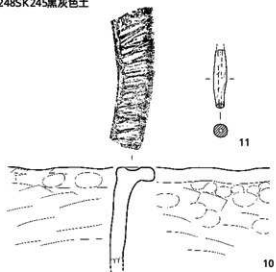
248SK095灰褐色土



248SK220灰色土

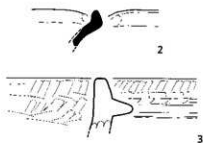


248SK245黑灰色土



0 10cm

248SK105灰色土



248SK204黑灰色土



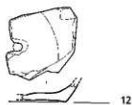
248SK225黑色土



248SK233灰色土



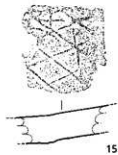
248SK250暗褐色土



248SK253灰褐色土



248SK257灰色土



第 50 圖 248SK095・105・204・220・225・233・245・250・253・257 遺物実測圖 (1 / 3)

灰色から暗灰色を呈す。

248SK245黒灰色土出土遺物 (第50図)

土師質土器

鍋 (10) 現存高7.7cmを測る口縁部から体部の破片。体部内外面は指頭調整ののち、ナデ調整で仕上げられる。口縁部は指頭調整と横ナデののち、上端面に植物繊維を挿す。焼成は良好であり、白雲母、角閃石、石英を含有する胎土は黄灰色を呈す。

土製品

土錘 (11) 現存長4.6cm、最大径1.05cm、孔径0.2~0.3cm、重量5.2gを測る両端を欠損する資料。器面はナデ調整で成形される。焼成は良好であり、白色粒子、雲母をやや多く含有する胎土は表面が暗褐色、断面が暗灰色を呈す。

248SK250暗褐色土出土遺物 (第50図)

土師器

杯 a (12) 現存高1.5cmを測る体部下端から底部の破片。糸切り離しの底部には復元径0.7cmの孔が焼成後に穿たれる。

248SK253灰褐色土出土遺物 (第50図)

須恵質土器

こね鉢 (13) 現存高4.4cmを測る口縁部から体部上位の破片。回転ナデ調整で成形。焼成は良好であり、白色粒子をやや多く含有する胎土は暗青灰色を呈す。東播系。

248SK257灰色土出土遺物 (第50図)

青白磁

合子蓋 (14) 現存高1.6cmを測る細片。型成形であり、花文を打ち出した外周部が遺存する。焼成は良好であり、堅緻な素地は黒色粒子を含有して灰白色を呈す。外面に施される光沢質で透明な釉は青白色に発色し、細貫入を生じる。

互類

文字瓦 (15) 現存規模7.6cm×8.5cm、厚さ2.1cmを測る平瓦の破片。凹面は布目、凸面には格子と「大」・「十」字が叩き出される。915B型式。

7) その他の遺構出土遺物

a) たまり状遺構

248SX190暗灰色土出土遺物 (第51図)

青磁

碗 (1) 現存高3.6cmを測る口縁部から体部上位の破片。焼成はおおむね良好であり、白色粒子を含有する素地は暗灰色を呈す。内外面に薄く施される釉は半光沢、不透明で濁化し、暗緑灰色に発色する。表面には微細な発泡が生じている。初期高麗青磁Ⅲ類。

中国陶器

鉢 (2) 現存高2.1cmを測る口縁部から体部上位の破片。焼成はおおむね良好であり、褐色粒子を含有

有する胎土は橙褐色を呈す。内外面に薄く施される釉は光沢が無く不透明で暗茶色に発色する。

248SX200灰褐色土出土遺物 (第51図)

土師器

杯 a (土師器計測表参照) 口径14.4cm、器高3.1cm、底径10.0cmを計測する。底部は糸切り難し。

土師質土器

甕×鉢 (3) 現存高4.7cmを測る口縁部から体部上位の破片。口縁部は横ナデ、外面体部は縦位のナデ、内面はハケ目調整ののち、ナデ調整で仕上げられる。焼成は良好であり、雲母、白色粒子をやや多く含有する胎土は淡橙色を呈す。

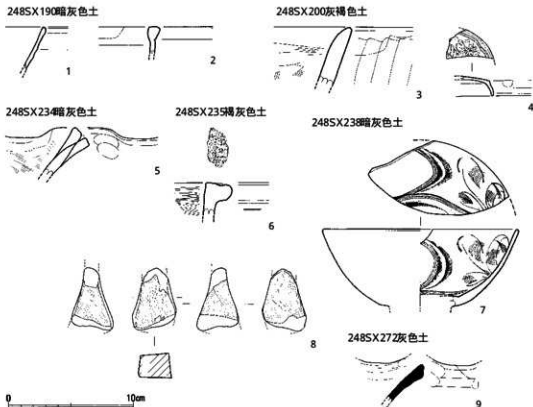
白磁

合子蓋 (4) 現存高1.6cmを測る天井部から口縁部の破片。型押し成形で天井部外面には菊花状の文様が打ち出される。焼成は良好であり、外面および内面天井部に施される釉は光沢質、透明で緑白色に発色し、細貫入を生じる。

248SX234出土遺物 (第51図)

瓦質土器

こね鉢×揺鉢 (5) 現存高3.7cmを測る口縁部から体部上位の破片。口縁部は指頭と横ナデ調整によって片口を作成する。体部外面は横ナデ、内面は斜位のハケ目調整で仕上げられる。焼成は良好。黒色、白色粒子をやや多く含有する胎土は黒灰色に発色する。



第 51 図 248SX190・200・234・235・238・272遺物実測図 (1/3)

248SX235褐灰色土出土遺物（第51図）

土師質土器

鍋（6）現存高2.6cmを測る口縁部から体部上位の破片。体部外面は横位のハケ目ののち、横ナデ調整、内面は横位のハケ目調整で仕上げられる。口縁部は横ナデののち、上端面に縄を押捺する。焼成はおおむね良好であり、石英粒、白色粒子をやや多く含有する胎土は黄橙色を呈す。

248SX238出土遺物（第51図）

龍泉窯系青磁

椀（7）口径15.6cm、現存高6.2cmを測る口縁部から体部下位までの破片。外面無文。内面には、ヘラ状・櫛歯状工具による略花文が施される。焼成は良好であり、黒色粒子を含有する素地は堅緻で灰色を呈す。内外面に施される軸は光沢質、半透明で暗緑灰色に発色し、細貫入を生じる。未分類。

石製品

砥石（8）暗灰色から暗黄褐色を呈す細粒砂岩を素材とし、4面を使用面としている。いずれの使用面とも右下がりの条線痕が顕著であり、研ぎ減りによる変形が著しい。現存長5.0cm、最大幅3.3cm、厚さ3.3cmを測る。

248SX272灰色土出土遺物（第51図）

須恵質土器

こね鉢（9）現存高3.1cmを測る口縁部から体部上位までの破片。口縁部は指頭と横ナデ調整によって片口を作出する。体部内外面は回転ナデ調整。焼成は良好であり、黒色粒子を多く含有する胎土は青灰色を呈し、口縁部外面は重ね焼きのため暗青灰色に発色する。東播系。

b) 小穴出土遺物

248SX202出土遺物（第52図）

白磁

皿（1）口径9.8cm、器高2.65cm、底径6.4cmに復元される。内面には花文と推定できる文様がヘラ描きされる。黒色微粒子を少量含有する素地は堅緻であり灰白色を呈す。光沢質、透明であるが細気泡が生じる軸は内面および、外面高台脇まで施され緑灰色に発色する。未分類資料。

248SX202灰色土出土遺物（第52図）

土製品

瓦玉（2）表面が淡赤橙色、断面が灰色を呈する瓦を素材とし、打割と研磨により偏球状に成形する。長軸長2.75cm、短軸長2.45cm、厚さ2.3cmを測り、重量16.0gを量る。

248SX207灰褐色土出土遺物（第52図）

青白磁

合子身（3）現存高1.5cmを測る口縁部から体部が遺存する破片であり、体部を型成形、口縁部を回転ナデ調整によって仕上げる。光沢質、透明で淡青緑灰色に発色する軸は口縁部および体部下半を除いて施され、外面には細貫入を生じている。

248SX208灰褐色土出土遺物 (第52図)

土質土器

鍋(4) 現存高4.6cmを測る口縁部から体部にかけての破片であり、外面は横ナデ、内面は不定方向のナデ調整で成形され、外面体部には一次調整の指頭痕が僅かに観察される。焼成は良好であり、細砂粒を多量に含有する胎土は褐色を呈し、外面には煤が付着する。

248SX212暗灰色土出土遺物 (第52図)

青白磁

台子蓋(5) 現存高1.65cmを測る体部の破片であり、型成形。焼成は良好であり、堅緻な素地は灰白色を呈し、体部外面には淡青灰色に発色して光沢質であるが、濁化する釉が施され、口縁部の釉は削り取られる。

248SX239暗灰色土出土遺物 (第52図)

青磁

壺(6) 現存高1.2cmを測る口縁部の破片である。焼成は良好であり、黑色粒子を含有する素地は灰色を呈す。内外面に厚く施される釉は光沢質、透明で暗緑灰色に発色する。龍泉窯系青磁。

248SX241暗灰色土出土遺物

銭貨(第67図15~18) 初跨年順に、天祐通寶、皇宗通寶、治平元寶、元豐通寶の拓本を示した。

248SX248暗灰色土出土遺物

銭貨(第67図19) 宣和通寶である。

248SX251褐灰色土出土遺物 (第52図)

瓦器

椀c(7) 口径16.7cm、器高5.7cm、底径7.2cmに復元される。口縁部回転ナデ調整、内面をコテあて調整のち、体部内外面をヘラミガキ調整で仕上げる。また、体部外面下位には糸切り痕跡が観察される。焼成は良好であり、胎土には白色粒子、白雲母を少量含有する。器面色調は、口縁部から体部が黒灰色、高台部は灰白色を呈す。

椀(8、9) 8は口径17.5cm、現存高4.45cmを測る口縁部から体部下位が遺存する資料であり、口縁部回転ナデ調整、体部内外面をヘラミガキ調整で仕上げるが、外面下位には糸切り痕跡が観察される。焼成は良好であり、胎土には白色粒子、白雲母を少量含有する。器面は灰色を呈す。9は現存高3.1cmを測る口縁部から体部の破片であり、口縁部回転ナデ調整、体部はヘラミガキ調整が施される。焼成は良好であり、器面は外面が暗灰色、内面が灰色を呈す。

中国陶器

壺(10) 現存高2.65cmを測る頸部から体部が遺存する破片であり、内外面を回転ナデ調整で仕上げる。白色、灰色粒子を含有する胎土は堅緻であり、灰色を呈す。

248SX256灰色土出土遺物 (第52図)

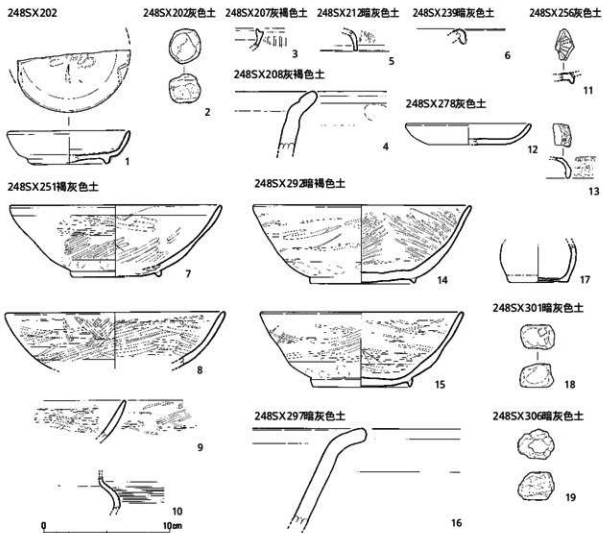
白磁

小椀 (11) 現存高0.95cmを測る底部の破片であり、内面見込みには円環と放射線を組み合わせた浮文が施される。焼成は良好であり、堅緻な素地は黄灰白色を呈し、内外面に施される釉は黄白色に発色し光沢質、半透明で細貫入を生じる。未分類。

248SX278灰色土出土遺物 (第52図)

瓦器

小皿 a1 (12) 口径10.0cm、器高1.7cm、6.8cmに復元される。焼成はやや不良であり、器面は摩耗し、底部糸切り痕跡以外は調整が不明瞭である。白色粒子をやや多く含有する胎土は暗灰色から灰白色に発色する。



第 52 図 248SX202・207・208・212・239・251・256・278・292・297・301・306
遺物実測図 (1 / 3)

青白磁

合子蓋 (13) 現存高1.65cmを測る天井部から口縁部の破片であり、型成形で仕上げられる。焼成は良好であり、堅緻な素地は灰白色を呈す。外面に施され明青緑色に発色する釉は光沢質、透明であり、極微細な気泡が多量に生じている。

248SX292暗褐色土出土遺物 (第52図)

瓦器

鉢c (14、15) 14、15ともに口縁部から底部が遺存する資料であり、口縁部は回転ナデ調整、体部内面はコテ当てのち、ヘラミガキ調整で仕上げられる。外面には疎らなヘラミガキ調整が施され、体部下位には回転糸切り痕跡と指頭痕が観察される。法量は14が口径17.3cm、器高6.25cm、底径8.2cm、15が口径16.2cm、器高5.95cm、底径7.65cmにそれぞれ復元される。

248SX297暗褐色土出土遺物 (第52図)

土師質土器

鉢 (16) 現存高7.7cmを測る破片。器面は回転ナデ調整で成形される。焼成は良好とみられ、白色粒子、白雲母、石英粒を少量含有する胎土は明赤橙色を呈すが、器面には二次焼成痕が観察される。

青磁

壺 (17) 現存高3.05cm、底径4.8cmを測る体部から底部の破片であり、体部下位から底部の露胎部は回転ナデ調整が観察される。焼成は良好であり、黒色粒子を微量含有する胎土は灰白色を呈す。内面および体部外面下位まで施され、失透、濁化する釉は青緑灰色に発色し、発泡と細貫入を多量に生じる。龍泉窯系青磁。

248SX301暗灰色土出土遺物 (第52図)

土製品

瓦玉 (18) 橙色を呈し、格子叩き目が部分的に観察できる土師質の瓦を素材とし、打割と研磨により略円柱状に成形する。長軸長2.65cm、短軸長1.95cm、厚さ1.85cmを測り、重量11.6gを量る。

248SX306暗灰色土出土遺物 (第52図)

土製品

瓦玉 (19) 灰色を呈し、無文の瓦面が観察できる須恵質の瓦を素材とし、打割により略円柱状に成形する。長軸長2.9cm、短軸長2.35cm、厚さ2.2cmを測り、重量15.2gを量る。

第V面

1) 掘立柱建物出土遺物

248SB400a暗灰色土出土遺物 (第53図)

土師器

坏a (1) 現存高1.5cm、底径9.0cmを測る体部下位から底部が遺存する資料。体部内外面は回転ナデ、内底面は横ナデ、底部は糸切り離しである。焼成は良好であり、雲母細片を多く含有する胎土は赤褐色を呈す。本資料は調査時にS-392暗灰色土で取り上げた。

248SB400b暗灰色土出土遺物 (第53図)

土師器

杯 a (2) 現存高2.5cmを測る口縁部から底部の破片。口縁部から体部は回転ナデ、底部は糸切り離してある。焼成は良好であり、雲母細片を多く含有する胎土は、橙灰色を呈す。本資料は調査時にS-393暗灰色土で取り上げた。

杯 (3) 現存高2.0cmを測る口縁部から体部の破片。口縁部から体部は回転ナデ調整で仕上げられる。焼成は良好であり、黒色粒子を多く含有する胎土は、橙色を呈す。本資料は調査時にS-393暗灰色土で取り上げた。

小皿 a1 (4) 現存高1.3cmを測る口縁部から底部の破片。口縁部から体部は回転ナデ調整、底部は回転ヘラ切りと類推される円弧状の条線が観察できるが、遺存部位が僅少であることから、不明瞭である。また、器形が歪んでいる。焼成は良好であり、黒色粒子をやや多く含有する胎土は暗橙色を呈す。本資料は調査時にS-393暗灰色土で取り上げた。

瓦器

碗 c (5) 現存高1.2cmを測る体部下半から底部の破片。体部内外面はヘラミガキ調整、高台は貼付。焼成は良好であり、胎土は明灰色を呈する。本資料は調査時にS-393暗灰色土で取り上げた。

248SB400c・d暗灰色土出土遺物 (第53図)

土師器

杯 (6~8) 6は現存高2.8cmを測る口縁部から体部下位の破片。口縁部は回転ナデ、体部外面は指頭調整ののち、回転ナデ調整で仕上げる。内面は回転ナデ調整であるが、浅いコテ当て痕が観察できる。焼成は良好であり、黒色粒子をやや多く含有する胎土は黄褐色を呈す。本資料は調整技法・体部形態から丸底杯 a あるいは碗 c の可能性がある。7は現存高1.5cmを測る口縁部から体部の破片。器面は回転ナデ調整で仕上げられる。焼成はおおむね良好であり、白色粒子をやや多く含有する胎土は暗褐色を呈す。また、口縁部外面は赤褐色に発色する。8は現存高2.3cmを測る口縁部から体部下位の破片。器面は回転ナデで仕上げられる。焼成良好。黒色粒子を多く含有する胎土は暗黄灰色を呈す。いずれも調査時にS-402暗灰色土で取り上げた。

小皿 (9) 現存高1.4cmを測る口縁部から体部の破片。口縁部は回転ナデ調整。体部は摩耗し調整不明。焼成はやや不良である。調査時にS-402暗灰色土で取り上げた。

瓦器

小皿 (10) 現存高1.2cmを測る口縁部から体部の破片。器面は回転ナデ調整で仕上げられる。焼成は良好であり、白色粒子をやや多く含有する胎土は灰白色を呈す。本資料は調査時にS-402暗灰色土で取り上げた。

248SB400e暗灰色土出土遺物 (第53図)

土師器

杯 a (11) 口径14.8cm、器高2.6cm、底径10.8cmを測る口縁部から底部まで遺存する資料であり、口縁部から体部内外面は回転ナデ調整、底部は糸切り離し、内底面はナデ調整で仕上げられる。焼成は良好であり、雲母細片と白色粒子をやや多く含有する胎土は暗黄褐色を呈し、外面は部分的に黒灰色に発色する。また、内面には点状に油煙が付着する。本資料は調査時にS-397暗灰色土で取り上げた。

瓦器

碗 (12) 現存高1.6cmを測る口縁部から体部上位の破片。内外面は回転ナデ調整で仕上げられる。焼成は良好であり、黒色粒子を含有する胎土は暗灰色を呈し、器面には黒色物質が飛沫状に付着する。本資料は調査時にS-397暗灰色土で取り上げた。

248SB405a黒灰色土出土遺物 (第53図)

土師器

杯 (13、14) いずれも口縁部から体部下位の破片で、現存高は13が2.2cm、14が2.3cmを測り、内外面を回転ナデ調整で仕上げられる。焼成は良好であり、胎土は黄灰色を呈し、13の内外面、および14の内面には油煙が付着する。本資料は調査時にS-347黒灰色土で取り上げた。

小皿 a1 (15) 現存高1.1cmを測る口縁部から底部の破片。口縁部から体部下位内外面は回転ナデ調整、底部は糸切り離して仕上げられる。焼成は良好。黒色粒子を多く含有する胎土は、橙褐色に発色する。本資料は調査時にS-347黒灰色土で取り上げた。

瓦器

碗 (16) 現存高2.4cmを測る口縁部から体部の破片。口縁部横ナデ、体部内面はヘラミガキ調整で仕上げられるが、体部外面は摩耗が著しく調整不明。焼成はやや不良であり、黒色粒子、細雲母を多量含有する胎土は灰白色から黒灰色を呈し、外面には黒色物質が飛沫状に付着する。本資料は調査時にS-347黒灰色土で取り上げた。

248SB405f暗灰色土出土遺物 (第53図)

土師器

杯 a (17) 現存高2.7cmを測る口縁部から底部の破片。口縁部から体部下位は回転ナデ調整、底部は糸切り離して仕上げられる。焼成は良好であり、胎土は灰黄色を呈し、内面には油煙が付着する。本資料は調査時にS-331灰色土で取り上げた。

小皿 a1 (18) 口径9.4cm、器高0.9cm、底径8.0cmを測る口縁部から底部に遺存する資料。口縁部から体部外面下位は回転ナデ、内底面はナデ調整、底部は糸切り離し。焼成は良好であり、白色粒子をやや多く含有する胎土は黄褐色を呈し、器面には黒褐色物質が飛沫状に付着する。本資料は調査時にS-331灰色土で取り上げた。

瓦器

碗 (19) 現存高2.7cmを測る口縁部から体部の破片。口縁部は回転ナデ調整、体部内外面は回転ナデ調整と類推されるが器面が摩耗し不明瞭。焼成はやや不良。白雲母を多量含有する胎土は灰黄色から暗灰色を呈す。本資料は調査時にS-331灰色土で取り上げた。

土師質土器

鍋 (20) 現存高6.5cmを測る口縁部から体部の破片。体部外面は縦位のナデ、内面は横位のナデ、口縁部は横ナデで仕上げられる。焼成は良好であり、石英、白色粒子を多く含有する胎土は暗橙褐色を呈し、外面には煤が付着する。本資料は調査時にS-331灰色土で取り上げた。

石製品

用途不明品 (21) 灰白色を呈す滑石を素材とし、削りと研磨によってスタンプ状に成形する。高さ2.4cmを測り、底部規模は2.5cm×1.5cmを計測する。重量は9.8gを量る。本資料は調査時にS-331灰色土で取り上げた。

248SB406a・g暗灰色土出土遺物 (第53図)

土師器

杯 (22) 現存高2.2cmを測る口縁部から体部の破片。口縁部内外面は回転ナデ調整。体部内外面は器面の摩耗が著しく調整不明。焼成は不良であり、橙白色を呈す胎土は白雲母を多量に含有する。本資料は調査時にS-329灰色土で取り上げた。

瓦器

椀 (23) 現存高2.7cmを測る口縁部から体部の破片。口縁部は回転ナデ調整、体部外面は指頭調整ののち回転ナデ調整、体部内面はヘラミガキ調整で仕上げられる。焼成は良好であり、胎土は灰白色から暗灰色を呈す。いずれも調査時にS-329灰色土で取り上げた。

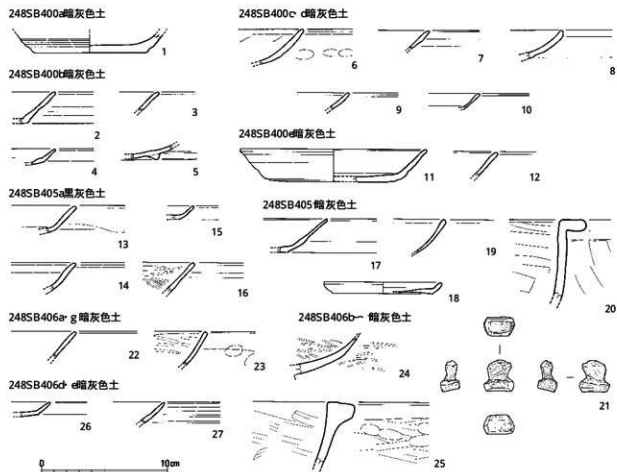
248SB406b～f暗灰色土出土遺物 (第53図)

瓦器

椀 (24) 現存高3.0cmを測る体部の破片。体部外面下位は回転ナデ調整、以外はヘラミガキ調整で仕上げられる。焼成は良好であり、胎土は黒灰色から暗灰色を呈す。本資料は調査時にS-351で取り上げた。

土師質土器

鍋 (25) 現存高5.2cmを測る口縁部から体部の破片。体部外面は指頭調整ののち、不定方向のナデ調



第53図 248SB400・405・406遺物実測図(1/3)

整、内面は斜位のナデ調整、口縁部は横ナデで仕上げられる。焼成は良好であり、石英、白色粒子、雲母細片を多く含有する胎土は黄灰色から黄褐色を呈す。本資料は調査時にS-351暗灰色土で取り上げた。

248SB406d・e暗灰色土出土遺物 (第53図)

土師器

小皿 a1 (26) 現存高1.2cmを測る口縁部から底部の破片。口縁部から体部下位は回転ナデ調整、底部は糸切り離しである。焼成は良好であり、胎土は暗褐色土を呈し、内外面には油煙が付着する。

供膳具 (27) 現存高1.7cmを測る口縁部から体部の破片。口縁部から体部は回転ナデ調整が施される。焼成は良好であり、胎土は暗灰黄色を呈し、外面には油煙が付着する。

本資料は調査時にS-358で取り上げた。

2) 溝出土遺物

248SD260灰白色砂出土遺物 (第54図)

土師器

杯 a (土師器計測表参照) 口径14.4cm、器高2.7cm、底径10.0cmを計測する。底部は糸切り離し。器面に油煙が付着する。

小皿 a1 (土師器計測表参照) 口径8.2cm、器高0.95cm、底径6.0cmを計測する。底部は糸切り離し。

小皿 a×b (土師器計測表参照) 口径9.2cm、器高1.8cm、底径6.0cmを計測する。底部は糸切り離し。

瓦器

椀 c (1) 現存高3.2cm、底径6.6cmを測る体部上位から底部が遺存する破片。体部外面は指頭調整ののち、ヘラミガキ調整、内面はヘラミガキ調整で仕上げられる。高台は貼付。焼成は良好であり、白色粒子を含有する胎土は灰白色を呈し、外面の一部は黒灰色に発色する。

須恵質土器

こね鉢 (2) 現存高2.8cmを測る口縁部から体部上位に破片。回転ナデ調整で成形される。焼成は良好であり、白色粒子をやや多く含有する胎土は灰色を呈し、口縁部外面は重ね焼きのため暗灰色に発色する。東播系。

金属製品

鉄釘 (3) 両端部を欠損し、現存長6.3cmを測る。

248SD260灰色土出土遺物 (第54図)

須恵質土器

こね鉢 (4) 現存長2.4cmを測る口縁部から体部上位の破片。回転ナデ調整で成形される。焼成は良好であり、黒色粒子を含有する胎土は暗灰色を呈し、口縁部外面は重ね焼きのため暗青灰色に発色する。東播系。

248SD275出土遺物 (第54図)

朝鮮系無釉陶器

壺×甕 (5) 口縁部から肩部および、体部下半の破片から器形復元をしたもので、器高は29.6cmに復元される。回転ナデ調整で成形されるが、体部下半の破片には特に強いロクロ目が内外に残る。焼成は良好であり、還元も良好。白色粒子を含有する胎土は堅緻で、暗青灰色を呈す。

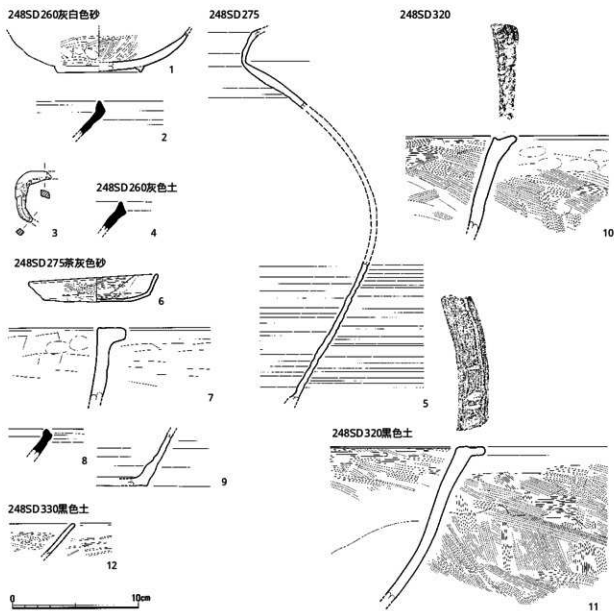
248SD275茶灰色砂出土遺物 (第54図)

瓦器

小皿 a1 (6) 口縁部から底部まで遺存する資料であり、器形が歪んでいる。口径10.3cm、器高は1.6～2.2cm、底径8.5cmを測る。底部はヘラ切り後に指頭によって調整、体部内外面はヘラミガキ調整によって仕上げられる。焼成は良好であり、内面は灰白色、外面は暗灰色を呈する。

土師質土器

鍋 (7) 現存高5.8cmを測る口縁部から体部上位の破片。体部外面はナデ調整、内面は指頭調整のうち、ナデ調整で仕上げられる。口縁部はナデ調整で成形。焼成は良好であり、石英と白色粒子を多く含む胎土は黄褐色を呈し、外面全体に煤が薄く付着する。



第54図 248SD260・275・320・330遺物実測図(1/3)

須恵質土器

こね鉢（8）現存高2.2cmを測る口縁部から体部上位の破片。回転ナデ調整で成形する。焼成は良好であり、黒色粒子を多く含有する胎土は青灰色を呈し、口縁部外面は重ね焼きのため黒灰色に発色する。東播系。

朝鮮系無釉陶器

壺×甕（9）現存高4.2cmを測る体部下位から底部の破片。底部はヘラ切り離してあり、体部は強い回転ナデ調整で成形され、器面には強い口クロ目が残る。焼成は良好であり、還元良好。白色粒子を含有する胎土は堅緻であり、暗青灰色を呈す。器面調整、胎土特徴の共通性から、第54図5と同一個体の可能性もある。

248SD320出土遺物（第54図）

土師質土器

鍋（10）現存高7.7cmを測る口縁部から体部の破片。外面口縁部直下は横ナデ、以下は縦位から斜位のハケ目調整、内面はハケ目調整で仕上げられる。口縁部は横ナデ調整で成形され、上端面には原体が不明瞭であるが押捺痕が観察される。焼成は良好であり、石英を多く含有する胎土は暗褐色を呈し、外面には煤が薄く付着する。

248SD320黒色土出土遺物（第54図）

土師質土器

鍋（11）現存高12.4cmを測る口縁部から体部の破片。体部外面は縦位から斜位のハケ目調整。内面上位はハケ目調整であるが下位は器面の摩耗が著しい。口縁部はハケ目調整で成形のち、上端面にワラ状の原体を列点状に押捺する。石英・白色粒子を多く含有する胎土は黄褐色を呈し、外面体部下位には煤が薄く付着する。

248SD330黒色土出土遺物（第54図）

土師器

小皿 a1（土師器計測表参照）口径8.6～9.6cm、器高1.05～1.15cm、底径6.0～7.4cmを計測する。底部は糸切り離し。

瓦器

椀（12）現存高2.5cmを測る口縁部から体部の破片。口縁部内外面は回転ナデ調整、体部内外面はヘラミガキ調整で仕上げられる。焼成は良好であり、胎土は灰白色を呈す。口縁部には煤が薄く付着する。

3）井戸出土遺物

248SE290灰色土出土遺物（第55図）

土師器

小皿 a1（土師器計測表参照）口径10.0cm、器高1.05cm、底径8.0cmを計測する。底部は糸切り離し。

土師質土器

鍋（1）現存高4.0cmを測る口縁部から体部上位の破片。体部外面はハケ目調整。内面はナデ調整。口縁部はナデ調整で成形されたのち、上端面には縄が押捺される。焼成は良好であり、石英と白色粒子

を多く含有する胎土は暗褐色を呈し、体部外面には煤が薄く付着する。

須恵質土器

こね鉢（2）現存高2.8cmを測る、口縁部から体部上位の破片。内外面は回転ナデ調整で成形される。焼成は良好であり、石英と白色粒子を多く含有する胎土は青灰色を呈し、口縁部外面は重ね焼きのため、黒灰色に発色する。東播系。

こね鉢×楕鉢（3）現存高3.9cmを測る、口縁部から体部上位に破片。体部外面はナデ調整、内面は横位から斜位のハケ目調整、口縁部は回転ナデ調整で成形される。焼成は良好であり、黒色粒子を少量含有する胎土は暗灰色を呈し、内外面には部分的に煤が薄く付着する。産地不明。

青白磁

合子身（4）現存高2.2cmを測る口縁部から底部の破片。口縁部は回転ナデ、体部外面は型成形であり、蓮弁であろうか縦位の浮文を打ち出す。焼成は良好であり、黒色粒子を含有する素地は灰白色を呈すほか、底部付近は酸化焰焼成気味で橙白色に発色する。口縁部外面および、体部下端から底部を除いて施される釉は半光沢、濁化し緑灰色に発色する。

248SE295灰色土出土遺物（第55図）

土師器

杯a（土師器計測表参照）口径14.0cm、器高3.0cm、底径9.6cmを計測する。底部は糸切り離し。

小皿a1（土師器計測表参照）口径9.6cm、器高0.75cm、底径8.4cmを計測する。底部は糸切り離し。

瓦器

椀c（5）口径15.4cm、器高5.3cm、底径6.0cmを測る口縁部から底部の遺存する資料。体部内外面にヘラミガキを施す。焼成は良好であり、黒色粒子を多く含有する胎土は明灰色を呈す。

須恵質土器

こね鉢（6、7）いずれも口縁部から体部上位の破片であり、現存高は6が4.5cm、7が4.7cmを測る。回転ナデ調整で成形され、6の口縁部には指頭調整と横ナデによって、片口を作出する。6、7ともに焼成は良好であり、青灰色を呈し、6の胎土は黒色粒子を多く含有する。口縁部外面は重ね焼きのため6が暗灰色、7が青灰黒色に発色する。東播系。

甕（8）口径24.4cm、現存高8.2cmを測る。口縁部から体部上位の資料。口縁部から頸部は回転ナデであるが、頸部外面には叩き痕が残る。体部外面は平行叩き、内面はナデ調整で仕上げられる。焼成は良好であり、黒色粒子をやや多く含有する胎土は暗灰色から暗灰青色を呈す。東播系。

金属製品

鉄釘（9）両端部を欠損し現存長4.6cmを測る。

248SE300灰色土出土遺物（第55図）

土師器

杯a（土師器計測表参照）口径15.8cm、器高2.7cm、底径11.4cmを計測する。底部は糸切り離し。

小皿a1（土師器計測表参照）口径8.0～10.0cm、器高0.85～1.15cm、底径6.2～8.0cmを計測する。底部は糸切り離し。胎土中に白雲母を多量に含有するものがある。

須恵質土器

こね鉢（10、11）いずれも口縁部から体部上位の破片であり、現存高は10が2.8cm、11が2.4cmを測る。回転ナデ調整で成形。焼成は良好であり、白色粒子を多く含有する胎土は暗青灰色を呈し、10の口縁部

外面は重ね焼きのため暗灰黒色に発色する。東播系。

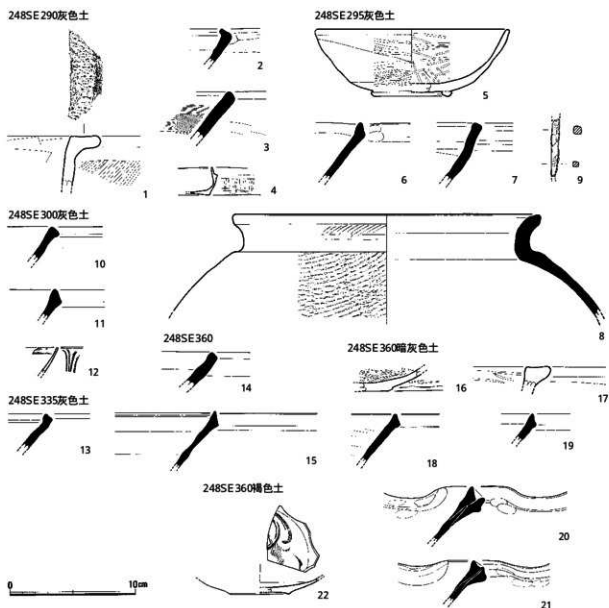
青磁

小椀 (12) 現存高2.0cmを測る口縁部から体部上位の破片。ヘラ状工具により外面には縦方向、内面には横方向の文様が施されるが意匠は不明。焼成は良好であり、黒色粒子を多く含有する堅緻な素地は灰白色を呈し、内外面に施される釉は光沢質、透明で青緑灰色に発色し、細貫入を生じる。龍泉窯系青磁未分類。

248SE335灰色土出土遺物 (第55図)

須恵質土器

こね鉢 (13) 現存高2.9cmを測る口縁部から体部上位の破片。回転ナデ調整で成形される。焼成は良



第 55 図 248SE290・295・300・335・360遺物実測図 (1 / 3)

好であり、白色粒子を多く含有する胎土は青灰色を呈す。東播系。

248SE360出土遺物 (第55図)

須恵質土器

こね鉢 (14、15) いずれも口縁部から体部上位の破片であり、現存高は14が2.8cm、15が4.4cmを測る。回転ナデで成形。焼成は良好であり、胎土は青灰色から暗青灰色を呈し、14は白色粒子をやや多く含有する。15の口縁部外面は重ね焼きのため暗灰黒色に発色する。東播系。

248SE360暗灰色土出土遺物 (第55図)

瓦器

椀 (16) 現存高1.8cmを測る体部下位から底部の破片。体部内外面はヘラミガキで仕上げられる。焼成は良好であり、雲母細片を多く含有する胎土は灰白色から黒灰色を呈す。東国東型

土師質土器

鍋 (17) 現存高1.6cmを測る口縁部の破片。ナデ調整で成形され、内面にはヘラミガキが加わる。焼成は良好。石英と白色粒子を多く含有する胎土は暗黄褐色を呈し、外面には煤が付着する。

須恵質土器

こね鉢 (18～21) いずれも口縁部から体部上位の破片であり、現存高は18が3.9cm、19が2.2cm、20が4.4cm、21が3.3cmをそれぞれ測る。いずれも回転ナデ調整で成形し、20、21は指頭調整とナデによって片口を作出する。焼成は良好であり、石英と白色粒子を多く含有する胎土は青灰色、灰白色などを呈し、口縁部外面は重ね焼きのため黒色、黒灰色、暗灰青色などに発色する。東播系。

248SE360褐色土出土遺物 (第55図)

青白磁

皿 (22) 現存高1.2cm、底径4.8cmを測る体部下半から底部の資料。内面にはヘラ状工具とクシ歯状工具により、文様が施される。焼成は良好であり、堅緻な素地は灰白色を呈し、底部には焼成時の所産と類推できる茶褐色の焦げが薄く付着する。底部を除いて施される釉は光沢質、透明であり緑青白色に発色し、貫入を生じる。

4) 土坑出土遺物

248SK265黒灰色土出土遺物 (第56図)

土師器

杯 (1) 現存高2.6cmを測る口縁部から体部下端の破片。口縁部から体部外面は回転ナデ調整で成形。内面は摩耗が著しく調整不明。焼成はおおむね良好であり、胎土は黄橙色を呈す。

瓦器

椀 (2) 現存高3.4cmを測る口縁部から体部の破片。内外面はヘラミガキで仕上げられる。焼成は良好で径4mm以下の礫をやや多めに含有する胎土は、灰白色から暗灰色を呈す。楠葉産。

須恵質土器

小形こね鉢 (3) 現存高3.3cmを測る口縁部から体部の破片。内外面を回転ナデ調整で成形する。焼成は良好であり、白色粒子を多く含有する胎土は暗灰色を呈す。東播系。

248SK270黒灰色土出土遺物 (第57図)

土師器

小皿 a1 (土師器計測表参照) 口径9.6cm、器高1.2cm、底径7.0cmを計測する。底部は糸切り離し。胎土中に白雲母を多量に含有する。

瓦器

椀(4) 現存高2.4cmを測る口縁部から体部の破片。口縁部は回転ナデ、体部内面はヘラミガキ調整、体部外面は摩耗が著しく調整不明。焼成はおおむね良好であり、石英、白色粒子、細雲母を多く含有する胎土は黒灰色に発色する。

土師質土器

鍋(5) 現存高5.9cmを測る口縁部から体部の破片。口縁部横ナデ、体部内外面はナデ調整で仕上げられる。焼成は良好であり、胎土は黄橙色を呈す。

248SK345黒灰色土出土遺物 (第56図)

土製品

土錘(6) 両端部を欠損し現存長4.2cm、最大径1.0cm、孔径0.3cmを測り、重量は3.4gを量る。成形はナデ調整である。

248SK350黒灰色土出土遺物 (第56図)

土師器

小皿 a1 (土師器計測表参照) 口径9.0cm、器高1.55cm、底径6.2cmを計測する。底部は糸切り離し。

青白磁

合子蓋(7) 現存高1.5cmを測る天井部から口縁部の破片。型成形であり、体部外面には縦位の浮文が打ち出される。焼成は良好であり、堅緻な素地は灰白色を呈す。外面および内面上位に施された釉は半光沢、透明で青白色に発色する。

248SK355暗灰色土出土遺物 (第56図)

白磁

椀(8) 現存高4.4cmを測る口縁部から体部の破片。焼成は不良であり、素地には微細な空隙が生じ灰黄色を呈す。体部外面下位を除いて施される釉は光沢が無く、濁化と発泡が著しく緑灰色から灰白色に発色する。Ⅷ-2類。

248SK365褐色土出土遺物 (第56図)

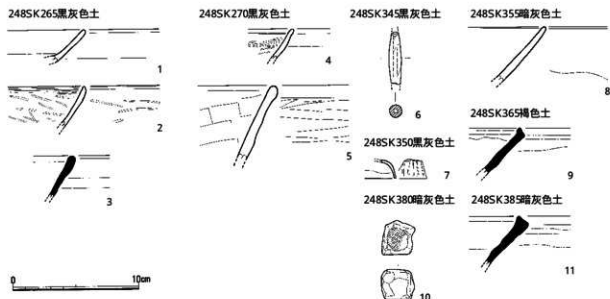
須恵質土器

こね鉢(9) 現存高3.8cmを測る口縁部から体部の破片。回転ナデ調整で成形される。焼成は良好であり、白色粒子を多く含有する胎土は暗青灰色を呈し、口縁部外面は重ね焼きのため黒色から黒灰色に発色する。東播系。

248SK380暗灰色土出土遺物 (第56図)

土製品

瓦玉(10) 須恵質の瓦を打割して略方柱状に成形する。片面には布目が観察できる。径2.6~2.7cm、



第56図 248SK265・270・345・350・355・365・380・385遺物実測図(1/3)

高さ2.2~2.4cm、重量20.4gを測る。

248SK385暗灰色土出土遺物(第56図)

須恵質土器

こね鉢(11)現存高4.0cmを測る口縁部から体部上位の破片。回転ナデ調整で成形する。焼成は良好であり、白色粒子をやや多く含有する胎土は青灰色を呈し、口縁部外面は重ね焼きのため黒灰色に発色する。東播系。

5) その他の遺構出土遺物

a) 小穴出土遺物

248SX352暗灰色土出土遺物(第57図)

青磁

皿(1)現存高1.9cmを測る口縁部から体部の破片であり、回転ナデ調整で成形される。黒色粒子を微量含有する素地は黄灰色を呈し堅緻。光沢質、透明で緑灰色に発色する釉は内外面に薄く施され、貫入を生じる。龍泉窯系青磁の未分類資料。

248SX362暗灰色土出土遺物(第57図)

青磁

皿(2)現存高3.1cmを測る口縁部から体部の破片であり、回転ナデ調整で成形される。白色粒子、褐色粒子を少量含有する素地は褐灰色を呈し、微少なピンホール状の空隙が生じている。半光沢で、濁化、不透明な釉は暗緑灰色に発色し、内外面にやや厚く不均一に施され、細貫入を生じる。初期高麗青磁の未分類資料。

248SX364暗灰色土出土遺物 (第57図)

石製品

硯(3) 暗灰色土を呈す滑石を素材とし、堤と硯面の一部が遺存する。現存長4.2cm、現存幅1.5cm、厚さ1.5cmを測る。

248SX367暗灰色土出土遺物 (第57図)

白磁

壺(4) 口径7.6cmに復元され、現存高2.3cmを測る口縁部から体部の破片であり、黒色粒子を多く含む素地は堅緻であり、灰色を呈し、微細な空隙を生じている。半光沢質、半透明で灰白色に発色する釉は内外面に施され、口縁端部は削り取られて露胎となる。

248SX368暗灰色土出土遺物 (第57図)

土師器

丸形杯 a (5) 現存高1.7cmを測り、底径7.6cmに復元される体部下半から底部の破片であり、体部外面は強い回転ナデ調整、内面はナデ。底部は糸切り離してある。雲母の細片多く含む胎土は黄橙色を呈す。豊前産。

248SX369暗灰色土出土遺物 (第57図)

土師質土器

鍋(6) 現存高7.7cmを測る口縁部から体部の破片である。口縁部横ナデ、体部外面は指頭調整のちに横ナデ調整、内面は横ナデ調整で成形される。白色粒子や小礫を多量含む胎土は黄灰色から黄褐色を呈し、外面には煤が付着する。

248SX378暗灰色土出土遺物 (第57図)

石製品

用途不明品(7) 暗灰色を呈す滑石を素材とし、削りと研磨によって成形され、側縁には円孔と推定される挟りが1ヵ所観察される。現存長8.6cm、現存幅6.1cm、厚さ1.5cmを測り、重量123.0gを量る。

248SX381暗灰色土出土遺物 (第57図)

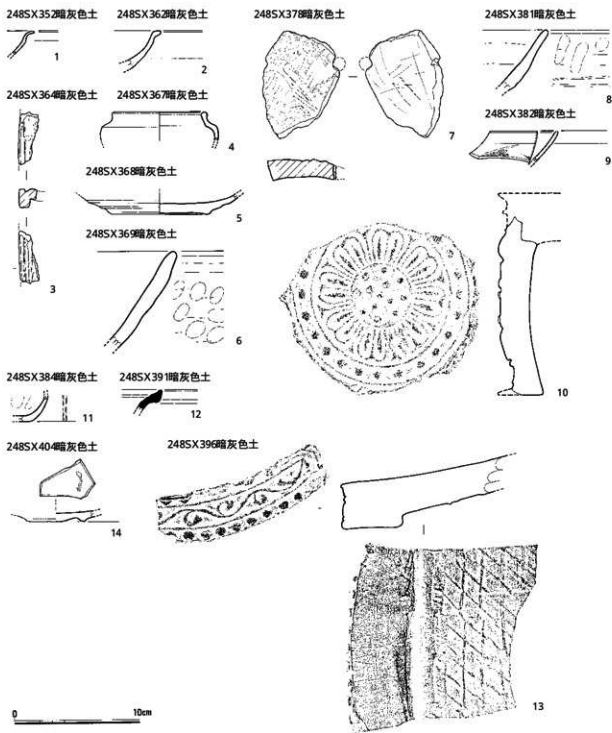
土師質土器

鍋(8) 現存高4.8cmを測る。口縁部から体部の破片であり、口縁部は横ナデ、体部外面は指頭調整ののち、横ナデ、内面は横ナデ調整で成形される。白雲母を多量含む胎土は黄灰色から黄褐色を呈す。外面には煤が付着する。

248SX382暗灰色土出土遺物 (第57図)

白磁

碗(9) 現存高2.5cmを測る口縁部から体部上位の破片であり、口縁部は回転ナデ調整、内面は回転ナデののちに櫛状工具による施文が施される。外面は回転ヘラケズリの可能性がある。黒色粒子を多く含む素地は灰白色を呈し、堅緻である。光沢質、透明で灰白色に発色する釉は内外面に施され、ピンホール状の釉切れを生じている。Ⅷ類系の未分類資料。



第 57 图 248SX352· 362· 364· 367· 368· 369· 378· 381· 382· 384· 391· 396· 404
 遗物实测图 (1 / 3)

瓦

軒丸瓦 (10) 推定瓦当径16.0cm、瓦当厚3.0cmを測る。223 a 型式。

248SX384暗灰色土出土遺物 (第57図)

青白磁

合子身 (11) 現存高2.1cmを測る体部から底部の資料であり、型押しにより外面に縦位の凹線を施す。焼成は良好であり、黒色粒子を微量含有する素地はやや砂質で黄白色を呈する。光沢質、透明で灰白色に発色する軸は底部を除いて内外面に施され、細貫入を生じる。

248SX391暗灰色土出土遺物 (第57図)

須恵質土器

甕 (12) 現存高1.7cmを測る口縁部の破片であり、回転ナデ調整で成形される。白色粒子を多く含む胎土は酸化焰焼成気味であり、断面橙褐色、器面は青灰色を呈す。産地不明。

248SX396暗灰色土出土遺物 (第57図)

瓦

軒平瓦 (13) 瓦当厚3.6cm、現存長14.6cmを測る。584 B 型式。

248SX404暗灰色土出土遺物 (第57図)

白磁

皿 (14) 現存高0.9cmを測り、底径4.6cmに復元される底部の破片であり、黒色粒子を微量含有する素地は灰黄色を呈し、微細な空隙を多く生じる。半光沢質で透明、暗緑灰色に発色する軸は高台畳付を除いて薄く施され、内面見込みには白色粘土質の目跡が付着する。未分類。

各層出土遺物

黄褐色土出土遺物 (第58図)

青磁

椀 (1) 現存高3.5cmを測る。口縁部から体部を襷状に捻り、上面観花卉状の意匠とする。黒色微粒子を少量含有する素地は堅緻であり、灰白色を呈す。半光沢、不透明で緑灰色に発色する軸は内外面に厚く施され、縦方向主体の比較的大きな単位の貫入を生じる。龍泉窯系青磁の未分類資料。

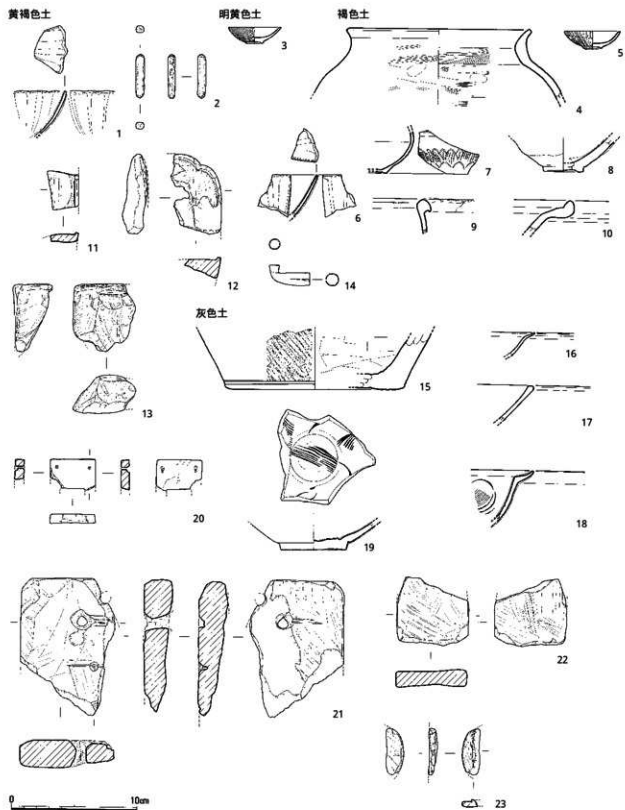
石製品

石筆 (2) 白色を呈し、部分的に茶色の斑が入る鰐石を素材とし、丸棒状に成形。両端部は使用により、細かな面取り状に摩滅している。全長3.5cm、径0.6~0.7cmを測る。

明黄色土出土遺物 (第58図)

国産磁器

紅皿 (3) 口径4.2cm、器高1.3cm、底径1.4cmを測る完形資料であり、型成形ののちに光沢質、不透明で白色に発色する軸を内面に施す。肥前系。



第 58 图 黄褐色土·明黄色土·褐色土·灰色土遺物実測図 (1 / 3)

褐色土出土遺物（第58図）

瓦質土器

壺（4）口径14.6cmに復元され、現存高5.6cmを測る口縁部から体部上位の破片であり、口縁部回転ナデ、頸部から体部にかけての内外面は指頭およびハケ目調整ののち、回転ナデ調整で仕上げられる。焼成は良好であり、暗灰色を呈す。

国産磁器

紅皿（5）口径4.4cmに復元され、器高1.4cm、底径1.5cmを測る口縁部から底部が遺存する資料であり、型成形ののち、光沢質、不透明で白色に発色する釉を内面から外面上位に施す。肥前系。

青磁

椀（6）現存高3.4cmを測る。口縁部から体部を襷状に捻り、上面観花弁状の意匠とする。黒色微粒子を少量含有する素地は堅緻であり灰白色を呈す。半光沢、不透明で緑灰色に発色する釉は、内外面に厚く施される。龍泉窯系青磁の未分類資料であり、黄褐色土出土の第58図1と製作技法等類似する。

青白磁

壺（7）現存高3.4cmを測る体部下位から底部の破片であり体部は型成形であり、外面に蓮弁文風の文様が2段施される。底部は回転ヘラケズリ。焼成は良好であり、素地は黄白色を呈し、光沢質、透明な釉は淡緑青色に発色し内外面に薄く施されるが底部は露胎となる。

中国陶器

小椀（8）現存高2.8cmを測り、底径3.2cmに復元される黒釉陶器の体部下位から底部の破片であり、体部下位から高台にかけては回転ヘラケズリで仕上げられる。他の部位は釉に遮られ調整不明である。

焼成は良好であり、白色粒子を多く含有する胎土は茶褐色を呈し、微細な空隙を生じている。半光沢質、不透明で黒色を呈す釉は内面および外面体部上位に施されるが、粘度が低い内面見込みに厚く溜まり、外面には釉垂れがみられる。

盤（9、10）現存高は9が2.7cm、10が2.5cmをそれぞれ測る口縁部から体部上位の破片であり、回転ナデで仕上げられる。焼成は良好であり、9の胎土は黒灰色を呈し、外面口縁部から内面にかけて薄く施される釉は淡緑灰色に発色する。口縁部には白色粘土の重ね焼き痕が付着する。10の胎土は赤褐色を呈し、内外面に薄く施される釉は黄灰色から黄褐色に発色する。いずれも未分類資料である。

石製品

硯（11、12）11は暗灰色を呈す泥岩を素材とする方硯の陸部とみられ、堤が遺存する。現存長3.1cm、現存幅2.5cm、厚さ0.8cmを測る。12は赤間関産であろうか、暗赤褐色を呈す頁岩を素材とする四葉形硯の海部分とみられ、現存長6.4cm、幅4.0cm、厚さ1.6cmを測る。

用途不明品（13）灰色を呈す滑石を素材とし、削りと研磨により成形する。形状から使用のため摩耗の進んだ硯の陸（硯尻）部とも想定される。現存長5.4cm、現存幅5.0cm、厚さ3.0cmを測る。

金属製品

煙管（14）真鍮素材の雁首であり、長さ3.2cm、火皿径0.8cm、羅字側径1.0cmを測る。

灰色土出土遺物（第58図）

土師器

杯a（土師器計測表参照）口径12.5cm、器高2.8cm、底径8.9cmを計測する。底部は糸切り離し。器面に油煙が付着する。

小皿a×b（土師器計測表参照）口径6.9cm、器高1.25cm、底径4.4cmを計測する。底部は糸切り離し。

胎土中に白雲母を多量含有する。

小皿 b (土師器計測表参照) 口径6.7cm、器高1.7cm、底径5.3cmを計測する。底部は糸切り離し。器面に油煙が付着する。

瓦質土器

壺×甕 (15) 現存高4.5cmを測り、底径14.1cmに復元される体部下半から底部が遺存する資料。外面には平行叩きが施され、内面は不定方向のナデで仕上げられる。焼成、還元度は良好であり、石英を少量含有する胎土は外面が青灰色、内面は黄灰色を呈す。

白磁

皿 (16) 現存高1.9cmを測る口縁部から体部上位の破片であり、黒色粒子を微量含有する素地は灰白色を呈す。光沢質、半透明で灰白色に発色する軸は口縁端部を除いて薄く施される。未分類。

青磁

椀 (17) 現存高2.9cmを測る口縁部から体部の破片であり、黒色粒子を微量含有する素地は還元不良のため明褐色を呈す。光沢質、不透明で濁化し、茶色に発色する軸は内外面に施される。未分類。

盤 (18) 現存高4.3cmを測る口縁部から体部の破片であり、体部外面は回転ヘラケズリ、内面には櫛状工具とヘラ状工具を用いて略花文と推定される文様を施す。黒色粒子を少量含有する素地は淡灰色を呈し、半光沢質、半透明で緑灰色に発色する軸を内外面に厚く施す。龍泉窯系青磁の未分類資料。

青白磁

椀 (19) 現存高2.3cm、底径5.2cmを測る体部下半から底部の破片であり、高台削り出し。体部外面ヘラケズリ、内面は回転ナデののち、櫛状工具によって施文される。黒色粒子を多量含有する素地は還元不良で黄灰白色を呈し、光沢質、半透明で青白色に発色する軸は内面、および外面の体部から高台脇まで施され、外面は縦位主体、内面は水裂状の細貫入が生じる。

石製品

巡方 (20) 幅3.8cm、現存長2.5cm、厚さ0.7cmを測る。暗褐色を呈す粘板岩を素材とし、遺存部下方には透かし穴の痕跡が観察される。また2穴1対のうち1穴が貫通する装着孔が、上辺隅に2ヵ所遺存する。

権 (21) 灰色を呈す褐色を素材として、板状に成形。穿孔を1ヵ所施すほか、未貫通の円孔を片面から穿っている。側縁にも円孔の痕跡とみられる半円形の挟りが観察される。現存長10.9cm、現存幅7.5cm、厚さ2.3cmを測り、重量270gを測る。

砥石 (22) 黄灰色を呈す細粒砂岩を素材とし、5面を使用面とする。部分的に煤が付着する。現存長5.5cm、幅5.8cm、厚さ1.8cmを測る。

用途不明品 (23) 灰白色を呈す滑石を素材とし、削りと研磨により成形する。遺存部位が少ないことから不明瞭であるが、硯の可能性もある。

銭貨 (第67図20、21) 初銚年の順に景德通寶の拓本を示す。

黄褐色土 2 出土遺物 (第59～61図)

土師器

大皿 (1) 口径24.0cm、器高2.8cm、底径18.2cmに復元される。底部糸切り離し。

小皿 a1 (2～9) いずれも底部糸切り離してあり。3は口径10.1cm、器高1.5～1.9cm、底径7.7cm。4は口径9.8cm、器高1.9cm、底径7.2cm。5は口径10.1cm、器高1.8cm、底径7.5cm。6は口径9.8cm、器高1.8cm、底径6.6cm。7は口径9.8cm、器高1.9cm、底径7.0cm。8は口径10.0cm、器高1.9cm、底径7.2。

9は口径11.0cm、器高2.0cm、底径8.4cmにそれぞれ復元される。3～9は二次焼成の影響であろうか、灰色を呈す。2の底面偏心位置には楕円形の孔が焼成後に穿たれる。

小皿 a1（土師器計測表参照）口径7.2～9.2cm、器高0.85～1.3cm、底径6.6～7.0cmを計測する。底部は糸切り離し。器面に油煙が付着する。

小皿 a×b（土師器計測表参照）口径7.2cm、器高1.3cm、底径5.9cmを計測する。底部は糸切り離し。

小皿 b（土師器計測表参照）口径7.2cm、器高1.55cm、底径5.7cmを計測する。底部は糸切り離し。器面に油煙が付着する。

土師質土器

大皿（10）現存高3.8cmを測る口縁部から底部の破片であり、口縁部横ナデ、体部外面は指頭調整、内面上位は指頭調整、それ以下はハケ目調整が施される。底部はヘラ切り後にナデ調整。焼成は良好であり、石英を多量含有する胎土は外面が暗黄褐色、内面は暗黄灰色を呈し、外面には煤が付着する。

鍋（11～13）いずれも口縁部から体部の破片であり、11、12は回転ナデ調整、13は外面が縦位のナデ内面は横位のナデ調整、口縁部は横ナデののち上面に縄を捺する。いずれも焼成は良好であり、胎土は石英を多量含有する。現存高は11が4.7cm、12が2.3cm、13が6.0cmをそれぞれ計測する。

火舎（14）現存高9.0cmを測る口縁部から体部の破片であり、口縁部上面は回転ナデ調整ののち、沈線が施される。外面は摩耗のため、調整不明。内面は回転ナデ調整であり、煤が付着する。

須恵質土器

こね鉢（15～19）15は口径19.0cm、器高6.2cm、底径6.4cmに復元される口縁部から底部の資料。口縁部から体部外面は回転ナデ調整、内面は摩耗のため調整不明。焼成、還元は不良。黒色粒子を多量含有する胎土は淡赤褐色から黄白色を呈す。16～18は口縁部から体部の破片であり、器面は回転ナデ調整。焼成は良好であり、青灰色を呈する。また、口縁部外面は重ね焼きのため暗灰色から暗灰青色に発色する。現存高は16が3.6cm、17は4.0cm、18は3.4cm。東播系。19は現存高3.3cmを測る口縁部から体部の破片で、口縁部は回転ナデ調整、内外面はハケ目調整で仕上げられる。焼成は良好で、白色粒子、黒色粒子を少量含有する胎土は灰色を呈し、部分的に灰黄色に発色する。産地不明。

甕（20）現存高4.1cmを測る口縁部の破片であり、口縁部から体部内面は回転ナデ調整。外面には平行叩きが施される。東播系。

瓦質土器

搦鉢（21・22）いずれも口縁部から体部の破片であり、21は口縁部が回転ナデ調整。体部外面は指頭調整およびハケ目調整ののち、ナデで仕上げられる。体部内面はハケ目調整ののち、縦位の搦目が施され、4本が遺存する。22は器面を回転ナデで仕上げるが、摩耗する。内面には縦位の搦目を施し、5本が遺存する。現存高は21が4.9cm、22が3.9cmをそれぞれ測る。

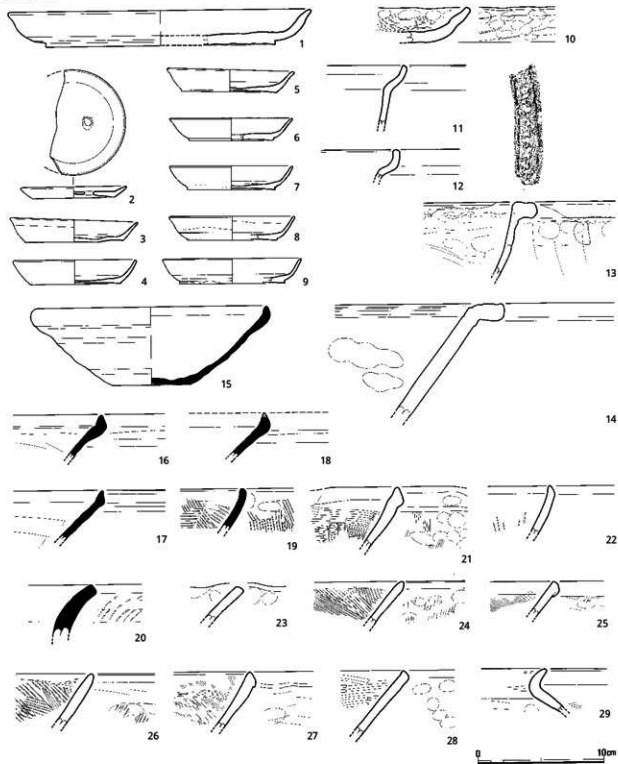
こね鉢×搦鉢（23～28）いずれも口縁部から体部の破片であり、23の口縁部には指頭調整によって片口を作成する。内外面はナデ調整。24～26は口縁部回転ナデ調整、体部外面は指頭調整とハケ目調整ののち、ナデで仕上げる。内面はハケ目調整。27、28は体部外面にハケ目調整の痕跡が観察されない。現存高は23が2.7cm、24が3.4cm、25が2.8cm、26が4.1cm、27が4.5cm、28が5.2cmをそれぞれ測る。

甕（29）現存高3.5cmを測る口縁部から体部の破片であり、口縁部は回転ナデ調整。体部外面は回転ナデののち、下位にハケ目調整が施され、内面は指頭およびハケ目調整ののち、回転ナデ調整で仕上げられる。焼成は良好であり、胎土は黒灰色を呈す。

国産陶器

こね鉢（30）現存高6.0cmを測る口縁部から体部の破片であり、器面は回転ナデ調整。口縁部がや

黄褐色土 2



第 59 図 黄褐色土 2 遺物実測図その 1(1 / 3)

や歪み外面に指頭調整が加わる点から片口付近の資料と推定できる。常滑系。

甕 (31~35) 31~33はいずれも口縁部から体部の破片。34は口縁部の破片。35は体部上位の破片である。31~34の口縁部はいずれも回転ナデ調整で仕上げられ、31、32の体部内面には指頭調整が施される。35は現存高5.1cmを測り、内外面を回転ナデで仕上げる。外面には棒状工具による沈線が施される。焼成は良好であり、白色粒子、黒色粒子を少量含有する胎土は外面が灰色から暗灰色、内面が暗橙灰色を呈す。産地不明。

白磁

椀 (36) 現存高4.6cmを測り、底径6.0cmに復元される体部下半から高台が遺存する資料であり、内面にはヘラ状工具と櫛歯状工具による文様が施される。焼成は良好であり、黒色粒子を少量含有する素地は黄灰色から灰色を呈し、光沢質、透明で黄灰色に発色する釉は、内面および外面体部から高台脇まで施され、細貫入を生じている。Ⅶ-c類。

皿 (37~42) 37は口径8.4cm、器高2.1cm、底径3.0cmに復元される。黒色粒子を少量含有する胎土は黄灰色から灰色を呈し、部分的に橙褐色に発色する。光沢質、透明で灰色を呈す釉は、内面および外面口縁部に施され、細貫入を生じる。Ⅱ-2b類。38は口径10.2cm、器高2.4cm、底径6.0cmに復元される。黒色粒子を少量含有する素地は灰白色を呈し、半光沢質、不透明で濁化し多量の気泡を生じている釉は青緑色に発色し、内面および外面体部に厚く不均一に施される。回転ヘラケズリが施された底部には、橙灰色を呈す焼跡が径4.3cm程の円形状に観察される。Ⅷ-1'類。39は口径11.0cm、器高3.7cm、底径4.4cmに復元されるⅡ-3類であり、口縁部には部分的に油煙が付着する。40は現存高0.6cmを測る口縁部から体部の細片であり、黒色粒子を少量含有する素地は灰白色を呈し、内外面に薄く施される釉は光沢質、透明で緑白色に発色する。未分類。41は現存高1.4cmを測り、底径が4.0cmに復元される体部下位から底部の破片。黒色粒子を微量含有する素地は灰黄色から灰白色を呈し、内面および外面体部に施され、淡灰白色に発色する釉は、光沢を失い、不透明で濁化している。未分類。42は現存高1.0cmを測り、底径7.2cmに復元される体部下端から底部の破片。黒色粒子を少量含有する素地は黄白色から乳白色を呈し、内面および外面体部に施される釉は光沢質、透明で黄白色に発色し、細貫入を生じる。未分類。

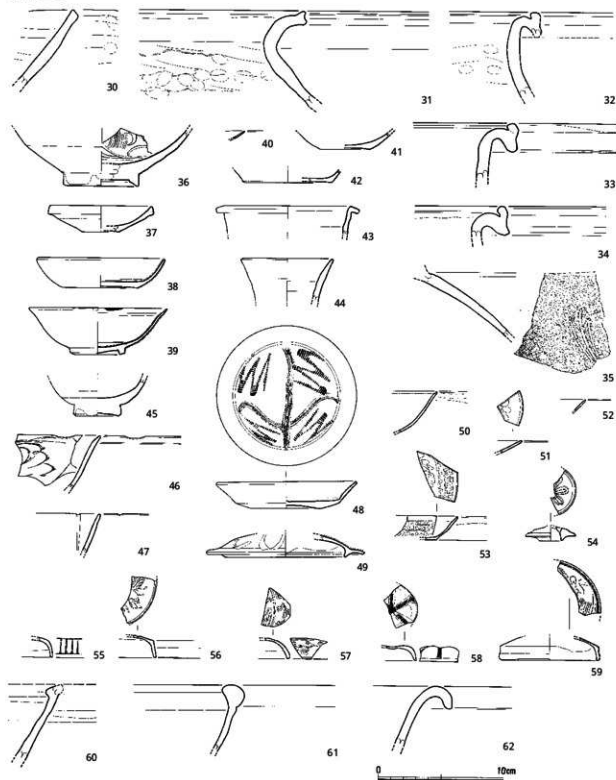
壺 (43、44) いずれも口縁部から頸部の資料であり、43は口径11.4cmに復元され、現存高2.3cmを測る。黒色粒子を少量含有する素地は暗灰色を呈し、部分的に黄灰色に発色する。内外面に比較的厚めに施される釉は、灰白色に発色するが光沢を失い、不透明で濁化している。口縁部が鋭く屈折する形状から水注に可能性もある。44は口径7.4cmに復元され、現存高3.4cmを測る。黒色粒子をやや多く含有する素地は灰白色を呈し、内外面に施される釉は、光沢質、透明で灰色に発色し、貫入が内面全面と外面で部分的に生じている。

青磁

小椀 (45) 現存高3.0cm、底径3.8cmを測る体部下位から高台の資料であり、高台は削り出して中実。黒色粒子を少量含有する素地は断面が灰青色を呈し、器面は橙灰色から茶灰色に発色する。半光沢、不透明で暗緑灰色に発色する釉は、内面および外面体部から高台脇まで施され、放射状に貫入を生じている。龍泉窯系青磁の未分類資料。

椀 (46、47) いずれも口縁部から体部の破片であり、46は現存高4.3cmを測る。口縁部には輪花が刻まれ、内面にはヘラ状工具による略花文状の片影が施される。黒色粒子を少量含有する素地は灰色を呈し、半光沢質、半透明で暗緑灰色に発色する釉は内外面に施され、外面には縦位の貫入を部分的に生じる。龍泉窯系青磁Ⅰ-2b類。47は現存高3.1cmを測る。口縁部には輪花が刻まれ、体部内面には輪花位

黄褐色土 2



第 60 図 黄褐色土 2 遺物実測図その 2(1/ 3)

置から白線が垂下する。黒色粒子を少量含有する素地は灰色を呈し、光沢質、半透明で青緑色に発色する釉が、内外面に厚く施される。龍泉窯系青磁の未分類資料。

皿 (48) 口径11.2cm、器高2.2cm、底径5.4cmを測る同安窯系青磁 I - 2b 類の完形品である。

蓋 (49) 口径12.6cmに復元され、現存高1.8cmを測る天井部下位から口縁部の破片であり、外面天井部に蓮弁文を施す。黒色粒子をやや多く含有する素地は、断面が灰白色、器面は橙色を呈す。光沢質、不透明で緑青色に発色する釉は、天井部内外面に厚く施される。龍泉窯系青磁。

青白磁

碗 (50) 現存高3.3cmを測る口縁部から体部の破片であり、黒色粒子をやや多く含有する素地は灰白色を呈す。光沢質、不透明で青緑色に発色する釉は、内外面に施されたのち、口縁部が削られる。

皿 (51~53) 51、52は口縁部から体部、53は口縁部から底部が遺存する破片である。51は現存高1.0cmを測り、型成形により内面に花文が施される。灰白色を呈す素地には黒色粒子を少量含有し、内外面に光沢質、透明で青白色の釉を施す。52は現存高0.7cmを測り、素地は白色を呈し、黒色粒子を少量含有する。内外面には光沢質、透明で青白色の釉を施す。53は器高1.9cmを測る。型成形により内面に文様を施す。素地には黒色粒子を少量含有し、光沢質、透明で青緑色に発色する釉は、内外面に施されたのち、口縁部を掻き取られる。

蓋 (54) 最大径4.0cm、口径1.8cmに復元され、現存高1.15cmを測る天井部上端を欠損する破片であり、天井部外面は型成形により花文を施す。他は回転ナデ調整で成形され、天井部には径0.5cm程度の孔が偏芯位置に穿たれる。黒色粒子を少量含有する素地は黄灰色を呈し、光沢質、やや不透明で緑灰色に発色する釉は天井部外面に施され、水裂状の細貫入が生じる。

合子蓋 (55~59) 天井部の一部と口縁部が遺存する破片であり、型成形により、外面天井部や体部に文様が施される。55は現存高1.6cmを測り、外側面に文様が施される。素地は灰白色を呈し、外面および内面天井部に施される釉は、緑白色に発色する。56は現存高1.8cmを測り、天井部に葉文が観察できる。素地は黄白色を呈し、外面と内面天井部に施される釉は黄緑色に発色する。内面には飛沫状の黒色物質が付着する。57は現存高1.65cmを測り、天井部と側面に葉文が観察できる。素地は黄灰色を呈すほか、釉と露胎部の境界は橙色に発色する。外面から内面天井部に施される釉は外面青白色、内面灰白色に発色する。58は現存高1.2cmを測り、器形を果実形に意匠する。素地は断面が灰白色、露胎部が橙灰色を呈し、外面に施される釉は青白色に発色する。59は口径7.9cmに復元され、現存高1.8cmを測る。黒色粒子を少量含有する素地は黄白色から黄橙色を呈し、光沢質、透明な釉は外面と内面天井部に施され、水裂状の細貫入が生じる。

中国陶器

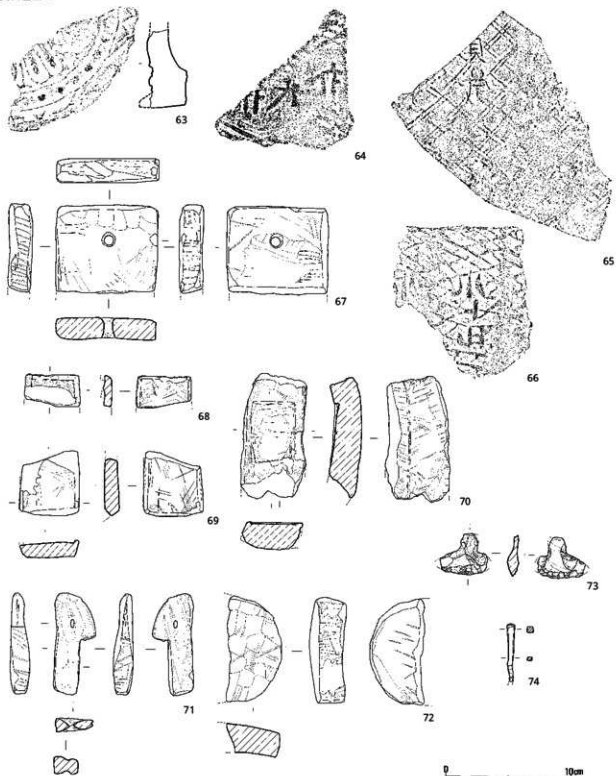
鉢 (60、61) いずれも口縁部から体部の破片であり、60は現存高5.9cmを測り、胎土は黒色粒子、白色粒子を少量含有し、灰黄色から赤褐色を呈す。半光沢、不透明で内外面に薄く不均一に施される釉は外面が暗黄褐色、内面が暗黄褐色、暗茶褐色に発色する。61は現存高5.3cmを測り、胎土は白色粒子、赤色粒子を少量含有し、赤褐色を呈す。光沢を失い、不透明な釉は内外面に薄く不均一に施され、外面では黄灰褐色、暗緑褐色、内面では暗黄褐色、暗黄灰褐色に発色する。いずれも未分類資料。

壺 (62) 現存高4.8cmを測る口縁部から体部の破片であり、黒色粒子、白色粒子を少量含有する胎土は灰色を呈す。半光沢、不透明で黄褐色に発色する釉は、本来全面施釉されていたものと思われるが、ほとんど剥離して口縁部外面に残存するのみである。未分類資料。

瓦

軒丸瓦 (63) 現存高が6.2cmを測り、瓦当径は18.0cm程と推定される。275A型式。

黄褐色土 2



第 61 図 黄褐色土 2 遺物実測図その 3(1/ 3)

文字瓦 (64~66) いずれも平瓦であり、凸面の拓本。64は格子目と「佐」字が観察できる902 I 型式。65は二重格子と「賀茂瓦」の下半が遺存する903 D 型式。66は格子と「小□瓦」が観察できる910 型式である。

石製品

権 (67) 灰白色を呈す滑石を素材とし、削りと研磨で板状に成形し、径1.1cmの円孔を穿つ。現存長7.0cm、幅8.1cm、厚さ1.9cmを測り、重量239.0gを測る。

硯 (68~70) 68、69は灰色を呈す粘板岩系素材を用いた方形硯であり、同一個体の可能性がある。68は海の部分と類推でき現存長2.5cm、幅4.5cm、厚さ0.7cmを測る。69は陸から硯尻にかけてと類推でき、現存長5.2cm、幅4.8cm、厚さ1.3cmを測る。70は滑石製石鍋の口縁部付近の破片に再加工を施したものであり、鐔を削り取った痕跡が観察できる。石鍋内面であった平滑な部分を方形に削り込んで、海と陸を作り出す。硯面には墨が薄く残存する。全長9.9cm、幅5.2cm、厚さ2.7cmを測る。

用途不明品 (71、72) いずれも滑石を素材としており、71は研ぎ減りによって表裏面が大きく凹み、穴があいている。長さ8.1cm、幅3.3cm、厚さ1.5cmを測る。重量は40.7gを量る。72は側面を削り円盤状に成形したものであり、半円が欠損する。表裏面の加工のあり方や湾曲度からみて石鍋再加工品の可能性がある。径8.4cm、現存幅4.4cm、厚さ2.3cmを測り、重量151.0gを量る。

石匙 (73) 暗灰色を呈す安山岩を素材とする。全長3.3cm、現存幅3.8cm、厚さ0.9cmを測る。混入品。銭貨 (68図22、23) 初銚年の順に開元通寶、天聖元寶の拓本を示す。

金属製品

鉄釘 (74) 両端部を欠損し現存長3.0cmを測る。

暗灰色土出土遺物 (第62~64図)

土師器

杯 a (1) 口径16.5cm、器高2.75cm、底径8.9cmに復元される。底部は糸切り離し。

杯 a (土師器計測表参照) 口径14.2cm、器高3.55cm、底径9.0cmを計測する。底部は糸切り離し。

小皿 a1 (土師器計測表参照) 口径8.3~9.1cm、器高0.95~1.3cm、底径6.4~7.1cmを計測する。底部は糸切り離し。胎土中に白雲母を多量に含有する。

小皿 a×b (土師器計測表参照) 口径9.1cm、器高1.55cm、底径6.2cmを計測する。底部は糸切り離し。

大皿 c (2) 器高4.7cmを測る。器面は回転ナデ調整。高台は貼付される。

皿 c (3) 現存高2.8cmを測り、底径8.0cmに復元される体部下位から高台の資料であり、底面の偏芯位置には焼成後に径0.5cmの円孔が穿たれる。器面は回転ナデ調整、高台は貼り付けられる。

把手 (4) 現存高4.35cm、現存長6.0cmを測る。器面は体部から先端に向けたナデ調整で成形される。

瓦器

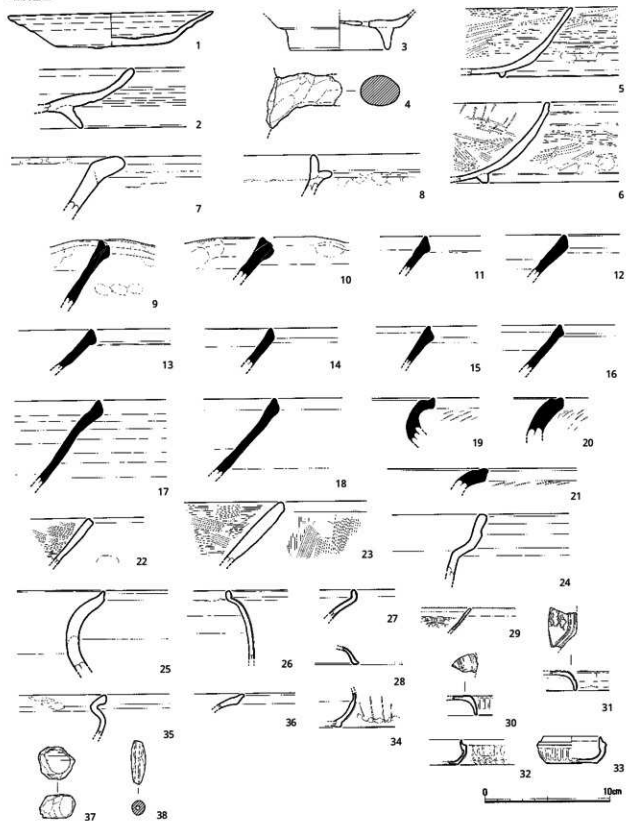
椀 c (5、6) ともに口縁部から底部の破片であり、外面下位に指頭調整、内外面にヘラミガキが施され、6の内面にはコテ当て痕が観察できる。焼成は良好であり、5は還元度が低く赤みを帯びている。6は灰白色を呈す。現存高は5が6.35cm、6が5.45cmを測る。

土師質土器

鍋 (7) 現存高4.5cmを測る口縁部から体部の破片であり、器面は回転ナデ調整で成形するほか、口縁内面には指頭調整が残る。胎土は白色粒子を多量に含み粗く、体部内外面には煤が付着する。

羽釜 (8) 現存高2.85cmを測る口縁部から体部上位の破片であり、鐔が遺存する。器面は回転ナデ調整で成形され、鐔には煤が付着する。胎土は砂粒を少量含有する。

暗灰色土



第 62 図 暗灰色土遺物実測図その 1 (1 / 3)

須恵質土器

こね鉢（9～18）いずれも口縁部から体部上位の破片であり、9、10には片口が遺存する。現存高は9が5.2cm、10が3.35cm、11が2.75cm、12が3.4cm、13が3.2cm、14が3.15cm、15が3.1cm、16が3.75cm、17が6.9cm、18が6.1cmをそれぞれ測り、東播系に比定できる。

甕（19～21）いずれも口縁部の破片であり、回転ナデ調整で成形される。現存高は19が3.6cm、20が3.0cm、21が1.65cmをそれぞれ測る。東播系。

瓦質土器

こね鉢×擂鉢（22、23）いずれも口縁部から体部上位の破片であり、口縁部回転ナデ調整、外面は下位に指頭調整を施したあと、23はハケ目調整で仕上げる。内面はハケ目調整。現存高は22が3.65cm、23が4.85cmをそれぞれ測る。

壺×甕（24）現存高5.2cmを測る口縁部から頸部の破片であり、器面は回転ナデ調整で成形される。暗灰色粒子、白雲母を少量含有する胎土は灰色を呈し焼成は良好である。

国産陶器

甕（25）現存高6.35cmを測る口縁部から体部上位の破片であり、回転ナデ調整で成形される。白色粒子を少量含有し、微少な空隙を生じる胎土は断面が灰色、器面は暗赤褐色を呈し堅緻。口縁部内面や外面肩部に褐白色の降灰が飛沫状に付着する。常滑系。

青磁

壺（26、27）26は現存高5.5cmを測る口縁部から胎部の破片であり、口縁部から内面は回転ナデ調整で成形される。黒色粒子を多量含有する素地は灰色を呈し、半光沢質、不透明で青緑灰色に発色する釉は口縁部内面から外面体部にかけて厚めに施される。27は口縁部の破片であり、器面は回転ナデ調整で成形される。素地は灰白色を呈し、半光沢質、半透明で内外面に厚く施される釉は緑灰白色に発色する。いずれも龍泉窯系青磁と考えられる。

蓋（28）現存高1.45cmを測る口縁部から天井部上位の破片であり、白色微粒子を微量含む素地は灰色を呈す。光沢質、半透明で内外面に厚く施す釉は、緑灰色に発色し、水裂状の貫入を生じる。

青白磁

皿（29）現存高1.8cmを測る口縁部から体部の破片であり、型成形で内面に文様が施される。素地は灰白色を呈し、光沢質、透明で青白色に発色する釉は内外に施されたのち、口縁部を釉剥ぎする。

合子蓋（30、31）いずれも天井部から口縁部まで遺存する破片であり、型成形により外面に草花文と推定される文様が施される。素地は30が灰白色、31が乳白色を呈し、外面および内面天井部に施される釉は30が青灰色、31が青白色に発色する。現存高は30が1.45cm、31が1.5cmを測る。

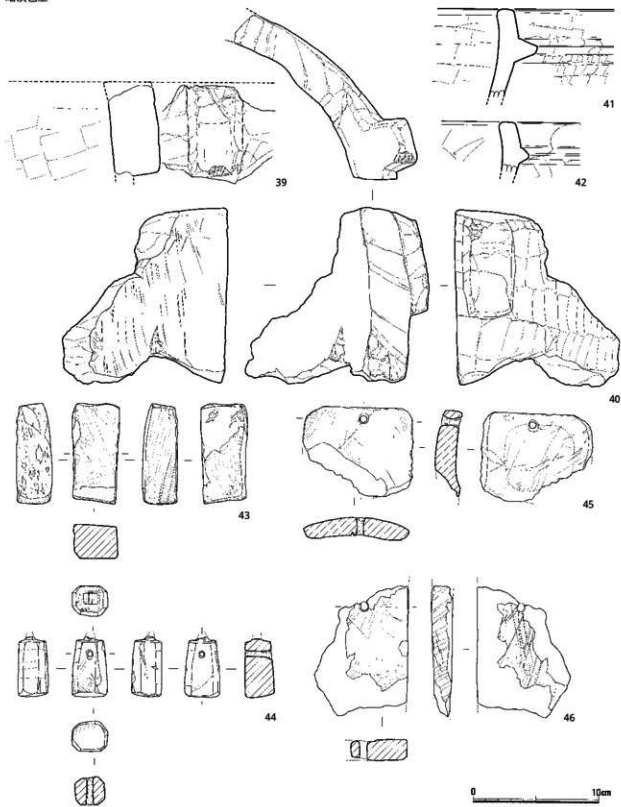
合子身（32、33）いずれも型成形で外側面に文様を施す。32は現存高2.0cmを計測する口縁部から底部の破片であり、素地は灰白色を呈す。光沢質、透明で青白色に発色する釉は、外面体部と内面に施され、微細な気泡を生じる。33は口径4.5cm、器高2.15cm、底径4.2cmに復元され、素地は黄灰白色を呈し、光沢質、透明で青白色に発色する釉は外面体部と内面に施され、水裂状の細貫入を生じる。

小壺（34）現存高2.9cmを測る体部から底部の破片であり、型成形によって体部外面に花卉状の意匠を施す。素地は灰白色を呈し、光沢質、半透明で緑灰色に発色し灰色の斑紋が生じる釉は、内面および外面下位まで施され、下端は軸垂れが顕著である。また、網目状の細貫入が内外面ともに多数生じる。

中国陶器

鉢（35）現存高3.3cmを測る口縁部から体部の破片であり、回転ナデ調整で成形される。赤色粒子、白色粒子を少量含有する胎土は淡赤褐色を呈し、光沢を失い、不透明で暗黄褐色に発色する釉は、内外面

暗灰色土



第 63 図 暗灰色土遺物実測図その 2 (1 / 3)

に施される。口縁部内面には白色粘土質の目跡が付着する。未分類。

朝鮮系無釉陶器

壺 (36) 現存高1.2cmを測る口縁部の破片であり、回転ナデ調整で成形される。白色微粒子を微量含む胎土は淡灰色から暗灰色を呈し、内外面に気泡を生じる。

土製品

瓦玉 (37) 格子叩きの一部が僅かに観察できる須恵質焼成の瓦を、打割と研磨により略円柱状に成形する。長軸長2.9cm、短軸長2.6cm、1.85cmを測り、重量15.4gを量る。

土錘 (38) 長軸長3.45cm、最大径1.15cmを測り、重量3.5gを量る完形資料であり、長軸方向のナデによって仕上げられる。

石製品

滑石製石鍋 (39~42) 39、40はA群、41、42はB群に比定される。39は現存高7.2cmを測る、耳が遺存する資料であり、外面下位には煤が付着する。40も耳が遺存する体部の破片で、外径が36.0cm程に復元できる大形品である。外面中位より下には煤が付着し、破断面には平滑に削る再加工が施されている。現存高は14.0cmを測る。41は現存高6.96cmを測り、二次被熱の影響であろうか、部分的に赤化している。42は現存高4.15cmを測り、外面には煤が付着する。

砥石 (43) 黄色から赤褐色を呈す泥岩を素材とし、4面を使用面とする。長さ8.0cm、幅3.7cm、厚さ2.8cmを測る。

槌 (44~46) いずれも滑石を素材としており、44は削りと研磨による面取り加工を施して、多面体の台形に成形する。頭部に突起が削り出されていたようであるが欠損している。上部に径0.5cm程の円孔を穿つが、使用による摩耗で開口部が広がっていることから、紐を通し、吊り下げて使用されていたことが想定される。現存高4.8cm、底面での長軸長2.8cm、短軸長2.4cmを測り、重量59.6gを量る。45は器面が灰色を呈し、断面が赤褐色に発色する。削りと研磨で、方形、板状に成形し、上部に径0.7cm程の円孔を穿つ。煤が裏面に付着する。現存長7.0cm、幅8.8cm、厚さ2.1cmを測り、166.0gを量る。

46は破断と剥離が著しいが、本来は45と同様の方角、板状を呈していたと考えられる。上部に径0.6cmの円孔を穿つ。表面と側面には煤が付着する。現存長10.4cm、現存幅7.4cm、厚さ1.6cm、重量168.0gを量る。

用途不明品 (47) 灰色を呈する滑石を素材としており、現存長12.4cm、幅5.8cm、厚さ1.5cmを測る。底面は石鍋外面に通有みられるウロコ状の削り加工が施されており、加えて煤が付着することから、再加工品の可能性を指摘できる。形状から機能を想像して、異形容器の蓋とみることもできよう。

金属製品

刀子 (48) 刃部と茎の遺存する資料であり、木質が覆っている。両端部は欠損する。現存長5.1cm、刃部幅は1.3cmに復元され、茎幅0.7cm、刃部厚、茎厚ともに0.25cmを測る。

鉄鎌 (49) 切先と茎端部を欠損する。遺存部位から先端部形態は片刃箭と類推できる。現存長16.5cmであり、このうち鎌身長10.5cm、茎長6.0cm。鎌身幅は0.2cmを測り、重量は18.0gを測る。

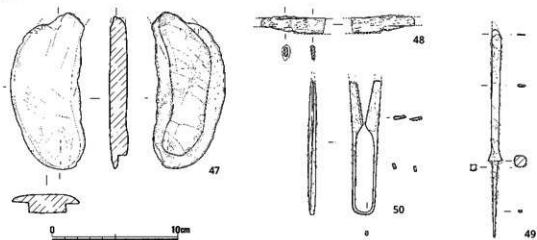
鉄 (50) 鍛造された握鉄であり、先端部を欠損する。現存長10.75cm、最大幅2.5cmを測り、重量は12.0gを量る。

黄灰色土出土遺物 (第65図)

土師器

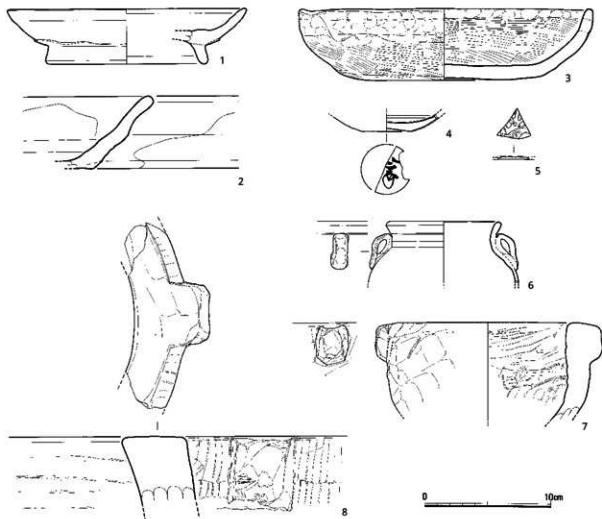
大皿 c (1) 口径18.9cm、器高4.4cm、底径12.8cmに復元される。回転ナデ調整で成形され、高台は

暗灰色土



第 64 図 暗灰色土遺物実測図その 3(1 / 3)

黄灰色土



第 65 図 黄灰色土遺物実測図 (1 / 3)

貼付。胎土中には白雲母を多量に含有し、外面には煤が付着する。

土師質土器

鉢（2、3）いずれも口縁部から底部が遺存する。2の体部は回転ナデ調整で成形され、底部は不定方向のナデが施される。焼成は良好であり、白色粒子多量、白雲母を少量含有する胎土はやや粗い。体部内外面には煤が付着する。3は口径22.8cm、器高5.7cm、底径14.0cmに復元され、口縁部から外面体部上位にかけては指頭調整、内面および外面体部、底部はハケ目調整で仕上げられる。焼成は良好であり、胎土は白色粒子を多量、白雲母少量を含有し、粗い。体部外面中位から下位に煤が薄く付着する。

白磁

皿（4）現存高1.15cmを測り、底径3.9cmに復元される体部下端から底部の破片であり、黒色粒子を少量含有する素地は軟質で、明橙色を呈す。やや光沢質で濁化し不透明な釉は、緑灰白色に発色し、底部を除いて内外面に不均一に施され、氷裂状の細貫入とピンホール状の釉切れが生じている。底面露胎部には墨書が書かれるが、器面の剥離、摩耗が著しく判然としない。未分類。

青白磁

皿（5）底部の細片であり、型成形によって内面に文様が施される。黒色粒子を少量含有する素地は灰白色を呈し、部分的に橙色に発色する。光沢質、透明で青白色に発色する釉は、内外面に施され微少な気泡が生じる。

中国陶器

耳壺（6）口径9.1cmに復元され、現存高4.9cmを測る口縁部から体部上位の破片であり、耳が1個遺存する。内外面を回転ナデ調整で成形後、縦耳を貼付する。焼成は良好であり、黒色粒子少量、白色粒子微量含有する胎土は赤褐色を呈す。光沢を失い、不透明で暗黄褐色に発色する釉は内外面に薄く施される。未分類。

石製品

滑石製石鍋（7、8）いずれもA群である。7は口径14.4cmに復元され、現存高7.85cmを測る口縁部から体部が遺存する小形品であり、耳以下の体部外面には煤が付着する。8は現存高5.5cmを測る口縁部から体部上位の破片であり、耳が遺存する。器面全体に煤が薄く付着する。

褐色砂出土遺物（第66図）

土師器

小皿a1（土師器計測表参照）口径8.6～9.6cm、器高1.1～1.25cm、底径6.9cmを計測する。底部は糸切り離し。器面に油煙が付着するものがある。

甕（1）口径10.6cmに復元され、現存高5.6cmを測る小形品の口縁部から体部の破片であり、器面は回転ナデ調整で成形される。焼成は良好であり、石英、白雲母を少量含有する胎土は黄橙色を呈す。外面全面および内面部分的に煤が付着する。

青磁

椀（2）口径17.0cm、器高7.1cm、底径6.3cmを測る完形資料であり、内面体部中位から見込みにかけて横位の擦痕が顕著である。内面の片影蓮花文は2単位施される。龍泉窯系青磁I-2a'類。

瓦類

文字瓦（3）格子と「観世音寺」銘の下半が確認できる。905型式。

石製品

権（4）灰色を呈す滑石を素材として、方形、板状に成形し、0.6cmの円孔を穿つ。表裏面には粗い

褐色砂



第 66 图 褐色砂・灰色土 2 遺物実測図 (1 / 3)

条線が顕著である。長軸長8.6cm、短軸長8.1cm、厚さ2.0cmを測り、重量は294.0gを量る。

用途不明品(5)滑石製石鍋の破片に再加工を施したものであり、鏝を切除した痕跡が観察できる。側面を削り、柄鏡形に成形する。長軸長9.6cm、短軸長5.4cm、厚さ2.6cmを測り、重量215.0gを量る。

灰色土2出土遺物(第66図)

土師器

杯a(土師器計測表参照)口径15.0~15.2cm、器高2.55~3.7cm、底径8.8~11.5cmを計測する。底部は糸切り離し。胎土中に白雲母を多量含有するものがある。

小皿a1(土師器計測表参照)口径8.6cm、器高1.35cm、底径5.6cmを計測する。底部は糸切り離し。

瓦器

小皿a(6)口径9.0cm、器高1.5cm、底径6.9cmを測る。口縁部から体部は回転ナデ、内底面はほぼ一定方向のヘラミガキ、底部は糸切り離し、雲母細片をやや多く含有する胎土は黒灰色から灰白色を呈す。

土師質土器

鍋(7)現存高5.3cmを測る口縁部から体部上位の破片であり、外面は横ナデ調整、内面はハケ目調整で仕上げられる。口縁部上面には原体不明の押捺痕が観察される。白色粒子、雲母細片をやや多く含有する胎土は暗褐色から茶褐色を呈し粗い。

白磁

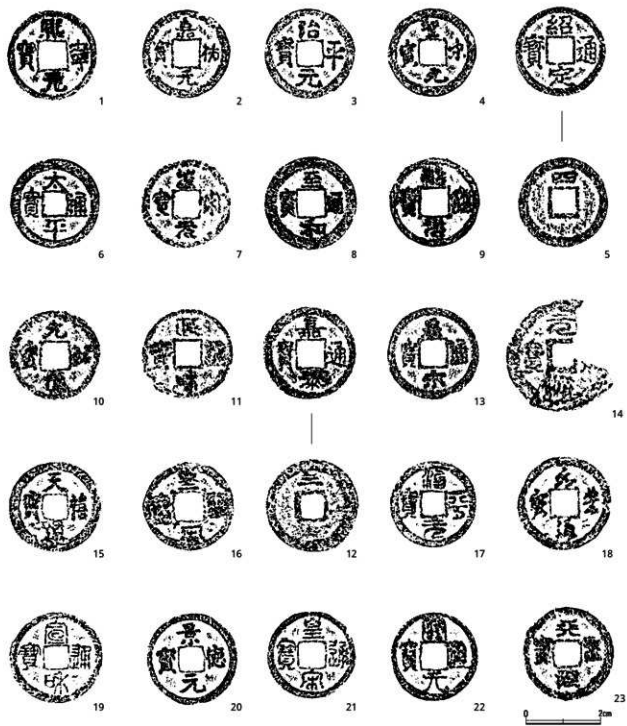
小壺(8)現存高1.9cmを測り、底径2.8cmに復元される体部下位から底部が遺存する資料であり、素地は灰白色を呈し、光沢質、透明で黄灰色に発色する軸は、外面体部および内面下位に施され、網目状の細貫入を生じる。

青白磁

合子蓋(9)口径5.0cmに復元され、器高1.4cmを測る。型成形で外面天井部に草花文、側面に縦位の浮文を施す。素地は灰白色を呈し、光沢質、透明で青灰色から灰白色に発色する軸は、外面および内面天井部に施され、網目状の細貫入を部分的に生じる。

中国陶器

壺(10)現存高4.6cmを測る口縁部の破片であり、器面は回転ナデ調整で成形される。黒色粒子、白色粒子、雲母細片を少量含有する胎土は橙色から灰色の斑状に発色する。光沢を失い、不透明で暗緑灰色に発色する軸は、外面に薄く施す。



第 67 圖 出土錢真拓影圖 (1 / 1)

大宰府糸坊跡第248次調査 銭貨計測表

径・厚はcm、重量g、-：不明

番号	遺跡名 / 土層名	銭貨名	天地外径	左右外径	天地内径	左右内径	銭厚	重量	備考
1	248SF 025/褐色土	唐寧元寶	24	24	20	20	0.12-0.14	35	1068年 北宋 初鑄
2	248SK 123/黄褐色土	嘉祐元寶	2.35	2.35	1.95	1.9	0.12-0.15	30	1056年 北宋 初鑄
3	248SK 123/黄褐色土	治平元寶	2.45	2.45	2.05	1.95	0.11	23	1064年 北宋 初鑄
4	248SK 123/黄褐色土	聖宗元寶	2.4	2.35	1.85	2.35	0.15	38	1101年 北宋 初鑄
5	248SK 123/黄褐色土	咸寧通寶	2.45	2.4	2.06	2.06	0.08-0.1	21	1201年 南宋 初鑄 /背文「四」
6	248SB 140a	太平通寶	2.4	2.4	1.8	1.9	0.2	28	976年 北宋 初鑄
7	248SB 140/黒色土	聖宗元寶	2.4	2.4	2.0	2.0	0.15	24	1101年 北宋 初鑄
8	248SB 140/黒色土	聖和通寶	2.45	2.45	1.8	1.8	0.1	30	1054年 北宋 初鑄
9	248SB 140/黒色土	熙寧元寶	2.45	2.45	2.1	2.1	0.15	35	1068年 北宋 初鑄
10	248SB 140/黒色土	元祐通寶	2.4	2.45	2.0	2.0	0.12	32	1086年 北宋 初鑄
11	248SB 140/黒色土	政和通寶	2.4	2.4	2.0	2.0	0.14	34	1111年 北宋 初鑄
12	248SB 140/黒色土	嘉寧通寶	2.45	2.45	2.0	2.0	0.13	35	1201年 南宋 初鑄 /背文「三」
13	248SK 164/黄褐色土	皇宋通寶	2.5	2.45	2.0	2.05	0.05-0.15	27	1038年 北宋 初鑄
14	248SF 165/黒色土	元符通寶 折二銭	-	3.5	-	2.8	0.12-0.16	43	元符通寶 1096年 北宋 初鑄 か
15	248SX 241/暗灰色土	天禧通寶	2.45	2.45	2.0	1.95	0.1	29	1017年 北宋 初鑄
16	248SX 241/暗灰色土	皇宋通寶	2.4	2.4	2.0	2.0	0.1	31	1038年 北宋 初鑄
17	248SX 241/暗灰色土	治平元寶	2.3	2.35	1.95	1.9	0.1-0.15	40	1064年 北宋 初鑄
18	248SX 241/暗灰色土	元豐通寶	2.55	2.5	2.0	2.0	0.1	38	1078年 北宋 初鑄
19	248SX 248/暗灰色土	宣和通寶	2.45	2.45	2.05	2.0	0.15	29	1119年 北宋 初鑄
20	灰色土	景德元寶	2.45	2.45	2.1	2.05	0.1-0.15	28	1004年 北宋 初鑄
21	灰色土	皇宋通寶	2.35	2.4	2.0	2.0	0.1-0.15	26	1038年 北宋 初鑄
22	黄褐色土 2	開元通寶	2.35	2.35	2.0	2.0	0.1	29	621年 唐 初鑄
23	黄褐色土 2	天聖元寶	2.5	2.45	2.0	2.0	0.15	27	1023年 北宋 初鑄

銭貨分類は、永井久美男 日本出土銭貨 1996年度版、兵庫県埋蔵銭調査会 を参照した。

Ⅶ. ま と め

今次調査の大宰府条坊跡第248次調査では、計5面の遺構面と、それに伴う整地層が確認された。検出された遺構の内訳を再度示すと、表土直下の第Ⅰ面からは礎石建物1棟・溝4条・土坑23基・たまり状遺構・小穴群、第Ⅱ面からは道路1条・礎敷建物3棟・土坑15基・集石2基・たまり状遺構、小穴群、第Ⅲ面からは道路1条・礎石建物1棟・掘立柱建物1棟・溝3条・井戸8基・土坑17基・たまり状遺構・小穴群、第Ⅳ面からは柵列1列・土坑1基・小穴群、最下面の第Ⅴ面からは掘立柱建物3棟・溝6条・井戸4基・土坑18基・たまり状遺構・小穴群といった数時期にわたって極めて遺構密度の高い内容であった。

また、第248次調査区は、鏡山猛氏による推定大宰府条坊跡案では左郭5条7坊にあたり、府大寺といわれた観世音寺が北西側に近接する。本地区周辺では、奈良時代から中世の各期にわたる遺構の存在が予想されたが、奈良時代から平安時代前期までの遺構は認められず、土層観察や周辺の調査事例などから奈良時代から平安時代前期までの遺構面は河川の氾濫により流失したものと判断された。

以下、各遺構面（第Ⅰ～Ⅴ面）で検出された主な遺構を取り上げ、現時点で考えられる幾つかの点を整理しておきたい。

最下層遺構面の第Ⅴ面は、概ね大宰府土器型式ⅩⅤ期（12世紀後半～13世紀前半）に埋没したと推定される遺構で構成され、掘立柱建物3棟を含め調査区のはほぼ全体に数多い小穴が分布し、井戸も検出されている。こうした中で注目される遺構は掘立柱建物（248SB400・405・406）、南北溝（248SD260）、石組井戸（248SE335）などである。掘立柱建物の全容を捉えられたものは少なく、相対的に小規模（梁行2間×桁行2間）の建物が多い。溝（248SD260）の埋没時期は12世紀後半であり、やや強引かもしれないが、溝東側の空間を道路と想定し、東側調査区外に対となる溝が存在した場合に、本遺構は坊路の西側溝になり得る可能性も残す。石組井戸は、乱積の形態であるが、石組の積み直しが北側で観察されている。

第Ⅳ面は、調査区西辺（約6m幅）で確認され、整地層は黄灰色土が主体となり構成されている。遺構の分布としては比較的散漫で、小穴が中心となり、あまり目立った遺構は発見されていないが、南北に延びる柵列（248SA255）は注目される。遺構は、第Ⅴ面と同様に概ね平安時代末期から鎌倉時代前半（12世紀後半～13世紀前半）に埋没したと考えられる。

第Ⅲ面は、ⅩⅠ期（13世紀第2四半期頃）の生活面と推定される。調査区のはほぼ中央で検出された礎石建物（248SB140）は、平面形が長方形を呈し、地鎮具と推定される銅鏡なども出土しており、掘込地業の構造であることから堅固な建物が想定される。本遺構は、後述する礎敷建物（248SB020）と構築位置において南辺・東辺・西辺がほぼ一致しており、第Ⅱ面に属する可能性も残すが、第Ⅱ面の平面形確認時には明瞭な平面形が確認されなかったことから第Ⅲ面の遺構として扱っている。調査区の東側からは、第Ⅱ面で検出された南北道路（248SF035）の前身と考えられる礎敷道路（248SF165）が発見されている。調査区の北側では五条路を意識したように東西方向に並んで井戸（248SE110・135・160・170・175・185・195）が検出され、また調査区の西端では掘立柱建物が発見され、柱穴の1穴から礎石と考えられる角礎が出土している。

第Ⅱ面は、第ⅩⅢ期（13世紀第3四半期頃）の生活面と考えられ、特筆すべき遺構は、調査区の中央から西側にかけて東西方向に並ぶ3棟の礎敷建物（248SB020・030・050）と調査区の東側から検出された南北道路（248SF035）である。

礎敷建物は、溝を長方形または方形に区画し、溝内のはほぼ全面を小礎で敷き詰めている遺構である。

両端に位置する東側礎敷建物(248SB030)と西側礎敷建物(248SB050)の平面形は長方形を基本形とし、長軸を東西方向に持つ。明確な礎石や柱穴が確認されていないことから、柱間については判然としていないが、礎敷範囲や中央礎敷建物(248SB020)の柱間などを参考にすると、東側礎敷建物(248SB030)は長軸5.40m、短軸3.60m、西側礎敷建物(248SB050)は長軸5.40m、短軸4.20mの建物が想定される。それに対し、中央礎敷建物(248SB020)の平面形はほぼ正方形で、溝内からは礎石および根固め石を有する柱穴が検出され、一辺5.40mを測る6間×6間の方形建物と判明している。また各礎敷建物の間隔は、東側礎敷建物と中央礎敷建物は約0.75m、中央礎敷建物と西側礎敷建物は約0.20mを測る。

礎敷建物の類例については、今次調査地区の北側約80mの地点で行われた大宰府条坊跡第83次調査で4棟(083SB010・015・020・085)が発見されているが、全容が把握されたものは2棟である。調査区の制約からその配置は明確ではなく、礎敷建物間での重複も認められている。その中の2棟(083SB020・085)から礎の入る柱穴が部分的に認められたことから建物跡と推定され、溝部分を壁の基礎部分として考えると土蔵などの可能性が指摘されている。

南北道路(248SF035)には礎敷舗装が施され、掘り方調査中に下層にも礎敷舗装の存在が明らかとなり、改修が行われたものと判断された。

第Ⅰ面は、第XX期(14世紀前半頃)の遺構面と推定される。耕作などの影響が著しく、各遺構とも遺存状態は良好ではない。遺構密度は下層(第Ⅱ～Ⅴ面)に比べると薄く、目立った遺構としては調査区の東端から検出された礎石建物(248SB001)であるが、調査区の制約から全容は捉えきれていない。

以上、雑駁に各遺構面の主な遺構についてみてきたが、ここからは当該地とその周辺の土地利用と礎敷遺構について考えてみたい。

大宰府条坊跡第248次調査区の北側に隣接する「御所ノ内」地区は、古代寺院観世音寺の西側に位置し、大野城を有する大野山の南裾にあり、約150m四方の範囲を指すものと想定されている。「御所ノ内」は「蒲ノ城」「有智城」などと並び守護武藤(少武)氏の根拠地と称され、館跡の推定地の一つでもある。また、「御所ノ内」地区を囲む、「安養院」、「朝日」、「横岳」、「山ノ井」といった地名は、守護武藤(少武)氏傍流の家名に一致している。

考古学的所見では、東方に位置する五条周辺の町家地区では検出されていない礎敷道路、礎敷建物(倉を想定)などが複数確認され、町家地区と遺構内容を異にしており、遺構構成の優位性が指摘されている。中世大宰府における土地利用状況、特に上層階層の生活を考える上で重要な地区である。

今次調査で確認された、平安時代末期から鎌倉時代前半(12世紀後半～13世紀前半)の生活面と推定される第Ⅳ・Ⅴ面は、小規模な掘立柱建物や柵列、小穴、井戸、土坑などが中心に検出され、町家的様相が強い遺構構成であるが、鎌倉時代前半(13世紀第2四半期頃)に形成されたと考えられる第Ⅲ面では掘込事業を有する礎石建物、礎敷道路が構築され、土地利用に画期が認められる。上層階層による土地の採取などが行われ、町家からの脱却が図られた可能性が高いと考えられる。鎌倉時代中頃(13世紀第3四半期頃)に対応すると推定される第Ⅱ面では、東西方向に3棟並ぶ礎敷建物、礎敷道路などが整然と配置され、再整備が行われている。

当該地は五条路に南接し、調査区東側で検出された礎敷道路の南側延長上約170mには御笠川が位置し、水上輸送および陸上輸送の観点から好条件の場所である。礎敷建物は、大宰府条坊跡第83次調査でも指摘されているように貯蔵施設(倉)の可能性が高いと考えられ、御所ノ内の南に隣接する今次調査の「露切」にも上層階層の屋敷地が展開する様相が明らかになりつつある。

つぎに、礎敷建物(248SB020・030・050)の併存性についてであるが、各遺構からの出土遺物は希

薄であり、いずれの礎敷建物も大宰府ⅩⅩ～ⅩⅩ期の範疇に収まると推定されるものの詳細な帰属時期についての判断は難しい。

各礎敷建物は、平面形・規模において若干の差異が認められるが、東西方向の規模において、それぞれが5.40mと推定され、ほぼ同規模である。また3棟の南辺は東西方向にほぼ一直線に並び、南側には出入口の施設と考えられる柱穴が2穴ずつ検出され、基礎工事においても3棟は溝状の布掘りを方形ないし長方形に施し、その溝内に小礫を敷き詰める堅固な基礎を有することなどが共通点としてあげられ、併存する可能性が考えられる。しかし、併存する条件としては、上屋構造において四方向に屋根が取り付く「寄棟」と「入母屋」の構造では、遺構の間隔が狭いことから併存するには無理が生じるものと判断され、上屋が棟の両側（南北）にのみ屋根を傾斜させる「切妻」の構造と想定した場合に限られるものと思われる。

それぞれの礎敷建物の規模において南北方向の差が生じている点、建物間隔の不揃い、基礎部分において礎石や根固め石を有する柱穴の確認された建物（248SB020）と確認されなかった建物（248SB030・050）との違いなど疑問点は多い。

一つの考えとして、規模の大きい中央礎敷建物（248SB020）を主屋と想定した場合、規模のやや小振りな両端の礎敷建物（248SB030・050）は付属施設と考えることも可能であり、増築が行われた可能性も考えられる。

また遺構面は異なるが、中央礎敷建物（248SB020）と第Ⅲ面で検出した礎石建物（248SB140）とは、基礎形態の違いがあるものの、礎石を有する建物で、構築位置において、共通点が多いことから、中央礎敷建物（248SB020）は礎石建物（248SB140）の構築位置を踏襲して建築されたと推定される。

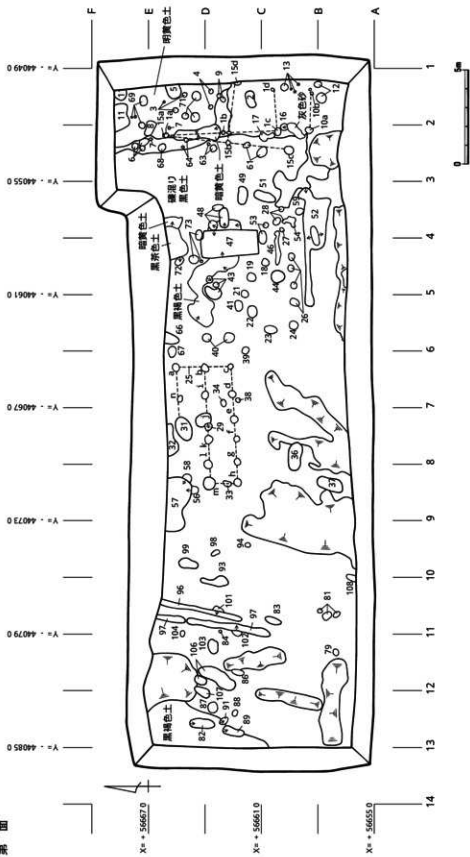
貯蔵施設（倉）と想定した礎敷建物は、今次調査と大宰府条坊跡第83次調査を含めて5棟（248SB020・030・050）、（083SB020・085）の規模が判明しており、規模についてみると長軸は5.50～7.00m、短軸は4.15～6.25mと開きがあり、規格性が見出せない点が気にかかる。中世の建物は全国的にみて、古代律令期の建物とは違い、統一性に欠け、規格性が薄れる傾向にあり、当該地の礎敷建物もそれに同調するのは類例の増加を待ちたい。

以上、大宰府条坊跡第248次調査で検出された5面の遺構面と主な遺構について見てきた。点的な調査で十分な検討を行うことはできなかったが、特に礎敷建物、礎敷道路の発見は中世の太宰府を考える上で貴重な資料を提示し得たと考えるが、「御所ノ内・露切」地区の土地利用および遺構の性格付けなどにおいて新たな課題が加わったと思われる。

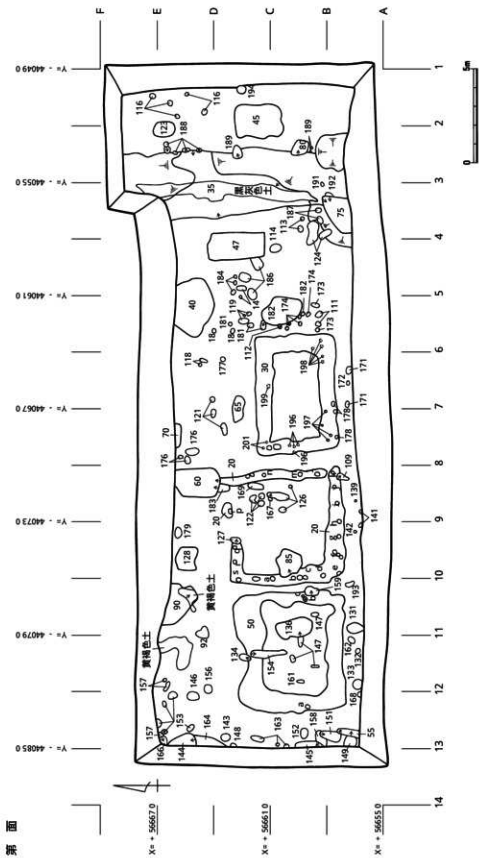
引用・参考文献

- 太宰府市史編纂委員会 1992 『太宰府市史 考古資料編』太宰府市
磯 望 2001 「第1章 地形」『太宰府市史 環境資料編』太宰府市
太宰府市史編纂委員会 2004 『太宰府市史 通史編Ⅱ』太宰府市
山村信榮 2001 「守護武蔵少次之館」『博多研究会誌』第9号
狭川真一 2003 「大宰府—都市構造と空間認識」『季刊考古学』第85号 雄山閣

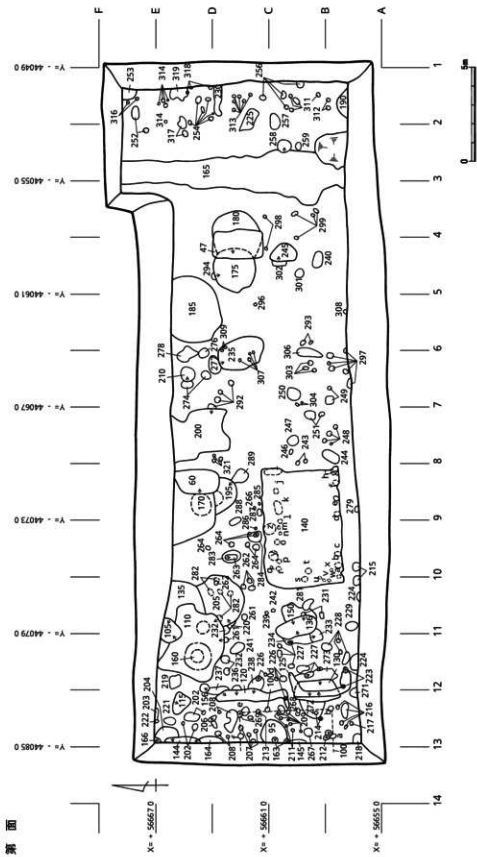
第 五 面



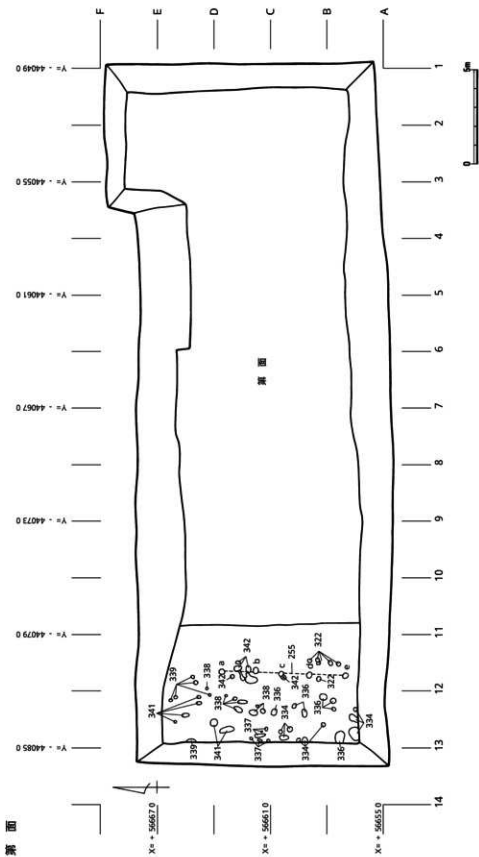
第 68 図 大宰府奈坊跡第 248 次調査第 五 面遺構配置図 (1 / 200)



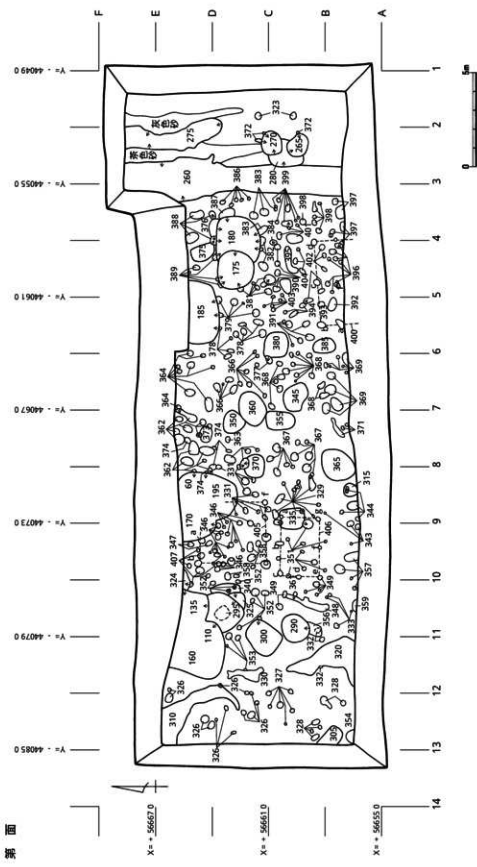
第 69 图 大宰府奈坊跡第 248 次調査第 面遺構配置图 (1/ 200)



第 70 圖 大宰府奈坊跡第 248 次調査第 面遺構配置圖 (1 / 200)



第 7 面 大宰府奈坊跡第 248 次調査第 7 面遺構配置図 (1 / 200)



第 7 圖 大空府桑坊跡第 248 次調査第 面遺構配置圖 (1 / 200)

大宰府奈坊跡248次調査 遺構番号台帳 1

S番号	遺構番号	種別	備考	埴土状況	古新	遺構間寸合	古新	時期	地区番号
1	248B001	礎石建物	築	暗褐色土・灰褐色土		15	1	新	B-01・2
2		土坑	築	築					C1
3		小穴群 墓 chamber 0-1部	築	築					D1
4		小穴群 墓 chamber 0-1部	築	築					C1
5		土坑?	築	築					D1
6		小穴群	築	築					E2
7		小穴群	築	築					D2
8		土坑? 墓 chamber 0-1部	築	築					D-E1・2
9		小穴群	築	築					C1
10		小穴群	築	築					B1・2
11		土盛り	築	築	褐色土				E1・2
12		小穴群	築	築					A・B1
13		小穴群 墓 chamber 0-1部	築	築					B1
14		小穴群	築	築					C4・5
15		建物?	築	築		15	1		D1-B2
16		土坑?	築	築					B2
17		土坑?	築	築					B2
18		小穴、小穴群	築、築	築	褐色土				B・C4、C5
19		小穴	築	築	灰褐色土				C4
20	248B020	礎石建物	築	黄灰色土 褐色土		20	60-85-109-127-183	一 新	A-C8-10
21		小穴	築	灰褐色土					C4・5
22		小穴	築	灰褐色土					C5
23		小穴	築	暗褐色土					B5
24		小穴	築	暗褐色土					B5
25		掘乱?	築	築					C・D6-8
26		小穴群	築	築	灰褐色土				B4・5
27		小穴	築	築	灰褐色土				B3
28		小穴群	築	築	灰褐色土				B3
29		小穴	築	築	灰褐色土	25	29		C7
30	248B030	礎石建物	築	暗褐色土 黄灰色土 褐色土		196-197-198-199-201	30 178	一 新	A-C5-7
31		土坑	築	灰褐色土					D7
32		土坑?	築	灰褐色土					D7
33		小穴	築	灰褐色土					C8
34		小穴	築	灰褐色土					C6
35	248F035	礎石遺構	築	黄灰色土 灰褐色土 褐色土	黄灰色土 灰褐色土 灰褐色土 黄灰色土 褐色土	35	75-80-188-189-191-192	G新一	A-E2・3
36		土坑	築	灰褐色土					B7・8
37		土坑	築	灰褐色土					A・B8
38		小穴	築	灰褐色土					C6
39		小穴	築	灰褐色土					C5・6
40	248X040	小穴群、礎石	築、築	暗褐色土 灰褐色土 暗褐色土 黄灰色土 褐色土				F新	C・D5 D4・5
41		小穴	築	暗褐色土					C5
42		検測図に記載なし							
43		小穴群	築	築	灰褐色土				C4・5
44		土坑	築	築	灰褐色土				B4
45	248X045	簡体屋	築	暗褐色土 赤色土 黄灰色土				新一	B・C1・2
46		溝	築	築					B3・4
47		試験坑							C・D3・4
48		小穴群	築	築	暗褐色土				C3
49		土坑	築	築	暗褐色土				C3
50	248B050	礎石建物	築	褐色土		50	134-154-159	F新一	A-C10-12
51		土坑	築	暗褐色土					B・C3
52	248D052	溝	築	暗褐色土				新一	B3-5他
53		小穴群	築	暗褐色土					B・C3・4
54		土盛り	築	暗褐色土					B3
55		掘乱	築	暗褐色土		140	55		A12
56		小穴	築	暗褐色土		56	57		D8
57	248X057	土坑	築	灰褐色土		56	58 57	近世以降	D8・9
58		小穴	築	灰褐色土		58	57		D8
59		小穴	築	褐色土					B3
60	248X060	土坑	築	灰褐色土 暗褐色土		20	183 60	F新一	C・D8
61		小穴群	築	灰褐色土					B・C2
62		検測図に記載なし							
63		小穴群	築	暗褐色土					C2
64		小穴群	築	褐色土					D2
65	248X065	土坑	築	暗褐色土				新一	C6・7
66		土坑?	築	灰褐色土					D5
67		土坑	築	灰褐色土					D5・6
68		小穴	築	灰褐色土					D2
69		小穴群	築	暗褐色土					E1・2
70	248X070	土坑	築	黄灰色土				中世 新一	D7
71		小穴群	築	暗褐色土					D1
72		小穴	築	暗褐色土					D4
73		小穴群	築	暗褐色土					D3・4
74		検測図に記載なし							

大宰府奈坊跡248次調査 遺構番号台帳 2

S番号	遺構番号	種別	備考	埋積土状況 古新	遺構間切合 古新	時期	地区番号
75	248SK 075	土坑	第 Ⅱ 層	灰褐色土 暗灰色土 灰赤土	35 192 75	F期一	A・B 3
76				焼灰面に粘着なし			
77				焼灰面に粘着なし			
78				焼灰面に粘着なし			
79		小穴	第 Ⅱ 層	暗黄褐色土			A 11
80		土坑	第 Ⅱ 層	礫石? 茶色土 暗灰色土	35 80		B 2
81		小穴群	第 Ⅱ 層	褐色土			A 10
82		土坑	第 Ⅱ 層	黄褐色土			C・D 12
83		土坑	第 Ⅱ 層	黄褐色土			B 10
84		小穴	第 Ⅱ 層	褐色土			C 10
85		たまり	第 Ⅱ 層	暗灰色土	20 85		B 9
86		土坑	第 Ⅱ 層	黄褐色土			C 11
87		土坑	第 Ⅱ 層	黄褐色土			C 12
88		小穴	第 Ⅱ 層	黄褐色土			C 12
89		土坑	第 Ⅱ 層	黄褐色土			C 12
90	248SK 090	礫石	第 Ⅱ 層	暗灰色土 砂質 黄灰色土 粘質土 灰		F期一	D 10
91		小穴	第 Ⅱ 層	黄褐色土			C 12
92	248SK 092	小穴	第 Ⅱ 層	灰赤土 黄褐色土		D期	D 10・11
93		たまり	第 Ⅱ 層	黄褐色土 炭化物含む			C・D 10
94		小穴	第 Ⅱ 層	黄褐色土			C 9
95	248SK 095	土坑	第 Ⅱ 層	灰褐色土	95 163	中世	B・C 12
96		溝	第 Ⅱ 層	黄褐色土 炭化物含む	101 96		C・D 10
97		溝	第 Ⅱ 層	黄褐色土 炭化物含む	102 97		B-D 10物
98		小穴	第 Ⅱ 層	褐色土			C 9
99		土坑	第 Ⅱ 層	黄褐色土 粘土質			D 9
100	248SB 100	竪穴柱建物	第 Ⅱ 層	灰赤土 黄灰色土 暗灰色土 暗黄褐色土	269 100 212 151・208	中世 期一	A-C 12
101		たまり	第 Ⅱ 層	褐色土	101 96		C 10
102		たまり	第 Ⅱ 層	褐色土	102 97		C 10
103		土坑	第 Ⅱ 層	褐色土			C 11
104		小穴	第 Ⅱ 層	褐色土			D 11
105	248SK 105	土坑	第 Ⅱ 層	灰赤土	135 110 105	一 期	D 10・11
106		たまり	第 Ⅱ 層	黄褐色土			C 11
107		土坑	第 Ⅱ 層	黄褐色土			C・D 11・12
108		土坑?	第 Ⅱ 層	黄褐色土			A 10
109		たまり 竪穴跡Dの一部	第 Ⅱ 層	黄褐色土	20 109		A 8
110	248SE 110	井戸	第 Ⅱ 層	灰赤土 明灰色土 茶灰色土 黄褐色土 暗灰色土	232・261・282 205 135・160 110 105・156	一 期	C・D 10・11
111	248SK 111	小穴群	第 Ⅱ 層	暗灰色土		一 期	B 5
112		小穴	第 Ⅱ 層	黄褐色土	192 112		B 5
113		小穴群	第 Ⅱ 層	黄褐色土			B 3・4
114	248SK 114	土坑	第 Ⅱ 層	黄褐色土		F期一	B 4
115	248SK 115	土坑	第 Ⅱ 層	暗灰色土		F期	D 12
116		小穴群	第 Ⅱ 層	黄褐色土			B 1
117				焼灰面に粘着なし			
118		小穴群	第 Ⅱ 層	褐色土			D 6
119	248SK 119	小穴群	第 Ⅱ 層	褐色土		D期一	C 5
120	248SD 120	溝	第 Ⅱ 層	黄灰色土	236・237・238 120 236・268	中世 期?	B・C 12
121	248SK 121	小穴群	第 Ⅱ 層	褐色土		F期一	C・D 7
122	248SK 122	小穴群	第 Ⅱ 層	暗褐色土		E期一	C 8
123	248SK 123	土坑	第 Ⅱ 層	黄褐色土		E期一	D・E 1・2
124	248SK 124	小穴群	第 Ⅱ 層	黄褐色土		E期一	A・B 3・4
125	248SD 125	溝	第 Ⅱ 層	褐色土	273 130 125 223	F期	A・B 11・12
126	248SK 126	小穴群	第 Ⅱ 層	褐色土	167 126	期一	B 8
127	248SK 127	たまり	第 Ⅱ 層	褐色土・灰明褐色土	20 127		C 9
128	248SK 128	土坑	第 Ⅱ 層	炭化物・粘土含む		中世 期一	D 9
129				焼灰面に粘着なし			
130	248SK 130	土坑	第 Ⅱ 層	灰褐色土	272・273 130 125	E期一	A・B 11・12
131	248SK 131	土坑	第 Ⅱ 層	暗灰色土		E期一	A 10
132		小穴	第 Ⅱ 層				A 11
133	248SK 133	小穴	第 Ⅱ 層	暗灰色土		E期一	A 11
134		小穴	第 Ⅱ 層		50 134		C 11
135	248SE 135	井戸	第 Ⅱ 層	灰赤土 暗灰色土 暗褐色土 黄褐色土 黒灰色土 灰赤土	205 135 110 105	一 期	D 10
136	248SK 136	土坑	第 Ⅱ 層		147 136	F期一	B 10・11
137				焼灰面に粘着なし			
138				焼灰面に粘着なし			
139		小穴	第 Ⅱ 層	黄灰色土 暗黄褐色土 褐色土 黄褐色土			A 8
140	248SB 140	礫石建物	第 Ⅱ 層	黄灰色土 暗黄褐色土 褐色土 黄褐色土		F期	A-C 8-10
141		小穴群	第 Ⅱ 層	暗灰色土			A 8・9
142		小穴	第 Ⅱ 層				A 9
143		土坑 竪穴跡の一部	第 Ⅱ 層				C 12
144	248SK 144	土坑	第 Ⅱ 層	灰褐色土 暗灰色土 褐色土 暗褐色土	164 144	E期一	D 12

大宰府奈坊跡248次調査 遺構番号台帳 3

S番号	遺構番号	種別	備考	埋積土状況	古新	遺構間寸合	古新	時期	地区番号
145	248SX 145	土坑	第 Ⅲ 層	黄灰色土		158 145		中世 Ⅰ期	B 12
146		小穴	第 Ⅲ 層 焼土・炭化物を含む	褐色土					D 12
147		小穴群	第 Ⅲ 層	黒色土		147 136			B 10・11
148		小穴	第 Ⅲ 層	暗褐色土					C 12
149		小穴	第 Ⅲ 層	暗褐色土		149 55			A 12
150	248SX 150	土盛り	第 Ⅲ 層	暗灰色土		150 231・281 136		12世紀中頃→	B 10
151	248SX 151	土坑	第 Ⅲ 層	暗褐色土		158 151 55		E Ⅰ期→	A・B 12
152	248SX 152	小穴	第 Ⅲ 層	褐色土				E Ⅰ期→	B 12
153	248SX 153	小穴群	第 Ⅲ 層	暗灰色土		157 153		E Ⅰ期→	D 12
154		覆土		灰色土		50 154			B・C 11
155		穴遺							
156	248SX 156	小穴	第 Ⅲ 層	暗褐色土		237 156		D Ⅰ期→	D 11・12
157		小穴群	第 Ⅲ 層	暗灰色土		157 153・166			D 11・12
158		土坑?	第 Ⅲ 層	暗褐色土		158 145・151			B 12
159		覆土		灰色土		50 159			B 10
160	248SX 160	井戸	第 Ⅲ 層 井戸内埋積土を含む	灰褐色土 黄灰色土		160 110		Ⅰ 期	D 11
161		覆土		灰色土					B 11
162	248SX 162	小穴	第 Ⅲ 層	暗褐色土				E Ⅰ期→	A 11
163		小穴群	第 Ⅲ 層	暗灰色土					B・C 12
164	248SX 164	土坑	第 Ⅲ 層	褐色土 暗灰色土 灰色土 暗褐色土		164 144		E Ⅰ期→	C・D 12
165	248XF 165	遺跡	第 Ⅲ 層	茶色土 灰褐色土 灰色土		165 258		E Ⅰ期	C 2-E 2
166		小穴	第 Ⅲ 層	暗褐色土		157 166			D 12
167		小穴	第 Ⅲ 層	暗灰色土		167 126			B・C 8
168		小穴	第 Ⅲ 層	暗灰色土					A 12
169		小穴	第 Ⅲ 層 炭化物含む	暗灰色土					C 8
170	248SX 170	井戸	第 Ⅲ 層	灰色土 黄灰色土		195 170 60		Ⅱ 期	C・D 8・9
171		小穴群	第 Ⅲ 層	暗灰色土					A 6
172		小穴	第 Ⅲ 層	暗灰色土					A 6
173		小穴群	第 Ⅲ 層	暗灰色土					B 5
174		小穴群	第 Ⅲ 層	暗灰色土		182 174			B 5
175	248SX 175	井戸	第 Ⅲ 層	灰色土 暗灰色土		180・294 175 47		Ⅰ 期	C 4
176		小穴群	第 Ⅲ 層	暗灰色土					D 7
177		小穴	第 Ⅲ 層	暗灰色土					C 6
178		小穴群	第 Ⅲ 層	暗灰色土		30 178			A 6・7
179		小穴	第 Ⅲ 層	灰色土					D 9
180	248SX 180	井戸	第 Ⅲ 層	灰色土 暗灰色土		180 175 47		D Ⅱ期	C 3・4
181	248SX 181	小穴群	第 Ⅲ 層	褐色土		182 181		Ⅱ 期	C 5
182	248SX 182	土盛り	第 Ⅲ 層	灰色土		182 112・174・181		Ⅱ 期	B 5
183		土盛り	第 Ⅲ 層	褐色土		20 183 60			C 8
184	248SX 184	小穴群	第 Ⅲ 層	暗灰色土				中世 Ⅰ期→	C 4
185	248SX 185	井戸	第 Ⅲ 層	暗灰色土 灰色土 茶色土				Ⅰ 期	C・D 4・5
186	248SX 186	小穴群	第 Ⅲ 層	暗灰色土		186 47		E Ⅰ期→	C 4・5
187	248SX 187	小穴群	第 Ⅲ 層	暗灰色土				Ⅱ 期	B 3
188	248SX 188	小穴群	第 Ⅲ 層	暗灰色土		35 188 68		中世 Ⅰ期→	D 2
189	248SX 189	小穴群	第 Ⅲ 層	暗灰色土		35 189		中世 Ⅰ期→	B・C 2
190	248SX 190	土盛り	第 Ⅲ 層	暗灰色土				F Ⅱ期	A 1
191		小穴	第 Ⅲ 層	暗褐色土		35 191			B 3
192		小穴	第 Ⅲ 層	暗灰色土		35 192 75			A 3
193	248SX 193	小穴	第 Ⅲ 層	灰色土				F Ⅱ期→	A 10
194	248SX 194	小穴	第 Ⅲ 層	暗灰色土				中世 Ⅰ期→	C 1
195	248SX 195	井戸	第 Ⅲ 層	灰色土 暗灰色土		289 195 170 60		F Ⅱ期	B 7
196		小穴群	第 Ⅲ 層	黄褐色土		196 30			B 7
197		小穴群	第 Ⅲ 層	黄褐色土		197 30			A・B 7
198	248SX 198	小穴群	第 Ⅲ 層	黄褐色土		198 30		中世 Ⅰ期→	B 5・6
199	248SX 199	小穴	第 Ⅲ 層	黄褐色土		199 30		中世 Ⅰ期→	C 6
200	248SX 200	土盛り	第 Ⅲ 層	黄褐色土		292 200 70		Ⅱ 期	C・D 7
201		小穴群	第 Ⅲ 層	黄褐色土		201 30			C 7
202	248SX 202	小穴群	第 Ⅲ 層	灰色土				中世 Ⅰ期→	D 12
203		小穴	第 Ⅲ 層	褐色土		203 222			D 12
204	248SX 204	土坑	第 Ⅲ 層	黄灰色土		204 144 166		F Ⅱ期	D 12
205	248SX 205	土盛り	第 Ⅲ 層	灰色土		220 282 205 232 135 110・262		F Ⅱ期	C・D 10
206		小穴	第 Ⅲ 層	褐色土		206 208		Ⅱ 期	C・D 12
207	248SX 207	小穴群	第 Ⅲ 層	黄褐色土				Ⅱ 期	C 12
208	248SX 208	小穴群	第 Ⅲ 層	黄褐色土		100 206 208		F Ⅱ期	C・D 12
209		小穴群	第 Ⅲ 層	暗褐色土					B 12
210		土坑	第 Ⅲ 層 焼土を含む	暗灰色土		274 210			D 6
211		小穴群	第 Ⅲ 層	灰色土					B 12
212	248SX 212	小穴	第 Ⅲ 層	暗灰色土		100 212 151		中世 Ⅰ期→	A・B 12
213	248SX 213	小穴	第 Ⅲ 層	暗灰色土				中世 Ⅰ期	C 12
214		小穴群	第 Ⅲ 層	灰褐色土		272 214			B 12
215		小穴群	第 Ⅲ 層	灰褐色土					A 9・10
216		小穴群	第 Ⅲ 層	暗灰色土					A 12
217		小穴	第 Ⅲ 層	暗灰色土					A 12

大宰府奈坊跡248次調査 遺構番号台帳 4

S番号	遺構番号	種別	備考	埋積土状況 古新	遺構間寸合 古新	時期	地区番号
218		小穴	築造 築造の 陥没部に有り	灰色土			A 12
219		小穴	築造	灰色土			D 11
220	248SX 220	土坑	築造	灰色土 砂質	220 232- 282 205 135 110	中世 期一	C 10
221		小穴	築造	暗灰色土			D 12
222		小穴	築造	灰色土	203 222 115		D 12
223		小穴群	築造	暗灰色土	125 223		A 11
224		小穴群	築造	黒灰色土			A 10・ 11
225	248SX 225	土坑	築造	黒灰色土		E 期一	C 1・ 2
226		小穴群	築造	黄灰色土	120- 238- 268 226		B・ C 11・ 12
227		小穴群	築造	黄灰色土	234- 273 227		B 11
228		小穴群	築造	黄灰色土			A 11
229		小穴	築造	黄灰色土			A 10
230		溝	築造	黒色土			C 1
231		小穴群	築造	黄灰色土	150 231 136		B 10
232	248SX 232	小穴群	築造	黄灰色土	220 205 232 110	中世 期一	C 10・ 11
233	248SX 233	土坑	築造	灰色土	234 233	中世 期一	B 10・ 11
234	248SX 234	たまり	築造	暗灰色土	234 227- 233 136	中世 期一	B 11
235	248SX 235	たまり	築造	灰褐色土・ 暗灰色土 暗灰色土・ 暗褐色土 暗灰色土・ 暗褐色土 黄灰色土	277 235 307・ 309	F 期	C 5・ 6
236		小穴	築造	暗灰色土	236 120		C 11・ 12
237		たまり	築造	暗灰色土	237 120- 156		C・ D 11・ 12
238	248SX 238	たまり	築造	暗灰色土	238 120- 226	中世 期一	C 11・ 12
239	248SX 239	小穴	築造	暗灰色土		D 期一	C 10
240		土坑	築造	黄灰色土			B 4
241	248SX 241	小穴	築造	暗灰色土		E 期	C 11
242		小穴群	築造	暗灰色土			B 10
243		小穴群	築造	黄灰色土			B 7・ 8
244		土坑	築造	灰褐色土			A 7・ 8
245	248SX 245	土坑	築造	黄灰色土	302 245	中世 期一	B 4
246		小穴	築造	暗灰色土			B 7
247		小穴	築造	灰褐色土			B 7
248	248SX 248	小穴群	築造	灰褐色土		中世 期一	A・ B 7
249		小穴群	築造	灰色土			A 6
250	248SX 250	土坑	築造	暗褐色土		中世 期一	B 6
251	248SX 251	小穴群	築造	暗灰色土		中世 期一	B 7
252		小穴群	築造	黄灰色土			E 1・ 2
253	248SX 253	土坑	築造	灰褐色土		中世	E 1
254		小穴群	築造	黄灰色土	318 254		D 1
255	248SA 255	構列	築造 炭化物 少量含む	黒色土	255 342	期	A・ C 11
256	248SX 256	小穴群	築造	灰色土		中世 期一	B・ C 1
257	248SX 257	土坑	築造	灰色土		E 期一	B 1・ 2
258		土坑	築造	灰色土	165 258	期	B 2
259		小穴 墓地跡の一部	築造	灰色土			B 2
260	248SD 260	溝	築造	灰色土 灰白色砂	260 280	期	C-E 2・ 3
261		小穴群	築造	灰色土	261 110		C 10・ 11
262		小穴群	築造	褐色土	205- 262 262		C 10
263		小穴	築造	灰色土	263 263		C 9
264		小穴群	築造	黄灰色土	284 264		C・ D 9
265	248SX 265	土坑	築造	黄灰色土	280- 372 265	期	B 2
266		小穴 墓地跡の一部	築造	灰褐色土			B 8
267		小穴	築造	暗灰色土			B 12
268		小穴	築造	灰色土	268 120 226		B 12
269		小穴群	築造	灰色土	269 100		C 12
270	248SX 270	土坑	築造	黄灰色土	280- 372 270	期	B・ C 2
271		小穴	築造	灰色土			A 11・ 12
272	248SX 272	たまり	築造	灰色土	272 130- 214	中世 期一	B 12
273		たまり	築造	暗灰色土	273 125- 130- 227		B 11
274		小穴群	築造	灰色土	274 210		D 6
275	248SD 275	溝	築造	黄灰色砂 灰色土		期	C-E 1・ 2
276		小穴	築造 構土含む	灰褐色土			D 5・ 6
277		小穴 墓地跡の一部	築造	灰色土	277 235		C・ D 6
278	248SX 278	小穴	築造	灰色土		中世 期一	D 5・ 6
279		小穴	築造	黄灰色土			A 8
280	248SX 280	土坑	築造	灰色土	260 289 265- 270	期	B 2
281		小穴	築造	暗灰色土	150 281		B 10
282	248SX 282	小穴群	築造	灰色土	220 282 110- 205- 262	中世 期一	C・ D 10
283		たまり	築造	暗灰色土	283 263		C 9
284		土坑	築造	暗灰色土	284 264		C 9
285		小穴	築造	暗灰色土			C 8
286		小穴 墓地跡の一部	築造	暗灰色土			C 9
287		小穴	築造	暗灰色土			C 8
288		小穴	築造	暗灰色土			C 8・ 9
289		たまり	築造	灰色土	289 195		C 8

大宰府条坊跡248次調査 遺構番号台帳 5

S番号	遺構番号	種別	備考	埋積土状況 古新	遺構間切合 古新	時期	地区番号
290	248EX 290	井戸	第 層	褐色土	356 290	E層	B 10- 11
291		欠番					
292	248EX 292	小穴群	第 層	暗褐色土	292 200	中世 期一	C・D 6・7
293		小穴群	第 層	暗褐色土			B 5
294		小穴	第 層	暗褐色土	294 175		C 4
295	248EX 295	井戸	第 層	褐色土 灰色土	340 325 295 135 110	期	C・D 10
296		小穴	第 層	褐色土			C 5
297	248EX 297	小穴群	第 層	暗褐色土		中世 期一	A 5・6
298		小穴群	第 層	褐色土			C 3・4
299		小穴群	第 層	褐色土			B 3・4
300	248EX 300	井戸	第 層	灰色土	352 300	期	B・C 10- 11
301	248EX 301	小穴	第 層	暗褐色土		中世 期一	B 4
302		たまり	第 層	暗褐色土	302 245		B 4
303		小穴群	第 層	暗褐色土			B 6
304		小穴群	第 層	暗褐色土			B 6
305		土坑	第 層 第 層 略断面に有り	暗褐色土			A・B 12
306	248EX 306	小穴	第 層	暗褐色土		中世 期一	B 5・6
307		小穴群	第 層	暗褐色土	235 307		C 6
308		小穴群	第 層	暗褐色土			A 5
309		小穴群	第 層	暗褐色土	235 309		C 5
310	248SD 310	溝	第 層 5・320- 330之間一?	黒灰色土	310 326	C期一	C・D 11・12
311		小穴群	第 層	暗褐色土			B 1
312		小穴群	第 層	灰褐色土			A 1
313		小穴群	第 層	灰褐色土			C 1
314		小穴群	第 層	褐色土			D 1
315		土坑	第 層	暗褐色土	315 344		A 8
316		小穴群	第 層	褐色土			E 1
317		小穴群	第 層	灰褐色土			D 1・2
318		小穴群	第 層	褐色土	319 318 254		C・D 1
319		たまり	第 層	暗褐色土	319 319		D 1
320	248SD 320	溝	第 層 5・310- 320之間一?	黒色土	320 332	期	A・B 11
321		小穴群	第 層	灰色土			C 7
322		小穴群	第 層	褐色土			A・B 11
323		小穴群	第 層	黒灰色土			B・C 1
324		土坑?	第 層	黒灰色土	407 324		D 9・10
325		土坑	第 層	暗褐色土	340 325 205		C 10
326		小穴群	第 層	暗褐色土	310 326		C・D 11・12
327		小穴群	第 層	暗褐色土			B・C 11・12
328		小穴群	第 層	暗褐色土			A・B 12
329		小穴群	第 層 2穴は5- 406a・fに位置	暗褐色土	325 329	D期	B 8
330	248SD 330	溝	第 層 5・310- 320之間一?	黒色土	330 353	期 D期	C 11
331		小穴群	第 層 1穴は 5・405fに位置	暗褐色土	370・374 331 363		B・C 8
332		小穴群	第 層	暗褐色土	320 332 356	期	B 10- 11
333		小穴群	第 層	暗褐色土			A 10
334	248EX 334	小穴群	第 層	黒色土		期	B 12
335	248EX 335	井戸	第 層 石層	砂層 灰色土	335 329- 351- 406	期	B 8・9
336		小穴群	第 層	灰色土			A・B 12
337	248EX 337	小穴群	第 層	灰色土		期	C 12
338		小穴群	第 層	黒色土			C 12
339		小穴群	第 層	黄褐色土			D 11- 12
340		土坑	第 層	褐色土	340 325- 352 205		C・D 10
341		小穴群	第 層	灰色土			C・D 12
342		小穴群	第 層	黒色土	255 342		C 11
343		小穴群	第 層	黒灰色土			A・B 9他
344		小穴群	第 層	黒灰色土	315 344		A 8
345	248EX 345	土坑	第 層	暗褐色土		期	B 6・7
346		小穴群	第 層 1穴は 5・405cに位置	黒灰色土	407 346 170- 324		C・D 8・9
347		小穴群	第 層 1穴は 5・405aに位置	黒灰色土			D 9
348		溝	第 層	暗褐色土	361 348 340		A・B 10
349		小穴群	第 層	暗褐色土	348 349		B 10
350	248EX 350	土坑	第 層	黒灰色土		期	C 7
351		小穴群	第 層 5穴は5- 406a→fに位置	暗褐色土			B 8・9他
352	248EX 352	小穴群	第 層	暗褐色土	340 352 300	期	C・D 10
353		小穴群	第 層	暗褐色土	330 353 110		C 10- 11
354		小穴	第 層	暗褐色土			A 12
355	248EX 355	土坑	第 層	暗褐色土		期	B・C 7

大宰府奈坊跡248次調査 遺構番号台帳 6

S番号	遺構番号	種別	備考	埋積土状況	古新	埋積間切合	古新	時期	地区番号
356		土坑	第 1 層	雑灰色土		332	356 290		B 10
357		小穴群	第 1 層	雑灰色土					A 9・10
358		小穴群	第 1 層 2穴はS・405b・eに覆覆	雑灰色土					B・C 9 地
359		小穴	第 1 層	雑灰色土					A 10
360	248SX 360	井戸	第 1 層	雑色土 雑灰色土				第 1 層	C 6・7
361		小穴	第 1 層	雑灰色土		361 340			B 10
362	248SX 362	小穴群	第 1 層	雑灰色土		364 373・374 362 60		第 1 層	D 7・8
363		小穴群	第 1 層	雑灰色土		331 379 363			C 7・8
364	248SX 364	小穴群	第 1 層	雑灰色土		364 362		第 1 層	D 6 地
365	248SX 365	土坑	第 1 層	雑色土				第 1 層	A・B 7・8
366		小穴群	第 1 層	雑灰色土					C 5・6
367	248SX 367	小穴群	第 1 層	雑灰色土		367 329		第 1 層	B 7・8 地
368	248SX 368	小穴群	第 1 層	雑灰色土		369 368		第 1 層	B 5・6 地
369	248SX 369	小穴群	第 1 層	雑灰色土		369 368		第 1 層	A・B 6・7
370		土坑	第 1 層	雑色土		370 363 331			C 7・8
371		小穴群	第 1 層	雑灰色土					A 7
372		小穴群	第 1 層	雑灰色土		372 265・270			B・C 2
373		土坑	第 1 層	雑色土		373 362			D 7
374		小穴群	第 1 層	雑色土		374 362			C・D 7・8
375		土坑	第 1 層	雑灰色土		375 368			D 4
376		小穴	第 1 層	雑色土		376 368 180			C・D 3
377		小穴	第 1 層	雑灰色土		380 377			B・C 6
378	248SX 378	小穴群	第 1 層	雑灰色土		378 185		第 1 層	C 5・6
379		小穴群	第 1 層	雑灰色土		379 185			C 5
380	248SX 380	土坑	第 1 層	雑灰色土		380 377		第 1 層	B・C 5・6
381	248SX 381	小穴群	第 1 層	雑灰色土		404 381 175			C 4
382	248SX 382	小穴群	第 1 層	雑灰色土		382 180		第 1 層	C 3・4
383		小穴群	第 1 層	雑灰色土		383 180			B・C 3
384	248SX 384	小穴	第 1 層	雑灰色土				第 1 層	B 4
385	248SX 385	土坑	第 1 層	雑灰色土				第 1 層	A・B 5
386		小穴群	第 1 層	雑灰色土					B・C 3
387		小穴	第 1 層	雑灰色土		387 180			C 3
388		小穴群	第 1 層	雑灰色土		375 376 388 180			C・D 3・4
389		小穴群	第 1 層	雑灰色土		389 175・180			C・D 4
390		土坑	第 1 層	雑灰色土					B 4
391	248SX 391	小穴群	第 1 層	雑灰色土				第 1 層	B 5
392		小穴群	第 1 層 1穴はS・400aに覆覆	雑灰色土					A 5
393		小穴群	第 1 層 1穴はS・400bに覆覆	雑灰色土		396 400			A・B 5
394		小穴群	第 1 層	雑灰色土		394 402			B 5
395		土盛り	第 1 層	黒灰色土					B 4
396	248SX 396	小穴群	第 1 層 1穴はS・400fに覆覆	雑灰色土		397 396		第 1 層	A 4
397		小穴群	第 1 層 1穴はS・400aに覆覆	雑灰色土		397 396			A 3・4
398		小穴群	第 1 層	雑灰色土					B 3
399		小穴群	第 1 層	雑灰色土		401 399			B 3
400	248SB 400	竪立柱建物	第 1 層 S・392 1穴・393 1穴・397 1穴・402 1穴	雑灰色土		393 400		第 1 層	A・B 4・5
401		小穴群	第 1 層	雑灰色土		401 399			B 3・4
402		小穴群	第 1 層 2穴はS・400c・dに覆覆	雑灰色土		394 402		D 層	A・B 4
403		小穴群	第 1 層	雑灰色土					B・C 4・5
404	248SX 404	小穴群	第 1 層	雑灰色土		404 381		第 1 層	B・C 4
405	248SB 405	竪立柱建物	第 1 層 S・331 1穴・346 1穴・347 1穴・358 2穴・407 1穴	黒灰色土・雑灰色土		405 170・195		第 1 層	C・D 8・9
406	248SB 406	竪立柱建物	第 1 層 S・329 2穴・351 1穴	雑灰色土		335 406		第 1 層	B 8・9
407		小穴群	第 1 層 1穴はS・405bに覆覆	黒灰色土		407 324・346			C・D 9・10

大宰府条坊跡第 24次調査 土師器計測表 1

24ISB001a										
種別	器種	遺物番号	口径	器高	底径	底部処理	内底ナズ	板状圧痕	備考	
土師器	環 a	M-001	-	235+	80	イト	-		白雲母多量含有	
土師器	小皿 a1	M-002	76	13	58	イト				
24ISB001b										
種別	器種	遺物番号	口径	器高	底径	底部処理	内底ナズ	板状圧痕	備考	
土師器	小皿 a1	M-001	86	125	78	イト				
24ISB001c										
種別	器種	遺物番号	口径	器高	底径	底部処理	内底ナズ	板状圧痕	備考	
土師器	小皿 a1	M-001	84	155	62	イト				
24ISB020										
種別	器種	遺物番号	口径	器高	底径	底部処理	内底ナズ	板状圧痕	備考	
土師器	小皿 a1	M-001	78	146	50	イト			白雲母多量含有	
24ISB020 褐色土										
種別	器種	遺物番号	口径	器高	底径	底部処理	内底ナズ	板状圧痕	備考	
土師器	小皿 a1	M-001	98	11	80	イト				
24ISB030 褐色土										
種別	器種	遺物番号	口径	器高	底径	底部処理	内底ナズ	板状圧痕	備考	
土師器	小皿 a1	M-004	79	115	60	イト				
	小皿 a1	M-002	80	135	62	イト				
	小皿 a1	M-001	81	12	74	イト				
	小皿 a1	M-005	82	115	58	イト				
	小皿 a1	M-003	82	146	58	イト			油煙付着	
24ISB030 暗褐色土										
種別	器種	遺物番号	口径	器高	底径	底部処理	内底ナズ	板状圧痕	備考	
土師器	環 a	M-001	126	35	88	イト			白雲母多量含有	
	環 a	M-002	146	28	90	イト			白雲母多量含有	
	小皿 a1	M-003	81	115	62	イト				
	小皿 a1	M-004	84	085	78	イト				
	小皿 a1	M-005	88	10	68	イト				
24ISF 035 褐色土										
種別	器種	遺物番号	口径	器高	底径	底部処理	内底ナズ	板状圧痕	備考	
土師器	環 a	M-005	124	246	90	イト				
	環 a	M-003	130	28	94	イト				
	環 a	M-001	132	275	90	イト			油煙付着	
	環 a	M-004	148	265	100	イト				
	小皿 a1	M-011	74	115	60	イト				
	小皿 a1	M-009	78	095	62	イト				
	小皿 a1	M-002	80	135	70	イト				
	小皿 a1	M-006	86	095	53	イト			油煙付着	
	小皿 a1	M-013	86	095	76	イト			白雲母多量含有	
	小皿 a1	M-015	86	12	70	イト				
	小皿 a1	M-010	92	10	70	イト				
	小皿 a1	M-017	92	10	80	イト				
	小皿 a1	M-016	96	09	80	イト				
	小皿 a1	M-007	96	125	66	イト				
	小皿 a1	M-014	96	13	83	イト				
	小皿 a1	M-012	96	135	78	イト				
	小皿 a1	M-008	103	115	80	イト				
	24ISF 035 灰色土									
	種別	器種	遺物番号	口径	器高	底径	底部処理	内底ナズ	板状圧痕	備考
土師器	環 a	M-003	124	235	86	イト				
	環 a	M-001	124	265	94	イト				
	環 a	M-002	126	255	92	イト				
	小皿 a1	M-005	88	115	76	イト				
	小皿 a1	M-004	96	115	78	イト				
24ISF 035 黒灰色土										
種別	器種	遺物番号	口径	器高	底径	底部処理	内底ナズ	板状圧痕	備考	
土師器	小皿 a1	M-007	86	115	70	イト				
	小皿 a1	M-002	88	095	76	イト				
	小皿 a1	M-001	88	135	80	イト				
	小皿 a1	M-004	90	095	80	イト			油煙付着	
	小皿 a1	M-003	96	12	70	イト				
	小皿 a1	M-006	98	105	80	イト				
	小皿 a1	M-005	104	125	70	イト			白雲母多量含有	
24ISF 035 褐色土										
種別	器種	遺物番号	口径	器高	底径	底部処理	内底ナズ	板状圧痕	備考	
土師器	環 a	M-001	138	275	80	イト				
24ISF 035 黒灰色土										
種別	器種	遺物番号	口径	器高	底径	底部処理	内底ナズ	板状圧痕	備考	
土師器	環 a	M-001	136	24	90	イト				
24ISX 040 褐色土										
種別	器種	遺物番号	口径	器高	底径	底部処理	内底ナズ	板状圧痕	備考	
土師器	小皿 a1	M-001	82	095	74	イト				
土師器	小皿 a1	M-002	82	115	66	イト				
24ISX 040 灰色土										
種別	器種	遺物番号	口径	器高	底径	底部処理	内底ナズ	板状圧痕	備考	
土師器	環 a	M-001	114	24	80	イト			油煙付着	

大宰府条坊跡第 24 次調査 土師器計測表 2

24BSX040 灰色土									
種別	器種	遺物番号	口径	器高	底径	底部処理	内底寸法	板状圧痕	備考
土師器	小皿 a1	M-002	76	125	60	イト			
	小皿 a1	M-001	82	11	60	イト			油漬付着
24BSX045 黄灰色土									
土師器	環 a	M-002	116	23	68	イト			
	環 a	M-001	144	325	110	イト			
	小皿 a1	M-003	92	085	70	イト			
	小皿 a1	M-003	92	085	70	イト			
24BSX045 暗褐色土									
種別	器種	遺物番号	口径	器高	底径	底部処理	内底寸法	板状圧痕	備考
土師器	環 a	M-001	122	265	86	イト			
24BSX050 褐色土									
土師器	環 a	M-001	108	255	90	イト			
	小皿 a1	M-003	80	105	68	イト			
	小皿 a1	M-002	82	105	50	イト			
	小皿 a1	M-002	82	105	50	イト			
24BSX052									
種別	器種	遺物番号	口径	器高	底径	底部処理	内底寸法	板状圧痕	備考
土師器	小皿 a1	M-001	90	11	70	イト			
24BSX060 暗褐色土									
土師器	環 a	M-001	120	27	90	イト			
	小皿 a1	M-002	86	125	70	イト			油漬付着
24BSX060 灰色土									
土師器	小皿 a1	M-002	90	11	60	イト			
	小皿 a1	M-001	90	125	70	イト			
24BSX070 黄灰色土									
種別	器種	遺物番号	口径	器高	底径	底部処理	内底寸法	板状圧痕	備考
土師器	小皿 a1	M-001	98	105	80	イト			
24BSX075 灰色土									
土師器	小皿 a1	M-007	72~755	145	54	イト			
	小皿 a1	M-001	84	12	68	イト			
	小皿 a1	M-002	86	095	70	イト			
	小皿 a1	M-003	88	10	80	イト			
	小皿 a1	M-005	88	12	80	イト			
	小皿 a1	M-004	96	105	80	イト			白雲母多量含有
	小皿 a1	M-006	98	12	85	イト			
	小皿 a1	M-006	98	12	85	イト			
24BSX090 黄灰色土									
種別	器種	遺物番号	口径	器高	底径	底部処理	内底寸法	板状圧痕	備考
土師器	環 a	M-001	114	275	70	イト			
	小皿 a1	M-002	81	115	59	イト			
24BSX090 暗褐色土									
土師器	環 a	M-002	128	285	80	イト			
	環 a	M-001	142	285	88	イト			
24BSX095 灰褐色土									
種別	器種	遺物番号	口径	器高	底径	底部処理	内底寸法	板状圧痕	備考
土師器	小皿 a1	M-001	79	135	57	イト			油漬付着
24BSX105 灰色土									
土師器	小皿 a	M-001	84	135	60	イト			
	小皿 a b	M-002	80	14	60	イト			
24BSX110 暗褐色土									
種別	器種	遺物番号	口径	器高	底径	底部処理	内底寸法	板状圧痕	備考
土師器	小皿 a1	M-001	76	145	58	イト			
24BSX110 黄褐色土									
土師器	環 a	M-001	140	25	100	イト			
	小皿 a1	M-004	80	105	60	イト			
	小皿 a1	M-003	96	115	76	イト			油漬付着
	小皿 a b	M-002	87	155	61	イト			
	小皿 a b	M-002	87	155	61	イト			
24BSX110 赤灰色土									
土師器	小皿 a1	M-002	84	075	70	イト			
	小皿 a1	M-001	88	11	70	イト			白雲母多量含有
	小皿 a1	M-003	108	125	90	イト			
	小皿 a1	M-003	108	125	90	イト			
24BSX110 灰色土									
土師器	環 a	M-001	126	235	84	イト			
	環 a	M-002	128	245	84	イト			
	小皿 a1	M-008	76	115	56	イト			
	小皿 a1	M-007	86	090	72	イト			
	小皿 a1	M-006	86	115	60	イト			
	小皿 a1	M-003	92	105	70	イト			
	小皿 a1	M-004	96	115	80	イト			
	小皿 a1	M-009	100	11	76	イト			
	小皿 a b	M-005	74	135	50	イト			
	小皿 a b	M-005	74	135	50	イト			

大宰府条坊跡第 24次調査 土師器計測表 3

24BSX111 黄褐色土									
種別	器種	遺物番号	口径	器高	底径	底部処理	内底ナズ	底状圧痕	備考
土師器	小皿 a	b	M-016	72	14	46	イト		
土師器	小皿 a	b	M-010	74	146	53	イト		
土師器	小皿 b		M-001	66	145	44	イト		
土師器	小皿 b		M-011	66	145	45	イト		
土師器	小皿 b		M-005	66	175	40	イト		
土師器	小皿 b		M-013	68	145	42	イト		
土師器	小皿 b		M-012	68	145	45	イト		
土師器	小皿 b		M-003	68	165	42	イト		
土師器	小皿 b		M-007	70	155	44	イト		
土師器	小皿 b		M-009	70	165	45	イト		
土師器	小皿 b		M-006	70	175	42	イト		
土師器	小皿 b		M-014	72	155	46	イト		
土師器	小皿 b		M-015	72	165	45	イト		
土師器	小皿 b		M-006	72	165	46	イト		
土師器	小皿 b		M-002	72	17	44	イト		
土師器	小皿 b		M-004	72	215	42	イト		
土師器	小皿 b		M-017	72	18	42	イト		
24BSK115 緑灰色土									
種別	器種	遺物番号	口径	器高	底径	底部処理	内底ナズ	底状圧痕	備考
土師器	環 a		M-001	148	255	100	イト		
土師器	小皿 a1		M-002	82	11	60	イト		
土師器	小皿 a1		M-003	88	12	70	イト		
24BSD120									
種別	器種	遺物番号	口径	器高	底径	底部処理	内底ナズ	底状圧痕	備考
土師器	小皿 a1		M-001	84	09	68	イト		
24BSD125 黄灰色土									
種別	器種	遺物番号	口径	器高	底径	底部処理	内底ナズ	底状圧痕	備考
土師器	環 a		M-001	122	26	80	イト		
土師器	小皿 a1		M-002	86	135	67	イト		
24BSK131									
種別	器種	遺物番号	口径	器高	底径	底部処理	内底ナズ	底状圧痕	備考
土師器	環 a		M-001	130	265	70	イト		
土師器	小皿 a1		M-002	96	11	80	イト		
24BSK135 緑灰色土									
種別	器種	遺物番号	口径	器高	底径	底部処理	内底ナズ	底状圧痕	備考
土師器	環 a		M-001	77	13	58	イト		
土師器	小皿 a1		M-002	90	105	80	イト		
24BSK135 灰色土									
種別	器種	遺物番号	口径	器高	底径	底部処理	内底ナズ	底状圧痕	備考
土師器	小皿 a1		M-002	94	125	72	イト		
土師器	小皿 a1		M-001	96	11	80	イト		
24BSK136									
種別	器種	遺物番号	口径	器高	底径	底部処理	内底ナズ	底状圧痕	備考
土師器	小皿 a1		M-001	76	11	50	イト		
24BSK136 灰色土									
種別	器種	遺物番号	口径	器高	底径	底部処理	内底ナズ	底状圧痕	備考
土師器	小皿 a1		M-001	86	115	66	イト		油煙付着
土師器	小皿 a1		M-002	88	095	70	イト		
24BSK136 緑灰色土									
種別	器種	遺物番号	口径	器高	底径	底部処理	内底ナズ	底状圧痕	備考
土師器	小皿 a1		M-001	84	095	66	イト		
土師器	小皿 a1		M-002	100	125	80	イト		
24BSB140 黄褐色土									
種別	器種	遺物番号	口径	器高	底径	底部処理	内底ナズ	底状圧痕	備考
土師器	小皿 c		M-001	90	21	53-57	イト		
24BSB140 灰色土									
種別	器種	遺物番号	口径	器高	底径	底部処理	内底ナズ	底状圧痕	備考
土師器	環 a		M-001	160	295	120	イト		
土師器	小皿 a1		M-008	78	085	62	イト		
土師器	小皿 a1		M-015	78	095	60	イト		白苔等多量含有
土師器	小皿 a1		M-012	84	11	62	イト		
土師器	小皿 a1		M-013	86	105	70	イト		
土師器	小皿 a1		M-010	86	11	68	イト		
土師器	小皿 a1		M-009	88	11	70	イト		
土師器	小皿 a1		M-005	88	12	70	イト		
土師器	小皿 a1		M-007	90	09	76	イト		
土師器	小皿 a1		M-014	90	105	70	イト		
土師器	小皿 a1		M-006	90	115	76	イト		白苔等多量含有
土師器	小皿 a1		M-011	90	13	70	イト		
土師器	小皿 a1		M-002	91	135	72	イト		
土師器	小皿 a1		M-004	94	115	76	イト		
土師器	小皿 a1		M-003	95-98	13	75-81	イト		
24BSB140 S									
種別	器種	遺物番号	口径	器高	底径	底部処理	内底ナズ	底状圧痕	備考
土師器	小皿 a1		M-002	82	13	68	イト		
土師器	小皿 a1		M-001	88	11	68	イト		白苔等多量含有

大宰府糸坊跡第24次調査 土師器計測表 4

248S140 V									
種別	器種	遺物番号	口径	器高	底径	底部処理	内底ナズ	板状圧痕	備考
土師器	小皿 a1	M-001	74	12	48	イト	-	-	
248SK144									
種別	器種	遺物番号	口径	器高	底径	底部処理	内底ナズ	板状圧痕	備考
土師器	小皿 a1	M-002	86	115	68	イト	-	-	
土師器	小皿 a1	M-001	86	125	64	イト	-	-	
248SK145 黄色土									
種別	器種	遺物番号	口径	器高	底径	底部処理	内底ナズ	板状圧痕	備考
土師器	小皿 a1	M-001	84	105	64	イト	-	-	
248SK151 緑褐色土									
種別	器種	遺物番号	口径	器高	底径	底部処理	内底ナズ	板状圧痕	備考
土師器	小皿 a1	M-002	88	095	66	イト	-	-	
土師器	小皿 a1	M-001	88	10	60	イト	-	-	
248SE160 黒灰色土									
種別	器種	遺物番号	口径	器高	底径	底部処理	内底ナズ	板状圧痕	備考
土師器	小皿 a1	M-004	76	09	60	イト	-	-	
土師器	小皿 a1	M-003	82	095	50	イト	-	-	
土師器	小皿 a1	M-002	86	115	68	イト	-	-	
土師器	小皿 a b	M-001	84	145	66	イト	-	-	
248SE160 灰褐色土									
種別	器種	遺物番号	口径	器高	底径	底部処理	内底ナズ	板状圧痕	備考
土師器	小皿 a1	M-002	82	095	66	イト	-	-	
土師器	小皿 a1	M-001	88	115	70	イト	-	-	
248SF165 灰褐色土									
種別	器種	遺物番号	口径	器高	底径	底部処理	内底ナズ	板状圧痕	備考
土師器	小皿 a b	M-001	86	15	56	イト	-	-	
248SF165 黒色土									
種別	器種	遺物番号	口径	器高	底径	底部処理	内底ナズ	板状圧痕	備考
土師器	小皿 a1	M-001	86	11	66	イト	-	-	
248SE170 灰色土									
種別	器種	遺物番号	口径	器高	底径	底部処理	内底ナズ	板状圧痕	備考
土師器	小皿 a1	M-001	94	10	74	イト	-	-	
248SE175 緑灰色土									
種別	器種	遺物番号	口径	器高	底径	底部処理	内底ナズ	板状圧痕	備考
土師器	杯 a	M-001	150	24	116	イト	-	-	
土師器	小皿 a1	M-003	88	095	74	イト	-	-	白雲母多量含有
土師器	小皿 a1	M-002	88	125	72	イト	-	-	白雲母多量含有
248SE175 灰色土									
種別	器種	遺物番号	口径	器高	底径	底部処理	内底ナズ	板状圧痕	備考
土師器	小皿 a1	M-001	90	09	70	イト	-	-	
248SE180 緑灰色土									
種別	器種	遺物番号	口径	器高	底径	底部処理	内底ナズ	板状圧痕	備考
土師器	小皿 a1	M-004	80	09	68	イト	-	-	
土師器	小皿 a1	M-009	80	105	70	イト	-	-	
土師器	小皿 a1	M-002	86	085	70	イト	-	-	
土師器	小皿 a1	M-005	86	10	70	イト	-	-	白雲母多量含有
土師器	小皿 a1	M-006	86	105	70	イト	-	-	
土師器	小皿 a1	M-007	86	13	60	イト	-	-	油煙付着
土師器	小皿 a1	M-003	90	095	70	イト	-	-	
土師器	小皿 a1	M-008	90	115	70	イト	-	-	
土師器	小皿 a1	M-001	90	115	74	イト	-	-	
248SE180 灰色土									
種別	器種	遺物番号	口径	器高	底径	底部処理	内底ナズ	板状圧痕	備考
土師器	小皿 a1	M-001	78	09	60	-	-	-	
248SE185 赤色土									
種別	器種	遺物番号	口径	器高	底径	底部処理	内底ナズ	板状圧痕	備考
土師器	杯 a	M-001	124	245	90	イト	-	-	
土師器	小皿 a1	M-002	82	13	60	イト	-	-	
248SE185 灰色土									
種別	器種	遺物番号	口径	器高	底径	底部処理	内底ナズ	板状圧痕	備考
土師器	小皿 a1	M-001	82	115	66	イト	-	-	白雲母多量含有
土師器	小皿 a1	M-002	84	11	68	イト	-	-	
土師器	小皿 a1	M-003	86	11	70	イト	-	-	
248SE185 緑灰色土									
種別	器種	遺物番号	口径	器高	底径	底部処理	内底ナズ	板状圧痕	備考
土師器	小皿 a1	M-001	86	115	60	イト	-	-	
土師器	小皿 a1	M-003	86	125	60	イト	-	-	
土師器	小皿 a1	M-002	88	115	68	イト	-	-	
248SX200 灰褐色土									
種別	器種	遺物番号	口径	器高	底径	底部処理	内底ナズ	板状圧痕	備考
土師器	杯 a	M-001	144	31	100	イト	-	-	
248SD260 灰白色砂									
種別	器種	遺物番号	口径	器高	底径	底部処理	内底ナズ	板状圧痕	備考
土師器	杯 a	M-001	144	27	100	イト	-	-	油煙付着
土師器	小皿 a1	M-003	82	095	60	イト	-	-	
土師器	小皿 a b	M-002	92	18	60	イト	-	-	

大宰府条坊跡第 24 次調査 土師器計測表 5

248SK 270 黒灰色土									
種別	器種	遺物番号	口径	器高	底径	底部処理	内底ナブ	板状圧痕	備考
土師器	小皿 a1	M-001	96	12	70	イト			白雲母多量含有
248SE 290 灰色土									
種別	器種	遺物番号	口径	器高	底径	底部処理	内底ナブ	板状圧痕	備考
土師器	小皿 a1	M-001	100	105	80	イト			
248SE 295 灰色土									
種別	器種	遺物番号	口径	器高	底径	底部処理	内底ナブ	板状圧痕	備考
土師器	環 a	M-001	140	30	96	イト			
土師器	小皿 a1	M-002	96	075	84	イト			
248SE 300 灰色土									
種別	器種	遺物番号	口径	器高	底径	底部処理	内底ナブ	板状圧痕	備考
土師器	環 a	M-001	158	27	114	イト			
土師器	小皿 a1	M-002	80	10	62	イト			
土師器	小皿 a1	M-004	86	085	70	イト			
土師器	小皿 a1	M-005	88	105	70	イト			
土師器	小皿 a1	M-003	100	115	80	イト			白雲母多量含有
S - 329									
種別	器種	遺物番号	口径	器高	底径	底部処理	内底ナブ	板状圧痕	備考
土師器	小皿 a1	M-002	86	10	56	イト			
土師器	小皿 a1	M-001	92	09	77	イト			
248SO 330 黒色土									
種別	器種	遺物番号	口径	器高	底径	底部処理	内底ナブ	板状圧痕	備考
土師器	小皿 a1	M-001	80	115	60	イト			
土師器	小皿 a1	M-001	87	115	69-72	イト			
土師器	小皿 a1	M-002	88	105	70	イト			
土師器	小皿 a1	M-004	96	115	74	イト			
S - 346									
種別	器種	遺物番号	口径	器高	底径	底部処理	内底ナブ	板状圧痕	備考
土師器	小皿 a1	M-002	86	105	66	イト			
土師器	小皿 a1	M-001	88	09	78	イト			
土師器	小皿 a1	M-003	92	10	70	イト			
248SK 350 黒灰色土									
種別	器種	遺物番号	口径	器高	底径	底部処理	内底ナブ	板状圧痕	備考
土師器	小皿 a1	M-001	90	155	62	イト			
S - 351 暗灰色土									
種別	器種	遺物番号	口径	器高	底径	底部処理	内底ナブ	板状圧痕	備考
土師器	環 a	M-001	144	28	108	イト			
S - 358 暗灰色土									
種別	器種	遺物番号	口径	器高	底径	底部処理	内底ナブ	板状圧痕	備考
土師器	環 a	M-001	150	275	110	イト			
灰色土									
種別	器種	遺物番号	口径	器高	底径	底部処理	内底ナブ	板状圧痕	備考
土師器	環 a	M-001	125	28	89	イト			油煙付着
土師器	小皿 a b	M-003	69	125	44	イト			白雲母多量含有
土師器	小皿 b	M-002	67	17	53	イト			油煙付着
黄褐色土 2									
種別	器種	遺物番号	口径	器高	底径	底部処理	内底ナブ	板状圧痕	備考
土師器	小皿 a1	M-005	80	11	66	イト			
土師器	小皿 a1	M-004	82	105	68	イト			
土師器	小皿 a1	M-001	84	115	69	イト			
土師器	小皿 a1	M-002	84	13	70	イト			
土師器	小皿 a1	M-003	88	11	70	イト			
土師器	小皿 a1	M-006	92	085	70	イト			油煙付着
土師器	小皿 a b	M-007	72	13	59	イト			
土師器	小皿 b	M-008	72	155	57	イト			油煙付着
暗灰色土									
種別	器種	遺物番号	口径	器高	底径	底部処理	内底ナブ	板状圧痕	備考
土師器	環 a	M-001	142	355	90	イト			
土師器	小皿 a1	M-005	83	115	64	イト			
土師器	小皿 a1	M-003	88	095	71	イト			白雲母多量含有
土師器	小皿 a1	M-002	90	13	71	イト			
土師器	小皿 a b	M-004	91	155	62	イト			
褐色砂									
種別	器種	遺物番号	口径	器高	底径	底部処理	内底ナブ	板状圧痕	備考
土師器	小皿 a1	M-002	86	11	68	イト			油煙付着
土師器	小皿 a1	M-001	96	125	69	イト			
灰色土 2									
種別	器種	遺物番号	口径	器高	底径	底部処理	内底ナブ	板状圧痕	備考
土師器	環 a	M-003	150	315	88	イト			
土師器	環 a	M-004	150	295	118	イト			
土師器	環 a	M-002	152	255	106	イト			
土師器	環 a	M-001	154	37	115	イト			白雲母多量含有
土師器	小皿 a1	M-005	86	135	56	イト			

大宰府条坊跡第 248 次調査 出土遺物一覧表(1)

S-1a	土師器	坏 a (イト)、小皿 a (イト)	白磁	書物; 破片 (華南系) (1)
	瓦質土器	破片	中国陶器	他器種; B群 (1)、C群 (1)
	中国陶器	他器種; B群 (1)	弥生土器	破片
S-1b	土師器	坏、小皿、小皿 a1 (イト)	金属製品	鉄滓
			その他	雑土塊
S-1c	土師器	坏、坏 a (イト)、小皿 a1 (イト)	S-21 黒褐色土	
S-2	土師器	供養具	土師器	坏 a (イト)
S-3	土師器	小皿 a1	龍泉窯系青磁	他器種; 小碗皿 (1)
S-4	土師器	供養具	国産陶器	壺
S-5	土師器	供養具	白磁	皿; IX (1)
	甌		中国陶器	他器種; A群 (1)
	土師器	小皿 a1	S-22 黒褐色土	
	瓦器	破片	土師器	坏、小皿 a1
	龍泉窯系青磁	他器種; 坏皿-1 (1)	龍泉窯系青磁	他器種; 小碗皿 (1)
S-6	土師器	小皿 a1、供養具	国産陶器	壺
S-8	土師器	坏、高台、破片	中国陶器	他器種; A群 (1)
S-10a	土師器	坏 a (イト)、小皿 a1	S-23 緑褐色土	
	瓦器	破片	土師器	小皿 a1、破片
S-10b	土師器	坏 a (イト)	S-24 緑褐色土	
S-11	土師器	坏、小皿 a1 (イト)	土師器	坏 (イト)
	瓦器	陶 c	白磁	書物; 破片 (華南系) (2)
	龍泉窯系青磁	陶; I (1)	S-25	
	白磁	皿; IV (1)	土師器	小皿 a1
S-11 褐色土	土師器	小皿 a1 (イト)	瓦器	破片
	瓦器	陶 c	S-25a	
	龍泉窯系青磁	陶; II-b (1)、破片 (2)	土師器	坏
	同安窯系青磁	他器種; 破片 (1)	須恵質土器	こね鉢
	瓦器	破片	中国陶器	他器種; B群 (1)
	同安窯系青磁	皿; 破片 (1)	S-25b	
	瓦器	破片	土師器	供養具
	石製品	石鏝 (滑石)	S-25d	
	土師質土器	煮炊具	土師器	坏、供養具
	国産陶器	壺	S-25f	
	白磁	陶; V-4×壺-3 (1)	土師器	坏、坏 a (イト)、小皿 a1
	中国陶器	皿; IX (1)、IX-1 (2)	石製品	破片 (滑石)
	中国陶器	鉢; II (1)、IV (1)	中国陶器	他器種; C群 (1)
	金属製品	他器種; B群 (1)	S-25c	
	土師器	供灯、鉄滓	土師器	坏 a (イト)
	土師器	伊瓶	S-25i	
S-12	土師器	坏、小皿 a1	土師器	坏
	瓦器	破片 (格子明)	龍泉窯系青磁	他器種; 壺 (1)
	石製品	基石	白磁	書物; 破片 (華南系) (1)
	その他	雑土塊	S-25e	
S-13d	土師器	坏 a、破片	土師器	小皿 a1 (イト)
S-16	土師器	供養具	土師質土器	破片
S-17	土師器	坏 a (イト)	白磁	皿; IX (1)
	白磁	陶; 1壺 (1)	S-26	
S-18 褐色土	土師器	坏、小皿 a1 (イト)、煮炊具	土師器	坏 a (イト)
	須恵質土器	こね鉢×壺鉢	瓦器	破片
	土師器	供養具	龍泉窯系青磁	陶; I-IIb (1)
S-20	土師器	坏 a (イト)、小皿 a1、小皿 a1 (イト)	白磁	皿; IX (1)
	木製品	炭化物	S-27	
	土師質土器	こね鉢	土師器	坏、小皿 a1 (イト)
	須恵質土器	こね鉢	S-28	
	国産陶器	破片	土師器	坏 a (イト)、小皿 a1 (イト)
			白磁	書物; 破片 (華南系) (1)
			その他	雑土塊
			S-29	
			土師器	小皿 a1 (イト)
			龍泉窯系青磁	陶; II-b (1)
			中国陶器	他器種; B群 (1)、破片 (2)

大宰府条坊跡第248次調査 出土遺物一覧表(2)

S-31	
土師器	坏a(イト)
龍泉系青磁	他器種;坏皿-4(1)
同安系青磁	碗;1-b(1)
土師質土器	煮炊具
白磁	皿;IX-1b(1)
S-32	
須恵器	甕
土師器	坏、小皿a1(イト)
中国陶器	他器種;盤II-2(1)、C群(2)
S-33	
土師器	伊藤具
S-34	
土師器	坏a(イト)
瓦類	破片
龍泉系青磁	碗;皿(1)
瓦類	破片
青白磁	破片(1)
中国陶器	他器種;C群(1)
S-35	
土師器	坏a(イト)、小皿a1(イト)
龍泉系青磁	碗;破片(2)
瓦類	破片(格子印)
須恵質土器	こね鉢(東越系)
因宗陶器	甕
白磁	碗;IV(1)、破片(華南系)(1) 皿;VI(1)、IX(1) 壺;壺(1)、耳壺(1)
中国陶器	他器種;B群(2)
金属製品	鉄釘
S-35 緑色土	
土師器	坏、坏a(イト)、小皿a1(イト)
龍泉系青磁	碗;1-b(1)、1-4(1)、II(2)、II-b(7)
同安系青磁	碗;破片(1)
須恵質土器	皿;破片(1)
因宗陶器	甕
白磁	碗;III-2(1)、破片(華南系)(1) 皿;IX(1)、IX-1a(1) 壺他;破片(華南系)(1)、破片(広東系)(1)
青白磁	破片(1)
中国陶器	他器種;盤II-1(2)、盤II-2(1)、A群(2)、B群(2)、 C群(3)
黒輪陶器	小瓶(1)
金属製品	鉄釘
S-36	
土師器	坏a(イト)
龍泉系青磁	他器種;破片(1)
瓦類	破片
石製品	破片(磨石)
白磁	壺他;破片(華南系)(1)
中国陶器	他器種;破片(1)
S-37	
須恵器	甕
土師器	伊藤具
龍泉系青磁	他器種;破片(1)
瓦類	破片(格子印)
染付(輸入)	破片(2)
S-38	
土師器	伊藤具
S-39	
土師器	坏a(イト)
S-40a	
土師器	坏a(イト)、小皿a1
その他	埴土塊
S-40b	
土師器	伊藤具
龍泉系青磁	碗;破片(1)
S-41	
土師器	伊藤具
白磁	壺他;破片(華南系)(1)

S-43	
土師器	坏a(イト)、破片
龍泉系青磁	他器種;破片(1)
S-44	
須恵器	高坪
土師器	伊藤具
石製品	破片(磨石)
緑輪陶器	破片
S-45	
須恵器	壺1、壺3
土師器	坏a(イト)、小皿a1(イト)
龍泉系青磁	碗;1-a(1)、II-b(2) 他器種;破片(1)
同安系青磁	碗;破片(1)
瓦類	破片(格子印)、破片
石製品	形迹不明(磨石)
須恵質土器	こね鉢(東越系)
瓦質土器	甕
中国陶器	甕
白磁	碗;IV(1)、破片(華南系)(2) 皿;IX(2) 壺他;破片(華南系)(1)
中国陶器	壺;1(1) 他器種;B群(2)
金属製品	鉄釘
その他	埴土塊
S-46	
土師器	坏a(イト)
瓦類	破片
S-47	
須恵器	甕
土師器	坏a(イト)、丸底坏、小皿a1
瓦類	碗、碗c
龍泉系青磁	碗;1-4(1)、II(1)、II-a(1)、II-b(3)、(未分類) (1)、破片(4) 他器種;破片(2)
同安系青磁	碗;1-b(2) 他器種;破片(1)
瓦類	破片(格子印)
土師質土器	羽釜、煮炊具
須恵質土器	こね鉢(東越系)
肥前系陶磁器	染付
因宗陶器	破片
白磁	碗;IV(3)、IV-1a(1)、III(1)、破片(華南系)(4)、碗 ×皿(華南系)(1) 皿;IX(1)、破片(華南系)(2) 壺他;小皿(1)、破片(華南系)(3)
中国陶器	壺;1-2(1) 他器種;A群(1)、C群(3)、破片(2)
須恵質(輸入)	磨石系黒輪陶器(2)
金属製品	鉄塊
土製品	土磚
S-48	
土師器	坏a(イト)
瓦質土器	こね鉢×磨鉢
S-49	
肥前系陶磁器	白磁紅蓮
因宗陶器	皿、壺
白磁	碗;破片(華南系)(1)
S-50	
土師器	坏a(イト)、小皿a1(イト)
龍泉系青磁	他器種;壺(1)
瓦類	丸瓦
染付	大目陶
因宗陶器	甕、破片
白磁	碗;破片(華南系)(1)
中国陶器	他器種;A群(1)、B群(1)
S-51	
土師器	坏a(イト)
因宗陶器	白磁破片

大宰府条坊跡第 248 次調査 出土遺物一覽表 (3)

S-52	
土師器	蓋 1、壺
土師器	坏 a (イト)、小皿 a1 (イト)
瓦器	破片
龍泉窯系青磁	碗; I (1)、I-1b (1)、II-a (1)、II-b (1)、破片 (2)
	皿; I-la (1)
瓦器	破片 (鏡目印)、破片
石製品	基石、破片 (黒曜石)
須恵質土器	こね鉢、楕鉢
瓦質土器	楕鉢、こね鉢×楕鉢
国産陶器	壺
白磁	碗; V-4×Ⅴ-3 (1)、Ⅸ-1 (1)
	皿; Ⅸ (2)、Ⅸ-la (1)
	帯瓶; 破片 (華南系) (2)
青白磁	梅瓶 (1)
中国陶器	他器種; A群 (1)、B群 (1)、C群 (2)
土製品	瓦玉
S-53	
土師器	坏、小皿 a1 (イト)
その他	埴土塊
S-54	
土師器	坏、供養具
S-56	
土師器	坏
須恵質土器	破片
S-57	
瓦器	碗
龍泉窯系青磁	碗; I (2)
	皿; 破片 (1)
須恵質土器	こね鉢
国産陶器	大甕
白磁	帯瓶; 破片 (華南系) (1)
中国陶器	他器種; 破片 (1)
金属製品	鈴か (銅)
S-58	
土師器	供養具
S-59	
土師器	小皿 a1 (イト)
阿波系青磁	皿; I-la (1)
中国陶器	他器種; A群 (1)
S-61	
土師器	坏 a (イト)、小皿 a1 (イト)
中国陶器	他器種; C群 (1)
S-62	
土師器	坏 a
S-63	
須恵質土器	こね鉢 (兼漆系)
中国陶器	他器種; A群 (1)
S-64	
土師器	供養具
S-65	
土師器	坏 a (イト)、小皿 a1 (イト)
瓦器	破片
土師質土器	煮食具
白磁	皿; Ⅸ (1)
須恵質 (輸入)	朝鮮系無袖陶器 (1)
S-67	
土師器	供養具
瓦器	破片
龍泉窯系青磁	碗; I-2 (1)
白磁	皿; Ⅲ (1)、V (1)
S-68	
土師器	供養具
瓦器	平瓦 (鏡目印)
S-69	
土師器	坏、小皿 a1 (イト)
S-71	
瓦器	破片
S-72	
須恵器	壺
土師器	坏、小皿 a1

S-73	
土師器	坏、小皿 a1 (イト)
龍泉窯系青磁	碗; II-b (1)
S-74	
土師器	供養具
S-75	
土師器	坏
龍泉窯系青磁	碗; 破片 (1)
瓦器	瓦瓦 (佛子印)
中国陶器	他器種; A群 (1)、破片 (3)
S-76 黄褐色土	
土師器	坏 a (イト)
龍泉窯系青磁	他器種; 破片 (1)
瓦器	瓦瓦
石製品	破片 (滑石)
瓦質土器	壺、こね鉢×楕鉢
国産陶器	壺
中国陶器	他器種; C群 (1)
S-77 黒褐色土	
土師器	坏 a (イト)
龍泉窯系青磁	碗; II-a (1)、II-b (1)
	他器種; 皿 (1)、破片 (1)
須恵質土器	こね鉢
白磁	皿; Ⅸ (2)
中国陶器	他器種; 小甕 II-1 (1)、B群 (1)、C群 (1)
S-78 褐色土	
土師器	坏 a (イト)、坏 c、小皿 a1 (イト)
龍泉窯系青磁	碗; II (1)、II-b (2)
阿波系青磁	碗; 破片 (1)
瓦器	平瓦、破片
須恵質土器	破片
白磁	碗; Ⅴ (1)
	皿; Ⅸ-1b (1)
	帯瓶; 破片 (華南系) (1)
中国陶器	他器種; 合子 (1)
S-82	
土師器	小皿 a1 (イト)、煮炊具
龍泉窯系青磁	碗; II-b (2)
瓦器	破片 (佛子印)
石製品	基石
白磁	碗; V-4×Ⅴ-3 (1)
	皿; Ⅸ (1)
青白磁	合子 (1)
中国陶器	他器種; 小甕 II-1 (1)、A群 (2)、C群 (2)
土製品	瓦玉
S-96	
土師器	坏 (イト)、供養具
瓦器	破片 (佛子印)
須恵質土器	こね鉢
土師質土器	楕鉢
中国陶器	他器種; B群 (1)
S-97	
土師器	坏 a (イト)
瓦器	破片
龍泉窯系青磁	碗; II (2)、II-b (1)
瓦器	破片 (鏡目印)
土師質土器	こね鉢×楕鉢
須恵質土器	こね鉢、火舎
中国陶器	他器種; C群 (3)
金属製品	鉄釘
S-99	
土師器	坏 a (イト)、供養具
瓦器	破片
龍泉窯系青磁	他器種; 小甕 I-1 (1)
瓦器	平瓦 (佛子印・鏡目印)
石製品	破片 (滑石)
白磁	碗; 破片 (華南系) (1)
	皿; Ⅸ (1)
中国陶器	他器種; B群 (1)
須恵質 (輸入)	朝鮮系無袖陶器; 壺 (1)
銭貨	熊掌元寶、元豊通寶

大宰府条坊跡第 248 次調査 出土遺物一覧表 (4)

S-103	土師器 坏 a (イト)、小皿 a1 (イト)	瓦質土器 大鉢
龍泉系青磁	碗; II (1)、III-2 (2)	中国陶器 他器種; B群 (1)
瓦類	破片 (調査用)	その他 焼土塊
石製品	破片 (磨石)	
白磁	香炉; 壺 (1)	S-127
中国陶器	他器種; B群 (2)、破片 (1)	土師器 坏 a (イト)、供養具
S-104		龍泉系青磁 碗; I (1)、I-2 (1)、II-b (1)
土師器	供養具	石製品 石鏡 (磨石)、磨石
龍泉系青磁	碗; II-b (1)	瓦質土器 壺
石製品	磨石	白磁 香炉; 破片 (華南系) (2)
瓦質土器	壺、鉢、火舎	中国陶器 他器種; C群 (1)
S-106		S-127 灰明褐色土
土師器	坏 a (イト)	須恵器 壺
土師質土器	こね鉢×楕鉢	土師器 小皿 a1 (イト)
S-108		龍泉系青磁 他器種; 破片 (1)
土師器	坏	須恵土器 こね鉢
龍泉系青磁	碗; II-b (1)	瓦質土器 こね鉢×楕鉢
瓦類	瓦瓦	中国陶器 壺
S-111		白磁 壺; IX (1)
土師器	坏 a、碗 c、小皿 a1 (イト)、供養具、煮炊具	S-128
瓦類	破片	須恵器 壺
S-112		土師器 坏、坏 a (イト)、小皿 a1 (イト)
土師器	坏 a (イト)	須恵土器白 破片
瓦類	破片	瓦類 破片 (橋子甲)
中国陶器	破片	中国陶器 他器種; A群 (1)、破片 (1)
その他	焼土塊	金属製品 鉄釘
S-113		その他 焼土塊
土師器	坏 a (イト)、小皿 a1 (イト)	S-131
S-114		土師器 坏、坏 a (イト)、小皿 a1
土師器	坏 a (イト)	S-133
S-116		土師器 坏 a (イト)、小皿 1
土師器	坏 a、小皿 a1 (イト)	S-134
龍泉系青磁	碗; II-b (1)	土師器 小皿 a1 (イト)
S-119		同安系青磁 碗; 破片 (1)
土師器	坏	中国陶器 他器種; B群 (1)
龍泉系青磁	碗; 破片 (1)	鉄貨 不明
同安系青磁	他器種; 破片 (2)	表上
土師質土器	こね鉢	須恵器 壺
S-121		土師器 坏 a、小皿 2
土師器	坏 a (イト)	龍泉系青磁 碗; I (2)、I-1 (1)、II-a (1)、II-b (10)、III-2 (2)、IV (1)、IV-≒ (1)、破片 (32)
龍泉系青磁	碗; II-b (2)	瓦類 瓦瓦、破片 (橋子甲)
白磁	壺; IX (1)	石製品 石鏡 (磨石)
中国陶器	香炉; 壺 (2)	土師質土器 楕鉢
金属製品	鉄釘; 破片 (1)	須恵土器 こね鉢
土製品	瓦瓦	瓦質土器 こね鉢×楕鉢
S-122		瀬戸 煎土
土師器	坏、坏 a (イト)、小皿 a	中国陶器 壺
瓦類	破片	同安系青磁 小坏 (輪付)、煮養埴口 (輪付)
龍泉系青磁	碗; II-b (1)	白磁 碗; V-2 (1)、V-4 (1)、VII-b (1)、破片 (華南系) (5)
中国陶器	他器種; 小鉢 II-1 (1)	瓦; II (1)、II-la (1)、V (1)、VI (1)、IX (6)、IX-1 (6)、IX-1b (1)、IX-b (2)
その他	焼土塊	香炉; 壺 (1)、破片 (華南系) (10)、破片 (広東系) (1)
S-123		中国陶器 他器種; 鉢 II-1 (1)、A群 (1)、B群 (3)、C群 (3)、破片 (4)
須恵器	壺	鉄貨 不明
土師器	坏 a、坏 a (イト)、小皿 a1 (イト)	土製品 瓦瓦
龍泉系青磁	碗; II (1)、II-b (1)	その他 ビー玉
瓦類	破片	黄褐色土
石製品	硯	須恵器 壺、破片
須恵土器	こね鉢、破片	土師器 坏 a (イト)、小皿 a1 (イト)、小皿 b
鉄貨	equal 元寶、額定通貨、聖元元寶、垂4元寶	碗 c
S-124		龍泉系青磁 碗; II (1)
土師器	坏 a (イト)、小皿 a1 (イト)	龍泉系青磁 碗; I (5)、I-1 (3)、I-2 (6)、I-3 (1)、I-4 (1)、II (8)、II-a (1)、II-b (55)、III-2 (3)、(未分類) (2)、破片 (20)
龍泉系青磁	碗; II-b (1)	瓦; I (2)、I-3 (1)、破片 (8)
石製品	風子鏡 (琥珀)	他器種; 坏皿 (2)、坏皿-1 (3)、坏皿-la (1)、坏皿-3 (1)、坏皿-ob (1)、坏皿-4 (1)、坏皿-b (1)、坏皿-5 (1)、坏皿-fc (1)、小碗 (2)、小碗皿-2 (1)、壺 (3)、香炉 (1)、器種不明 (3)、破片 (2)
土師質土器	煮炊具	
中国陶器	他器種; A群 (1)、破片 (1)	
金属製品	鉄釘	
S-126		
土師器	坏、坏 a、小皿 b	
瓦類	破片	

大宰府条坊跡第248次調査 出土遺物一覽表(5)

同安南系青銅	腕：I-b(3)、Ⅱ：I-b(2)、破片(2)	銀尸	大目
他部類	破片(1)	肥前系陶磁器	白磁紅瓦、磁鉢、破片(逸行)
高麗青銅	腕：初期型(1)	国産陶器	甕、(常滑)、赤(唐造)
瓦類	平瓦(調日明)、丸瓦(格子明)、破片(格子明)	白磁	腕：I-2(1)、II-1(1)、II-5(1)、IV(3)、V-4c(1)、Ⅴ(1)、Ⅴ-2(1)、破片(華南系)(1)、破片(広東系)(1)
石製品	石鏃(滑石)、砥石、基石、石重、礎石、用途不明(滑石)		Ⅱ：II-2(1)、IX(1)、IX-1(6)、IX-2(1)、IX-2b(1)、IX-b(1)、破片(華南系)(2)
土師質土器	皿、磁鉢×こね鉢	青白磁	Ⅱ(2)、合子(3)
須恵質土器	甕、こね鉢(東播磨)	中国陶器	Ⅱ：IV(2)
瓦質土器	火鉢、破片		鉢：I-3a(1)、I-2(1)、I-2a(1)、Ⅴ(2)
緑釉陶器	Ⅱ		甕：破片(2)
銀尸	指環		他部類：耳環(1)、釧I-1(1)、釧II-2(3)、A群(8)、B群(10)、C群(23)、破片(10)
国産陶器	腕、甕、甕(常滑・備前)	須恵質(輸入)	朝鮮系無釉陶器(3)
白磁	腕：II(3)、II-1(1)、IV(5)、IV-3a(2)、V-2(2)、V-4×Ⅴ-3(7)、V-4b(1)、Ⅴ(1)、Ⅴ(4)、Ⅴ-2(3)、IX(1)、IX-1(1)、破片(華南系)(17)、破片(広東系)(1)	黒釉陶器	小瓶(1)
	Ⅱ：V(2)、Ⅴ(4)、Ⅴ(3)、IX(17)、IX-1(12)、IX-3a(2)、IX-2(3)、IX-b(6)、IX-d(2)、(未分類)(1)、破片(華南系)(1)	鏡貨	不明
	他部類：Ⅱ(4)、耳環(合子)(1)、破片(華南系)(10)	金属製品	鉄刀
青白磁	腕(1)、Ⅱ(1)、合子(5)、破片(2)	土製品	土壺、用途不明
中国陶器	Ⅱ：IV(2)、破片(5)	その他	礎土塊
	鉢：I-b(1)、II(2)	須恵色土	
	甕：III(1)	土師部	杯a(イト)、小瓶a1(イト)
	他部類：釧I-1(1)、釧II-2(4)、把手(1)、A群(10)、B群(10)、C群(40)、破片(60)	白磁	他部類：破片(華南系)(1)
須恵質(輸入)	朝鮮系無釉陶器(2)	中国陶器	他部類：釧(未分類)(1)、破片(1)
鏡貨	不明	その他	礎土塊
金属製品	鉄釘、鉄刀	褐色土	
土製品	土壺、伊軒、瓦瓦、用途不明	須恵部	杯c、Ⅱ3、Ⅱc、甕
その他	礎土塊	土師部	杯a(イト)、丸底杯、小瓶a、小瓶b、供養具
明黄色土		黒色土器A	腕c
須恵部	Ⅱ	瓦類	腕
土師部	杯(イト)、杯a(イト)、杯c、小瓶a1、小瓶a1(イト)、小瓶c	龍泉系青銅	腕：I(15)、I-1(3)、I-2(6)、I-4(4)、II(8)、II-a(7)、II-b(10)、III-2(12)、IV(7)、IX-Ⅱ(1)、上出a1(1)、(未分類)(2)、破片(76)
瓦類	破片		Ⅱ：I(1)、破片(9)
龍泉系青銅	腕：Ⅱ(1)	他部類	杯環-1(6)、杯環-2(1)、杯環-3(4)、杯環-3b(1)、杯環-4(2)、東口碗II-b(1)、Ⅱ(1)、釧(2)、香炉(1)、破片(43)
龍泉系青銅	腕：I-1(2)、I-2(1)、II(1)、II-a(3)、II-b(6)、破片(15)	同安南系青銅	腕：I-b(15)、破片(8)
	Ⅱ：I(1)、破片(2)		Ⅱ：I-b(2)、I-2b(1)、破片(7)
	他部類：杯環-3(1)、破片(4)	他部類	破片(1)
同安南系青銅	腕：I-b(1)、II-a(1)、III-2(1)、破片(1)	高麗青銅	象環；腕(1)、破片(1)
	Ⅱ：I-b(1)、I-2b(1)、I-b(1)、破片(2)	瓦類	平瓦(格子明・調日明)、平瓦(文字瓦910)、丸瓦、破片(格子明)、破片(逸行)、破片
瓦類	平瓦、丸瓦、破片	石製品	石鏃(滑石)、砥石、磁石、基石、用途不明(滑石)、破片(滑石)
石製品	基石	土師質土器	こね鉢×磁鉢、皿、煮炊具、鉢、火鉢c
土師質土器	皿、煮炊具	須恵質土器	甕、甕(東播磨)、こね鉢、こね鉢(東播磨)
緑釉陶器	Ⅱ(近江)	肥前系陶磁器	白磁紅瓦
肥前系陶磁器	白磁紅瓦	国産陶器	甕、磁鉢
白磁	腕：IV(3)、V-4×Ⅴ-3(2)、Ⅴ-2(1)、破片(華南系)(8)	白磁	腕：IV(3)、V(4)、V-4(3)、V-4×Ⅴ-3(6)、V-4b(2)、Ⅴ-b(1)、Ⅴ(1)、Ⅴ-2(1)、Ⅴ-3(1)、IX(1)、IX-1(1)、IX-2(1)、破片(華南系)(42)
	Ⅱ：III-1(1)、IX(2)、IX-1(1)	国産陶器	小瓶、大壺、甕、甕(常滑・備前・備前?)、磁鉢
	他部類：Ⅱ(3)、破片(華南系)(6)	国産陶器	逸行
中国陶器	Ⅱ：破片(1)	白磁	腕：IV(9)、V(4)、V-4(3)、V-4×Ⅴ-3(6)、V-4b(2)、Ⅴ-b(1)、Ⅴ(1)、Ⅴ-2(1)、Ⅴ-3(1)、IX(1)、IX-1(1)、IX-2(1)(1)、破片(華南系)(42)
	鉢：I-3a(1)		Ⅱ：II(1)、Ⅴ(8)、Ⅴ(2)、IX(49)、IX-1(20)、IX-1(1)、IX-b(1)、IX-2(5)、IX-2b(1)、IX-b(12)、IX-d(1)、破片(華南系)(10)
	鉢：I-b(1)	他部類	他部類：Ⅱ(7)、耳環(2)、合子(2)、破片(華南系)(47)、破片(広東系)(1)
	他部類：A群(3)、B群(4)、C群(4)、破片(3)	青白磁	腕(3)、Ⅱ(2)、Ⅱ(1)、合子(6)、破片(2)
須恵質(輸入)	朝鮮系無釉陶器(1)	逸行(輸入)	Ⅱ：小瓶I群(1)
金属製品	鉄釘、鉄刀	中国陶器	Ⅱ：IV(3)、IV(3)、破片(4)
土製品	瓦瓦		鉢：I-1(3)、I-2a(1)、II(1)、II-2b(1)、IV(2)、Ⅴ(2)、破片(3)
黄色土			Ⅱ：I(1)、Ⅱ(2)
須恵部	Ⅱ3、Ⅱc、甕	他部類	Ⅱ(1)、耳環(2)、耳環Ⅴ(1)、釧I-1(7)、釧II-2(4)、釧Ⅱ(1)、釧(未分類)(2)、小瓶I-1(1)、水注V(1)、三鈴(耳環)(1)、A群(34)、B群(41)、C群(44)、破片(90)
土師部	杯、杯a(イト)、杯a(イト・雲形)、小瓶a1(イト・穿孔有)	須恵質(輸入)	朝鮮系無釉陶器(8)
瓦類	腕c、小瓶	黒釉陶器	腕(2)、小瓶(5)、Ⅱ(1)、破片(1)
龍泉系青銅	腕：I-2(2)、I-4(5)、II-a(2)、II-b(19)、III-2(2)、IV(1)、破片(10)	鏡貨	不明
	Ⅱ：破片(3)		
	他部類：杯環-1(1)、杯環-2(1)、杯環-3(1)、杯環-3b(1)、杯環-4(1)、小瓶(1)、小瓶Ⅱ-2(1)、東口碗II-b(1)、Ⅱ(1)、Ⅱ(1)、Ⅱ(1)、破片(16)		
同安南系青銅	腕：I-b(4)、Ⅱ：破片(1)		
高麗青銅	象環；破片(1)		
瓦類	破片(格子明・調日明)、破片		
石製品	石鏃(滑石)、砥石、基石		
須恵質土器	こね鉢		
瓦質土器	Ⅱ、こね鉢×磁鉢、磁鉢、火鉢		

大宰府条坊跡第248次調査 出土遺物一覧表(6)

金属製品	鉄釘、押等
土製品	瓦玉
その他	焼土塊
赤褐色土	
土師器	坏 a (イト)、小皿 a1 (イト)
白磁	皿; IX - b (1)
Ⅱ	
土師器	坏 a (イト)、小皿 a1 (イト)
龍泉窯系青磁	碗; II - a (1)、皿 - 2 (1)
石製品	基石
土師質土器	破片
国産磁器	急付釜
白磁	碗; VII - b (1) 香壺; 合子 (1)
鉄貨	開元通寶、乾符元寶、天聖元寶、景祐元寶、皇宋通寶、熙寧元寶、元豊通寶、元豊通寶(背二銭)、天祐通寶、大観通寶
金属製品	小巻(銅製品)、鉄釘、錠子

②	
土師器	小皿 a1
瓦器	碗、破片
龍泉窯系青磁	碗; II - b (1)、破片 (4)
	他器種; 香 IV (1)、盤 (1)、破片 (10)
同安窯系青磁	他器種; 破片 (3)
土師質土器	煮炊具
白磁	皿; IX (1)、破片(華南系) (2) 香壺; 破片(華南系) (3)
青白磁	合子 (2)
中国陶器	他器種; 耳壺 (1)、A群 (1)、B群 (3)、C群 (2)
須恵質(輸入)	龍泉窯系青磁陶器 (1)
須恵陶器	碗 (1)
金属製品	鉄釘、錠子
その他	焼土塊

大宰府条坊跡第248次調査(その2) 出土遺物一覧表(1)

S-20

遺物群	甕、供膳具
土師器	坪a(イト)、小皿a(イト)、小皿b、煮炊具
瓦器	破片
龍泉系青磁	碗; II-b(2) 皿; I(1) 他器種: 壺(1)、坪; III(1)
瓦類	平瓦(縄目印)
石製品	碇石
質恵質土器	こね鉢(東播系、産地不明)
白磁	帯巻; 破片(華南系)(1)
中田陶器	他器種: A群(2)、C群(1)

S-20 褐色土

遺物群	甕(古瀬)
土師器	坪a、坪a(イト)、小皿a
龍泉系青磁	碗; II-b(2)
瓦類	平瓦(格子印・縄目印)
土師質土器	鍋、火舎
質恵質土器	こね鉢(東播系)
瓦質土器	破片
因田陶器	甕(輪形)、播鉢(輪形)
白磁	碗; IX(1)、皿; IX(3) 帯巻; 破片(華南系)(1)
中田陶器	他器種: B群(3)、C群(2)

S-20a

遺物群	甕
土師器	坪a(イト)、供膳具
質恵質土器	こね鉢(東播系)
白磁	帯巻; 破片(華南系)(1)

S-20b

土師器	小皿a1
阿波系青磁	碗; I-b(1)

S-20c

瓦類	平瓦(格子印)
S-20h	
土師器	坪a(イト)、供膳具
瓦器	甕、供膳具

S-20j

土師器	供膳具
白磁	皿; IX-1(1)

S-20k

土師器	供膳具
瓦質土器	こね鉢
質恵質土器	こね鉢(東播系)

S-20m

土師器	坪a(イト)
-----	--------

S-20p

遺物群	甕、供膳具
土師器	供膳具

S-20q

土師器	供膳具、煮炊具
-----	---------

S-30

龍泉系青磁	碗; II-b(1)
-------	------------

S-30 褐色土

遺物群	甕
土師器	坪a1(イト・雲母・在胎)、小皿a1(イト)、小皿b、煮炊具
瓦類	小皿b、破片
龍泉系青磁	碗; I(3)、I-3(1)、II-b(10)、破片(3) 皿; I(1) 他器種: 坪皿-3b(1)、破片(4)
阿波系青磁	碗; I-a(1)、I-b(1)、II(1)
瓦類	平瓦(格子印、丸瓦、破片(縄目印))
石製品	碇石
土師質土器	鍋、鉢
質恵質土器	こね鉢(東播系)
瓦質土器	こね鉢×播鉢
因田陶器	甕
白磁	碗; IV(3)、V-1(1)、VII-2(1)、IX(1) 皿; IX(1)、破片(1) 帯巻; 壺(5)、合子(2)、破片(華南系)(4)
中田陶器	鉢; I(3)、II(2) 他器種: 盤II-1(2)、A群(2)、B群(8)、C群(6)

土製品	伊壁
その他	焼土塊

S-30 緑褐色土

遺物群	甕
土師器	坪a(イト)、碗c、小皿a1、小皿a1(イト)、甕、煮炊具
質恵土器	燒塩缶
黒色土器I	甕
瓦類	碗、碗c(イト)、皿(イト)、供膳具、破片
龍泉系青磁	碗; I(2)、I-2a(1)、I-4a(1)、II-b(5)、破片(6) 皿; I(2)
瓦類	平瓦(縄目印)、破片(格子印)
石製品	破片(碇石)
質恵質土器	甕(産地不明)、こね鉢(東播系)
瓦質土器	こね鉢
因田陶器	甕(輪形)
白磁	碗; V-1(1)、V-4×VII-3(1)、VII-3(1) 皿; III-2(1) 帯巻; 破片(華南系)(5)
中田陶器	鉢; VI-2(1) 他器種: 盤I(1)、A群(6)、B群(8)、C群(1)
金属製品	鉄釘、鉄滓、鉄製品(用途不明)

S-35 褐色土

遺物群	甕、供膳具
土師器	坪a、坪a(雲母)、碗c、小皿a(イト)、小皿a1、高坪、煮炊具
龍泉系青磁	碗; I(5)、II-a(1)、II-b(14)、小碗(1) 皿; I(3)、破片(3) 他器種: 破片(3)
阿波系青磁	碗; 破片(1) 皿; I-2b(1) 他器種: I-b(1)
瓦類	平瓦、平瓦(縄目印)、丸瓦(格子印)、破片(縄目印)

S-35 灰白色土

遺物群	甕
土師器	坪a(イト)、坪c、小皿a1、小皿a1(イト)、甕、煮炊具
瓦類	碗
龍泉系青磁	碗; I(6)、I-1(1)、I-2a(1)、II-a(1)、II-b(12)、II(1)、皿-2(1)、破片(2) 皿; I(3) 他器種: 盤(1)、破片(1)
瓦類	平瓦(格子印)
石製品	碇石
質恵質土器	こね鉢(東播系)
因田陶器	破片
白磁	碗; IV(2)、VII(1) 皿; II-1(1)、III(1)、IX(5) 帯巻; 破片(華南系)(2)、破片(東播系)(1)
中田陶器	甕; II(1) 鉢; (未分類)(1) 他器種: 天日碗(1)、盤II(1)、四耳壺VI(1)、甕(1)、A群(5)、B群(3)、C群(1)
金属製品	鉄釘

S-35 灰白色土

遺物群	甕
土師器	坪a(イト)、坪c、小皿a1、小皿a1(イト)、甕、煮炊具
瓦類	碗
龍泉系青磁	碗; I(6)、I-1(1)、I-2a(1)、II-a(1)、II-b(12)、II(1)、皿-2(1)、破片(2) 皿; I(3) 他器種: 盤(1)、破片(1)
瓦類	平瓦(格子印)
石製品	碇石
質恵質土器	こね鉢(東播系)
因田陶器	破片
白磁	碗; IV(2)、VII(1) 皿; II-1(1)、III(1)、IX(5) 帯巻; 破片(華南系)(2)、破片(東播系)(1)
中田陶器	甕; II(1) 鉢; (未分類)(1) 他器種: 天日碗(1)、盤II(1)、四耳壺VI(1)、甕(1)、A群(5)、B群(3)、C群(1)
金属製品	鉄釘

S-35 灰白色土

遺物群	甕
土師器	坪a(イト)、小皿a1(イト)、高坪×割台、供膳具(雲母)
黒色土器A	破片
瓦類	碗c

大宰府条坊跡第 248 次調査 (その 2) 出土遺物一覧表 (2)

龍泉系青磁	碗; I-1 (1), I-la (1), I-le (1), I-2 (1), I-4a (1), II-a (1), II-b (3), 破片 (6)
	蓋; I (5)
	他器種; 破片 (1)
同安系青磁	碗; I-b (1), II (1)
	蓋; I-2b (1)
瓦類	平瓦 (破片)
石製品	割片 (チャート)
土師器上層	鉢
須恵器上層	二枚鉢 (東播系)
瓦質土器	甕, 器種不明
国産陶器	甕
白磁	碗; IV (1), V (1), V-1a (1)
	蓋; VI (1), IX-la (2)
中国陶器	甕; 破片 (1)
	他器種; 四耳壺VI (1), A群 (2), B群 (2), C群 (2)
金属製品	鉄釘, 鉄滓
S-35 黄灰色土	
須恵器	蓋3, 甕
土師器	坪a (イト), 小皿a1 (イト)
瓦類	碗c
龍泉系青磁	碗; I (2), I-3 (1), I-4 (1), II-b (5)
	蓋; I (1)
	他器種; 破片 (2)
同安系青磁	碗; I-a (1), I-b (2)
	蓋; I-b (1)
	他器種; 破片 (1)
瓦類	破片 (格子明), 破片
石製品	破片 (磨石)
須恵器上層	二枚鉢 (東播系)
瓦質土器	二枚鉢
白磁	碗; IV (2), V (1), V-2 (1), 蓋; II (1), III-1 (1), VI (1), V-2b (1), IX (1)
	他器; 破片 (華南系) (5), 破片 (京東系) (1)
青白磁	蓋 (1), 合子蓋 (1)
中国陶器	甕; I (3), IV (1), 破片 (1)
	鉢; IV (1)
	甕; 破片 (1)
	他器種; 龍耳-2 (1), 水注 (1), 耳壺VI-1 (1), A群 (7), B群 (3), C群 (6)
金属製品	鉄釘
S-35 系灰色土	
須恵器	甕
土師器	坪a (イト), 小皿a1 (イト)
瓦類	碗c
龍泉系青磁	碗; I (1), I-le (2), I-4 (4), II-b (4)
	蓋; I (1)
	他器種; 破片 (2)
同安系青磁	碗; I-b (1)
瓦類	平瓦 (格子明・龍目明), 平瓦 (902 C), 瓦瓦 (格子明), 転用品
須恵器上層	二枚鉢
瓦質土器	二枚鉢
国産陶器	甕, 甕
白磁	碗; IV (2), V-4b (2), V-1b (1), V (1), (未分類) (1), 破片 (華南系) (1)
	蓋; II-la (1), II-lb (1), (未分類) (1)
	他器; 甕 (1)
中国陶器	甕; 甕 (1)
	鉢; IV (1)
	他器種; B群 (1)
金属製品	鉄釘
土製品	標状土製品
S-35 黄灰色土	
土師器	供養具 (雲母・在座)
瓦類	平瓦 (龍目明)
S-40	
土師器	坪a (雲母), 小皿, 小鉢 (手裡), 鉢
黄白色土器A	碗c
黄白色土器B	破片
龍泉系青磁	碗; II-b (3), 破片 (3)
	蓋; I (1)

同安系青磁	碗; I-b (1)
	平瓦 (格子明), 破片 (格子明)
国産陶器	甕 (常滑系)
白磁	碗; V-4a (1)
	蓋; II-la (1), III-2 (1), IX (2)
中国陶器	他器種; A群 (1), C群 (1)
須恵器 (輸入)	朝鮮系無輪陶器; 甕×甕 (1)
S-40 褐色土	
須恵器	甕
土師器	坪a (イト), 坪c, 小皿a1 (イト), 甕
瓦類	碗c
龍泉系青磁	碗; I-2 (1), II-b (6)
	他器種; 甕 (1), 破片 (1)
同安系青磁	碗; I-b (1)
	蓋; I-2b (1)
瓦類	平瓦 (格子明), 瓦瓦 (龍目明), 破片 (格子明)
石製品	石鑄石群 (磨石), 破
土師器上層	二枚鉢, 鉢
国産陶器	甕
白磁	碗; 破片 (華南系) (1)
	蓋; IX-1 (1), IX-2 (1)
	他器; 破片 (華南系) (3)
中国陶器	鉢; II (1)
	他器種; 龍耳-2 (1), 耳壺IV (1), 耳壺B群 (1), A群 (1), B群 (2), 破片 (3)
須恵器 (輸入)	朝鮮系無輪陶器 (4)
金属製品	鉄釘
S-40 茶色土	
須恵器	蓋c
土師器	坪a (イト), 小皿a1, 高台, 煮炊具
龍泉系青磁	碗; I (1)
	他器種; 破片 (2)
瓦類	破片 (格子明)
須恵器上層	二枚鉢 (東播系)
瓦質土器	二枚鉢×標鉢
国産陶器	破片
白磁	碗; IX (1)
	他器; 破片 (華南系) (1)
中国陶器	他器種; A群 (1), C群 (1)
須恵器 (輸入)	朝鮮系無輪陶器 (1)
金属製品	鉄釘
土製品	土練
S-40 灰色土	
須恵器	坪蓋 (古墳), 甕
土師器	坪a (イト), 小皿a1 (イト), 高台, 煮炊具
龍泉系青磁	碗; I-2 (1), I-4 (1), II-a (2), II-b (8), III-2 (1)
	蓋; I (1)
	他器種; 破片 (1)
同安系青磁	蓋; I-b (1)
瓦類	破片 (格子明)
瓦質土器	二枚鉢×標鉢
白磁	碗; IV (1), IX (1)
	蓋; IX (2)
中国陶器	鉢; I (1)
	他器種; B群 (6), C群 (4)
金属製品	鉄釘
S-45	
石製品	用途不明品
S-45 黄灰色土	
土師器	坪a (イト), 小皿a1 (イト), 高台
龍泉系青磁	碗; III-2 (1)
瓦類	破片
須恵器上層	二枚鉢 (東播系)
白磁	蓋; IX-1 (1)
S-45 赤色土	
土師器	坪a (イト), 小皿a1 (イト)
龍泉系青磁	碗; I (1), I-1 (1)
瓦類	平瓦 (格子明)
土師器上層	鉢
須恵器上層	二枚鉢
金属製品	鉄釘

大宰府条坊跡第248次調査(その2) 出土遺物一覧表(3)

その他	土壁	右製品	銅片(黒曜石)
S-45 緑褐色土		軟色質土器	こね鉢(東郷系)
土師器	坪a(イト)	S-70	
龍泉窯系青磁	碗: B-b(1)	土師器	坪a(イト・雲母), 小皿 al
土師質土器	鉢	白磁	碗: 破片(華南系)(1)
国産陶器	甕		香爐: 甕(1)
白磁	香爐: 破片(華南系)(1)	S-70 黒灰土上	
S-50 褐色土		土師器	坪a(イト), 小皿 al(イト)
軟色土器	蓋3, 甕	瓦器	破片
土師器	坪a, 坪a(イト), 小皿 al, 小皿 a(イト), 鉢	国産陶器	甕
龍泉窯系青磁	碗: B-b(3), 皿-2(1), IV(1)	白磁	碗: V-4×Ⅴ-3(1), 破片(華南系)(1)
	皿: I(1), 小皿(未分類)(1)		香爐: A群(1), C群(2)
	他器種: 盤(1), 破片(3)	土製品	土埴
瓦類	平瓦(格子明・調目印), 丸瓦, 破片(格子明)	S-75 灰土上	
右製品	石函C群, 磁石	土師器	坪a(イト), 坪a(雲母), 小皿 al(イト), 小皿 al(イト・雲母)
土師質土器	こね鉢×磁鉢, 鉢, 鉢	黒色土器A	碗c
軟色質土器	こね鉢	瓦器	碗
瓦質土器	こね鉢, こね鉢×磁鉢, 磁鉢	龍泉窯系青磁	碗: I-1(2), I-2b(2), B-b(2)
国産陶器	甕, 破片(鉄鉢)		皿: 破片(1)
白磁	碗: X(1)	阿安窯系青磁	碗: I-a(2), I-b(3), 破片(3)
	皿: 皿-1(1), IX(4)		皿: 破片(1)
	香爐: 甕(未分類)(1), 破片(華南系)(1)	瓦類	平瓦(格子明)
中国陶器	他器種: A群(3), B群(1), C群(5), 破片(1)	右製品	磁石
金属製品	鉄釘, 錠子	土師質土器	鉢
S-50 a 褐色土		軟色質土器	こね鉢(東郷系)
土師器	坪a(イト・雲母)	瓦質土器	こね鉢×磁鉢
瓦類	平瓦, 丸瓦	白磁	碗: V-1a(1), VI-1a(1)
S-50 b			碗: VI(1), IX(1), X-b(1)
土師器	坪a(イト)		香爐: 破片IX(1), 破片(華南系)(2)
軟色質土器	こね鉢(東郷系)	青白磁	耳(1)
S-50 c		中国陶器	鉢: I-1c(2)
土師器	小皿 al(イト)		他器種: 盤 B-1a(1), 小皿(1), B群(2), C群(1)
S-60 緑褐色土		土製品	瓦玉, 円盤状加工品
軟色土器	甕	S-80 緑灰土上	
土師器	小皿 al(イト)	土師器	坪a, 小皿 al(イト・雲母), 煮炊具
瓦器	坪a(イト), 碗	龍泉窯系青磁	他器種: 破片(1)
龍泉窯系青磁	碗: I(4), B-b(4)	阿安窯系青磁	皿: I-2b(1)
	他器種: 坪皿(1), 盤 I(1)	中国陶器	他器種: B群(2)
阿安窯系青磁	碗: I(1), I-b(1), 破片(1)	金属製品	鉄釘
瓦類	平瓦(格子明), 破片	S-80 茶土上	
土師質土器	鉢	土師器	坪a(イト)
軟色質土器	甕, こね鉢(東郷系)	S-90 灰褐色土	
瓦質土器	磁鉢	軟色土器	伊磨具
国産陶器	破片	土師器	坪a(イト), 小皿 al(イト), 煮炊具
白磁	碗: IV(1)	龍泉窯系青磁	碗: I-1(1), B-a(1)
	皿: IX(4)	阿安窯系青磁	碗: 皿-1b(1)
	香爐: 甕(1), 水注(2), 破片(華南系)(1), 破片(広東系)(1)	軟色質土器	こね鉢(東郷系)
中国陶器	皿: IV-2a(3)	穴焼陶器	甕
	他器種: 盤 I(1), 甕(2), A群(1), B群(3), C群(2)	国産陶器	甕
土製品	陶器, 瓦玉	中国陶器	他器種: 盤 B-1(1)
S-60 灰褐色土		軟色質土器(輸入)	磁鉢系無縁陶器(1)
軟色土器	甕	S-90 灰灰土上	
土師器	坪a(イト), 小皿 al(イト)	軟色土器	甕, 甕
瓦類	碗(輪帯型), 碗c, 碗	土師器	坪a(イト), 小皿 al(イト)
龍泉窯系青磁	碗: B-b(4), 破片(1)	龍泉窯系青磁	碗: B-b(8), 破片(2)
	他器種: 盤(1), 破片(2)	阿安窯系青磁	他器種: 坪皿-2a(1), 甕(1), 破片(4)
阿安窯系青磁	碗: I-b(2)		碗: I-b(1)
	平瓦(格子明), 丸瓦(格子明), 破片(調目印)	瓦類	平瓦(格子明・調目印), 丸瓦, 破片(調目印)
土師質土器	鉢	軟色質土器	こね鉢(東郷系)
軟色質土器	こね鉢	瓦質土器	こね鉢×磁鉢
瓦質土器	こね鉢×磁鉢	国産陶器	甕
国産陶器	破片	白磁	碗: IV(1), V-1a(1)
白磁	碗: B-1(1), V-1(2)		皿: IX(2), IX-2(1)
	皿: IX(1)	中国陶器	甕: 甕(1)
	香爐: 破片(華南系)(2)		他器種: 盤 B-1(2), A群(1), B群(2), C群(7), 破片(3)
中国陶器	鉢: I-1c(2)	金属製品	鉄釘
	他器種: A群(1), B群(2), C群(2), 破片(6)	その他	焼土塊
弥生土器	甕(中期)	S-90 緑褐色土	
金属製品	板状鉄製品	土師器	坪a(イト), 小皿 al(イト), 小皿 b(イト)
S-65 緑褐色土		龍泉窯系青磁	碗: I-2(1), I-3(1), B(1), B-a(1), B-b(1), 破片(1)
土師器	坪a(イト), 小皿 al(イト), 小皿 b, 甕		皿: I(1)
黒色土器B	碗c		

大宰府条坊跡第 248 次調査 (その 2) 出土遺物一覧表 (4)

瓦類	平瓦 (格子明)、丸瓦 (格子明)
石製品	剥片 (黒曜石)
土師器 土器	鉢
須恵器 土器	こね鉢 (東播磨系)
瓦質土器	平瓦 (格子明)
白磁	碗; Ⅱ - 3 (1) 皿; Ⅲ (3)、Ⅳ - 1b (1)、Ⅴ - 2 (1) 香奩; 破片 (華南系) (2)
中国陶器	壺; 破片 (1) 他器種; 鐵目 - 1b (1)、B 群 (1)、C 群 (13)、破片 (1)
S - 92 黄褐色土	
土師器	供膳具
瓦類	破片
白磁	碗; V - 4 × Ⅱ - 3 (1)
中国陶器	他器種; 破片 (1)
S - 92 灰色土	
須恵器	壺
土師器	坪 a (イト)、小皿 a1 (イト)
瓦類	丸瓦 (格子明)
S - 95 灰褐色土	
須恵器 土器	こね鉢 (東播磨系)
S - 100a 暗黄褐色土	
須恵器	破片
土師器	坪
瓦類	破片
S - 100a 暗灰色土	
須恵器	破片、供膳具
土師器	坪、供膳具
中国陶器	他器種; B 群 (1)
土製品	伊壁
S - 100a 灰色土	
土師器	坪、供膳具
S - 100b 暗黄褐色土	
土師器	供膳具
S - 100b 暗灰色土	
須恵器	壺
土師器	供膳具
龍泉系青磁	碗; I - 4 (1)
S - 100b 灰色土	
土師器	供膳具、煮炊具 (雲母)
瓦類	破片
S - 100c 暗黄褐色土	
土師器	小皿 a1 (イト)
S - 100c 暗灰色土	
土製品	伊壁
S - 100c 灰色土	
土師器	供膳具
龍泉系青磁	碗; I - 1 (1)
石製品	破片 (滑石)
その他	燧土塊
S - 100d 暗黄褐色土	
土師器	小皿 a (イト)、煮炊具 (雲母)
S - 100d 暗灰色土	
土師器	坪 a
S - 100d 灰色土	
土師器	坪、小皿 1、供膳具
龍泉系青磁	皿; I (1)
瓦類	破片 (格子明)
中国陶器	他器種; 耳垂Ⅵ - 1 (1)、B 群 (1)
S - 100e 暗黄褐色土	
土師器	小皿 a1 (イト)
同安系青磁	碗; 破片 (1)
土師器 土器	鉢
S - 100e 灰色土	
須恵器	鉢
土師器	坪 a、小皿 a1 (イト)、小皿 1、煮台
金属製品	鉄釘
S - 100f 暗黄褐色土	
土師器	坪、坪 a (イト)
S - 100f 灰色土	
土師器	坪

S - 105	
土師器	坪 a (イト)、坪 c、小皿 a1 (イト)
龍泉系青磁	碗; I (2)、Ⅱ - b (4)
他器種	坪皿 (1)
瓦類	平瓦 (格子明)、丸瓦
須恵器 土器	こね鉢
中国陶器	他器種; 天目碗 (1)、C 群 (1)、破片 (2)
S - 106 灰色土	
土師器	坪 a (イト)、小皿 a1 (イト)
龍泉系青磁	碗; I (1)、Ⅱ - a (1)、Ⅱ - b (3) 皿; I (1)
他器種	坪皿 - 3 (1)、坪皿 - 3b (1)
瓦類	平瓦 (格子明)、丸瓦 (格子明)
石製品	石鏃白群 (滑石)
須恵器 土器	こね鉢 (東播磨系)
白磁	碗; Ⅱ (1) 皿; Ⅲ (3)、Ⅳ - 1b (1) 香奩; Ⅱ (2)
中国陶器	壺; 壺 (1) 他器種; 小皿Ⅱ - 2 (1)、B 群 (4)
S - 110 暗灰色土	
須恵器	壺
土師器	坪 a (イト)、小皿 a (イト)
龍泉系青磁	碗; I - 1 (1)、Ⅱ - b (1)
他器種	蓋 (1)
瓦類	平瓦 (格子明)、丸瓦
須恵器 土器	こね鉢 (東播磨系)
白磁	碗; Ⅱb - 1b (1) 皿; Ⅲ (1)
中国陶器	他器種; 耳垂Ⅵ (1)
金属製品	鉄釘
S - 110 黄褐色土	
須恵器	壺
土師器	坪 a (イト)、小皿 a1 (イト)
龍泉系青磁	碗; Ⅱ - b (2)
他器種	坪皿 - 4 (1)
瓦類	軒丸瓦、破片 (格子明)
須恵器 土器	こね鉢
瓦質土器	鉢、羽釜
中国陶器	壺 (東播磨系)、破片
白磁	碗; Ⅳ (1)、Ⅴ - 1 (1)、Ⅴ - 1a (1)、Ⅴ (1) 皿; Ⅲ (2) 香奩; 壺 (1)、破片 (華南系) (5)
中国陶器	他器種; 耳垂Ⅵ (1)、A 群 (2)、B 群 (4)、C 群 (1)
金属製品	鉄釘
S - 110 茶灰色土	
土師器	天皿
瓦類	碗
龍泉系青磁	碗; I (1)、Ⅱ - b (7)、Ⅲ - 2 (2)
同安系青磁	皿; I - 2b (1)
瓦類	平瓦 (90%)、軒平瓦、破片 (格子明)
土師器 土器	鉢、火舎
須恵器 土器	壺 (産地不明)、こね鉢 (東播磨系)
瓦質土器	こね鉢 × 椀鉢、羽釜
中国陶器	壺
白磁	碗; Ⅴ - 4b (1)、破片 (華南系) (3) 皿; Ⅲ (3)、Ⅳ - 1c (1)、Ⅳ - 2 (1)、Ⅳ - 2b (1) 香奩; 破片 (華南系) (1)
中国陶器	壺; Ⅳ (2) 他器種; 天目 (1)、A 群 (2)、B 群 (3)、C 群 (2)
金属製品	鉄釘
S - 110 朝灰色土	
土師器	坪 a (イト)、小皿 a1 (イト)
龍泉系青磁	碗; Ⅱ - b (2)
瓦類	平瓦 (格子明)
木製品	炭化物
白磁	碗; Ⅴ (1)、破片 (華南系) (1) 皿; Ⅳ - 2a (1)
中国陶器	他器種; B 群 (1)、C 群 (1)
S - 110 灰色土	
須恵器	坪 c、壺
土師器	坪 a (イト)、坪 c、碗 c、小皿 a1、皿、壺、煮炊具

大宰府条坊跡第248次調査(その2) 出土遺物一覧表(5)

瓦類	焼c、破片
越前系青磁	焼：I(1)
龍泉系青磁	焼：I(3), I-2(1), I-3(1), I-4(3), I-6b(1), II-a(1), II-b(23), III(1), 小椀類(1)
	皿：I(1)
	他器種：坪皿-1(1), 破片(4)
阿安系青磁	焼：I-a(2), I-b(3), II(4)
	皿：I-2b(2)
瓦類	平瓦(格子形・縄目形)、平瓦(9030)、丸瓦、軒平瓦、軒丸瓦、破片(格子形)
石製品	石器(磨石)、破片(磨石)
木製品	炭化物
土師質土器	こね鉢、鍋、火舎
須恵質土器	こね鉢(東播磨)
瓦質土器	こね鉢×楕鉢、楕鉢
瀬戸	煎茶
国産陶器	甕
白磁	焼：II-1(1), IV(4), V(4), V-le(1), VII(1), VII-2(3), VIII-3(5), IX(2), 破片(華南系)(3)
	皿：II-1a(3), III(1), V(1), V-1(1), VI(1), VII(1), VII-2b(1), IX(9), IX-1(3), IX-2(2), X-2(1)
	帯他；巻(6)、破片(華南系)(1)
青白磁	皿(1)、合子蓋(1)
中国陶器	巻；巻(1)
	鉢；I-1(1), I-le(1)
	他器種；小盤II-2b(2), A群(8), B群(5), C群(5), 破片(8)
須恵質(輸入)	須野系無釉陶器(1)
金属製品	鉄釘、刀子(鉄)
土製品	円盤状加工品
S-114	
土師器	坪a(イト), 坪
白磁	皿；IX-1(1)
S-115	
土師器	坪a(イト・雲絵), 小皿a1(イト)
黒色土器白	焼
瓦類	破片
中国陶器	他器種；A群(1), C群(1)
S-115 暗灰色土	
須恵器	甕
土師器	小皿a1(イト)
龍泉系青磁	焼；I(1), I-4(1), II-b(2)
瓦類	破片(格子形)
石製品	石鏝白磁
白磁	皿；IX-2(1)
青白磁	合子蓋(1)
中国陶器	鉢；I-le(1)
	他器種；C群(1)
S-118	
土師器	坪a(イト・雲絵)
龍泉系青磁	皿；I(1)
S-120	
土師器	坪a、小皿a1、煮炊具
龍泉系青磁	焼；I(1), I-2(1)
瓦類	平瓦(縄目形)
白磁	焼；IV-1a(1)
	帯他；破片(華南系)(1)
S-121	
土師器	小皿a1(イト)、煮炊具
瓦類	焼c
龍泉系青磁	焼；I-1(1)
瓦類	平瓦(格子形)
中国陶器	他器種；破片(2)
土製品	土鏝、瓦土
S-122	
土師器	坪a(イト)、煮炊具
国産陶器	甕
白磁	帯他；破片(華南系)(1)
土製品	瓦土
S-124	
土師器	坪a(イト), 小皿a1(イト)

石製品	焼
白磁	焼；V-4b(1)
S-125	
土師器	坪a(イト), 坪c、丸底坪、小皿a1(イト)、皿c、煮炊具
瓦類	焼c
龍泉系青磁	焼；I(3), I-1(1), II-b(5)
	皿；I(1)
	他器種；破片(2)
阿安系青磁	焼；I(1), I-b(3)
瓦類	破片(格子形)
石製品	基石
木製品	炭化物
須恵質土器	こね鉢(東播磨)
国産陶器	甕
白磁	焼；IV(1), V-2b(1), VII-2(1), VIII-3(1), 破片(華南系)(1)
	皿；II-1a(1), VI-2a(1), VII(1), IX(5), IX-le(1) 帯他；巻(1), 破片(華南系)(2)
中国陶器	巻；巻(1), B群(1)
	他器種；耳垂(白群)(1), A群(3), B群(1), 破片(2)
須恵質(輸入)	須野系無釉陶器(1)
金属製品	鉄釘
S-126	
土師器	坪(イト)、煮炊具
国産陶器	破片
S-130	
須恵器	甕
土師器	坪a(イト)、小皿a1(イト)
龍泉系青磁	焼；II-b(2), 破片(1)
瓦類	破片
石製品	石鏝白磁
須恵質土器	こね鉢(東播磨)
中国陶器	他器種；破片(1)
S-131	
須恵器	甕
土師器	坪a(イト)、小皿a1(イト)
龍泉系青磁	焼；II-b(1)
瓦類	平瓦(格子形)、丸瓦(格子形)
須恵質土器	巻、こね鉢(東播磨)
白磁	焼(丸底a、底地不明；V-1(1), 皿；皿(1) 帯他；巻(1), 破片(華南系)(1)
中国陶器	巻；IV(1)
	鉢；I-le(1), II(1)
	他器種；耳垂VI-2(1), B群(1), C群(1)
縄文土器	深鉢(管線式)
S-132	
土師器	坪a(イト)、煮炊具
龍泉系青磁	他器種；巻(鉄軸)(1)
阿安系青磁	焼；I-b(1)
白磁	焼；V-4b(1)
	帯他；破片(華南系)(1)
中国陶器	他器種；A群(2)
S-133	
土師器	小皿a(イト)
龍泉系青磁	焼；II-a(1), II-b(1)
	他器種；巻(1)
阿安系青磁	焼；I-b(1)
土師質土器	鍋
白磁	皿；皿(1)
中国陶器	他器種；A群(1)
S-135 暗灰色土	
須恵器	甕、巻
土師器	坪a(イト)、小皿a1、小皿a1(イト)
瓦類	焼c
龍泉系青磁	焼；I(3), I-1(1), II-b(1), III-2(1)
瓦類	平瓦(格子形・縄目形)
土師質土器	こね鉢、鍋、火舎
須恵質土器	こね鉢
瓦質土器	こね鉢

大宰府条坊跡第248次調査(その2) 出土遺物一覧表(6)

瀬戸	御墨
民部陶器	大甕
白磁	碗; IV (1)
	皿; Ⅱ (1), IX (1)
	その他: 破片(華南系) (2)
中国陶器	甕; 破片 (1)
	鉢; I (1)
	甕; I (2), 甕(緑釉) (1)
	その他: A群 (1), B群 (3), C群 (5), 破片 (1)
金属製品	鉄釘
S-135 灰色土	
銅器	坏c, 甕
土師器	坏a (イト), 丸底坏, 丸底坏a, 小皿al, 小皿b (イト)
瓦器	碗c
龍泉系青磁	碗; I (4), I-c (1), II-a (2), II-b (12)
	他器種: 坏皿 (1), 坏皿-ib (1), 盤 (1)
同安系青磁	碗; I-b (1), IV (1)
瓦器	平瓦 (佛子明・禮日明), 平瓦 (90A), 丸瓦
石製品	石鏡石群, 石鏡(滑石)
土師質土器	甕
須恵質土器	甕(東播系), こね鉢(東播系)
国産陶器	大甕(常滑)
白磁	碗; IV (2), IV-1a (2), IV-1b (1), V (1), V-4b (1), Ⅱ-2 (2), Ⅱ-3 (2)
	皿; VI (1), IX (1), IX-1 (2), IX-1b (1), IX-2 (1), (未分類) (1)
	その他: 甕 (1), 破片(華南系) (6)
中国陶器	鉢; I (1), II (1)
	甕; 破片 (1)
	他器種: 天目 (1), 盤II-2 (1), 耳甕 (2), 耳甕XI (1), A群 (2), B群 (6), C群 (8), 破片 (2)
金属製品	鉄釘, 板状銅製品
S-136	
土師器	坏a (イト), 小皿al (イト)
龍泉系青磁	碗; II-a (1), II-b (2)
同安系青磁	碗; 破片 (1)
瓦器	破片
須恵質土器	こね鉢(東播系)
国産陶器	破片
白磁	碗; IV (1), Ⅱ (1)
中国陶器	他器種; B群 (1)
S-136 灰色土	
土師器	坏a (イト), 小皿al (イト)
同安系青磁	碗; I-b (1)
石製品	石鏡C群(滑石)
須恵質土器	こね鉢
国産陶器	甕
白磁	碗; IV (2)
	皿; I×I (1), VI (1), IX (1)
	他器種; Ⅱ (1), 甕破片 (1)
青白磁	皿 (1)
S-136 緑灰色土	
土師器	坏a (イト), 小皿al (イト)
龍泉系青磁	碗; II-b (1), 破片 (1)
	皿; I (1)
	他器種; 坏皿-1a (1)
須恵質土器	こね鉢(東播系)
瓦質土器	こね鉢×筒鉢
白磁	碗; Ⅱ-2 (1)
中国陶器	甕; 破片 (1)
	鉢; I-1 (1)
	他器種; B群 (1)
S-140 黄褐色土	
銅器	甕, 破片
土師器	坏a (イト), 小皿al (イト), 小皿al (へ?), 小皿c
瓦器	碗c, 小皿a
龍泉系青磁	碗; I (4), I-2 (2), I-4 (1), II-a (1), II-b (5), Ⅱ-2 (1)
	皿; I (1), 破片 (1)
同安系青磁	碗; I-b (1), 破片 (8)
	皿; I-b (1)
瓦器	平瓦 (佛子明), 丸瓦, 破片 (佛子明)

石製品	硝石, 基石, 破片(滑石)
土師質土器	鉢
須恵質土器	甕, こね鉢, こね鉢(東播系)
国産陶器	甕
白磁	碗; II-1 (1), IV (1), V-4 (1), V-4×Ⅱ-3 (1), 破片(華南系) (3)
	皿; II-2 (1), VI (1), IX-1 (1), 破片(華南系) (1)
	その他: 甕 (1), 破片(華南系) (4)
青白磁	碗 (1), 皿 (1)
中国陶器	甕; 破片 (1)
	他器種: 盤I-1 (1), 耳甕 (1), 水注V-2b (1), 把手 (1), A群 (5), B群 (8), 破片 (6)
鉄貨	〇〇〇書
金属製品	鉄釘, 銅書
S-140 黑色土	
須恵質土器	皿3, 甕, 筒鉢具
土師器	坏a (イト), 坏c, 大坏c, 小皿al, 小皿al (イト)
黒色土師A	破片
瓦器	碗c, 大碗c, 小皿
龍泉系青磁	碗; I (1), I-1 (1), I-2 (1), I-4 (1), II-b (1), 破片 (2)
	皿; I-1 (2)
	他器種: 破片 (1)
同安系青磁	碗; I-a (1), I-b (6), II (1), Ⅱ-2 (2)
	皿; I-b (1), I-2b (1)
瓦器	平瓦 (佛子明・禮日明), 丸瓦(滑石), 文字瓦(不明)
石製品	石鏡A群(滑石), 石鏡B群(滑石), 石礎, 基石, 用途不明(滑石)
土師質土器	こね鉢, 鉢
須恵質土器	こね鉢(東播系)
瓦質土器	破片
国産陶器	甕
白磁	碗; II-1 (1), IV (1), IV-1a (2), V (2), V-1 (2), V-2 (1), V-3 (1), V-4 (1), V-4b (3), VI (6), VI-1a (1), VI-1b (2), Ⅱ (5), Ⅱ-2 (1), Ⅱ-3 (2), Ⅱ-3×V-4 (1), IX (1), X-2b (1), 破片(華南系) (3)
	皿; B (1), Ⅱ-1 (1), V (1), VI (2), IX (1), IX-2 (1), (未分類) (1), 破片(華南系) (1)
	その他: 甕 (1), 水注 (1), 破片(華南系) (8), 破片(広東系) (1)
中国陶器	他器種: 耳甕VI (1), 水注 (1), A群 (16), B群 (14), C群 (4), 破片 (2)
	須恵質(輸入)
鉄貨	銅元通貨, 銅半元貨, 元封通貨, 政和通貨, 熙寧元貨, 嘉泰通貨, 至和通貨
金属製品	鉄釘, 銅鏡と鉄製品
S-140a	
土師器	坏a (イト)
鉄貨	太平通貨
S-140g	
土師器	小皿al, 煮炊具
S-140h	
土師器	坏(雲母・在地)
瓦器	破片
瓦器	破片
S-140i	
土師器	坏, 碗c, 煮炊具
龍泉系青磁	碗; II-b (1)
白磁	碗; Ⅱ (1)
中国陶器	他器種; B群 (1)
S-140e	
土師器	筒鉢具
S-140f	
土師器	坏a (イト)
S-140e	
土師器	小皿al (イト)
S-140l	
土師器	坏, 小皿al
土師器	小皿al (イト), 破片
石製品	石鏡(滑石)
S-140s	
土師器	坏, 坏a (イト), 丸底坏a, 碗c, 小皿al (イト)
黒色土師A	破片
瓦器	破片

大宰府条坊跡第248次調査(その2) 出土遺物一覧表(7)

S-141	
土師器	坏a(イト)、小皿a1(イト)
龍泉窯系青磁	碗; B-b(1)
瓦類	平瓦
白磁	皿; IX-1a(1)
S-144	
土師器	小皿a1(イト)
瓦類	平瓦(隅目明)
国産陶器	磁片
白磁	碗; 磁片(華南系)(1)
S-144 褐色土	
須恵器	坏c
土師器	坏a(イト)、小皿a1(イト)
龍泉窯系青磁	碗; B(2)、B-b(1)
土師質土器	鍋
白磁	皿; IV(1)
中国陶器	他器種; C群(1)
S-145	
須恵器	甕
土師器	坏a(イト)、小皿a1(イト)、供膳具
瓦類	磁片
石製品	基石
須恵質土器	こね鉢(東播磨)
中国陶器	他器種; A群(1)
その他	焼土塊
S-146	
土師器	小皿a1、磁片
龍泉窯系青磁	碗; B-b(1)
瓦質土器	磁片
白磁	碗; V(1)
	皿; IX(1)
中国陶器	鉢; I(1)
金銅製品	鉄釘?
S-147	
土師器	坏a(イト)、坏a(雲目)、小皿a1(イト)
S-149	
土師器	坏a(イト)
その他	焼土塊
S-150	
土師器	小皿a1
中国陶器	鉢; I-bc(1)
S-151	
土師器	坏a(イト)、小皿a1(イト)、小皿a1(雲目・在地)、煮炊具
龍泉窯系青磁	碗; I-2(1)、B-a(1)
阿安系青磁	碗; I-b(2)
瓦類	平瓦(隅目明)
石製品	磁片(燗石)
土師質土器	碗c、鉢
白磁	香壺; 甕(1)、破片(華南系)(1)
中国陶器	他器種; 瓦當(C群)(1)
須恵質(輸入)	朝鮮系無釉陶器(1)
金銅製品	銅淨
その他	焼土塊
S-152	
土師器	坏a(イト)
褐色土器A	磁片
瓦類	磁片
龍泉窯系青磁	碗; B-b(1)
石製品	基石
須恵質土器	こね鉢、鉢(産地不明)
白磁	皿; V(1)
	香壺; 磁片(華南系)(1)
S-153	
土師器	坏a(イト)、小皿a1(イト)
瓦類	小皿a1(イト)、磁片
龍泉窯系青磁	碗; B-b(1)
瓦類	磁片(隅目明)
須恵質土器	こね鉢
青白磁	合子蓋(1)
中国陶器	甕; IV-1(1)
	他器種; A群(2)

S-154	
土師器	坏a(イト)、小皿a1(イト)
瓦質土器	磁片
国産陶器	磁片
中国陶器	他器種; A群(1)
S-156	
土師器	坏a(イト)、小皿a1(イト)
褐色土器B	碗
龍泉窯系青磁	碗; I(1)
瓦類	磁片
瓦質土器	こね鉢×燗鉢
白磁	香壺; 磁片(華南系)(2)
S-157	
土師器	坏
中国陶器	他器種; B群(1)
S-158	
土師器	坏a、小皿a1(イト)、小皿b
その他	焼土塊
S-159	
土師器	坏、小皿a1、煮炊具
瓦類	磁片
龍泉窯系青磁	碗; B-b(1)
瓦類	磁片
S-160 黒灰色土	
土師器	坏a(イト)、小皿a1(イト)、煮炊具
土師質土器	鍋
中国陶器	他器種; 磁片A群(1)
金銅製品	鉄釘
S-160 灰褐色土	
須恵器	甕
土師器	坏、丸底坏a、小皿a1(イト)
瓦類	碗
龍泉窯系青磁	碗; B(1)、B-b(1)、磁片(1)
瓦類	平瓦(隅目明)、丸瓦
石製品	石鏝群
須恵質土器	こね鉢、甕(産地不明)
国産陶器	甕
白磁	碗; IV(2)、V(2)(1)
	皿; IX(1)、(未分類)(1)
	香壺; 磁片(華南系)(2)
中国陶器	他器種; B群(1)、C群(1)
	朝鮮系無釉陶器(1)
S-161	
中国陶器	他器種; A群(1)
S-162	
土師器	坏a(イト)、小皿a(イト)
龍泉窯系青磁	碗; I(1)、B-b(1)
須恵質土器	こね鉢×燗鉢
須恵質土器	こね鉢
S-163	
土師器	坏a(イト)、小皿a1
褐色土器A	碗c
龍泉窯系青磁	他器種; 甕(1)
阿安系青磁	碗; I(1)
瓦類	磁片
石製品	石帯(白土)
白磁	皿; IX(2)
	香壺; 磁片(華南系)(1)
中国陶器	他器種; B群(1)
S-164	
須恵器	甕
土師器	坏a(イト)
須恵質土器	こね鉢
S-164 暗褐色土	
須恵器	坏c、甕
土師器	坏a(イト)、小皿a1(イト)
瓦類	碗
龍泉窯系青磁	碗; I(2)、I-4(1)、B-b(2)、(未分類)(1)
阿安系青磁	碗; I-b(1)
	皿; I-2b(1)
	他器種; 甕(1)

大宰府条坊跡第 248 次調査 (その 2) 出土遺物一覧表 (8)

瓦類	平瓦 (格子形)
白磁	甕; IV (2) 甕; VI (2) 香瓶; 甕 (2)
青白磁	甕 (1)
中国陶器	他器種; A群 (1), C群 (1), 破片 (3)
銭貨	泉貨通寶
その他	埴土塊
S-165	
土師器	供養具
龍泉窯系青磁	甕; I (1)
同安窯系青磁	甕; I-b (1)
石製品	用途不明 (滑石)
土師質土器	罎
須恵質土器	こね鉢
S-165 灰褐色土	
土師器	坪 a (イト), 小皿 aI (イト)
龍泉窯系青磁	他器種; 破片 (1)
同安窯系青磁	甕; I-b (1)
瓦類	甕; I-1b (1)
白磁	甕; III (1), 甕 (1)
中国陶器	他器種; C群 (1)
S-165 灰褐色土	
須恵器	甕
土師器	坪, 小皿 a, 小皿 aI, 煮炊具
瓦類	小皿 aI
龍泉窯系青磁	甕; I-2 (1), I-4a (1)
同安窯系青磁	甕; I (2) 他器種; 破片 (2)
同安窯系青磁	甕; I (3), I-b (2)
須恵質土器	甕; B (1), I-1b (1), 破片 (1)
瓦類	破片
石製品	石鍋 (滑石), 砥石
須恵質土器	甕 (東播磨), こね鉢 (東播磨)
中国陶器	甕
白磁	甕; II-1 (1), IV (1), V-4×III-3 (4), V-4b (3), VII (1), 破片 (華南系) (4), 破片 (1) 甕; II-1a (1), VI (1), VII (1), VIII-1a (1), 破片 (2) 甕他; 甕 (1), 水注 (1), 破片 (華南系) (7)
中国陶器	甕; I (1) 他器種; 甕 (天目) (1), A群 (2), B群 (4), C群 (4), 破片 (3)
須恵質 (輸入)	朝鮮系無釉陶器 (1)
金属製品	鉄釘, 管状銅製品
S-165 黒色土	
須恵器	坪 c, 甕 3, 甕
土師器	坪 a (イト), 丸底坪 a, 小皿 aI
瓦類	甕, 破片
龍泉窯系青磁	甕; I (9), I-2 (8), I-2b (1), I-3 (2), I-3a (1), I-4 (2), II (1), II-b (2), (未分類) (1), 破片 (10)
同安窯系青磁	甕; I (9), I-2b (1), I-2c (1), 破片 (3) 他器種; 坏皿-4 (1), 合子身 (1), 破片 (4)
同安窯系青磁	甕; I (3), I-b (3), III-1a (1), III-1b (1), III-1c (1), III-2 (1), 破片 (16)
青磁 (未分類)	甕; I-b (4), I-1b (1), I-2b (4), 破片 (2)
瓦類	平瓦 (格子形・調日形), 丸瓦 (格子形), 丸瓦 (破片), 破片
石製品	石鍋目録, 硯
土師質土器	罎
須恵質土器	甕, こね鉢
瀬戸	天目鉢 (1)
肥前系陶磁器	染付 (輸入)
中国陶器	甕
白磁	甕; II (1), IV (1), IV-2 (1), IV-2a (1), V (1), V-1 (1), V-4 (3), V-4×VII-3 (2), V-4a (1), VI (1), VII-1a (2), VII-1c (1), VII (8), VIII-2 (3), VIII-3 (5), 破片 (華南系) (2)
青白磁	甕; II-1a (1), III-2 (1), VI (3), VII (1), 破片 (華南系) (1) 香瓶; 甕 (5), 破片 (華南系) (25) 甕 (5), 合子蓋 (1), 水注 (1)

中国陶器	甕; I (1), IV (1) 鉢; I-1 (2), III (1) 他器種; 甕 (須磨) (1), III-2 (1), A群 (1), B群 (1), C群 (9), 破片 (16)
須恵質 (輸入)	朝鮮系無釉陶器 (1)
銭貨	元〇造幣 (許一銭)
金属製品	鉄釘, 銅釘, 用途不明品, 板状鉄製品
その他	板骨 (甕)
S-166	
土師器	坪 a (イト)
中国陶器	他器種; A群 (1)
S-167	
土師器	坪 a
石製品	破片 (滑石)
S-168	
須恵器	甕
土師器	坪 a (イト), 小皿 aI (イト)
龍泉窯系青磁	甕; II-a (1)
S-169	
土師器	坪 a (イト), 小皿 aI (イト), 供養具
中国陶器	他器種; 破片 (1)
S-170 灰褐色土	
須恵器	甕
土師器	坪 a (イト)
瓦類	甕
龍泉窯系青磁	甕; II-a (2), II-b (3), 破片 (3)
同安窯系青磁	甕; I-b (2)
瓦類	平瓦 (格子形), 丸瓦 (格子形), 軒平瓦, 破片
石製品	石鍋 (滑石), 破片 (滑石)
土師質土器	罎, 鉢
須恵質土器	甕, こね鉢, こね鉢 (東播磨)
瓦質土器	甕, 鉢, こね鉢×楕鉢, 六倉
中国陶器	甕, 甕 (常滑系)
中国磁器	破片
白磁	甕; IV (1), VII (1)
中国陶器	他器種; A群 (1), B群 (4), C群 (5)
須恵質 (輸入)	朝鮮系無釉陶器 (1)
その他	埴土塊
S-170 灰褐色土	
須恵器	甕
土師器	坪 a (イト), 小皿 a (イト)
瓦類	甕
龍泉窯系青磁	甕; I (1), I-4 (1), I-4b (1), II-b (3)
同安窯系青磁	甕; 破片 (1)
瓦類	甕; 破片 (1)
土師質土器	他器種; 破片 (1)
石製品	平瓦 (格子形), 丸瓦
土師質土器	こね鉢
須恵質土器	こね鉢
瓦質土器	楕鉢
中国陶器	甕, こね鉢 (常滑系)
白磁	甕; IV (1), VII-1b (1), VIII-2 (1), IX (1), 破片 (華南系) (3)
同安窯系青磁	甕; VI (1), 破片 (華南系) (1)
中国陶器	甕他; 破片 (華南系) (2)
中国陶器	鉢; II (1)
須恵質 (輸入)	朝鮮系無釉陶器 (1)
S-171	
土師器	坪 a (イト), 煮炊具
龍泉窯系青磁	甕; 破片 (1)
中国陶器	甕
白磁	甕; IX-1 (1)
S-172	
土師器	坪 a (イト), 小皿 aI (イト)
瓦類	甕
龍泉窯系青磁	甕; I-4 (1), II-b (1)
瓦類	破片
白磁	甕; 破片 (華南系) (1)

大宰府条坊跡第248次調査(その2) 出土遺物一覧表(9)

S-174	
土師器	坏a(イト)
瓦器	陶、陶c
陶器系青磁	陶; 破片(1)
須恵質土器	こね鉢
白磁	皿; IX(1), 破片(華南系)(1)
S-175 灰白色土	
須恵器	甕
土師器	坏a(イト), 坏a(雲母), 小皿a1, 小皿a1(イト)
瓦器	陶、供養具(輪帯型)、陶c
龍泉系青磁	陶; I-2(1), 破片(1)
陶器種	破片(3)
同安系青磁	陶; I-b(3), IV(2)
瓦器	皿; 破片(1)
瓦類	平瓦(格子明・羅目明)
石製品	石鏃A群, 石斧(玄武石)
土師質土器	鍋
須恵質土器	こね鉢(東播磨)
陶器種	甕
白磁	陶; II-1(1), IV(1), IV-1a(2), V-1(1), V-2b(1), V-4×Ⅲ-3(1), Ⅳ(2), Ⅳ-2(1); Ⅴ; VI(3), Ⅶ-a(1)
青白磁	甕(1)
中国陶器	他器種; 盤II-2(1), B群(6), C群(1), 破片(1)
金属製品	鉄釘
S-176 灰色土	
須恵器	甕
土師器	坏a(イト), 小皿a1(イト), 煮炊具
瓦器	陶、陶c, 小皿a1
龍泉系青磁	陶; I-2(1)
瓦類	平瓦(格子明), 丸瓦(格子明)
石製品	石鏃(滑石)
土師質土器	鍋
須恵質土器	こね鉢(東播磨), こね鉢(産地不明)
白磁	陶; II(1), IV(3), V-4c(1); Ⅴ; III-1(1), III-2(1), VI(2)
中国陶器	他器種; Ⅴ(1), 破片(華南系)(1)
S-177	
土師器	坏a(イト), 小皿1
同安系青磁	他器種; 破片(1)
S-177	
土師器	坏a(イト)
須恵質土器	こね鉢
S-178	
土師器	坏, 煮炊具
瓦器	陶, 小皿a1
S-179	
土師器	坏, 坏a, 坏a(イト)
瓦器	破片
龍泉系青磁	他器種; 坏II(1), 破片Ⅳ(1)
石製品	石鏃(滑石), 墓石
金属製品	鉄釘
その他	機土塊
S-180 緑灰色土	
須恵器	坏c
土師器	坏a(イト), 小皿a1(イト), 高台, 甕
黑色土器A	陶c
瓦器	陶、陶c
龍泉系青磁	陶; I-4(1), I-b(1), 破片(1); Ⅴ; 破片(1)
同安系青磁	陶; I-b(5), II(1), III-1a(1)
青磁(未分類)	合子蓋(1)
瓦類	平瓦(格子明・羅目明), 丸瓦(格子明)
石製品	石鏃, 墓石
木製品	炭化物
土師質土器	鍋
須恵質土器	こね鉢
瓦質土器	破片
中国陶器	甕

白磁	陶; IV(2), V-4×Ⅲ-3(3), V-4a(2), V-4c(1), Ⅴ-1a(1), Ⅴ-2(1); Ⅴ; III-1(2), IV(1), IV-2a(1)
青白磁	破片(1)
中国陶器	甕; IV(1); 他器種; 盤II-2b(1), A群(3), B群(14), C群(1), 破片(2)
須恵質(輸入)	須野系無輪陶器(1)
S-180 灰色土	
土師器	坏a(イト), 丸底坏, 小皿a1, 小皿a1(イト)
瓦器	陶、陶c
同安系青磁	陶; I-a(1), I-b(3)
瓦類	Ⅴ; I(1), 破片(1)
瓦類	丸瓦, 破片(格子明)
石製品	石鏃(滑石)
土師質土器	煮炊具
須恵質土器	こね鉢, こね鉢(東播磨)
白磁	陶; IV(4), IV-1a(1), V(1), V-4×Ⅲ-3(2), 破片(華南系)(1); Ⅴ; VI(1), Ⅶ-a(1)
中国陶器	他器種; A群(1), B群(4), C群(1)
土製品	土鏃
S-181	
土師器	坏a(イト), 小皿a1(イト)
須恵質土器	陶
中国陶器	甕
S-182	
土師器	坏a(イト)
瓦器	陶c
龍泉系青磁	陶; II-b(2)
同安系青磁	Ⅴ; I-b(1)
陶器種	破片(1)
石製品	石鏃, 用途不明品(滑石)
土師質土器	鍋
白磁	陶; IV(1), V(1), V-2(1), IX(1); Ⅴ; VI(1), IX(1)
中国陶器	他器種; 破片(華南系)(1)
S-183	
土師器	供養具
S-184	
土師器	坏, 小皿a1(イト)
瓦器	破片
瓦類	破片
中国陶器	小皿か
S-185 茶色土	
須恵器	甕
土師器	坏a(イト), 丸底坏, 陶, 小皿a1(イト)
瓦器	陶
龍泉系青磁	陶; I(1), I-4(2), II-b(2a), 破片(1)
陶器種	破片(1)
瓦類	平瓦(格子明), 丸瓦, 丸瓦(格子明), 破片
石製品	石鏃(滑石), 墓石
木製品	炭化物
土師質土器	鍋
須恵質土器	こね鉢, こね鉢(東播磨)
瓦質土器	こね鉢
鉢陶器種	陶×Ⅴ
中国陶器	甕
白磁	陶; V(1), V-4×Ⅲ-3(1), IX-1(1), 破片(華南系)(2); Ⅴ; II-1a(1), VI(1), IX-1(1), IX-2(1), IX-b(1)
中国陶器	他器種; A群(3), B群(1), C群(3)
須恵質(輸入)	須野系無輪陶器(1)
金属製品	鉄釘
S-185 灰色土	
須恵器	坏身, 甕
土師器	坏a(イト), 丸底坏(へつ), 小皿a1(イト), 甕b
瓦器	陶、陶c, 小皿, 甕

大宰府条坊跡第 248 次調査 (その 2) 出土遺物一覧表 (10)

越前系青磁	碗; I-b (1)
龍泉系青磁	碗; I (2), I-1 (1), I-la (1), I-2 (1), I-3 (2), I-4 (1), I-4b (1), II (1), II-a (1), II-b (10), III (1)
同安系青磁	他器種; 坏皿-2b (1), 盤 (1)
瓦類	瓦; I-b (1)
石製品	丸瓦 (格子印), 軒丸瓦 (20), 破片 (格子印・鏡目印)
土師質土器	土師白群 (滑石)
須恵質土器	壺, こね鉢 (東橋系)
瓦質土器	壺, こね鉢×隠鉢
白磁	壺, 壺 (常滑系), こね鉢 (常滑系)
白磁	碗; IV (1), IV-la (1), V (1), V-4×壺-3 (1), V-4b (1), 壺-2 (1), 壺-3 (1), 破片 (華南系) (3)
青白磁	皿; VI (2), VI-2 (1), IX (3), IX-b (2), IX-2b (1)
中国陶器	他器種; 皿 (1), 瓦蓋 (1), A群 (4), B群 (3), C群 (8)
須恵質 (輸入)	須恵系無釉陶器; 壺×壺 (2)
土製品	土埴
S-185 緑灰色土	
土師器	坏 a (イト), 坏 b (内外面イト), 丸底坏, 小皿 a (イト)
瓦類	碗 c
龍泉系青磁	碗; I (2), I-1 (1), I-2 (1), II-b (10), II c (2), III-2c (2)
他器種	壺 (1), 盤 (2)
瓦類	平瓦 (鏡目印), 丸瓦 (格子印)
石製品	石輪白群, 硝石
土師質土器	煮炊具
須恵質土器	こね鉢 (東橋系)
瓦質土器	こね鉢×隠鉢
白磁	壺
白磁	碗; II-2 (1), IV (3), V (1), V-3 (1)
白磁	皿; V (1), W (1), IX (1), IX-1 (1), IX-c (1), (未分類) (1)
青白磁	壺他; 破片 (華南系) (2)
中国陶器	合子 (1)
須恵質 (輸入)	他器種; 壺 (1), 磁輪蓋 (1), A群 (5), B群 (3)
鏡目	須恵系無釉陶器 (1)
鏡目	不明
S-186	
土師器	小皿 a (イト)
瓦類	碗, 碗 (精進型), 小皿
龍泉系青磁	碗; I-3 (1), I-4 (1), II-b (2)
須恵質土器	こね鉢 (東橋系)
白磁	破片
白磁	碗; III (1)
中国陶器	壺他; 壺 (1)
金属製品	鉄釘, 鉄滓
S-187	
土師器	坏 a (イト), 小皿 a (イト)
龍泉系青磁	他器種; 壺 (1)
瓦類	破片
土師質土器	煮炊具
白磁	碗; 破片 (華南系) (1)
白磁	皿; 破片 (華南系) (1)
中国陶器	他器種; C群 (1)
S-188a	
土師器	小皿 a (イト)
S-188a・b	
土師器	小皿 a (イト)
同安系青磁	碗; I-b (1)
中国陶器	他器種; A群 (1)
S-188c	
須恵器	鉢
土師器	坏, 小皿 a (イト)
S-188d	
土師器	供膳具
S-189	
土師器	坏, 坏 a (イト)
瓦類	碗 (イト)
龍泉系青磁	碗; I-4 (1)

同安系青磁	碗; (未分類) (1)
土師質土器	煮炊具
白磁	壺
S-190	
土師器	坏 a
龍泉系青磁	碗; II-b (1)
白磁	壺他; 破片 (華南系) (1)
金属製品	鉄釘
S-190 緑灰色土	
須恵器	壺 (古瀬)
土師器	坏 a (イト), 小皿 a (イト)
瓦類	碗 c (イト)
龍泉系青磁	碗; I-1 (1), 皿; I (2)
他器種	破片 (1)
同安系青磁	皿; I-2b (1)
高麗青磁	碗; 初瀬皿 (1)
瓦類	平瓦 (格子印)
石製品	石輪白群
土師質土器	煮炊具
須恵質土器	壺, こね鉢, こね鉢 (東橋系)
瓦質土器	壺
白磁	碗; V (1)
白磁	皿; III-1 (1), IX-1 (1)
中国陶器	壺他; 破片 (華南系) (1)
中国陶器	鉢; 破片 (1)
他器種	A群 (2)
S-191	
土師器	供膳具
S-192	
土師器	供膳具
須恵質土器	壺
S-193	
土師器	坏 a (イト), 小皿 a (イト), 高台
龍泉系青磁	碗; I-1 (2), II-b (9), III (2), 破片 (2)
他器種	坏皿-1 (1), 坏皿-2 (3), 坏皿-3 (1), 坏皿-4 (2), 坏皿-4×5 (1), 盤 (1), 破片 (2)
瓦類	軒丸瓦 (275 目)
須恵質土器	こね鉢 (東橋系), 壺 (高瀬不明)
瓦質土器	こね鉢×隠鉢
白磁	壺
中国陶器	鉢; I-la (2)
中国陶器	他器種; 盤 II-a (1), C群 (1)
S-194	
土師器	坏 a (イト), 小皿 a (イト)
瓦類	碗 c
同安系青磁	碗; 破片 (1)
瓦類	破片
S-195 緑灰色土	
須恵器	壺
土師器	坏 a (イト), 小皿 a (イト)
瓦類	破片
龍泉系青磁	碗; 破片 (1)
青磁 (未分類)	碗 (1)
瓦類	破片 (格子印)
白磁	碗; IV (1), 壺 (1), 破片 (華南系) (1)
白磁	皿; IX (1)
S-195 緑灰色土	
土師器	供膳具
瓦類	碗
同安系青磁	碗; I-b (1)
瓦類	破片
瓦質土器	鉢
白磁	碗; 破片 (華南系) (1)
S-197	
土師器	坏, 供膳具
S-198	
土師器	坏 a (イト)
S-199	
土師器	坏 a (イト), 小皿 a (イト)
S-200 灰褐色土	
土師器	坏 a (イト), 小皿 a (イト)
瓦類	碗, 碗 c

大宰府条坊跡第248次調査(その2) 出土遺物一覧表(11)

龍泉系青磁	碗: I (1)
同安系青磁	碗: I - b (2)
	皿; 磁片 (2)
瓦類	破片 (格子印)、破片
石製品	石鏡1群
木製品	灰化物
土師質土器	甕×鉢、煮炊具
瀬灰質土器	こね鉢
白磁	碗: V (1)、V - la (1)、V - 4a (1)、破片 (華南系) (1)
	皿: VI (1)
	帯地; 合子 (1)
中国陶器	他器種: A群 (1)、B群 (1)、C群 (2)
瀬灰質 (輸入)	朝鮮系無釉陶器 (1)
金属製品	鉄釘、鉄滓、用途不明 (銅製品)
S - 202	
土師器	坏 a (イト)
白磁	碗: IV (1)
	皿; (未分類) (1)
中国陶器	他器種: C群 (1)
その他	埴土塊
S - 202 灰色土	
瀬灰器	甕
土師器	坏 a (イト)、小皿 a1 (イト)、供養具
龍泉系青磁	他器種: 破片 (1)
同安系青磁	碗: I - b (1)
	皿: I - 2b (1)
青磁 (未分類)	甕 (1)
瓦類	平瓦 (格子印)
土師質土器	煮炊具
国産陶器	甕
白磁	帯地; 四耳甕 - 2 (1)、破片 (華南系) (1)
金属製品	鉄釘
土製品	瓦瓦
S - 203	
土師器	坏、坏 (イト)、小皿 a1 (イト)
龍泉系青磁	碗: II - b (1)
白磁	碗: V - 4 × 甕 - 3 (1)
S - 204	
土師器	坏 a、坏 a (イト)、小皿 a1 (イト)
龍泉系青磁	碗: I - 4 (1)、皿 - 2 (1)
同安系青磁	他器種: 破片 (1)
瓦類	丸瓦 (格子印)、破片
石製品	基石
瀬灰質土器	こね鉢 (東播磨)
国産陶器	甕
白磁	碗: V - 3a (1)
	皿: II (1)
	帯地; 四耳甕 (1)
中国陶器	他器種: B群 (2)
金属製品	鉄釘、鉄塊
S - 205 灰色土	
土師器	坏 a (イト)、小皿 a1 (イト)
龍泉系青磁	碗: I - 1 (9)、I - 2 (1)、II - a (1)、II - b (4)
	皿: I (1)
同安系青磁	碗: I - b (1)
瓦類	平瓦 (格子印・網目印)
瀬灰質土器	こね鉢 (東播磨)
国産陶器	破片
白磁	碗: IV (4)
	皿: III (2)、皿 (2)、IX - la (1)
中国陶器	鉢: I - la (1)
	他器種: A群 (1)、B群 (1)、C群 (3)
S - 206	
瀬灰器	甕 3、甕
土師器	坏 a (イト)、小皿 a1、小皿 a1 (イト)、把平
龍泉系青磁	碗: I - 4 (1)
瓦類	平瓦 (網目印)
土師質土器	鉢、煮炊具
瀬灰質土器	こね鉢 (東播磨)
中国陶器	他器種: B群 (1)
S - 207	
土師器	坏 a (イト)、小皿 a1 (イト)

同安系青磁	碗: I - a (1)
	皿; 破片 (1)
瀬灰質土器	こね鉢
青白磁	合子蓋 (1)
中国陶器	他器種: A群 (1)
S - 208	
土師器	坏 a (イト)、小皿 a1 (イト)
龍泉系青磁	碗: I (3)、I - 2 (1)
同安系青磁	碗: I - b (1)
	皿: I - 2a (1)、破片 (3)
	青磁 (未分類) 甕 (1)
	石製品 破片 (滑石)
土師質土器	鉢
瀬灰質土器	こね鉢
国産陶器	破片
白磁	碗: V - 2 (1)
	皿: II (1)、IX - 1 (1)
	帯地; 破片 (華南系) (1)
中国陶器	他器種: A群 (2)
S - 209	
土師器	坏 a (イト)、小皿 a1 (イト)
瓦類	破片
龍泉系青磁	碗: II - b (1)
同安系青磁	碗: I - a (1)
	皿: I (1)
瓦類	平瓦
S - 210	
瀬灰器	甕
土師器	坏 a (イト)、小皿 a1 (イト)
瓦類	碗 c
龍泉系青磁	碗: I - 2 (1)
石製品	破片 (滑石)
土師質土器	鉢
その他	埴土塊
S - 211	
瀬灰器	甕
土師器	坏 a (イト)、小皿 (イト)、小皿 a1 (イト)
龍泉系青磁	碗: I - 2 (1)
瓦類	破片
土師質土器	煮炊具
S - 212	
土師器	坏 a (イト)
瓦類	破片
同安系青磁	碗: I - b (1)
青白磁	合子蓋 (1)
S - 213	
土師器	坏
瀬灰質土器	こね鉢 (東播磨)
S - 214	
土師器	坏 a (イト)
瓦類	破片
土師質土器	煮炊具
瓦質土器	甕
S - 215 灰褐色土	
瀬灰器	甕
土師器	坏 a (イト)、小皿 a1 (イト)
龍泉系青磁	碗: I - 2 (1)
同安系青磁	他器種: 鉢 (1)
土師質土器	煮炊具
S - 216	
瀬灰器	甕
土師器	坏 a (イト)、小皿 a1 (イト)
瓦類	破片
龍泉系青磁	碗: I - 2 (2)、II - b (1)
同安系青磁	他器種: 破片 (3)
同安系青磁	他器種: 磨種不明皿 - la (1)
土師質土器	煮炊具
瀬灰質土器	こね鉢
中国陶器	鉢: II - la (1)
	他器種: B群 (1)
瀬灰質 (輸入)	朝鮮系無釉陶器 (1)

大宰府条坊跡第 248 次調査 (その 2) 出土遺物一覧表 (12)

金属製品	鉄片
S - 217	
須恵器	甕
土師器	小皿 al (イト)
土師質土器	罎
須恵質 (輸入)	朝鮮系無釉陶器 (1)
S - 218	
土師器	小皿 al
瓦器	破片
龍泉窯系青磁	碗; I - 2 (1)
同安窯系青磁	碗; 破片 (1)
土師質土器	煮炊具
中国陶器	他器種; B群 (1)
金属製品	鉄片
S - 219	
土師器	坏 a (イト)
瓦器	碗
同安窯系青磁	他器種; 破片 (1)
中国陶器	鉢; IV (1)
	他器種; B群 (1)
S - 220	
須恵器	甕
土師器	坏 a (イト), 小皿 al (イト)
瓦器	碗 c
龍泉窯系青磁	碗; I (1)
	他器種; 小碗 I-la (1)
同安窯系青磁	碗; B (1)
青磁 (未分類)	皿 (1)
瓦類	丸瓦 (調日印)
石製品	石輪目群
土師質土器	罎
須恵質土器	碗, こね鉢
国産陶器	破片
白磁	碗; III (1)
中国陶器	他器種; B群 (1), C群 (1)
S - 221	
土師器	坏 a (イト)
瓦器	碗
龍泉窯系青磁	他器種; 小碗 I (1)
石製品	破片 (滑石)
金属製品	碗; 破片 (華南系) (1)
金属製品	鉄塊
S - 222	
土師器	坏 a (イト), 小皿 al (イト)
龍泉窯系青磁	碗; I - 1 (1), I - 2 (1)
	他器種; 破片 (1)
中国陶器	他器種; A群 (1)
S - 223	
土師器	坏 a (イト), 小皿 al (イト)
瓦器	碗, 碗 c
龍泉窯系青磁	碗; I (1), 破片 (1)
須恵質土器	こね鉢
白磁	碗; 破片 (華南系) (1)
金属製品	鉄片
その他	焼土塊
S - 224	
土師器	坏 a (イト)
瓦類	丸瓦
須恵質土器	甕
白磁	碗; IV (1), VI - Ib (1)
その他	焼土塊
S - 225	
須恵器	甕
土師器	坏 a (イト)
瓦器	破片
龍泉窯系青磁	碗; I (1), II - b (2)
同安窯系青磁	碗; 破片 (1)
瓦類	破片 (種子印)
木製品	浮化木
須恵質土器	こね鉢 (華南系)
白磁	碗; VI - b (1)
中国陶器	他器種; B群 (6)

S - 225	
須恵器	甕
土師器	坏 a (イト), 小皿 al (イト)
龍泉窯系青磁	碗; II - b (1), 破片 (1)
瓦類	破片
中国陶器	他器種; A群 (1)
S - 227	
須恵器	甕
土師器	坏 (イト), 坏 a (イト), 小皿 al, 小皿 al (イト)
瓦器	碗 c
龍泉窯系青磁	碗; 破片 (1), 皿; 破片 (1)
	他器種; 坏皿 (1)
同安窯系青磁	碗; I - b (1)
	皿; 破片 (1)
瓦類	破片 (種子印)
白磁	碗; V (1), VII - B (1)
S - 228	
須恵器	甕
土師器	坏, 坏 a (イト), 小皿 al (イト)
瓦器	碗, 碗 c
龍泉窯系青磁	碗; I - 4 (1), III - 2 (1), 破片 (1)
同安窯系青磁	碗; I - b (1)
土師質土器	煮炊具
白磁	碗; II - 1 (1)
	煮炊; 破片 (華南系) (1)
中国陶器	他器種; B群 (1)
S - 229	
土師器	坏, 小皿 al
瓦器	碗
龍泉窯系青磁	碗; II - a (1), III (1)
	他器種; 坏皿 (1), 破片 (3)
同安窯系青磁	碗; I - b (2)
瓦類	破片
土師質土器	煮炊具
須恵質土器	こね鉢
その他	焼土塊
S - 230	
土師器	小皿 al (イト)
瓦類	平瓦 (種子印)
須恵質土器	こね鉢
白磁	煮炊; 皿 (1)
その他	焼土塊
S - 231	
土師器	坏, 坏 a (イト), 小皿 al, 小皿 al (イト)
瓦器	碗 c
龍泉窯系青磁	碗; 破片 (1)
白磁	碗; VII - 3 (1)
S - 232	
須恵器	供養具
土師器	坏 a (イト), 小皿 al (イト)
瓦類	破片
同安窯系青磁	碗; 破片 (2)
瓦類	丸瓦
石製品	破片 (滑石)
土師質土器	煮炊具
須恵質土器	こね鉢
瓦質土器	こね鉢×楕鉢
中国陶器	他器種; A群 (3)
金属製品	鉄塊
S - 233	
土師器	坏 a (イト), 小皿 al
龍泉窯系青磁	皿; 破片 (1)
瓦質土器	こね鉢×楕鉢
S - 234	
土師器	坏, 坏 a (イト), 小皿 al
瓦器	碗 c
同安窯系青磁	碗; I - b (1), 破片 (1)
瓦類	平瓦 (種子印)
須恵質土器	こね鉢 (華南系)
瓦質土器	こね鉢×楕鉢
S - 235 黒灰色土	
須恵器	供養具

大宰府条坊跡第248次調査(その2) 出土遺物一覧表(13)

土師器	坪a(イト)
龍泉系青磁	碗: I-4(1)
土師質土器	煮炊具
S-235 緑灰色土	
土師器	坪a(イト), 小皿a1(イト)
瓦器	碗
龍泉系青磁	碗: I-4(1)
阿安系青磁	皿: I(1)
土師質土器	鍋
白磁	碗: 破片(華南系)(1)
金属製品	皿: IX-1b(1)
	刀子(鐵)
S-235 緑赤褐色土	
土師器	坪a(イト), 小皿a1(イト)
瓦器	碗
龍泉系青磁	碗: B-a(1)
阿安系青磁	碗: 破片(1)
土師質土器	煮炊具
白磁	皿: B-1(1)
中国陶器	壺: 破片(1)
	他器種: A群(2), C群(1)
その他	焼土塊
S-235 灰褐色土	
土師器	坪a(イト)
龍泉系青磁	碗: I-2(1)
瓦器	平瓦, 丸瓦(磨子明)
S-236	
煮炊器	壺
土師器	小皿a1(イト)
黒色土器B	碗c
瓦類	丸瓦(磨子明)
煮炊質土器	こね鉢
中国陶器	他器種: C群(1)
S-237	
土師器	坪, 小皿(イト)
白磁	皿: B-1(1)
中国陶器	他器種: B群(1)
黒輪陶器	皿(1)
S-238	
土師器	坪a(イト), 小皿a1(イト)
瓦器	破片
龍泉系青磁	碗: (未分類)(1)
石製品	砥石
白磁	碗: V(1)
中国陶器	壺類: 破片(華南系)(4)
	他器種: A群(2)
S-239	
土師器	坪
龍泉系青磁	他器種: 壺(1)
S-240	
土師器	坪a(イト), 丸底坪a(イト)
瓦器	碗c
瓦類	破片(磨子明)
白磁	碗: 壺-3(1)
S-241 緑灰色土	
煮炊器	壺3, 壺
土師器	小皿a1
瓦器	碗c
龍泉系青磁	碗: B-b(3), 破片(2)
煮炊質土器	こね鉢
中国陶器	壺
白磁	碗: V-4×壺-3(1), 壺-c(1), 壺(1)
中国陶器	他器種: 壺II-2(1), C群(1)
鉄貨	天師通寶, 元泰通寶, 昭平通寶, 皇宋通寶
その他	焼土塊
S-242	
土師器	小皿a1(イト)
龍泉系青磁	碗: I(1), B-b(1)
S-243	
土師器	坪a(イト), 小皿a1
S-244	
土師器	坪a(イト), 煮炊具(角四角)

瓦器	碗c
煮炊質土器	こね鉢
白磁	碗: V(1), V-4b(1), 破片(広東系)(1)
中国陶器	他器種: B群(1)
S-245	
煮炊器	破片
土師器	坪a(イト), 小皿a1(イト)
龍泉系青磁	碗: I-2(1)
阿安系青磁	碗: I-b(1)
	皿: I-2b(1)
瓦類	平瓦(磨子明)
土師質土器	鍋
白磁	壺類: 水注(1), 破片(華南系)(1)
中国陶器	他器種: C群(1)
土製品	土埴
S-246	
土師器	坪a(イト)
S-247	
土師器	坪a(イト)
瓦器	破片
瓦質土器	壺
白磁	碗: IV(1), 壺-2(1)
中国陶器	壺: B(1)
煮炊質(輸入)	朝鮮系無袖陶器(1)
S-248	
土師器	坪a(イト)
瓦器	碗c
白磁	碗: 破片(華南系)(1)
鉄貨	宣和通寶
その他	焼土塊
S-249	
土師器	坪, 坪a(イト), 小皿a1(イト)
瓦器	碗, 皿
龍泉系青磁	碗: I-2(1)
白磁	碗: B-1(1)
S-250	
土師器	坪a(イト), 坪a(穿孔有), 小皿a(イト)
瓦器	碗c, 破片
阿安系青磁	碗: I-a(1)
瓦類	破片(磨子明)
土師質土器	煮炊具
白磁	碗: V-4a(1)
中国陶器	他器種: A群(1)
S-251	
土師器	坪a(イト), 小皿a1(イト)
瓦器	碗c, 碗
龍泉系青磁	他器種: 破片(1)
瓦質土器	壺
白磁	碗: 破片(華南系)(1)
中国陶器	壺: 破片(1)
	他器種: B群(1)
その他	焼土塊
S-252	
土師器	伊磨具
石製品	石磨(磨石)
白磁	碗: V-4×壺-3(1)
S-253	
土師器	坪
瓦器	碗
煮炊質土器	こね鉢(東越系)
中国陶器	他器種: B群(1)
S-254	
土師器	小皿1, 伊磨具
龍泉系青磁	碗: I-2(1)
瓦類	丸瓦
煮炊質土器	こね鉢
白磁	壺類: 破片(華南系)(1)
その他	焼土塊
S-255	
土師器	坪a(イト)
瓦器	碗c

大宰府条坊跡第 248 次調査 (その 2) 出土遺物一覧表 (14)

S-256		同安宗系青磁	皿; I-2b (1)
土師器	小皿 a1 (イト)	中国陶器	他器種; A群 (1)
瓦器	碗 c	S-264 灰白色土	
土師質土器	煮炊具	土師器	坪 a (イト)
白磁	碗; V-4×Ⅱ-3 (1)、破片 (華南系) (1)	同安宗系青磁	碗; I-b (1)
	唐物; 小碗 (未分類) (1)	中国陶器	破片
S-257		白磁	碗; IV (1)
土師器	坪 a (イト)、小皿 1	S-265	
龍泉宗系青磁	碗; I-1c (1)、I-4 (1)、II-b (2)	土師器	坪 a (イト)、小皿 a1 (イト)
瓦器	平瓦 (佛子明 915群)	瓦器	破片
土師質土器	煮炊具	瓦器	破片 (佛子明)、破片
白磁	唐物; 破片 (華南系) (2)	土師質土器	煮炊具
青白磁	合子蓋 (1)	須恵質土器	甕
中国陶器	他器種; A群 (1)、C群 (1)	白磁	碗; 破片 (華南系) (1)
その他	焼土塊	S-265 灰白色土	
S-258		土師器	坪
土師器	坪 a (イト)	瓦器	碗 (輪車型)、破片 (在地)
青磁 (未分類)	初期龍泉×同安O類 (1)	龍泉宗系青磁	皿; 破片 (1)
土師質土器	煮炊具	瓦器	平瓦 (佛子明)
須恵質土器	こね鉢	須恵質土器	こね鉢、小形こね鉢 (東播磨)
白磁	碗; V (1)	白磁	碗; Ⅱ (1)、破片 (華南系) (1)
中国陶器	他器種; B群 (1)	中国陶器	他器種; C群 (1)
S-260		S-267	
須恵器	坪 c、甕	土師器	坪 a (イト)
土師器	碗 c、小皿 a1、小皿 a1 (へう)、小皿 c	瓦器	碗 c
瓦器	碗	S-269	
瓦器	碗	土師器	坪、小皿 1、小皿 a1 (イト)
土師質土器	煮炊具	白磁	碗; Ⅱ (1)
同安陶器	甕	中国陶器	他器種; B群 (1)
白磁	碗; V-4×Ⅱ-3 (1)、破片 (華南系) (1)	S-270	
中国陶器	甕; Ⅱ (1)	土師器	坪 a (イト)
	鉢; I-la (1)	瓦器	碗
金属製品	鉄釘	土師質土器	甕
S-260 灰白色土		S-270 灰白色土	
須恵器	蓋 3、甕	土師器	坪 a (イト)、小皿 a1
土師器	坪 a (イト)、小皿 a1 (イト)	瓦器	碗 (在地) 輪車型の可能性有り
土器土器 A	碗 c	同安宗系青磁	碗; I-b (1)
瓦器	碗 c		皿; 破片 (1)
龍泉宗系青磁	他器種; 破片 (1)	瓦器	破片 (佛子明)
同安宗系青磁	碗; I-b (1)	白磁	碗; 破片 (華南系) (1)
土師質土器	鍋	中国陶器	他器種; B群 (1)
須恵質土器	こね鉢 (東播磨)	S-271	
中国陶器	破片	土師器	坪 a (イト)
白磁	碗; II (3)、II-1 (1)、IV (6)、V (1)、Ⅱ-2 (1)、破片 (華南系) (1)	S-272 灰白色土	
	皿; V (1)、Ⅲ (1)	土師器	坪、小皿 a1 (イト)
	唐物; 破片 (華南系) (7)	龍泉宗系青磁	碗; I-2 (1)
中国陶器	甕; 破片 (1)	同安宗系青磁	碗; Ⅱ-1 (1)
	他器種; B群 (6)	須恵質土器	こね鉢
金属製品	鉄釘	瓦質土器	甕
S-260 灰白色土		白磁	碗; Ⅱ-2 (1)
須恵器	蓋 c、甕		唐物; 甕 (1)
土師器	坪 a (イト)、丸底坪 a、小皿 a1 (イト)	S-273 緑灰色土	
製瓦土器	焼成甕 (鉢形甕類)	土師器	小皿 a1
土器土器 B	碗	龍泉宗系青磁	碗; I-2 (1)
瓦器	碗 c	同安宗系青磁	碗; 破片 (1)
龍泉宗系青磁	碗; I-3 (1)、破片 (1)	瓦器	平瓦 (佛子明)
須恵質土器	こね鉢	石製品	石鏡 (湧石)
同安陶器	甕	土師質土器	煮炊具
白磁	碗; II (1)、IV (1)、V-1 (1)、V-4×Ⅱ-3 (1)、V-4b (1)、Ⅱ-2 (1)	須恵質土器	こね鉢
	皿; Ⅱ-1 (1)、V (1)	白磁	碗; IV (1)、Ⅱ-2 (2)
	唐物; 破片 (華南系) (1)	中国陶器	鉢; I-la (1)
中国陶器	鉢; IV (1)	須恵質 (輸入)	朝鮮系無釉陶器 (1)
	他器種; 破片 (1)	その他	焼土塊
土製品	伊材	S-274	
その他	獣骨 (鹿)	土師器	坪、坪 a (イト)、小皿 a1 (イト)
S-261		中国陶器	他器種; A群 (1)
土師器	坪	その他	焼土塊
S-262		S-275	
土師器	坪 a (イト)、小皿 a (イト)	須恵器	坪 c、蓋 3、甕、破片
龍泉宗系青磁	碗; II-b (1)	土師器	坪 a、坪 a (イト)、丸底坪、小皿 a1 (イト)
		瓦器	碗、碗 c
		同安宗系青磁	碗; I-b (1)

大宰府条坊跡第248次調査(その2) 出土遺物一覧表(15)

瓦類	破片(格子印)
石製品	石鏃(滑石)
土師質土器	煮炊具
白磁	甕: B (2), IV-la (1), V-4×Ⅷ-3 (1) 皿: 破片(華南系) (3) 香壺; 破片(華南系) (7)
須恵質(輸入)	須恵系無袖陶器 甕×壺 (2)
S-275 灰色土	
土師器	丸底杯(ヘラ), 小皿a1
瓦類	甕, 小皿a1(輸入品)
阿安宗系青磁	甕: I-b (1)
土師質土器	鍋
須恵質土器	甕×壺(産地不明), 二お鉢(東越系), 破片
白磁	甕: B (1), IV (1), IV-la (1), V-2 (1), V-4 (1), 破片(華南系) (1) 皿: B-la (1), Ⅲ (2) 香壺; 破片(華南系) (3)
須恵質(輸入)	須恵系無袖陶器 甕×壺 (1)
S-276	
土師器	杯, 高台
瓦類	丸瓦
その他	埴土塊
S-277	
土師器	杯a(イト), 小皿a1(イト)
瓦類	破片
阿安宗系青磁	甕: I-b (1)
須恵質土器	二お鉢
S-278	
土師器	杯, 杯a(イト), 小皿a1(イト), 高台, 煮炊具
瓦類	甕, 小皿a1(イト), 破片
龍泉宗系青磁	甕: I-2 (1)
阿安宗系青磁	甕: I-b (2), 破片 (1)
須恵質土器	甕×壺(産地不明)
白磁	甕: IV (4), Ⅷ-3 (2) 香壺; 破片(華南系) (4)
青白磁	合子蓋 (1)
中国陶器	他器種; 破片 (1)
土製品	砂材
S-279	
土師器	小皿1
土師質土器	甕
S-280	
土師器	杯, 小皿a1(イト)
瓦類	甕c(イト)
土師質土器	煮炊具
S-281	
土師器	杯a(イト), 小皿a1(イト)
瓦質土器	破片
S-282 灰色土	
土師器	杯a(イト), 小皿a1
白磁	平瓦
中国陶器	皿: Ⅲ (1)
中国陶器	他器種; B群 (1), C群 (5)
金属製品	用途不明(鉄)
S-283 緑灰色土	
土師器	杯a(イト), 小皿a1, 高台
瓦類	甕c
石製品	石鏃(滑石)
白磁	甕: V-4×Ⅷ-3 (1), Ⅷ-3 (1) 香壺; 破片(華南系) (2)
中国陶器	他器種; 盤Ⅱ (1)
S-284	
土師器	杯a(イト)
S-287	
土師器	破片
瓦類	破片
土製品	瓦玉
S-288	
土師器	杯
S-289	
土師器	杯, 小皿a1(イト)
瓦類	破片

須恵質土器	甕
白磁	甕; 破片(華南系) (1)
S-290 灰色土	
須恵質	甕
土師器	丸底杯, 小皿a1(イト)
瓦類	甕
龍泉宗系青磁	甕: I-la (1), II-b (1)
阿安宗系青磁	甕: I-b (1)
瓦類	平瓦(格子印), 丸瓦
土師質土器	鍋
須恵質土器	二お鉢(東越系), 二お鉢×二お鉢
瓦質土器	二お鉢×二お鉢
白磁	甕: Ⅷ-3 (2) 皿: Ⅲ (1) 香壺; 壺 (1), 破片(華南系) (1)
青白磁	合子蓋 (1)
中国陶器	鉢: I-2a (1), VI (1) 甕: Ⅲ (1) 他器種; A群 (1), C群 (4)
S-291	
土師器	破片
中国陶器	他器種; B群 (2)
S-292	
土師器	小皿a1(イト)
瓦類	甕c, 小皿a(イト)
瓦類	破片
土師質土器	煮炊具
白磁	香壺; 破片(華南系) (1)
S-293	
土師器	杯a(イト), 小皿a1(イト)
S-294	
土師器	破片
土師質土器	煮炊具
白磁	皿: Ⅷ-2b (1)
S-295 灰色土	
須恵質	甕
土師器	杯a(イト), 小皿a1(イト), 高台, 破片
瓦類	甕c
龍泉宗系青磁	甕: I (1), I-2 (5), I-4 (2), I-6b (1) 皿: I (1)
阿安宗系青磁	他器種; 破片 (2)
須恵質土器	甕: I-b (3) 皿: I-2a (1)
中国陶器	他器種; 破片 (1)
瓦類	平瓦(格子印), 丸瓦, 破片
石製品	石鏃(滑石)
土師質土器	煮炊具
須恵質土器	甕(東越系), 二お鉢(東越系), 二お鉢(産地不明)
須恵陶器	甕, 大甕
白磁	甕: B-3×4 (1), IV (3), V (1), V-4×Ⅷ-3 (1), V-4b (3), Ⅷ (1), Ⅷ-3 (2), 破片(華南系) (4) 皿: Ⅲ-1 (1) 香壺; 破片(華南系) (2)
中国陶器	他器種; A群 (2), B群 (4), C群 (1)
金属製品	鉄釘
S-296	
土師器	杯a(イト)
白磁	甕; IV-la (1)
S-297	
土師器	杯a(イト), 小皿a1(イト)
瓦類	甕
龍泉宗系青磁	甕: I-2 (1) 他器種; 壺 (1)
阿安宗系青磁	甕: I-b (1)
瓦類	平瓦(格子印), 破片(護日印)
土師質土器	鍋
須恵質土器	二お鉢
白磁	皿: B×Ⅲ (1) 香壺; 壺 (1)
中国陶器	他器種; B群 (1)
その他	埴土塊

大宰府条坊跡第24&調査(その2) 出土遺物一覧表(16)

S-298	
土師器	坪a(イト)、小皿a(イト)
S-299	
土師器	坪a(イト)
縄文系青磁	碗; I(1)
その他	焼土塊
S-300 灰色土	
須恵器	壺
土師器	坪、坪a(イト)、小皿a(イト)
瓦器	碗c
縄文系青磁	碗; I(1)、I-b(1)、I-2(1)、I-4(1)
同安南系青磁	他器種; 小碗(未分類)(1)
瓦器	皿; I-1b(1)、碗片(1)
石製品	石鏃(磨石)、丸瓦(椅子明)、破片(磨石)
土師質土器	煮炊具
須恵質土器	こね鉢、こね鉢(東播磨)
同出陶器	壺
白磁	碗; IV(1)、V-2(1)、V-4(1)、破片(華南系)(3) 皿; 皿(1)
中国陶器	他器種; B群(2)、C群(1)
須恵質(輸入)	朝鮮系無釉陶器(1)
S-301	
土師器	坪a(イト)、蓋台
瓦器	碗
石製品	砥石
土製品	瓦玉
S-302	
瓦器	破片
土師質土器	煮炊具
白磁	碗、破片(華南系)(1)
S-303	
土師器	坪、小皿a1
瓦器	碗c
S-304	
土師器	坪a(イト)、小皿a1(イト)
褐色土器白	碗c
瓦器	碗
同安南系青磁	碗; I-b(1)
白磁	碗; 皿-1(1)
中国陶器	他器種; B群(1)
S-305	
須恵器	壺
土師器	丸底坪、小皿a1(へ?)
瓦器	破片
須恵質土器	こね鉢
白磁	皿; 皿(1)
中国陶器	他器種; 耳壺(1)
S-305 灰色土	
須恵器	壺
土師器	小皿a(イト)
瓦器	碗c
白磁	皿; 皿(1)
S-306	
土師器	坪a(イト)
瓦器	碗、碗c
同安南系青磁	碗; I-b(1)
土師質土器	煮炊具
白磁	碗; V-4×Ⅴ-3(1)
石製品	瓦玉
S-307	
土師器	小皿(イト)
S-308	
土師器	坪
S-309	
土師器	供養具
縄文系青磁	他器種; 破片(1)
瓦質土器	こね鉢
S-310 黒灰色土	
土師器	坪
瓦器	碗
白磁	碗; 破片(華南系)(1)

S-311	
土師器	坪a(イト)、小皿1
同出陶器	壺
須恵陶器	破片
S-312	
土師器	坪a(イト)
縄文系青磁	碗; II-b(1)
土師質土器	煮炊具
須恵質土器	壺(東播磨)
白磁	碗; IV(1)
中国陶器	鉢; I-la(1)
S-313	
土師器	坪
須恵質土器	壺
白磁	碗; Ⅴ-2(1)
その他	焼土塊
S-314	
土師器	小皿a1(イト)
縄文系青磁	皿; I-2c(1)
瓦器	丸瓦
S-315	
土師器	坪a(イト)、小皿a1(イト)
須恵質土器	こね鉢
白磁	碗; IV(1)、V-Ⅳ×c(1)
S-316	
土師器	坪、小皿a1(イト)
S-318	
土師器	坪
S-320	
須恵器	壺、壺
土師器	坪a(イト)
同安南系青磁	皿; 破片(1)
土師質土器	釜
白磁	碗; IV-la(1)、Ⅴ-2(1)、破片(広東系)(1) 皿; II-1(1)、皿(1)、皿-1(1) 帯鉢; 破片(華南系)(1)
青白磁	小碗(1)
金属製品	鏝(鉄製)
S-320 褐色土	
須恵器	壺
土師器	坪a(イト)、丸底坪a(へ?)、小皿a1(イト)
瓦器	碗
瓦器	破片(椅子明)
土師質土器	釜
同出陶器	壺
白磁	碗; IV(1)、V-4(1)
中国陶器	他器種; 耳壺(1)
S-321	
瓦器	破片(磨石)
S-322 褐色土	
須恵器	壺
土師器	坪a(イト)
同安南系青磁	碗; I-b(1)
瓦器	破片
白磁	碗; V-4×Ⅴ-3(1)
その他	焼土塊
S-323	
土師器	坪a(イト)
瓦器	碗c
土師質土器	煮炊具
須恵質土器	こね鉢
白磁	碗; Ⅴ-3(1)
S-324 黒灰色土	
土師器	坪a(イト)
瓦器	破片
白磁	碗; Ⅴ-3(2)
S-325 緑灰色土	
須恵器	破片
土師器	丸底坪a、小皿1
瓦器	碗c
石製品	破片(磨石)
土師質土器	銅把手

大宰府条坊跡第 248 次調査 (その 2) 出土遺物一覧表 (17)

白磁	甕: B-1 (1)
	皿: M (1)
S-326	
土師器	坏 a (イト), 小皿 al (イト)
瓦器	破片
阿安系青磁	皿: I-2b (1)
瓦器	破片
白磁	皿: 皿 (1), 皿-1 (1), V (1)
	香炉; 破片 (華南系) (1)
中国陶器	他器種; 小皿 B-2b (1)
S-327	
土師器	坏 a, 小皿
瓦器	破片 (格子甲)
白磁	甕; 破片 (華南系) (1)
中国陶器	甕; 破片 (1)
S-328	
土師器	坏 (イト), 小皿 al
S-329	
須恵器	甕
土師器	坏, 小皿 al
瓦器	甕 c, 甕
阿安系青磁	甕: B (1), 破片 (1)
瓦器	破片
石製品	破片 (磨石)
白磁	甕: IV (1), V-4 × 皿-3 (1)
	香炉; 破片 (華南系) (1)
中国陶器	他器種; 目録 (2)
S-330 黒色土	
須恵器	甕
土師器	坏 a (イト), 小皿 al
瓦器	甕
阿安系青磁	甕: I (1), 破片 (1)
瓦器	平瓦 (格子甲)
須恵質土器	こね鉢 (東越系)
白磁	甕: B-1 (1), V-4 (1), 甕 (1)
	香炉; 破片 (華南系) (4)
金属製品	鉄釘
その他	獣骨 (歯)
S-331	
須恵器	甕
土師器	坏, 坏 a (イト), 小皿 a, 小皿 al (イト)
瓦器	甕 c, 甕
石製品	用途不明品 (磨石)
土師質土器	甕
瓦質土器	甕
白磁	皿; 破片 (華南系) (1)
中国陶器	他器種; C 群 (1)
S-332 緑灰色土	
土師器	坏 a (イト), 小皿 al (イト)
瓦器	甕 c
白磁	香炉; 破片 (華南系) (1)
S-333 緑灰色土	
土師器	坏 a (イト), 小皿 al
瓦器	甕 c
須恵質土器	こね鉢
白磁	甕; 破片 (華南系) (2)
	香炉; 破片 (華南系) (1)
S-334	
須恵器	甕
土師器	坏 a (イト), 小皿 al (イト)
瓦器	甕 c
白磁	皿; 破片 (広東系) (1)
S-334 黒色土	
土師器	坏 a (イト), 小皿 al (イト), 高台
阿安系青磁	皿: I-1 (1)
青磁 (未分類)	破片 (1)
土師質土器	煮炊具
白磁	香炉; 破片 (広東系) (1)
S-335 灰色土	
須恵器	甕 3
土師器	坏 a (イト)
瓦器	瓦瓦

須恵質土器	こね鉢 (東越系)
白磁	甕: B-1 (1), 破片 (華南系) (1)
	皿; 甕 (1), M (1), 破片 (1)
中国陶器	鉢; M (1)
S-335 黒り力	
須恵器	甕
土師器	坏 a (イト), 小皿 al (イト), 皿 c
黒色土器 B	甕 c
瓦器	破片
瓦器	破片 (格子甲)
石製品	石磨 (磨石)
中国陶器	甕
白磁	甕: V-4 (1), V-4b (1), M-la (1), 甕 (1), 破片 (華南系) (1)
	皿: B-la (1)
	香炉; 甕 (1)
S-336 灰色土	
土師器	坏 a (イト・雲母), 小皿 al (イト)
瓦器	甕 c (イト)
龍泉系青磁	他器種; 破片 (1)
高麗青磁	甕; 初期産 (1)
白磁	甕; IV (1)
中国陶器	甕; 破片 (1)
S-337 灰色土	
土師器	坏, 小皿 al (イト)
龍泉系青磁	皿: I (1)
阿安系青磁	他器種; 破片 (1)
瓦器	破片 (格子甲)
石製品	甕
白磁	甕; 甕 (1)
その他	獣骨 (歯), 焼土塊
S-338 黒色土	
土師器	坏 a (イト), 小皿 al (イト)
阿安系青磁	甕; 破片 (1)
瓦器	平瓦 (格子甲)
石製品	破片 (磨石)
白磁	甕; 破片 (華南系) (1)
S-339 黒色土	
土師器	坏, 坏 a (イト), 小皿 al (イト)
瓦器	甕
阿安系青磁	甕; I-a (1), 破片 (1)
土師質土器	煮炊具
中国陶器	他器種; C 群 (1)
S-340	
須恵器	甕
土師器	坏 a (イト), 小皿 al (イト)
土師質土器	煮炊具
白磁	甕; B (1), B-1 (1), V-1 (1), 甕-3 (1)
中国陶器	他器種; B 群 (1)
S-341 灰色土	
土師器	坏 a (イト), 小皿 (へう)
S-342 黒色土	
土師器	小皿 al (イト), 皿 c
龍泉系青磁	他器種; 破片 (1)
瓦器	平瓦 (格子甲)
土師質土器	煮炊具
白磁	香炉; 破片 (華南系) (1)
S-343	
土師器	坏, 小皿 1
S-344	
土師器	坏, 小皿
土師質土器	煮炊具
S-345	
須恵器	甕
土師器	丸底坏 a (へう), 小皿 al
瓦器	甕 c
瓦器	平瓦 (格子甲), 瓦瓦
土師質土器	煮炊具
白磁	甕; IV (1), V (1)
	皿; M (1)
	香炉; 甕 (1), 破片 (華南系) (3)
中国陶器	他器種; B 群 (2)

大宰府条坊跡第24区調査(その2) 出土遺物一覧表(18)

S-345 黒灰色土	
土師器	杯 a (イト)、小皿 a1 (イト)
瓦器	破片
龍泉京系青磁	碗; 1-2 (1)
	他器種; 破片 (1)
白磁	碗; Ⅲ-c (1)、Ⅲ (1)
	香奩; 破片 (華南系) (1)
中国陶器	他器種; B群 (1)
土製品	土塊
S-346	
土師器	杯 a (イト)、小皿 a1 (イト)
瓦器	破片
龍泉京系青磁	碗; Ⅱ (1)
石製品	石鏃 (磨石)
土師質土器	煮炊具
中国陶器	他器種; B群 (1)
S-346 黒灰色土	
瓦器	碗 c
S-347	
土師器	杯、丸底杯 (イト)、小皿、小皿 a1 (イト)、供膳具
瓦器	破片
石製品	破片 (磯目印)
土師質土器	煮炊具
白磁	碗; V-4a (2)
中国陶器	鉢; VI (1)
その他	焼土塊
S-348 緑灰色土	
須恵器	甕
土師器	杯、小皿 a1 (イト+ワ)
瓦器	丸瓦
S-349 緑灰色土	
土師器	杯 a (イト)、小皿 a1 (イト)
瓦器	碗
龍泉京系青磁	皿; 破片 (1)
同安京系青磁	碗; 1-b (1)
白磁	香奩; 破片 (華南系) (1)
その他	焼土塊
S-350	
土師器	杯 a (イト)、小皿 a1 (イト)
S-350 黒灰色土	
須恵器	甕
土師器	杯 a (イト)、碗 c
瓦器	碗 c
龍泉京系青磁	碗; 1-3 (1)、1-6a (1)
瓦器	丸瓦
白磁	碗; V (1)
	皿; Ⅱ-1 (1)
	香奩; 破片 (華南系) (1)
青白磁	合子蓋 (1)
中国陶器	他器種; B群 (1)
S-351	
土師器	杯 a (イト)
瓦器	碗
白磁	香奩; 破片 (広東系) (1)
S-351 緑灰色土	
須恵器	甕
土師器	杯 a (イト)、碗 c、小皿 a1 (イト)
瓦器	碗 c
瓦器	破片 (格子印)
土師質土器	鍋、煮炊具
白磁	碗; Ⅲ-1b (1)、破片 (華南系) (1)
	皿; 破片 (華南系) (1)
中国陶器	他器種; 耳壺 (1)、B群 (2)
S-352 緑灰色土	
須恵器	甕
土師器	杯 a (イト)、小皿 a1 (イト)
瓦器	碗、小皿
龍泉京系青磁	皿; 破片 (未分類) (1)
瓦器	破片 (格子印)
白磁	皿; VI (1)
	香奩; 破片 (華南系) (1)

S-353 緑灰色土	
土師器	杯、小皿 a1
瓦器	破片
S-354	
土師器	杯 a (イト)
瓦器	破片
白磁	碗; Ⅲ-1b (1)
	香奩; 破片 (華南系) (1)
S-355	
土師器	杯 a (イト)、小皿 a1 (イト)
瓦器	碗 c (イト)
白磁	碗; IV (1)
	皿; V (1)
	香奩; 破片 (華南系) (1)
S-355 緑灰色土	
土師器	小皿 a1 (イト)
瓦器	碗
土師質土器	煮炊具
白磁	碗; Ⅲ-2 (1)
	香奩; 皿 (1)
S-356 緑灰色土	
土師器	杯 a (イト)、小皿 a1
瓦器	碗 c
S-357	
土師器	杯 a (イト)、小皿 a1 (イト)
瓦器	破片
土師質土器	煮炊具
白磁	碗; IV (1)、V-4×Ⅲ-3 (1)、V-4a (1)
S-358 緑灰色土	
土師器	杯 a (イト)、小皿 a1 (イト)、供膳具
瓦器	碗 c
龍泉京系青磁	皿; 破片 (1)
石製品	破片 (磨石)
中国陶器	甕
白磁	碗; IV (1)
	香奩; 破片 (華南系) (1)
S-359	
須恵器	甕
土師器	供膳具
S-360	
須恵器	甕
土師器	杯 a (イト)、小皿 a1 (イト)
瓦器	碗、小皿
龍泉京系青磁	碗; 1-2ア (1)
瓦器	丸瓦 (磯目印)
土師質土器	煮炊具
須恵質土器	こね鉢 (東越系)、こね鉢 (産地不明)
白磁	碗; IV (2)、V (3)、Ⅲ (1)、Ⅲ-2 (1)
	皿; IV-2a (1)
S-360 緑灰色土	
土師器	杯 a (イト)、小皿 a1 (イト)
瓦器	碗 (産地)、碗 (産地不明)、碗 c、小皿 (イト)、小皿 a
龍泉京系青磁	碗; 破片 (1)
	皿; 破片 (1)
	他器種; 小碗 1-2 (1)
瓦器	丸瓦 (格子印)、破片 (格子印・磯目印)
土師質土器	鍋、煮炊具
須恵質土器	こね鉢、こね鉢 (東越系)
中国陶器	甕
白磁	碗; IV (4)、IV-1a (1)、V-4×Ⅲ-3 (2)、破片 (華南系) (5)、破片 (広東系) (1)
	皿; V (1)、V-1a (1)
	香奩; 破片 (華南系) (1)
青白磁	皿 (1)
中国陶器	鉢; VI (1)
S-360 褐色土	
土師器	丸底杯、碗 c、煮炊具
瓦器	碗 c
瓦器	平瓦 (磯目印)
白磁	碗; IV (1)、V (1)、V-2b (1)、V-4 (1)、破片 (華南系) (1)
	皿; V (1)

大宰府条坊跡第 248 次調査 (その 2) 出土遺物一覧表 (19)

青白磁	皿 (1)
中国陶器	他器種: A 群 (1)
S - 361	
土師器	坏
S - 362	
須恵器	坏 c、甕
土師器	坏 a、小皿 al (イト)、甕
瓦器	筒
高麗青磁	坏胎; 初期皿 (未分類) (1)
瓦類	破片 (格子明)、破片
土師質土器	煮炊具
瓦質土器	破片
国産陶器	甕
白磁	筒: V (1)、V-4b (1)、甕-2 (1) 皿: VI (2)
S - 363	
須恵器	甕
土師器	坏 a (イト)、小皿 al (イト)
瓦器	筒、甕 c
同安南系青磁	鉢: II (1)
瓦類	破片
石製品	削片 (磨礫石)
土師質土器	把手
須恵質土器	こね鉢
白磁	筒: IV (1)、破片 (華南系) (2) 皿: 破片 (広東系) (1) 他胎; 唐日群 (3)、日群 (2)
S - 364	
須恵器	破片
土師器	小皿 al (イト)
瓦器	筒 c、小皿 a (イト)
瓦類	丸瓦 (格子明)
石製品	削片 (磨礫石、砥 (滑石))
土師質土器	煮炊具
須恵質土器	こね鉢
白磁	筒: V-2 (1)、V-4b (1)
S - 365	
須恵器	甕
土師器	坏 a (イト)、小皿 al (イト)
瓦器	筒
同安南系青磁	筒: I-2 (1)
須恵質土器	こね鉢 (東橋系)
S - 366	
須恵器	甕
土師器	坏 a (イト)、小皿 al (イト)
瓦器	筒 c
瓦類	丸瓦 (格子明・縄目明)
石製品	破片 (滑石)
土師質土器	煮炊具
須恵質土器	こね鉢
白磁	筒: 破片 (華南系) (1) 他胎; 破片 (華南系) (1)
S - 367	
須恵器	甕、甕
土師器	坏 a (イト)、丸底坏、小皿 al (イト)、甕 (角筒石)
瓦器	筒 c
瓦類	破片 (格子明・縄目明)
土師質土器	煮炊具
須恵質土器	こね鉢
国産陶器	甕
白磁	筒: II-la (1)、IV-la (1)、XI-1b (1)、破片 (華南系) (2) 他胎; 唐 (1)
中国陶器	鉢: I-la (1) 他器種; 日群 (1)
S - 368	
須恵器	甕 c、甕
土師器	坏 a、坏 a (イト)、丸形坏 a (イト・唐胎)、筒 c、小皿 a (イト)
瓦器	筒
同安南系青磁	皿: 破片 (1)
瓦類	破片 (格子明)
石製品	破片 (滑石)

土師質土器	煮炊具
白磁	筒: IV (1)、IV-la (1)、V (1)、V-2 (1)、V-4×皿-3 (1)、V-4a (1)、甕-2 (1)、破片 (華南系) (2)、破片 (広東系) (1)
中国陶器	他器種; 日群 (2)
S - 369	
土師器	坏、小皿 al (イト)、小皿 al (へラ)
瓦器	筒 c
土師質土器	鉢
須恵質土器	破片
白磁	皿: 皿-1 (1)
S - 370	
土師器	坏 a (イト)、丸底坏、小皿 al (イト)
瓦器	筒 c
瓦類	平瓦 (格子明)
国産陶器	甕
白磁	筒: IV (1)、皿-2 (1)、破片 (華南系) (2)
中国陶器	他器種; 日群 (1)、C 群 (1)
S - 371	
土師器	小皿 al (イト)
瓦器	破片
同安南系青磁	皿: 破片 (1)
S - 372	
土師器	小皿 1
瓦類	平瓦 (格子明)
石製品	破片 (滑石)
その他	焼土塊
S - 373	
土師器	小皿 al (イト)、皿 c
瓦器	筒、小皿 a (イト)
高麗青磁	筒; 初期皿-1 (1)
瓦類	破片
須恵質土器	こね鉢
国産陶器	甕
白磁	筒: V-4b (1)、皿 (1)、甕-2 (1) 皿: VI (1)
中国陶器	他器種; 破片 (華南系) (2) 他胎; 小表日群 (1)
S - 374	
土師器	坏、坏 a (イト)、小皿 al (イト)
瓦器	筒 c、小皿 a (イト)
同安南系青磁	鉢胎; 破片 (皿系) (1)
石製品	削片 (平ヌカイト)
土師質土器	煮炊具
白磁	筒: IV (1) 皿: 皿 (1)、皿-1 (1) 他胎; 唐 (1)
S - 375	
須恵器	甕
土師器	坏 a (イト)、小皿 al (イト)
瓦器	筒 c
瓦類	丸瓦
白磁	筒: IV (1) 皿: VI-la (1)
中国陶器	他器種; C 群 (1)
S - 376	
須恵器	甕
土師器	坏 a (イト)、小皿 al (イト)
瓦器	筒
瓦類	丸瓦、破片 (格子明)
須恵質土器	こね鉢
白磁	筒: 皿-1 (1)、V-4a (1) 皿: 皿-1 (1)
中国陶器	他器種; 破片 (華南系) (1)
中国陶器	他器種; 日群 (1)
S - 377	
須恵器	破片
土師器	坏 a (イト)、小皿 al (イト)
白磁	皿: 皿-1 (1)、皿-1 (1)
他胎	破片 (華南系) (1)
金属製品	鉄釘

大宰府条坊跡第 248 調査 (その 2) 出土遺物一覧表 (20)

S-378	
須恵器	高台、甕
土師器	坏 a (イト)、小皿 a1 (イト)、高台
瓦器	破片
瓦類	破片 (埴子埴)
石製品	用途不明品 (滑石)
土師質土器	煮炊具
白磁	皿; V (1)
	甕他; 破片 (華南系) (3)
金属製品	鉄釘
S-379	
須恵器	破片
土師器	坏 a (イト)、小皿 a (イト)、小皿 a1 (イト)
瓦器	碗 c、破片
瓦類	破片 (埴子埴)
土師質土器	煮炊具
白磁	碗; 皿 (1)、IV (1)
金属製品	鉄釘
S-380	
須恵器	蓋 3
土師器	坏 a (イト)、小皿 a1 (イト)、甕 a
瓦器	碗 c
瓦類	破片
須恵質土器	甕
中国陶器	甕
白磁	碗; V-4×Ⅱ-3 (1)、Ⅱ-2a (1)、破片 (広東系) (1)
	皿; IV-2a (1)、VI-1a (1)
土製品	瓦玉
S-381	
須恵器	坏蓋 (古墳)、甕
土師器	坏 a (イト)、小皿 a1 (イト)
瓦器	碗 c、小皿 a (イト)
土師質土器	鍋
須恵質土器	破片
白磁	皿; Ⅱ-1 (1)
	甕他; 耳甕 (1)
S-382	
土師器	坏 a (イト)、小皿 a1 (イト)
瓦器	碗
瓦類	軒丸瓦 (223a)
白磁	碗; Ⅱ (1)、Ⅱ (未分類) (1)
	甕他; 破片 (華南系) (2)
金属製品	用途不明 (鉄製品)
S-383	
須恵器	蓋 3
土師器	坏 a (イト)、甕
土師質土器	鍋
S-384	
土師器	坏 a (イト)
瓦器	碗 c
須恵質土器	こね鉢 (東播系)
青白磁	合子身 (1)
S-385	
須恵器	坏 c
土師器	坏 a (イト)、丸底坏 a (へう)
瓦類	破片 (埴子埴)
須恵質土器	こね鉢 (東播系)
白磁	甕他; 甕 (1)、破片 (華南系) (1)
S-386	
土師器	小皿 a1
瓦器	碗
S-388	
須恵器	甕
土師器	坏
瓦器	碗 c
S-389	
土師器	坏 a (イト)
瓦器	碗
土師質土器	煮炊具
白磁	碗; 皿 (1)
中国陶器	他器種; B 群 (1)

S-390	
須恵器	坏 c
土師器	坏、小皿 a1 (イト)
瓦器	破片
土師質土器	煮炊具
白磁	碗; V-2 (1)
	皿; VI-1a (1)
S-391	
土師器	坏 a (イト)、小皿 a1 (イト)、小皿 c1 (イト)
瓦器	碗
瓦類	破片
土師質土器	煮炊具
須恵質土器	甕 (高池不明)
白磁	碗; IV (1)、破片 (広東系) (1)
	甕他; 破片 (華南系) (1)
S-392	
土師器	坏 a (イト)、小皿 a (イト)、供膳具
瓦器	碗
土師質土器	煮炊具
白磁	碗; V-4b (1)、破片 (華南系) (1)
	皿; VI (1)
S-393	
土師器	坏、坏 a (イト)、小皿 a1
瓦器	碗 c
瓦類	破片
白磁	碗; IV (1)、破片 (華南系) (2)
	皿; Ⅱ-1 (1)
中国陶器	他器種; B 群 (1)
S-394	
土師器	小皿 a1 (イト)
瓦器	碗 c
土師質土器	煮炊具
S-395	
須恵器	甕
土師器	坏、坏 a (イト)、小皿 a1 (イト)
瓦器	小皿 a (イト)
石製品	石鏝 (滑石)
瓦質土器	こね鉢
白磁	碗; IV (1)、破片 (華南系) (1)
S-396	
須恵器	甕
土師器	坏 a (イト)、小皿 a1 (イト)
瓦器	碗
瓦類	軒平瓦 (S84B)
白磁	甕他; 破片 (華南系) (3)
中国陶器	他器種; A 群 (1)
S-397	
土師器	坏 a (イト)
瓦器	供膳具
須恵質土器	破片
S-398	
土師器	坏 a
白磁	皿; V (1)
	甕他; 破片 (広東系) (1)
中国陶器	他器種; C 群 (1)
S-399	
土師器	坏 (イト)、小皿 a1 (イト)
白磁	碗; Ⅱ-2 (1)
S-401	
土師器	坏 a (イト)、小皿 a1 (イト)
瓦器	碗
白磁	碗; Ⅱ-1 (1)
中国陶器	他器種; B 群 (1)、C 群 (1)
S-402	
須恵器	甕
土師器	坏、坏 a (イト)、丸底坏 c、小皿 1、甕
瓦器	小皿
土師質土器	煮炊具
白磁	碗; IV (1)、V-4a (1)、Ⅱ-2 (1)
	皿; VI (1)
	甕他; 破片 (華南系) (1)、破片 (広東系) (1)

大宰府条坊跡第 248 次調査 (その 2) 出土遺物一覧表 (21)

S-403	
須恵器	甕
土師器	坪 a (イト), 小皿 a1
瓦器	破片
同安楽系青磁	碗・皿・ls (1)
土師質土器	煮炊具
白磁	碗; IV (1), V-4 (2), 破片 (華南系) (2) 皿; 破片 (広東系) (1) 香皿; 破片 (華南系) (1)
S-404	
土師器	坪 a (イト), 小皿 1
瓦器	破片
須恵質土器	こね鉢
白磁	碗・V-4×皿・3 (1), 破片 (広東系) (1) 皿; (未分類) (1)
Z	
須恵器	甕
土師器	坪 a (イト), 小皿 a1 (イト)
黒色土器 B	碗 c
瓦器	碗 c
龍泉系青磁	碗: I (7), I-1 (1), I-2 (2), II-a (2), II-b (8) 他器種; 破片 (1)
同安楽系青磁	碗: I-b (2)
瓦類	平瓦 (格子明), 丸瓦 (格子明)
石製品	権 (滑石)
土師質土器	鍋
須恵質土器	こね鉢 (東橋系)
瀬戸	加蓋
因形陶器	碗
白磁	碗: II-1 (1), IV (4), V-1 (2), VII (2), VII-2 (1), VII-3 (7), 破片 (華南系) (6) 皿: II-ls (1), VI (1), VII (1), IX (3), IX-1 (2), X-2 (1) 香皿; 破片 (華南系) (5)
中国陶器	甕・皿 (1) 他器種; 盤 II-1 (1), 盤 II-2 (1), 耳壺 VI-1 (1), A群 (2), B群 (3), C群 (1), 破片 (2)
試掘	
土師器	坪
瓦器	碗
龍泉系青磁	碗: I-1 (1), I-2 (1), II-b (3)
瓦類	丸瓦
中国陶器	他器種; 百群 (1)
表土	
土師器	小皿 a1 (イト)
灰色土	
土師器	坪 a (イト), 小皿 a1 (イト)
瓦器	碗 c, 破片
龍泉系青磁	碗: I (1)
同安楽系青磁	碗: I-b (2)
土師質土器	煮炊具
須恵質土器	こね鉢
白磁	香皿; 甕 (2)
金属製品	鉄釘
灰色土 1	
須恵器	坪, 蓋 3, 甕×甕 (輸入品), 甕, 鉢
土師器	坪 a (イト), 碗 c, 碗 c 2, 小皿 a1, 小皿 a1 (イト), 小皿 b, 高坏
瓦器	坪 (イト), 碗, 碗 (輪軸系), 碗 c, 火鉢
龍泉系青磁	碗: II (2)
龍泉系青磁	碗: I (19), I-1 (8), I-1b (1), I-2 (5), I-3 (1), I-4 (1), I-4b (1), II (3), II-a (7), II-b (10), III (7), III-2 (3), IV (2), 東口碗 II-b (1), 破片 (4) 皿: I (2), I-1b (1), 破片 (8) 他器種; 坪皿 (2), 坪皿-1 (1), 坪皿-2a (2), 坪皿-2b (2), 坪皿-4 (2), 小坏皿-4 (1), 小碗 I (1), 小碗皿-1b (1), 盤 (6), 盤 (未分類) (1), 甕 (1), 破片 (22)
同安楽系青磁	碗: I-a (1), I-b (10), III (1), III-2 (1), 破片 (4) 皿: I-2b (2), 破片 (1) 他器種; 破片 (1)
高麗青磁	象床; 破片 (1)

青磁 (未分類)	碗 (1), 破片 (1)
瓦類	平瓦 (格子明・格子明), 平瓦 (文字瓦目・3割), 丸瓦, 丸瓦 (格子明), 破片, 破片 (格子明・格子明), 破片 (老司系)
石製品	石鍋 (滑石), 石鍋加群 (滑石), 石鍋 (加工品), 石鍋 (再加工品), 砥石, 基石, 造方, 用途不明 (滑石)
木製品	灰化物
土師質土器	大皿 a, 盤, 甕, 煮炊具
須恵質土器	甕, こね鉢, こね鉢 (東橋系)
瓦質土器	甕, こね鉢, こね鉢×磁鉢, 磁鉢, 羽釜
瀬戸	加蓋
肥前系陶磁器	染付碗, 白磁
因形陶器	碗, 甕, 甕 (常滑系), 磁鉢 (備前?)
因形陶器	染付皿
白磁	碗: I (1), IV (12), V (2), V-1 (1), V-2 (3), V-4 (1), V-4×皿・3 (9), V-ls (1), V-ab (1), VII (1), VII-ls (1), VII (4), IX (1), 破片 (華南系) (20) 皿: II (1), V-ab (1), VI (3), VII (1), VII-ls (1), VII-lb (1), VII-a (1), IX (23), IX-1 (12), IX-ls (4), IX-2 (3), IX-2b (3), IX-a (1), IX-d (3), X-b (1), (未分類) (1), 破片 (華南系) (3) 香皿・甕 (12), 鉢 (2), 把手 (1), 破片 (華南系) (35)
青白磁	碗 (1), 皿 (3), 小皿 (1), 合子 (4)
中国陶器	鉢: I-la (1), I-2b (1), III (1), IV (1), VI (2), VI-1 (1) 他器種; 皿 (1), 盤 I (1), 盤 II-2 (5), 小盤 II-1 (1), 甕 (1), 甕 II (1), 蓋 IV (2), 耳壺 (1), 水注 V (1), 合子 (1), A群 (14), B群 (5), C群 (5), 破片 (12)
須恵質 (輸入)	朝鮮系黒輪陶器 (2)
黒輪陶器	碗 (1), 破片 (1)
鉄質	磁宋漆質, 漆器元質
金属製品	鉄釘, 鉄釘, 鉄塊, 鋼片, 鋼塊, 錠子
土製品	埴輪, 瓦玉
石の産	権土塊
高麗土 2	
須恵器	坪 c, 坪, 坪皿 (古瀬), 蓋 1, 蓋 3, 蓋 c, 甕
土師器	坪, 坪 a (イト), 碗 c, 碗 c 2, 小皿 a1, 小皿 a1 (イト), 小皿 a1 (穿孔有り), 小皿 b, 小皿 c, 大皿 a (イト), 大皿 c, 高坏, 甕
黒色土器 A	碗, 碗 c
瓦器	碗, 碗 c, 小皿, 小皿 a
龍泉系青磁	碗: I (34), I-1 (27), I-la (6), I-2 (5), I-2a (1), I-2b (6), I-3 (1), I-4 (17), I-4b (1), I-4b (1), II (5), II-a (18), II-b (19), III (2), III-2 (3), III-4b (2), (未分類) (1), 破片 (24), 碗×坪皿 (1) 皿: I (18), I-1b (3), I-2b (2), I-2c (1), 破片 (22) 他器種; 坪 I (1), 坪皿 (5), 坪皿-1 (7), 坪皿-ls (3), 坪皿-2b (2), 坪皿-4 (5), 坪皿-4b (1), 小碗 (2), 小碗 I (1), 小碗 I-1 (3), 小碗 I-lb (1), 小碗 III (3), 小碗 (未分類) (2), 盤 (3), 皿 (2), 甕 (1), 破片 (30)
同安楽系青磁	碗: I (1), I-a (4), I-b (5), II (1), III-ls (1), III-lb (2), IV (1), 破片 (20) 皿: I-ls (2), I-ls (4), I-2b (14), I-b (3), 破片 (1) 他器種; 破片 (1)
高麗青磁	碗; 初期 I-2 (1) 坪皿; 甕 (1)
瓦類	平瓦 (格子明・格子明), 丸瓦, 丸瓦 (格子明), 丸瓦 (文字瓦目 910 割), 新丸瓦 (275A), 新丸瓦 (223), 文字瓦 (902 1), 文字瓦 (909D), 破片, 破片 (老司系), 破片 (格子明・格子明)
石製品	銅字錠 (粘板岩・泥岩・滑石), 砥石, 基石, 石鍋加群, 石鍋 (滑石), 権 (滑石), 破片 (滑石), 用途不明 (滑石), 砥石, ステラーバー, 剥片 (滑石), 石鏡
木製品	灰化物
土師質土器	大皿, 皿, こね鉢, 火舎, 煮炊具
須恵質土器	碗, 甕 (東橋系), こね鉢 (産地不明), こね鉢 (東橋系)
瓦質土器	甕, こね鉢, こね鉢×磁鉢, 磁鉢, 火鉢
緑輪陶器	皿 (近江) (1)
因形陶器	甕, 山系鉢, 器種不明
肥前系陶磁器	染付破片
因形陶器	甕 (産地不明), 甕 (常滑系), こね鉢 (常滑系)
因形陶器	染付碗

大宰府条坊跡第 248 次調査 (その 2) 出土遺物一覧表 (22)

白磁	甕: B (1), B-1 (1), B-4 (1), IV (38), IV-la (12), IV-lc (3), V (10), V-1 (5), V-2 (5), V-2b (1), V-4 (18), V-4×WB-3 (20), V-4a (2), V-4b (2), V-4b×c (1), V-4c (1), VI-1 (1), VI-lb (1), VI-2 (2), VI-lb (6), VI-lc (1), VII-b (1), VIII-c (2), VIII (17), VIII-0 (2), VIII-2 (16), VIII-3 (1), VIII-4 (1), IX (1), IX-2 (2), VIII-lb (1), 破片 (華南系) (77), 破片 (広東系) (5)
灰白色土	甕: B (3), B-lc (4), B-lb (1), B-2b (2), B×III (3), III (1), III-1 (3), V (1), V-b (1), VI (10), VI-la (1), VII (7), VIII-1 (1), VIII-la (1), VIII-2b (6), IX (55), IX-1 (20), IX-la (7), IX-lb (1), IX-2 (9), IX-2a (2), IX-2b (1), IX-2c (1), IX-3 (1), IX-a (2), X (1), (未分類) (4), 破片 (華南系) (12), 破片 (広東系) (1)
青白磁	甕: 甕 (36), 耳壺 (5), 破片 (3), 破片 (華南系) (46), 破片 (広東系) (9)
中国陶器	甕: I (1), III (1), IV (2), (未分類) (2), 破片 (7) 鉢: I-la (6), I-lb (1), I-2a (2), II (1), III-1 (1), III (2), IV (1), VI (1), (未分類) (2), 破片 (1) 甕: I (3), II (1), III (1), (未分類) (2), 破片 (1) 他器種: 甕 1-2 (4), 甕 II-2 (7), 甕 III (1), 甕 IV (4), 耳壺 (9), 耳壺 II (2), 水注 I (1), 合子 (1), A群 (5), B群 (8), C群 (5), 破片 (11)
須恵質 (輸入)	朝鮮系須恵陶器 (12)
須恵陶器	瓦葺
磁質	磁元質, 大形元質, 磁末質, 磁中元質, 太平土質
金属製品	鉄釘, 鉄錐, 銅釘, 銅葺
土製品	土鏝, 羽目, 羽目ウ
その他	焼土塊
灰白色土	
須恵土	坪, 坪c, 甕3, 甕, 甕, 甕b
土師器	坪, 坪a (イト), 丸底坪, 丸底坪a, 小皿a (イト), 小皿c, 小皿c (穿孔有り), 大皿c, 高坪, 器台
瓦葺	坪c, 小皿
朝鮮系青磁	甕: I-1 (1), I-5 (1)
朝鮮系赤磁	甕: I (8), I-1 (3), I-la (1), I-2 (20), I-3 (5), I-4 (4), I-6b (3), II (1), III-a (1), III-b (6), 破片 (6) 皿: I (8), 破片 (3) 他器種: 甕 (1), 甕 (5), 破片 (4)
同安系青磁	甕: I (5), I-a (2), I-b (45), III (2), III-lb (1), IV (2), 破片 (9) 皿: I (6), I-la (1), I-lb (2), I-2b (7), I-b (1), 破片 (8) 他器種: 破片 (6)
瓦葺	平瓦 (佛子明・鏡目明), 丸瓦, 丸瓦 (佛子明・鏡目明)
石製品	石鑿A群, 石鑿A群 (再加工品), 石鑿 (穿孔), 石鑿B群, 鎌, 磁石, 磁石, 用途不明品
木製品	炭化木, 炭化物
土師質土器	鉢, 銅, 羽目
須恵質土器	甕, 甕 (東福系), こね鉢 (東福系)
瓦葺土器	甕×甕, こね鉢×磁鉢
同安陶器	甕 (長濠系)
白磁	甕: B (2), B-1 (5), IV (40), IV-la (15), IV-lc (1), V (21), V-1 (11), V-2 (5), V-2b (3), V-4 (15), V-4×WB-3 (20), V-4a (1), V-4b (20), V-4c (3), VI (1), VI-1 (1), VI-la (2), VI-lb (2), VII-b (5), VII-c (2), VIII (27), VIII-0 (1), VIII-2 (18), VIII-3 (1), VIII-4 (3), IX-2 (1), XI-1 (1), 破片 (華南系) (53), 破片 (広東系) (6) 皿: I-2b (1), III (1), III×III (1), B-la (3), III (6), III-1 (3), III-2 (1), IV (1), V (1), VI (12), VI-la (4), VI-lb (4), VII (3), VII-la (3), VII-lb (1), VII-2b (1), X-b (1), 破片 (華南系) (2)
青白磁	甕: 甕 (11), 耳壺 (1), 破片 (華南系) (14), 破片 (広東系) (6)
中国陶器	皿: I (1), 小皿 (1), 合子蓋 (3), 合子蓋 (2), 破片 (1) 鉢: I (1), IV (3), 破片 (9) 鉢: I-la (4), III (1), VI (3), (未分類) (1) 他器種: 小皿 (1), 耳壺 (2), 耳壺 III (3), 耳壺 IV (1), A群 (22), B群 (40), C群 (3), 破片 (28)
須恵質 (輸入)	朝鮮系須恵陶器: 甕 (4), 甕×甕 (7), 破片 (3)
須恵陶器	甕 (1)

金属製品	刀子 (鏝), 鉄錐, 鉄, 鉄塊
土製品	土鏝, 瓦葺
その他	焼土塊
灰白色土	
須恵土	坪c, 甕3, 甕, 甕b
土師器	坪a (イト), 小皿a (イト), 小皿a (穿孔有り), 小皿c, 大皿c, 器台
瓦葺	坪c, 小皿
朝鮮系青磁	甕: I-1 (1), I-2 (4), I-4 (1), III-a (1), III-b (3)
同安系青磁	甕: I-b (15), B (1), III-2 (1), 破片 (5) 皿: I-la (1), I-2b (1) 他器種: 破片 (3)
瓦葺	平瓦 (佛子明・鏡目明)
石製品	石鑿A群, 石鑿 (磨石), 用途不明品
土師質土器	鉢, 鎌, 煮炊土
須恵質土器	こね鉢, こね鉢 (東福系)
同安陶器	甕: B-1 (1), IV (10), IV-la (5), V (2), V-1 (2), V-2 (8), V-3 (1), V-4 (9), V-4×WB-3 (3), V-4b (5), VII-2 (1), VIII-2a (1), VIII-b (1), VIII (4), VIII-2 (5), (未分類) (1), 破片 (華南系) (18), 破片 (広東系) (2) 皿: I-2b (1), III-la (1), III-1 (1), III-2 (1), IV-2a (3), VI (2), VII-la (1), VII-lb (1), (未分類・器蓋) (1) 甕: 甕 (2), 水注 (2), 破片 (華南系) (9)
青白磁	皿 (1)
中国陶器	甕: 破片 (3) 鉢: I-la (1), III (1), 破片 (1) 甕: I (1) 他器種: 耳壺 (3), A群 (3), B群 (2), 破片 (9)
須恵質 (輸入)	朝鮮系須恵陶器 (1)
須恵陶器	甕 (1)
その他	焼土塊
灰白色土	
須恵土	坪c, 甕3, 甕, 甕, 甕b
土師器	坪a (イト), 丸底坪, 丸底坪a, 小皿a (イト), 小皿c, 小皿c (穿孔有り), 大皿c, 高坪, 器台
瓦葺	坪c, 小皿
朝鮮系青磁	甕: I-1 (1), I-5 (1)
朝鮮系赤磁	甕: I (8), I-1 (3), I-la (1), I-2 (20), I-3 (5), I-4 (4), I-6b (3), II (1), III-a (1), III-b (6), 破片 (6) 皿: I (8), 破片 (3) 他器種: 甕 (1), 甕 (5), 破片 (4)
同安系青磁	甕: I (5), I-a (2), I-b (45), III (2), III-lb (1), IV (2), 破片 (9) 皿: I (6), I-la (1), I-lb (2), I-2b (7), I-b (1), 破片 (8) 他器種: 破片 (6)
瓦葺	平瓦 (佛子明・鏡目明), 丸瓦, 丸瓦 (佛子明・鏡目明)
石製品	石鑿A群, 石鑿A群 (再加工品), 石鑿 (穿孔), 石鑿B群, 鎌, 磁石, 磁石, 用途不明品
木製品	炭化木, 炭化物
土師質土器	鉢, 銅, 羽目
須恵質土器	甕, 甕 (東福系), こね鉢 (東福系)
瓦葺土器	甕×甕, こね鉢×磁鉢
同安陶器	甕 (長濠系)
白磁	甕: B (2), B-1 (2), B-2 (1), IV (20), IV-la (5), V (3), V-1 (2), V-2 (8), V-3 (1), V-4 (1), V-4×WB-3 (3), V-4b (1), V-4c×c (1), VI-2 (1), VII (13), VII-2 (3), 破片 (華南系) (16), 破片 (広東系) (1) 皿: B (2), B-la (1), III-1 (4), V (1), VI (6), VII-2a (1), VII (1), IX (1) 甕: 甕 (5), 甕 (鉄錐) (1), 甕 (1), 水注 (2), 破片 (華南系) (8), 破片 (広東系) (1)
中国陶器	甕: 破片 (2) 鉢: VI (1)
金属製品	鉄釘, 鉄錐 (2), B群 (3), 破片 (2)
灰白色土	
須恵土	甕, 甕, 高坪
土師器	坪a (イト), 丸底坪, 丸底坪a, 小皿a (イト), 小皿c (イト), 甕a, 器台
灰白色土A	甕
瓦葺	坪 (室内), 坪c, 小皿a (イト)
朝鮮系青磁	甕: I (3), I-2 (2), I-4 (1), III-a (1), IV×III (1), 破片 (1)
同安系青磁	皿: I (2), I-lb (1) 他器種: 甕 (1), 盤 (1), 破片 (2)
同安系赤磁	甕: I-b (1), III-2 (1), IV (1), 破片 (1) 皿: I-2b (2)

大宰府条坊跡第248次調査(その2) 出土遺物一覧表(23)

瓦類	平瓦(格子明)、平瓦(表向き)、丸瓦(格子明)、破片(格子明)
石製品	石鏡(磨石)、磁石
土師質土器	鍋、煮炊具
須恵質土器	こね鉢、こね鉢(東筋系)
緑釉陶器	碗、蓋
国産陶器	甕(常滑系)
白磁	碗: II (1)、II-1 (1)、IV (12)、IV-1a (2)、V (1)、V-1 (1)、V-2 (2)、V-4 (1)、V-4×ⅡB-3 (3)、V-ⅡB (3)、VI (2)、ⅡB-1a (1)、ⅡB (2)、ⅡB-2 (6)、ⅡB-3 (1)、ⅡB-4 (1)、破片(華南系)(7)、破片(広東系)(1) 皿: II (4)、II-1a (1)、Ⅱ (1)、Ⅱ-1 (3)、V (1)、VI (4)、VI-1a (1)、ⅡB-1 (1)、Ⅱ (3)、Ⅱ-1 (1) 香皿: Ⅱ(2)、小皿(1)、耳皿(2)、破片(華南系)(15)、破片(1)
青白磁	合子蓋(1)
中国陶器	鉢: I-1a (1) 胎器種: Ⅱ1-1 (1)、Ⅱ(1)、耳皿V(1)、A群(1)、B群(9)、C群(6)
須恵質(輸入)	朝鮮系無釉陶器: Ⅱ×Ⅱ(2)
黒釉陶器	破片(1)
金属製品	刀子(磨)、鉄釘
炭灰色砂	
須恵器	甕

土師器	Ⅱa (イト)、丸底杯、小皿a1
黒色土器白	碗
国産陶器	甕
白磁	碗: Ⅱ (1)、ⅡB-2 (1)、破片(華南系)(4) 皿: Ⅱ-2 (1)、Ⅱ (1) 香皿: Ⅱ (1)
中国陶器	胎器種: 破片(1)
須恵質(輸入)	朝鮮系無釉陶器(1)
その他	焼土塊
炭色砂	
須恵器	甕
土師器	杯a、小皿a
瓦器	破片
朝鮮系青白磁	碗: I-b (1)
土師質土器	煮炊具
国産陶器	甕
白磁	碗: II-1 (1)、IV (1)、IV-1a (1)、ⅡB-2 (1)、破片(華南系)(2) 皿(2)
中国陶器	香皿: Ⅱ (1) 胎器種: B群(1)、破片(1)
須恵質(輸入)	朝鮮系無釉陶器(1)

圖 版



大宰府条坊跡第 248 次調査区全景（写真上が北西）



大宰府条坊跡第 248 次調査第 一 面調査区東側全景（写真上が北）

図版 2



大宰府条坊跡第248次調査第 面調査区西側全景（写真上が西）



大宰府条坊跡第248次調査（その2）第 面調査区全景（写真上が北）



大宰府条坊跡第 248 次調査（その 2）第 面調査区西側全景（写真上が北）



大宰府条坊跡第 248 次調査（その 2）第 面調査区全景（写真上が北）



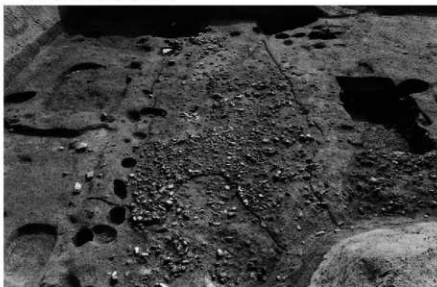
大宰府条坊跡第 24&次調査（その 2）第 面全景（写真上が北）



大宰府条坊跡第 24&次調査（その 2）第 面調査区全景（写真上が北）



248SB001全景（南から）



248SF035全景（北から）



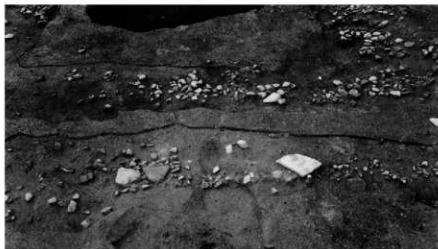
248SF035下層礎敷全景（北から）



248SB020・030・050全景(西から)



248SB020全景(写真上が北)



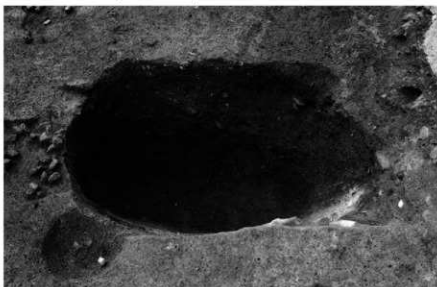
248SB020a-c(礎石)(東から)



248SB03全景 (写真上が北)



248SB05全景 (写真上が北)



248SK06全景 (東から)



248SF165全景（北から）



248SB100全景（東から）



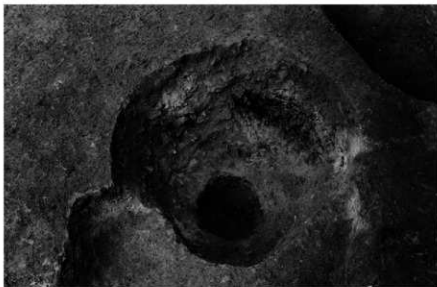
248SE 110・ 160全景 (南西から)



248SE 135全景 (南から)



248SE 170全景 (南から)



248SE17全景（東から）



248SE18全景（西から）



248SB14全景（南から）



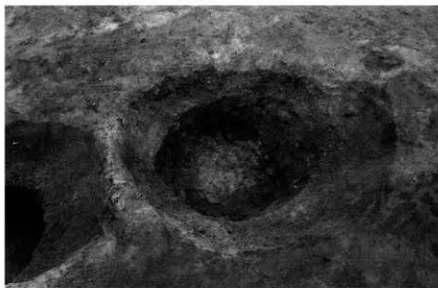
248SD260全景 (北から)



248SE290全景 (東から)



248SE290全景 (南東から)



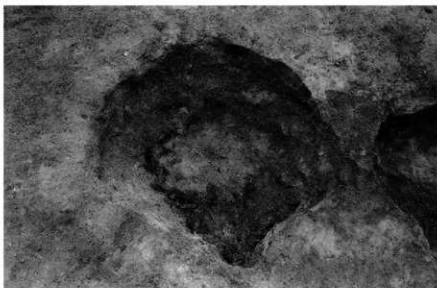
248SE30全景（東から）



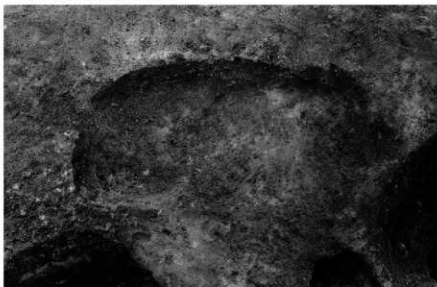
248SE33全景（東から）



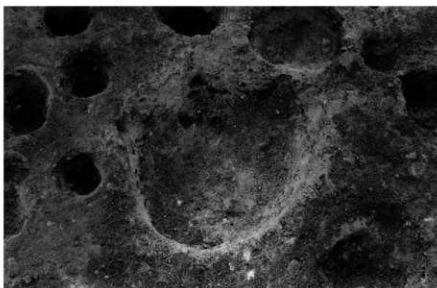
248SE36全景（東から）



248SK265全景 (東から)



248SK35全景 (東から)



248SK380全景 (東から)

報告書抄録

ふりがな	だざいふじょうぼうあと 35									
題名	大宰府条坊跡 35									
副題名	第 248次調査・第 248次調査 その2									
シリーズ名	太宰府市の文化財									
シリーズ番号	第 96集									
編著者	中島恒次郎・北平朗久・豊川運郎									
編集機関	太宰府市教育委員会・玉川文化財研究所									
所在地	太宰府市教育委員会 〒818 0198 福岡県太宰府市観世音寺 1- 1- 1		TEL 092- 921- 2121		玉川文化財研究所 〒221 0822 神奈川県横浜市神奈川区西神奈川 1- 8- 9					
発行年月日	平成 20 2008 年 1 月 30日									
ふりがな 所収遺跡名	条坊 【鎮山集】	ふりがな 所在地	コード		座標		調査期間		調査面積 ㎡	調査原因
			市町村	遺跡番号	X	Y	開始	終了		
大宰府条坊跡 第 248次 調査 第 248次 その2	左郭 5 条 7 坊	福岡県太宰府市 観世音寺 1 丁目 71 72 73	402214	210044 248	+ 566640	- 440670	第 248次 20050615	20051216	336 延べ 1406	共同住宅建 設に伴う事 前調査
							第 248次 その 2 20060112	20060331		
所収遺跡名	遺跡種別	時代	主要遺構		主要遺物		特記事項			
大宰府条坊跡 第 248次 調査 第 248次 その2	官衙	平安時代末期 ～ 室町時代初期	道路、溝、礎敷建物、礎 石建物、獨立柱建物、礎 列、井戸、土坑、兼石状 遺構、たまり状遺構、小 穴群		須恵器、土師器、黒色土 器、瓦器、国産陶器、質 料陶器、瓦類、金属製品、 石製品		礎敷道路、礎敷建物、礎石建物 等を検出			

<p>太宰府市の文化財 第96集</p> <p>大宰府条坊跡 35</p> <p>－第248次調査・第248次調査（その2）－</p> <p>平成20（2008）年1月</p> <p>発 行 太宰府市教育委員会 〒818-0198 福岡県太宰府市観世音寺1-1-1</p> <p>編集協力 玉川文化財研究所 〒221-0822 神奈川県横浜市神奈川区西神奈川1-8-9</p> <p>印 刷 (有) 平電子印刷所 〒970-8024 福島県いわき市平北白土字西ノ内13番地</p>
--